

10 薬局について

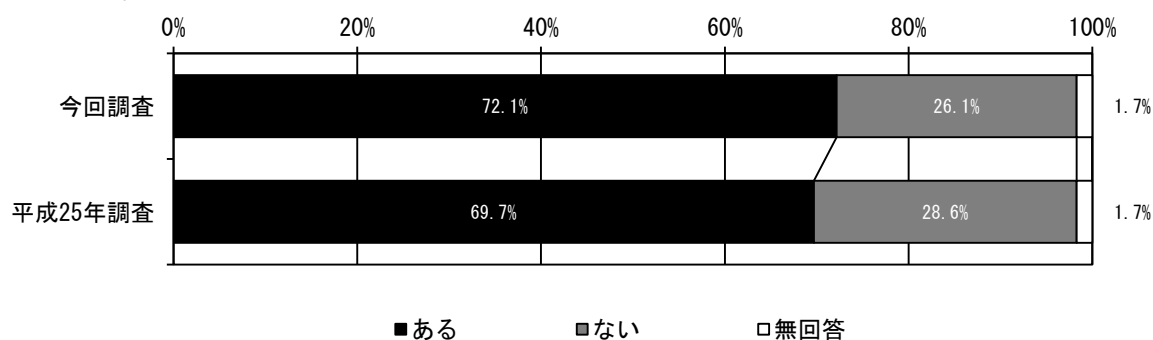
(1) 院外薬局での調剤の有無

～「ある」72.1%が多数～

問18 あなたは、この1年間に、医院（診療所）や病院から処方せんをもらって、院外の薬局で薬を調剤してもらったことがありますか。（〇は1つだけ）

図10-1

(n=全体)



この1年間で、薬局で薬を調剤してもらったことが「ある」は72.1%で、「ない」の26.1%を大きく上回る。

平成25年調査結果との比較では、ほぼ同様となっている。

◆地域別

渋川保健医療圏と沼田保健医療圏を除くと、いずれの地域も「ある」が70.0%を超えている。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

男性と女性で差異はほとんどみられない。

◆性・年代別

20代男性は「ある」が52.8%となっており、他の性別・年代に比べ少なくなっている。

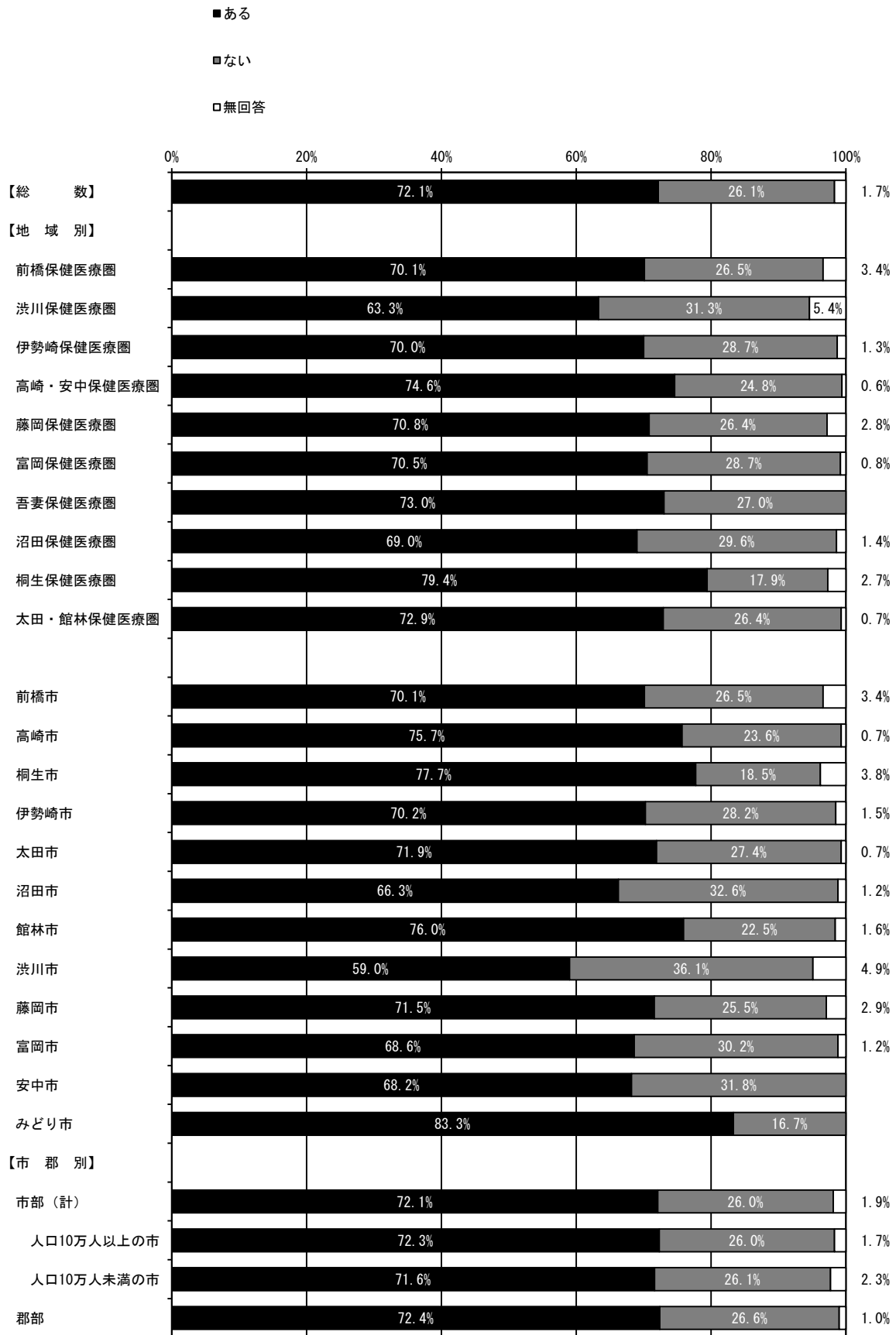
◆職業別

いずれの職業も「ある」が最も多くなっている。

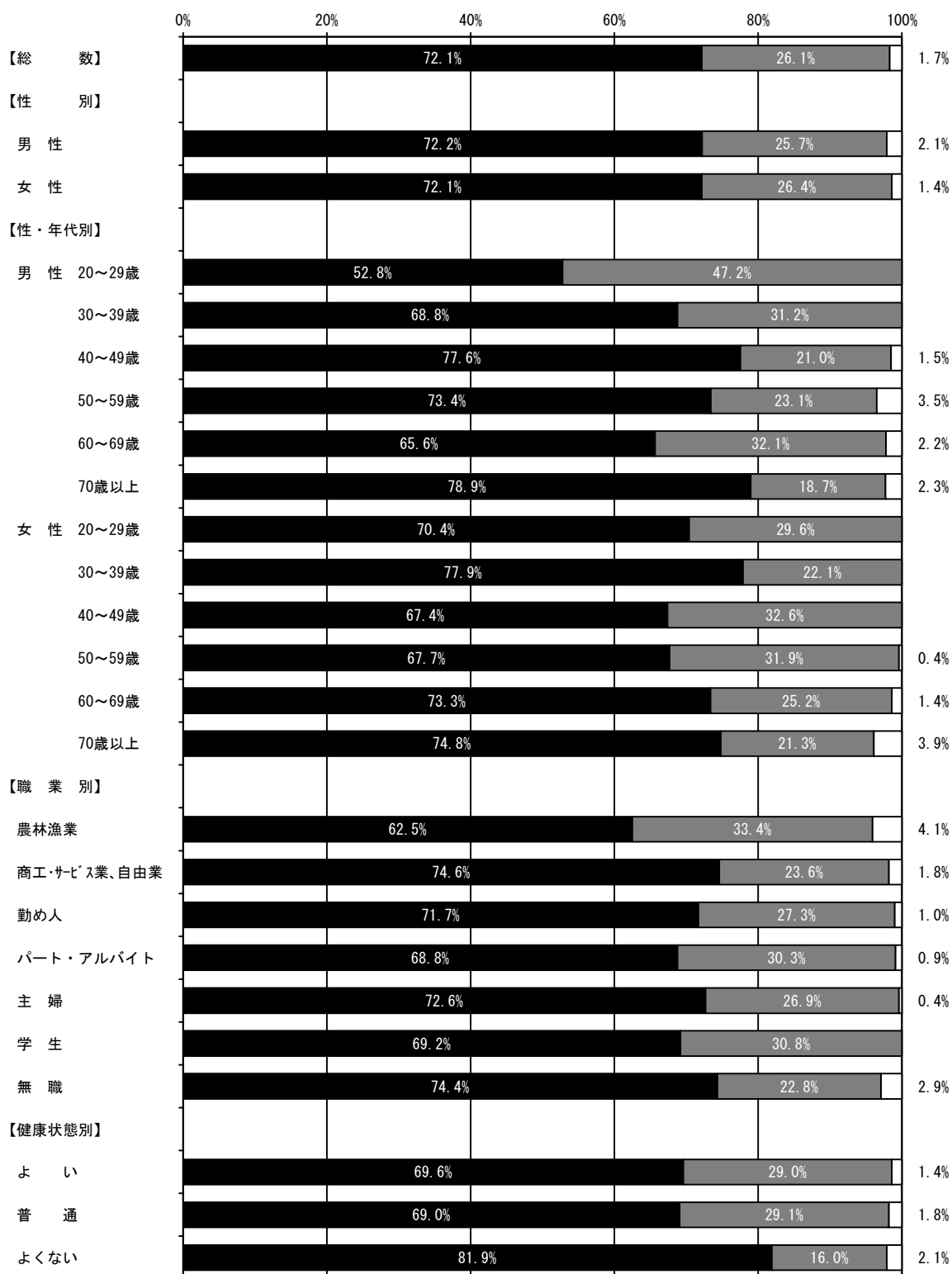
◆健康状態別

「ある」は健康状態がよい（69.6%）に比べ、健康状態がよくない（81.9%）の方が多くなっている。

図10-2 院外薬局での調剤の有無



■ある
□ない
□無回答

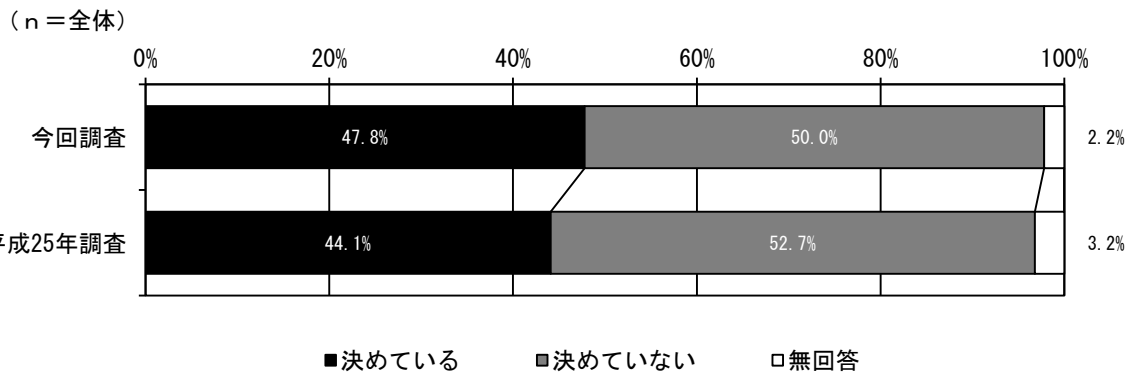


(2) かかりつけ薬剤師・薬局の有無

～「決めている」47.8%、「決めていない」50.0%～

問19 あなたは、いつも調剤をしてもらう薬剤師・薬局（かかりつけ薬剤師・薬局）を決めていますか。（○は1つだけ）

図10-3



かかりつけ薬剤師・薬局を「決めている」は47.8%、「決めていない」は50.0%となっている。平成25年調査結果との比較では、設問内容が異なるが（薬局のみ）、ほぼ同様となっている。

◆地域別

「決めている」は桐生保健医療圏（53.6%）、藤岡保健医療圏（53.4%）、高崎・安中保健医療圏（51.2%）、吾妻保健医療圏（50.4%）では半数以上を占めている。一方、「決めていない」は富岡保健医療圏（59.8%）と伊勢崎保健医療圏（56.0%）では、他の地域に比べ多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

男性と女性で差異はほとんどみられない。

◆性・年代別

「決めていない」は男性と女性とも若い年代ほど多くなる傾向がみられ、20代男性が77.4%、30代男性が72.0%、20代女性が70.2%と70.0%を超えている。

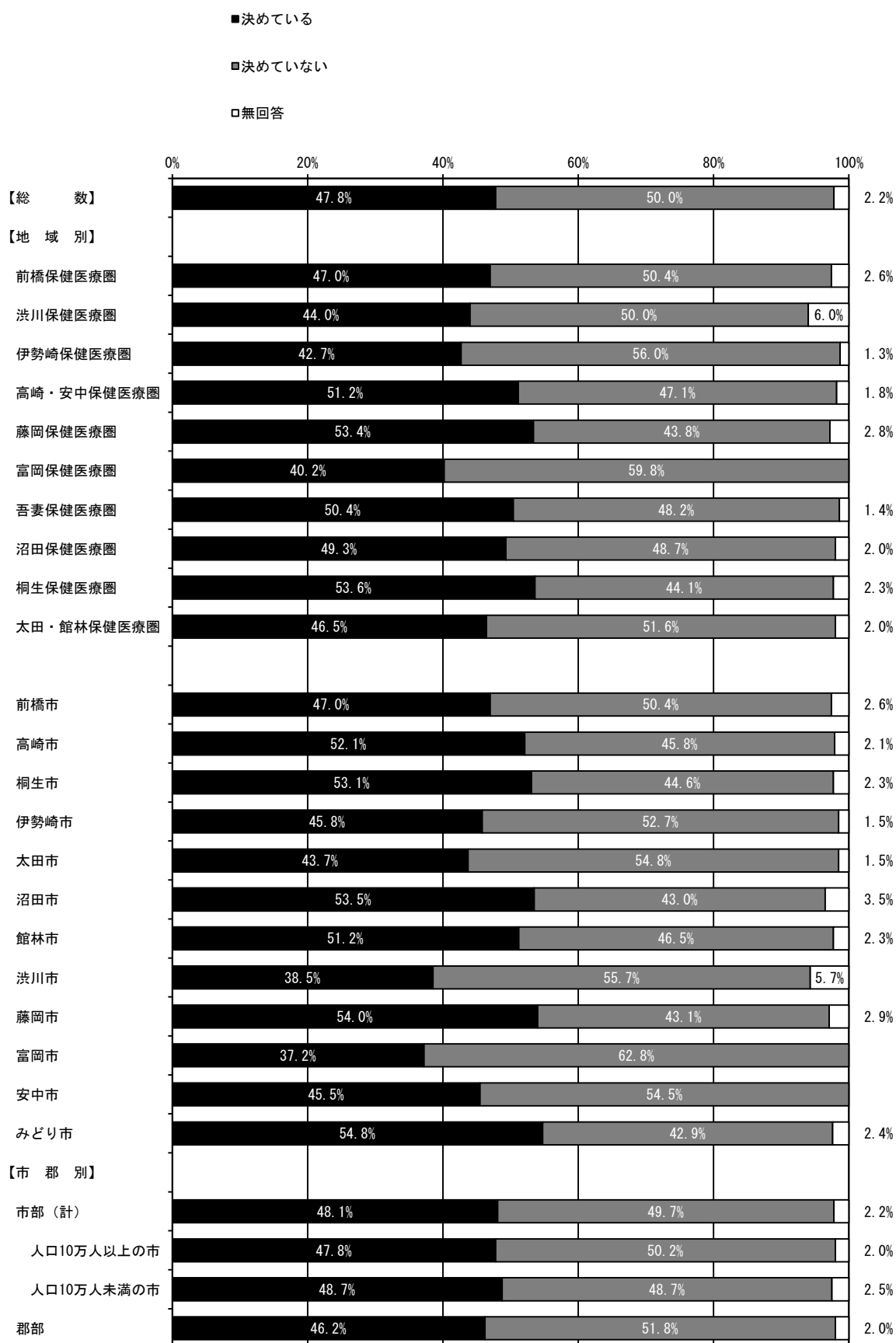
◆職業別

「決めていない」は学生（84.4%）と勤め人（66.6%）が他の職業に比べ多くなっている。

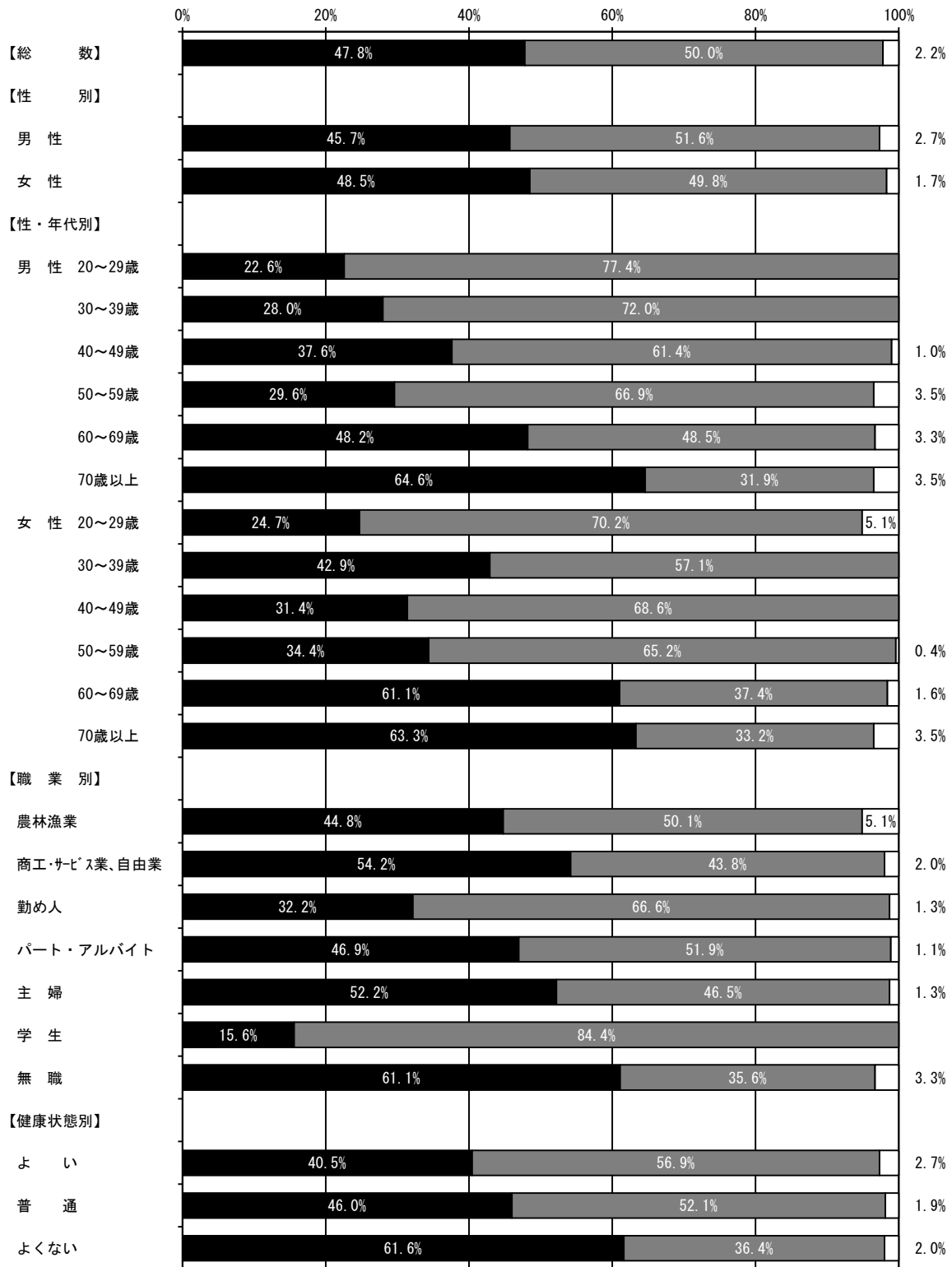
◆健康状態別

「決めている」は健康状態がよい（40.5%）に比べ、健康状態がよくない（61.6%）の方が多くなっている。

図 10-4 かかりつけ薬剤師・薬局の有無



■決めている
 ■決めていない
 □無回答



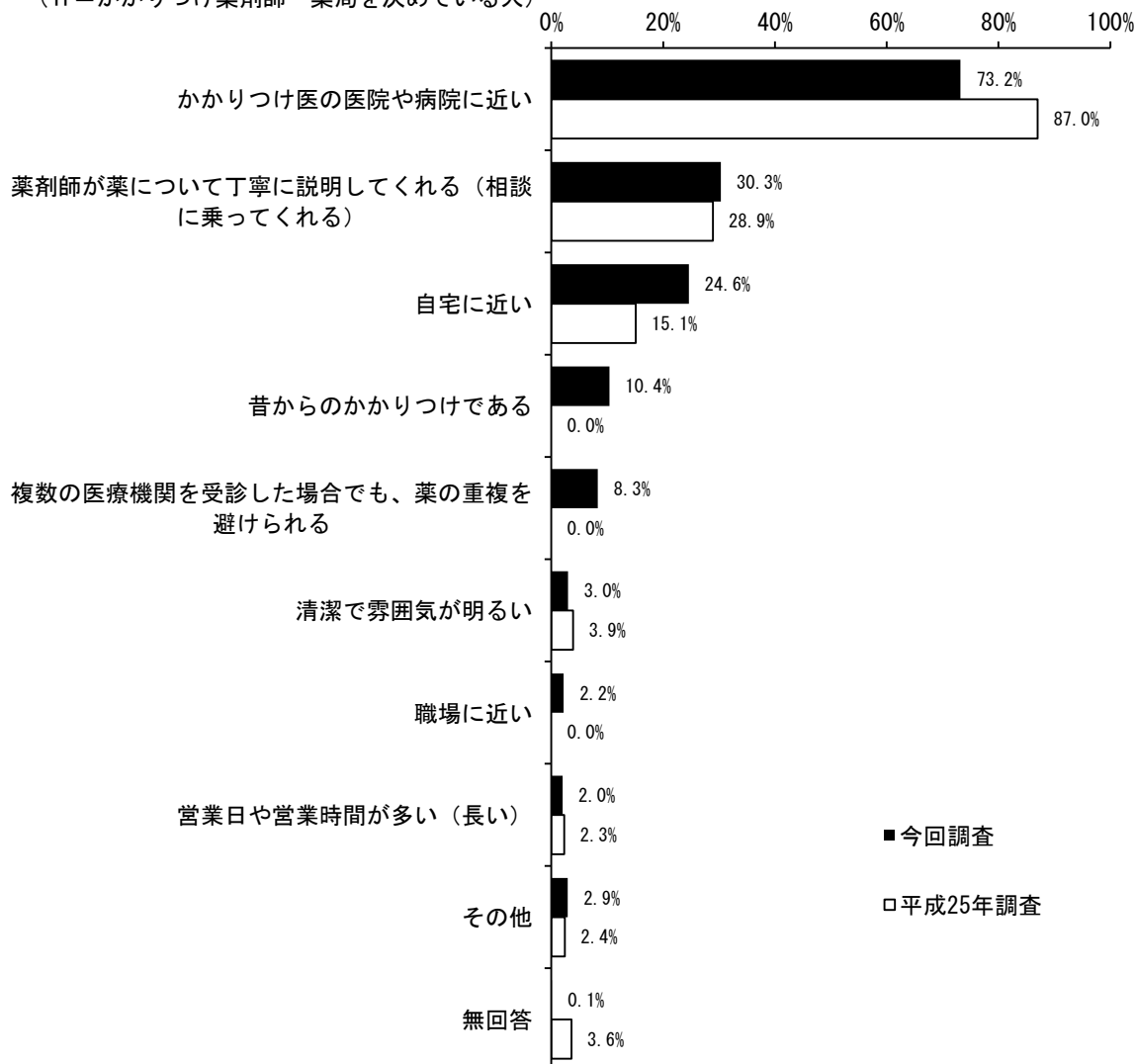
(3) かかりつけ薬剤師・薬局の選択理由

～「かかりつけ医の医院や病院に近い」73.2%が最も多い～

問19-1 かかりつけ薬剤師・薬局を決めているのは、どのような理由からですか。(〇は2つまで)

図10-5

(n=かかりつけ薬剤師・薬局を決めている人)



かかりつけ薬剤師・薬局を決めている人に、その理由を聞くと、「かかりつけ医の医院や病院の近くの薬局」が73.2%と最も多く、次いで「薬剤師が薬について丁寧に説明してくれる(相談に乗ってくれる)」が30.3%、「自宅に近い」が24.6%となっている。

平成25年調査結果との比較では、傾向は変わらないが、「かかりつけ医の医院や病院に近い」が少なくなっている。

◆地域別

「かかりつけ医の医院や病院に近い」は吾妻保健医療圏が81.7%と最も多くなっている。

◆市郡別

「かかりつけ医の医院や病院に近い」は市部（72.1%）に比べ、郡部（80.0%）の方が多くなっている。

◆性別

男性と女性で大きな差異はみられないが、「薬剤師が薬について丁寧に説明してくれる（相談に乗ってくれる）」は男性（25.5%）に比べ、女性（34.4%）の方が多くなっている。

◆性・年代別

いずれの性別・年代も「かかりつけ医の医院や病院に近い」が最も多くなっている。また、「自宅に近い」は30代男性（51.2%）、40代男性（52.0%）で50.0%を超えている。

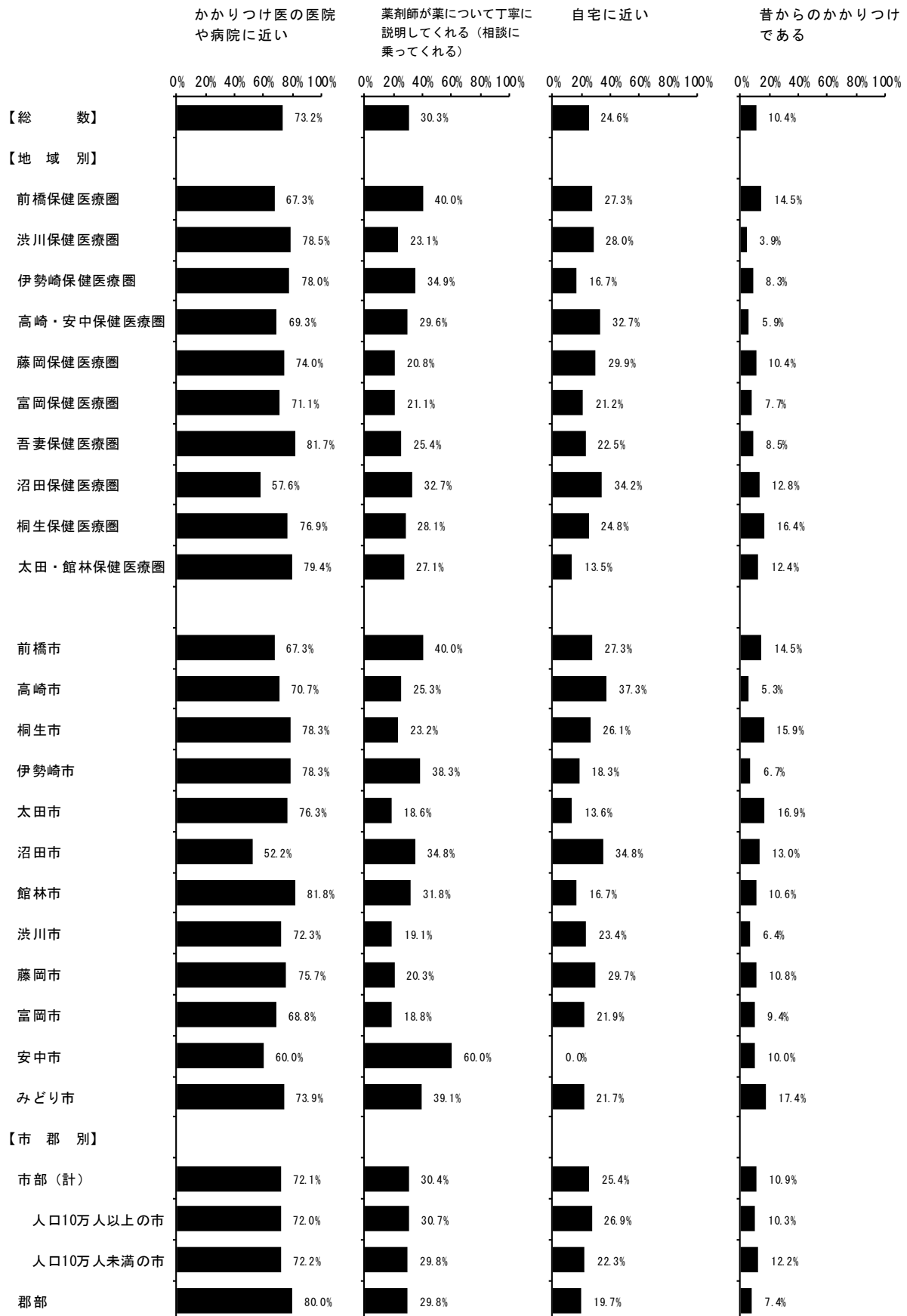
◆職業別

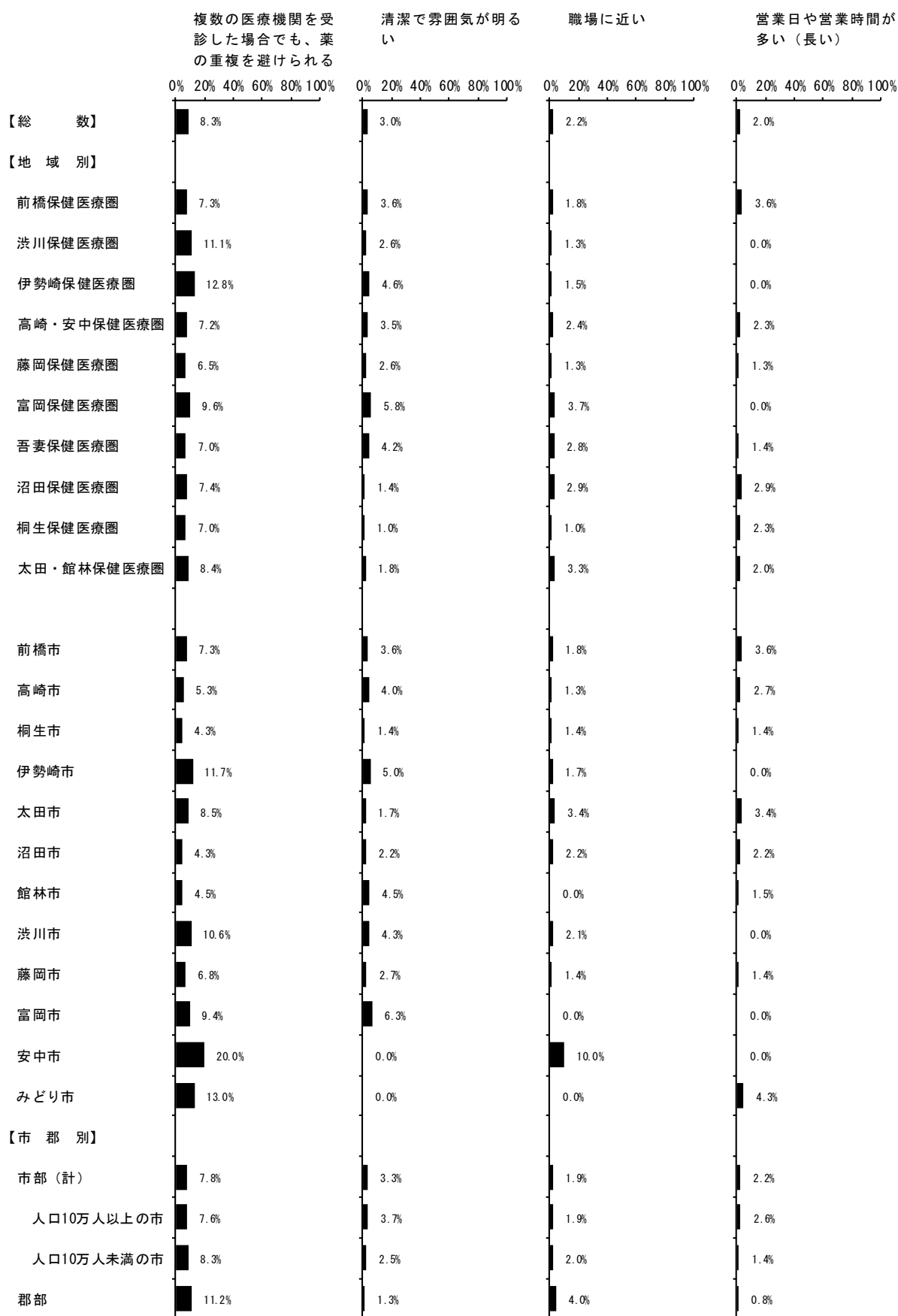
いずれの職業も「かかりつけ医の医院や病院に近い」が最も多くなっており、60.0%を超えている。

◆健康状態別

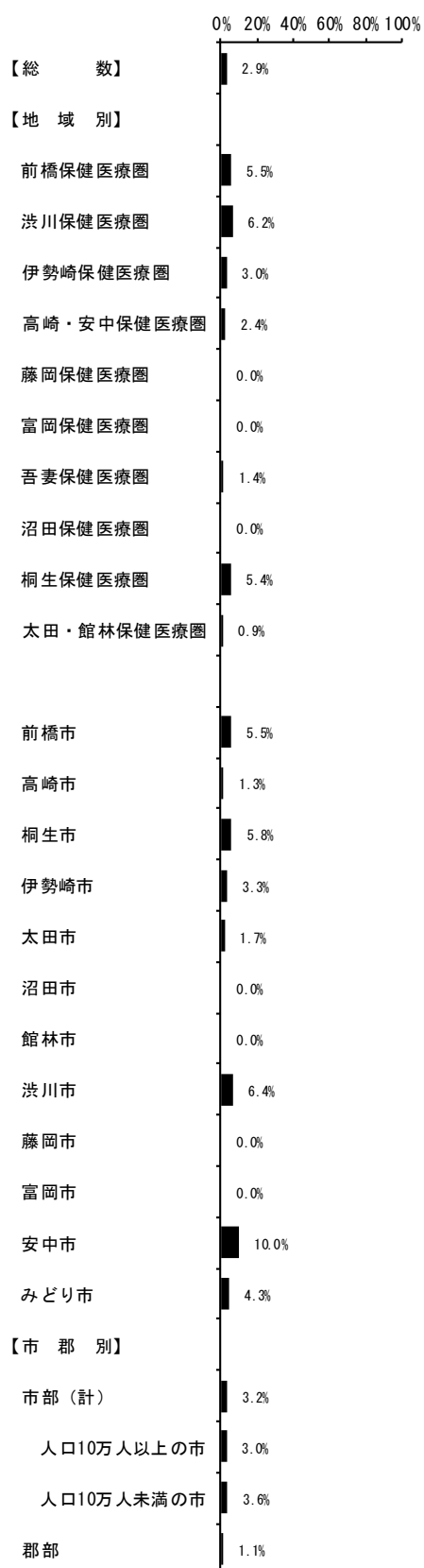
健康状態で差異はほとんどみられない。

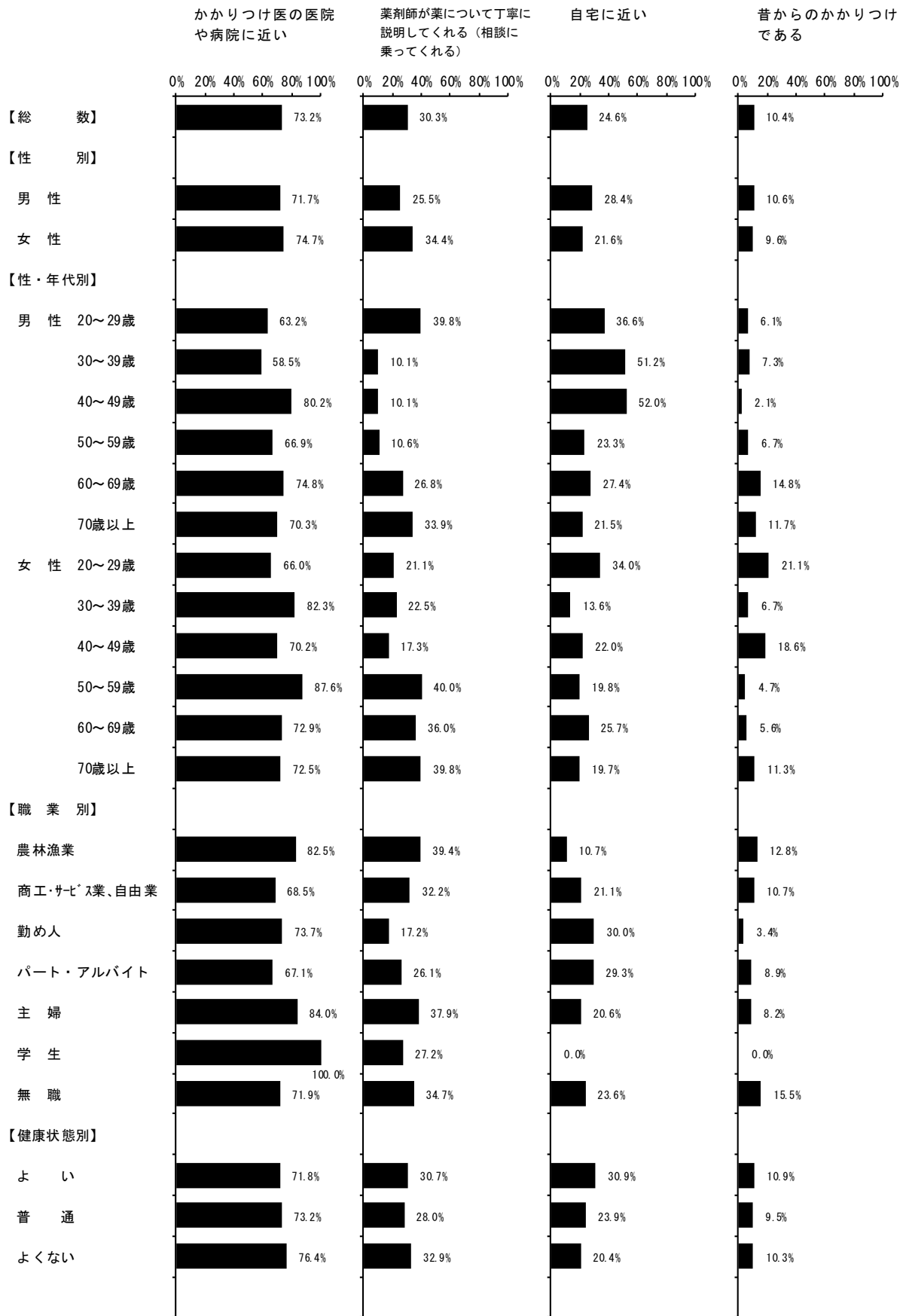
図10-6 かかりつけ薬剤師・薬局の選択理由

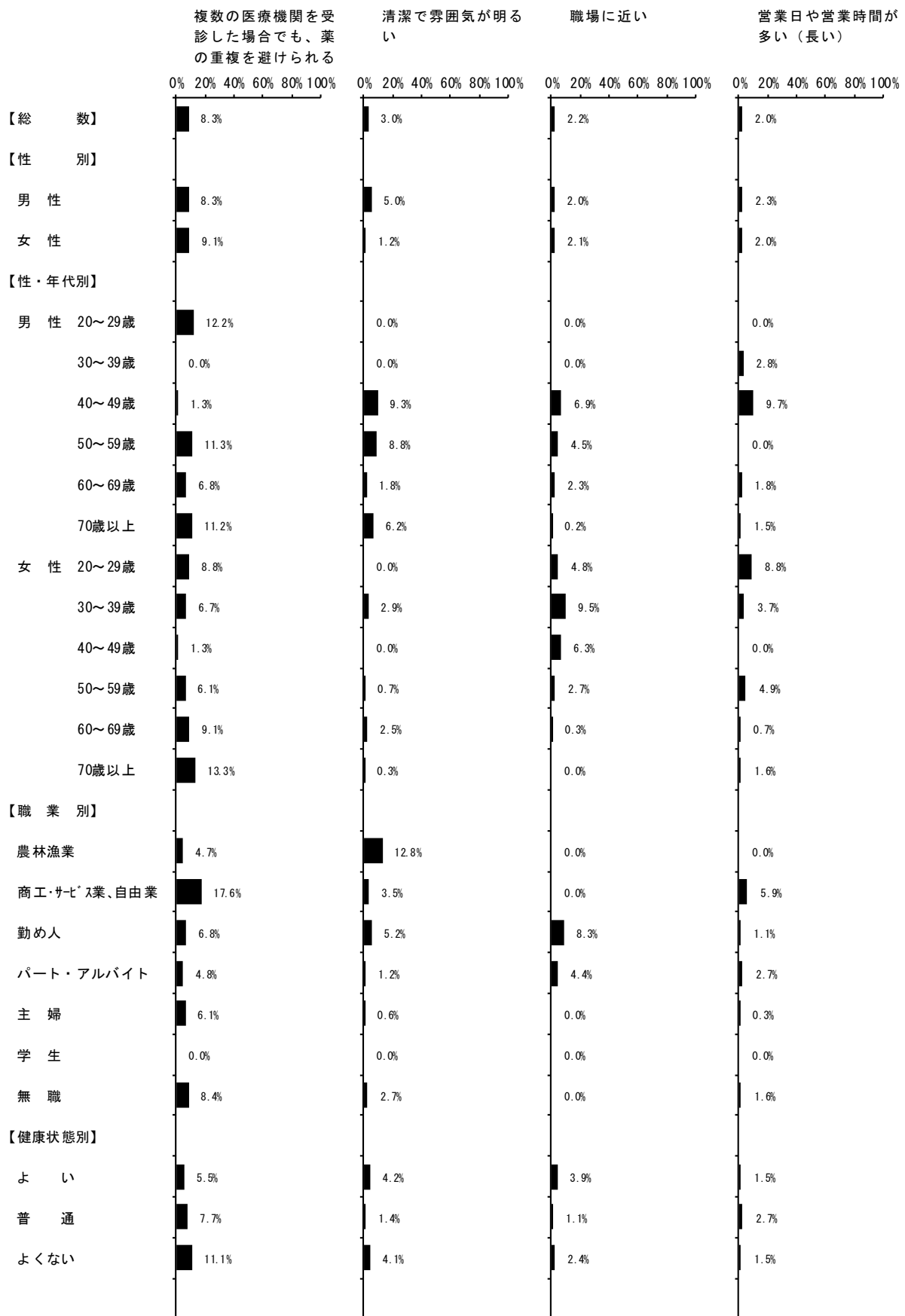




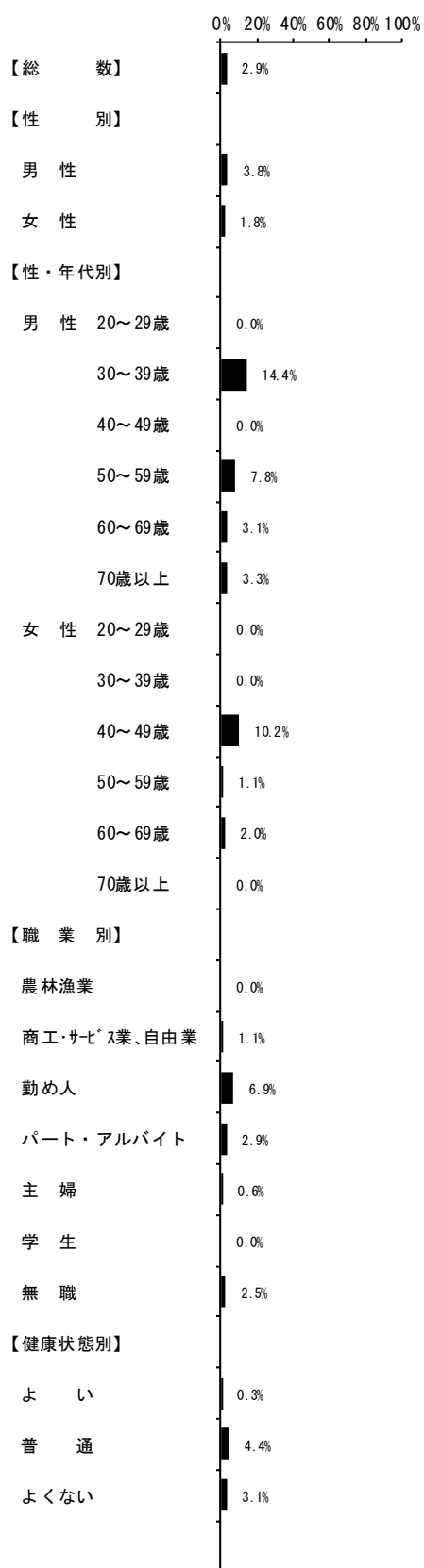
その他







その他



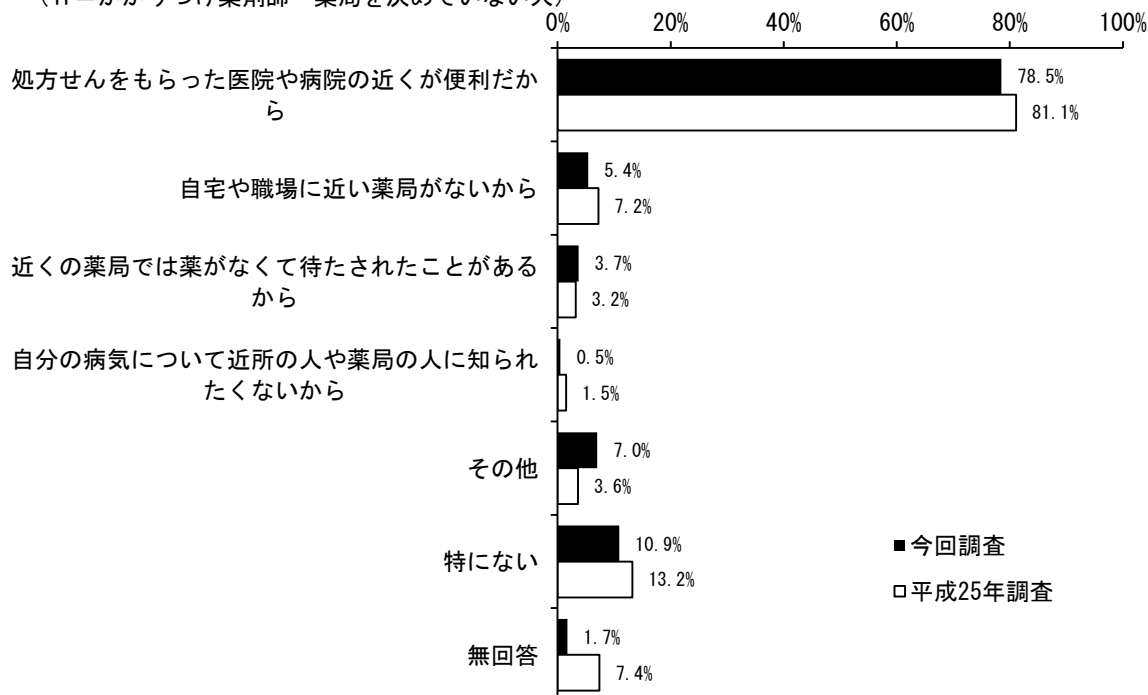
(4) かかりつけ薬剤師・薬局を決めていない理由

～「処方せんをもらった医院や病院の近くが便利だから」78.5%が最も多い～

問19-2 かかりつけ薬剤師・薬局を決めていないのは、どのような理由からですか。(〇は2つまで)

図10-7

(n=かかりつけ薬剤師・薬局を決めていない人)



かかりつけ薬剤師・薬局を決めていない人に、その理由を聞くと、「処方せんをもらった医院や病院の近くが便利だから」が78.5%となっており、他の理由を大きく上回る。平成25年調査結果との比較では、ほぼ同様となっている。

◆地域別

いずれの地域も「処方せんをもらった医院や病院の近くが便利だから」が他の理由を大きく上回っている。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

男性と女性で差異はほとんどみられない。

◆性・年代別

20代男性は「処方せんをもらった医院や病院の近くが便利だから」が55.5%となっており、他の年代に比べ少なくなっている。

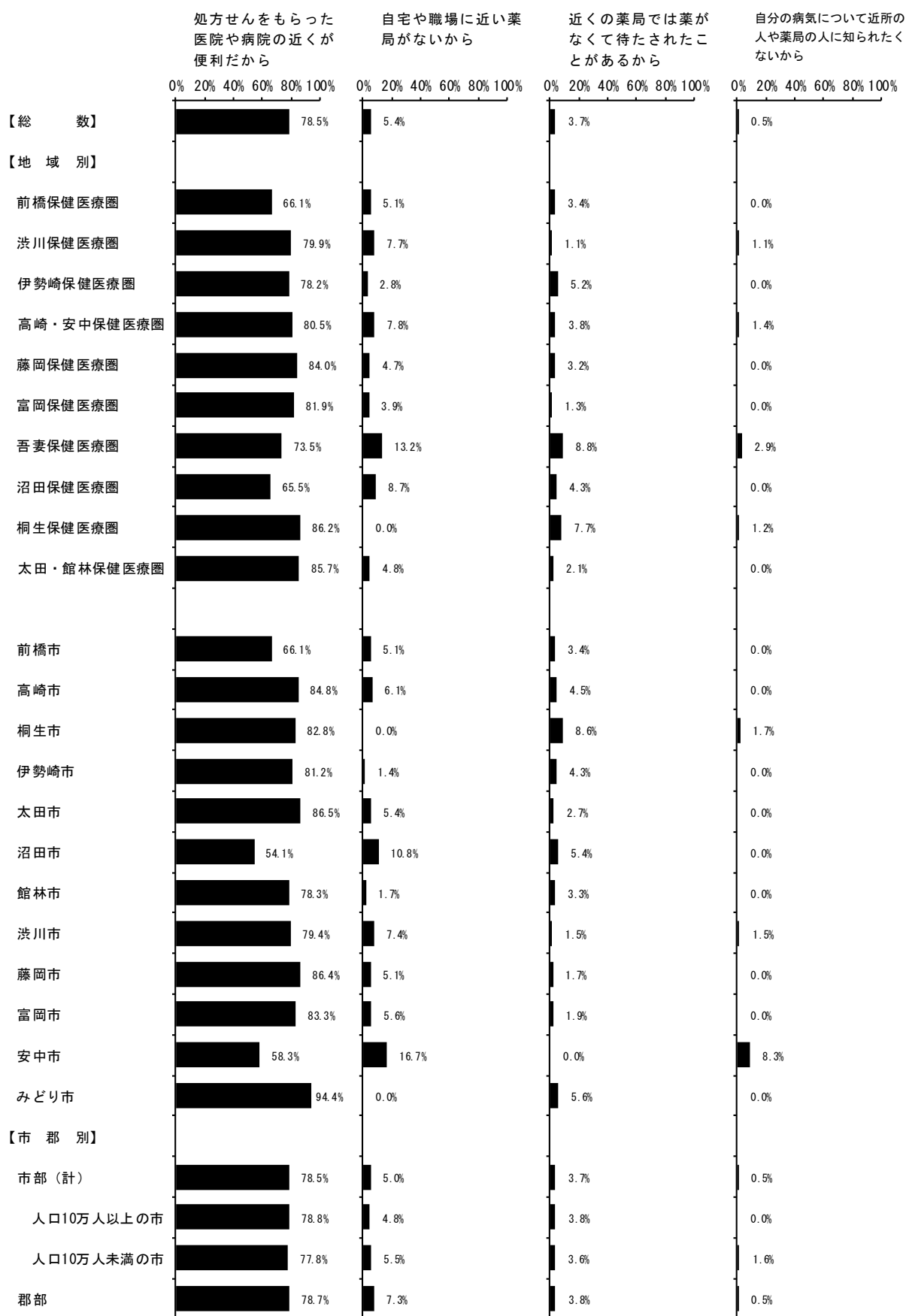
◆職業別

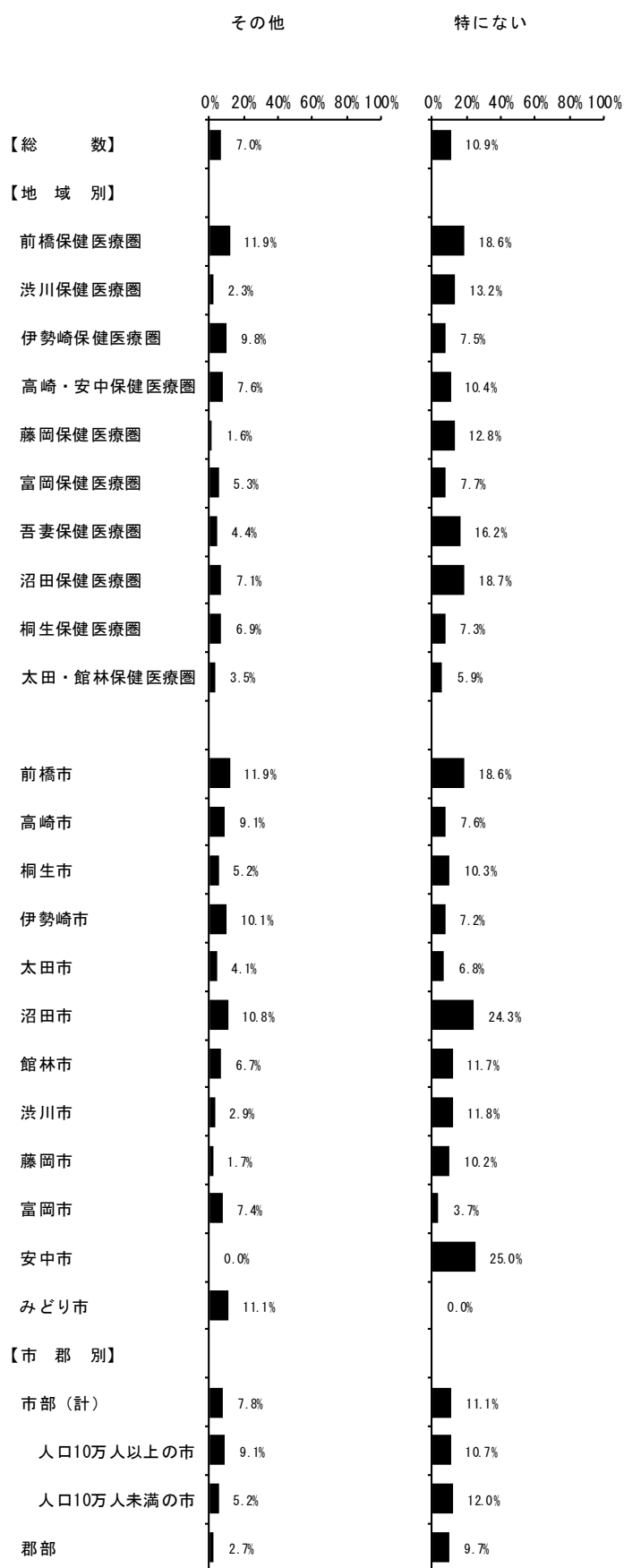
「処方せんをもらった医院や病院の近くが便利だから」はパート・アルバイト(83.5%)、主婦(83.5%)、勤め人(82.1%)で80.0%を超えている。

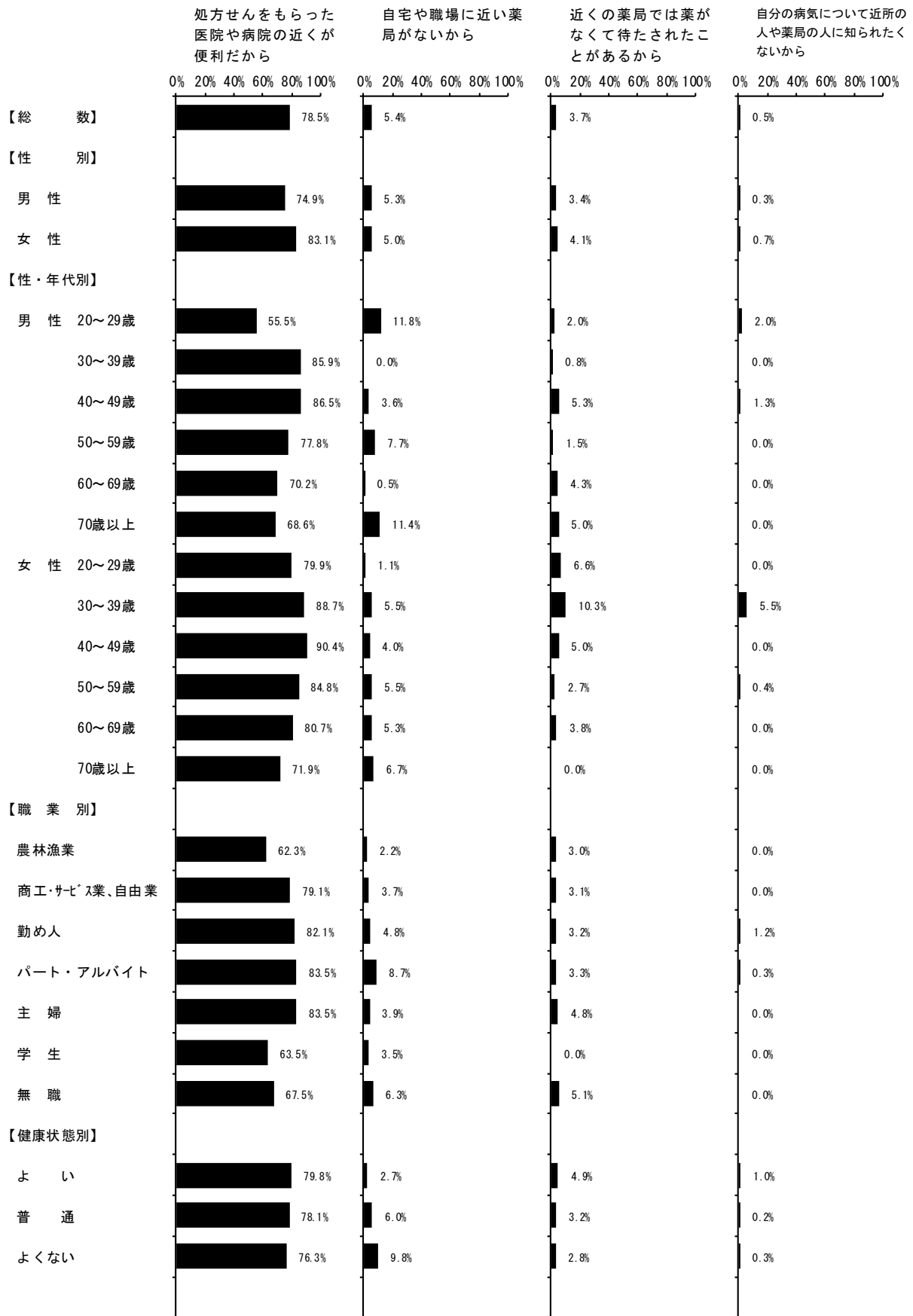
◆健康状態別

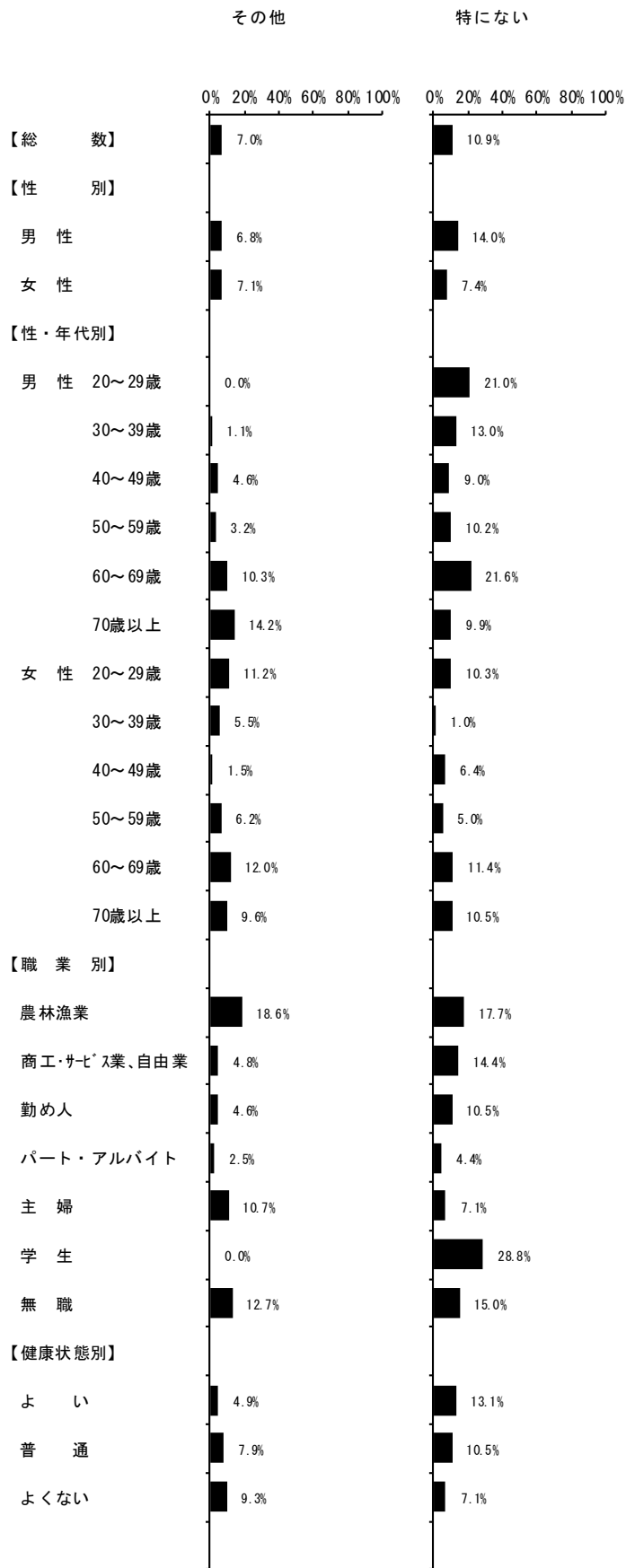
健康状態で差異はほとんどみられない。

図10-8 かかりつけ薬剤師・薬局を決めていない理由









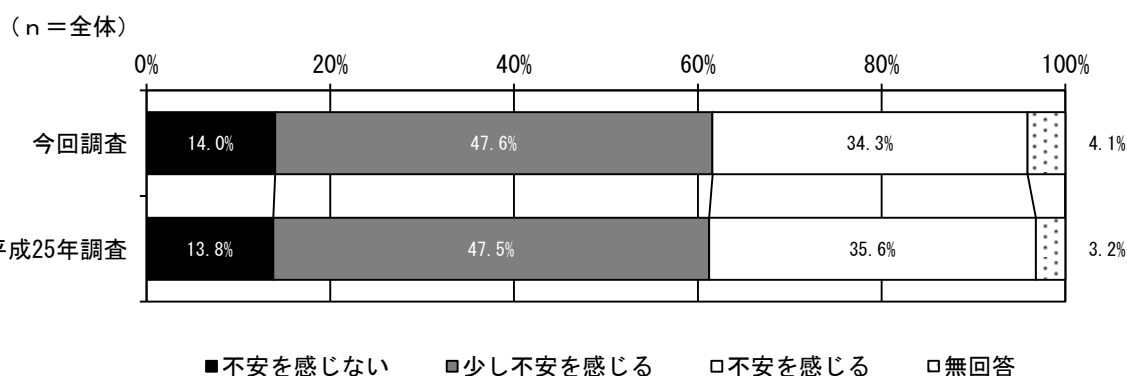
1 1 転院について

(1) 転院に対する不安感

～＜不安を感じる＞人は81.9%～

問20 限られた救急医療の病床を効率よく利用するためには、救急の治療が終了すると入院している医療機関から転院などを求められることがあります。もし、このような場合、あなたが転院を求められたとしたら不安を感じますか。(○は1つだけ)

図11-1



転院を求められたら場合について、「不安を感じない」は14.0%となっている。一方、「少し不安を感じる」は47.6%となっており、これに「不安を感じる」(34.3%)を合わせた＜不安を感じる＞は81.9%となっている。

平成25年調査結果との比較では、ほぼ同様となっている。

◆地域別

いずれの地域も＜不安を感じる＞は、70.0%を超えている。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

＜不安を感じる＞は男性(77.5%)に比べ、女性(85.7%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

男性と女性とも「少し不安を感じる」は若い年代ほど大きくなる傾向がみられ、「不安を感じる」は高い年代ほど大きくなる傾向がみられる。特に女性ではその傾向が強くなっており、70歳以上の女性は「少し不安を感じる」が33.4%、「不安を感じる」が48.2%となっている。

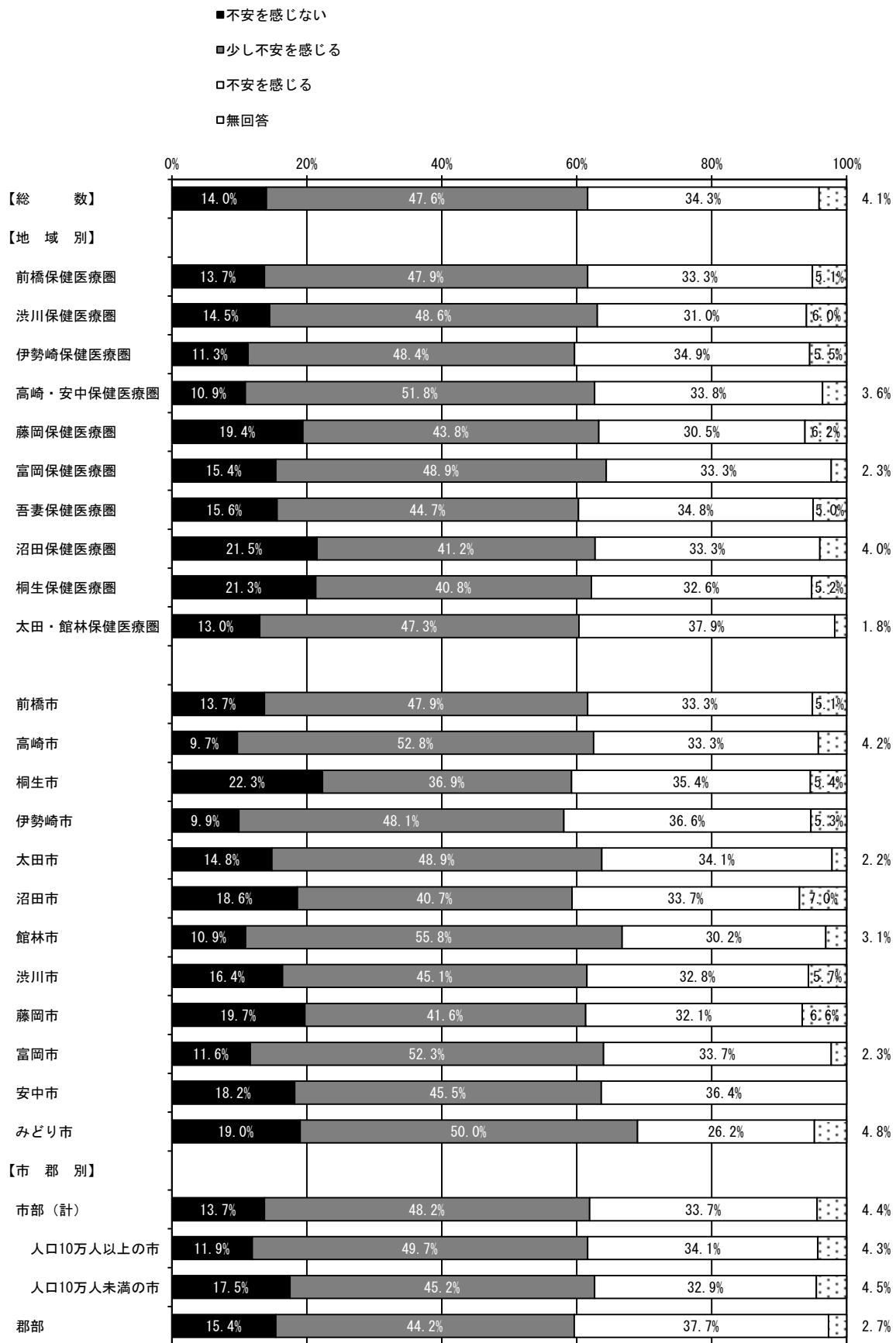
◆職業別

農林漁業は「不安を感じる」が44.3%となっており、他の職業に比べ多くなっている。

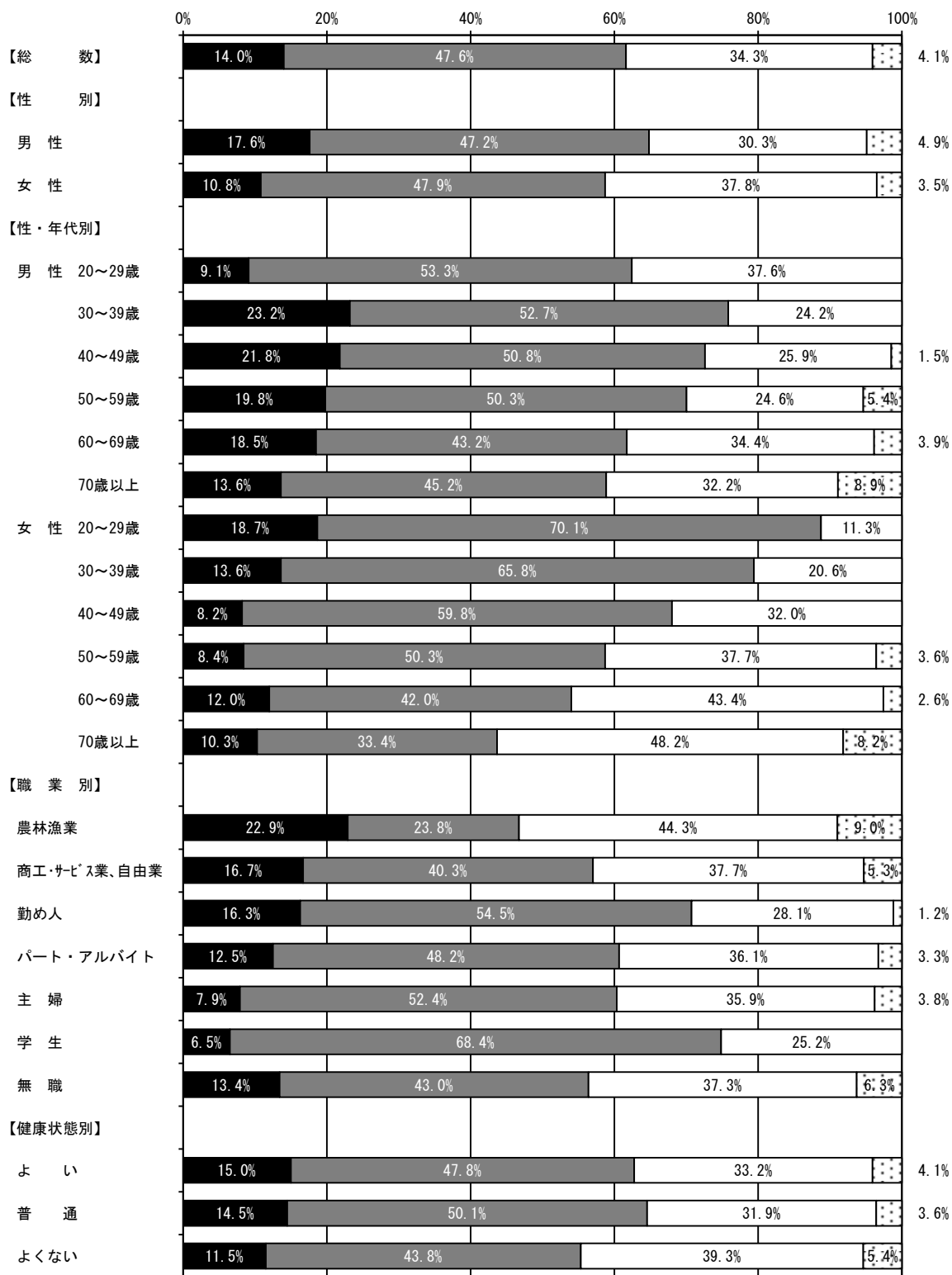
◆健康状態別

「不安を感じる」は健康状態がよい(33.2%)に比べ、健康状態がよくない(39.3%)の方が多くなっている。

図 1 1 - 2 転院に対する不安感

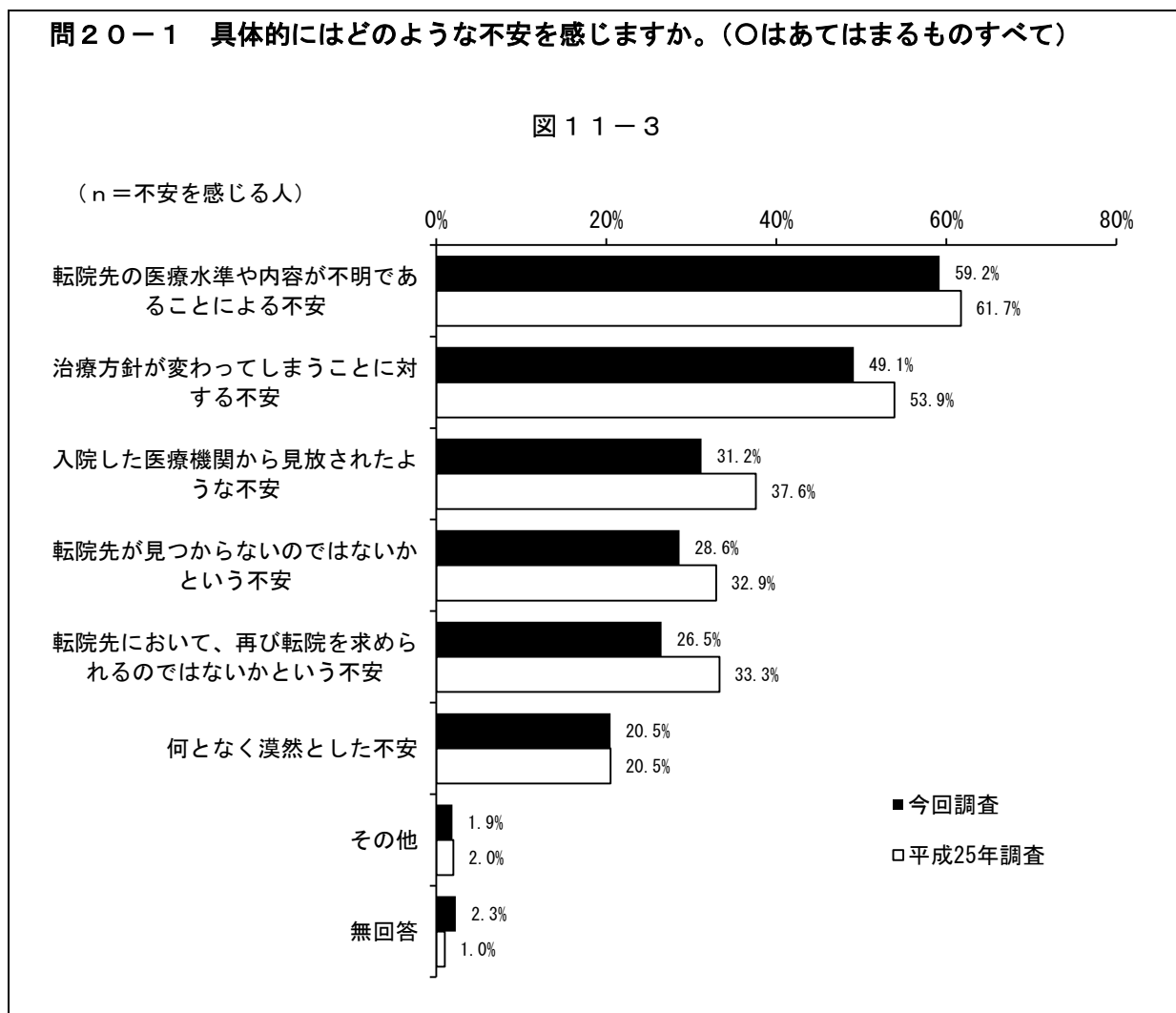


- 不安を感じない
- 少し不安を感じる
- 不安を感じる
- 無回答



(2) 具体的な不安内容

～「転院先の医療水準や内容が不明であることによる不安」59.2%、「治療方針が変わってしまうことに対する不安」49.1%～



転院を求められたら不安を感じる人に、具体的な不安を聞いたところ、「転院先の医療水準や内容が不明であることによる不安」が59.2%と最も多く、次いで「治療方針が変わってしまうことに対する不安」が49.1%、「入院した医療機関から見放されたような不安」が31.2%となっている。

平成25年調査結果との比較では、傾向は変わらないが、それぞれの項目が少なくなっている。

◆地域別

いずれの地域も「転院先の医療水準や内容が不明であることによる不安」が最も多くなっている。その中でも前橋保健医療圏は70.5%と最も多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で大きな差異はみられないが、「転院先の医療水準や内容が不明であることによる不安」は郡部(50.8%)に比べ、市部(60.7%)の方が多くなっており、人口規模により差異がみられる。

◆性別

男性と女性とも「転院先の医療水準や内容が不明であることによる不安」が最も多くなっている。また、「治療方針が変わってしまうことに対する不安」は男性（44.9%）に比べて、女性（54.4%）の方が多くなっている。

◆性・年代別

「治療方針が変わってしまうことに対する不安」は40代女性（62.8%）、20代女性（62.6%）、20代男性（60.7%）で60.0%を超えている。

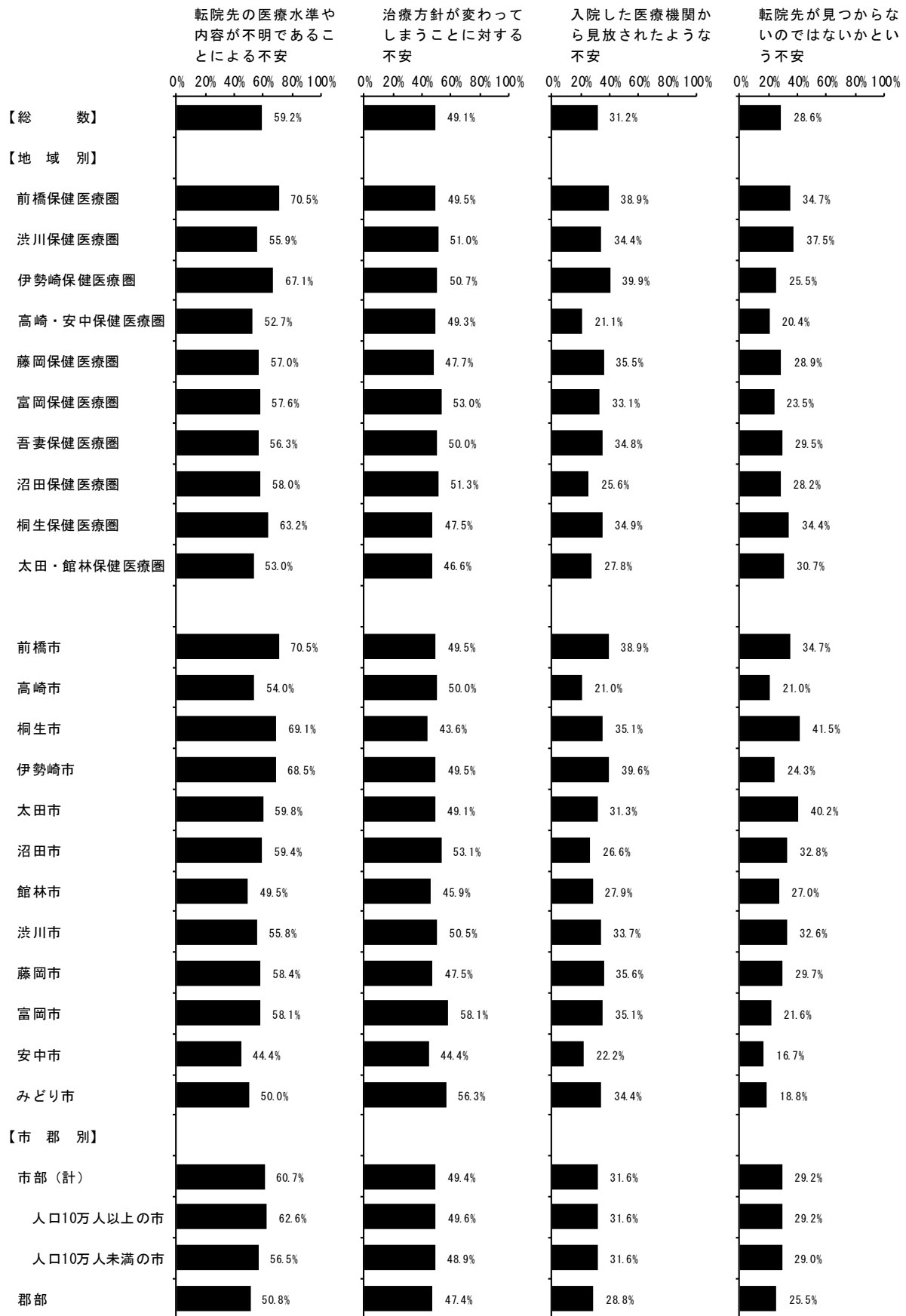
◆職業別

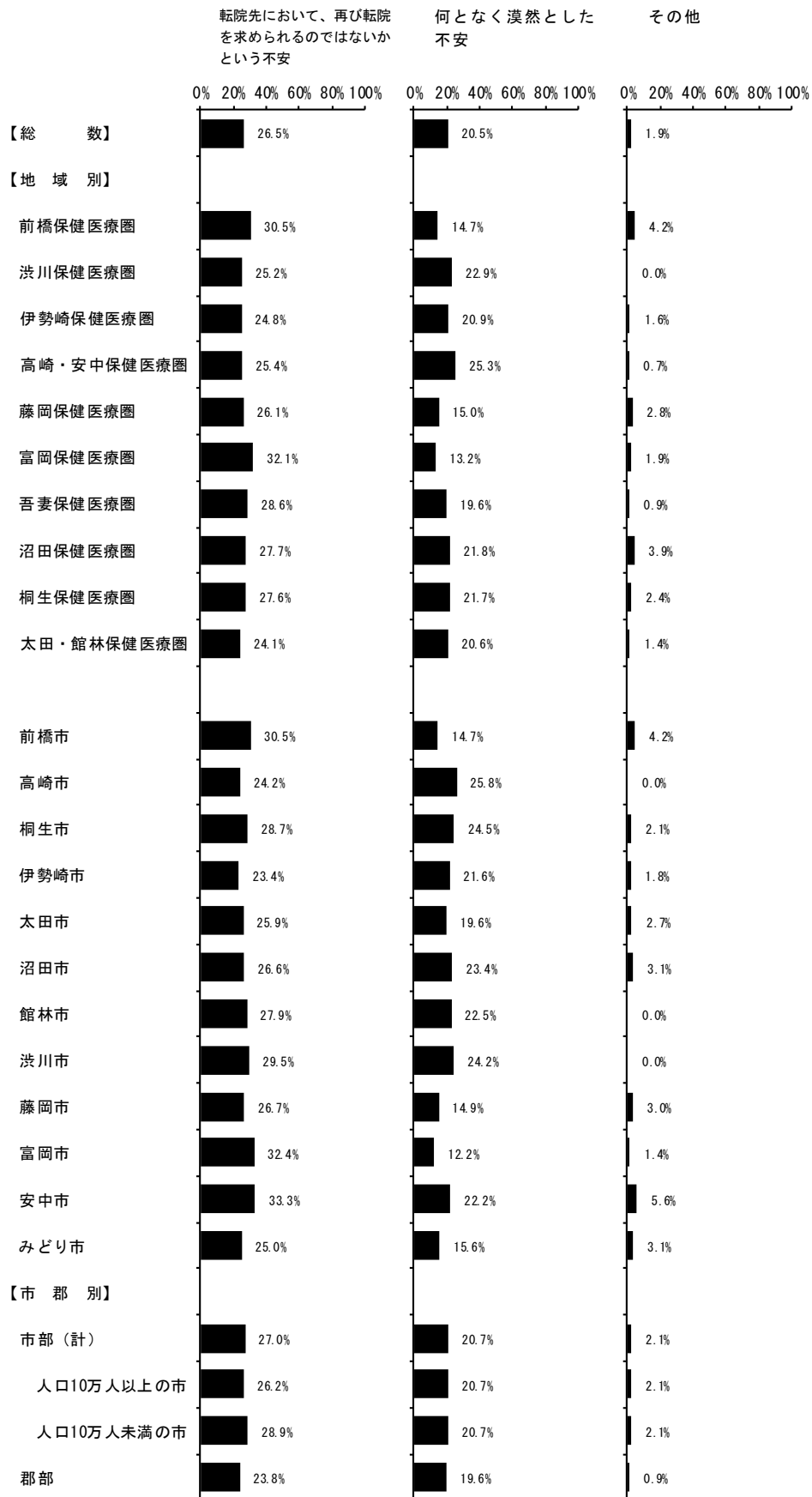
「転院先の医療水準や内容が不明であることによる不安」は勤め人が69.1%と最も多くなっている。また、「治療方針が変わってしまうことに対する不安」はパート・アルバイト（58.0%）、主婦（56.1%）、勤め人（51.0%）では50.0%を超えている。

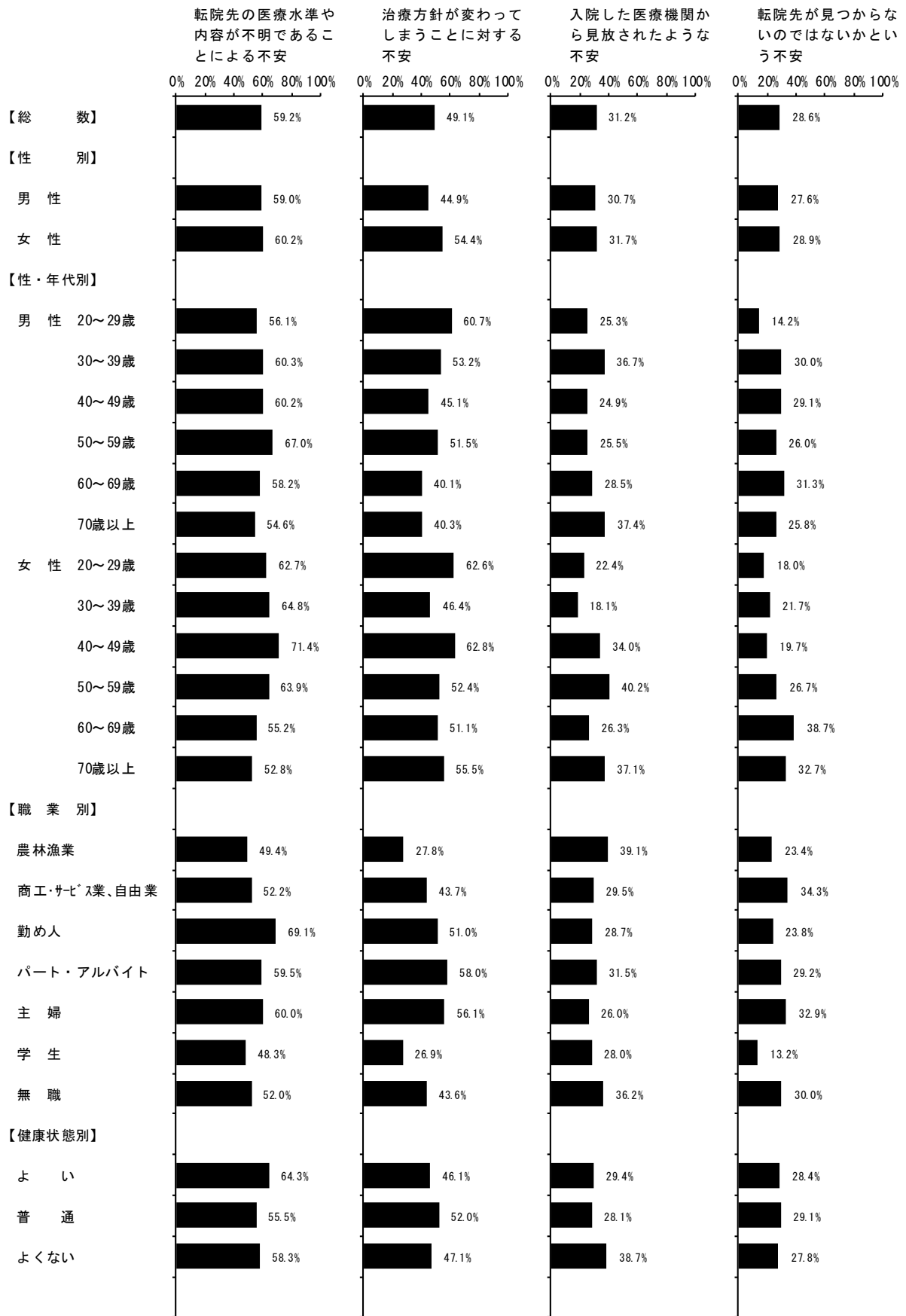
◆健康状態別

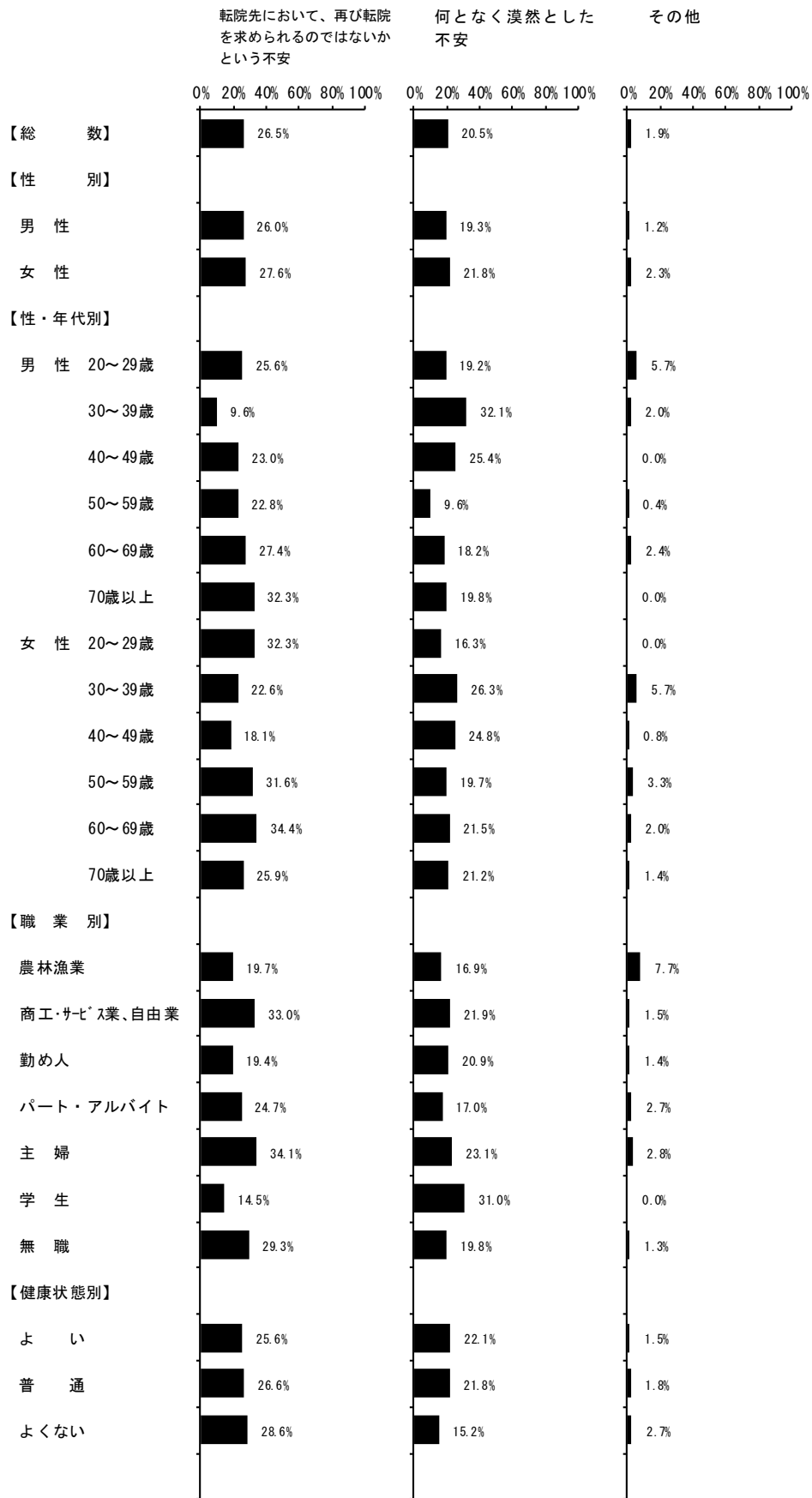
健康状態で大きな差異はみられないが、「転院先の医療水準や内容が不明であることによる不安」は健康状態がよくない（58.3%）に比べ、健康状態がよい（64.3%）の方が多くなっている。

図 1 1 - 4 具体的な不安内容









12 退院について

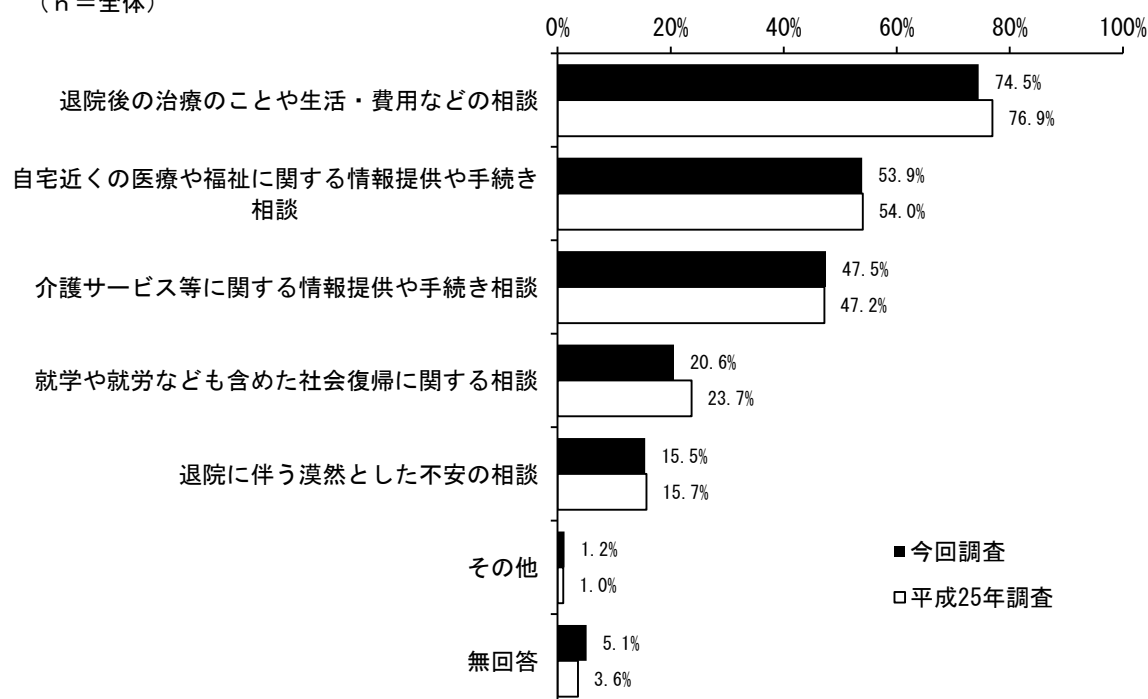
(1) 退院後に病院のソーシャルワーカーに望むこと

～「退院後の治療のことや生活・費用などの相談」74.5%が最も多い～

問21 あなたが病院から退院し、在宅での療養に移る場合、病院のソーシャルワーカー（社会福祉の立場から相談・支援を行う専門職）に対してどのようなことを望みますか。（○はあてはまるものすべて）

図12-1

(n=全体)



病院から退院し、病院のソーシャルワーカーに望むことを聞いたところ、「退院後の治療のことや生活・費用などの相談」が74.5%と最も多く、次いで「自宅近くの医療や福祉に関する情報提供や手続き相談」が53.9%、「介護サービス等に関する情報提供や手続き相談」が47.5%となっている。

平成25年調査結果との比較では、ほぼ同様となっている。

◆地域別

いずれの地域も「退院後の治療のことや生活・費用などの相談」が最も多くなっており、70.0%を超えている。

◆市郡別

「介護サービス等に関する情報提供や手続き相談」は郡部（40.3%）に比べ、市部（48.8%）の方が多くなっている。

◆性別

男性と女性とも「退院後の治療のことや生活・費用などの相談」は70.0%を超えている。また、上位3項目の「退院後の治療のことや生活・費用などの相談」、「自宅近くの医療や福祉に関する情報提供や手続き相談」、「介護サービス等に関する情報提供や手続き相談」は男性に比べ、女性の方が多くなっている。

◆性・年代別

「退院後の治療のことや生活・費用などの相談」は女性では若い年代ほど多くなる傾向がみられる。また、「自宅近くの医療や福祉に関する情報提供や手続き相談」は50代女性(61.6%)、60代女性(67.4%)で60.0%を超えている。

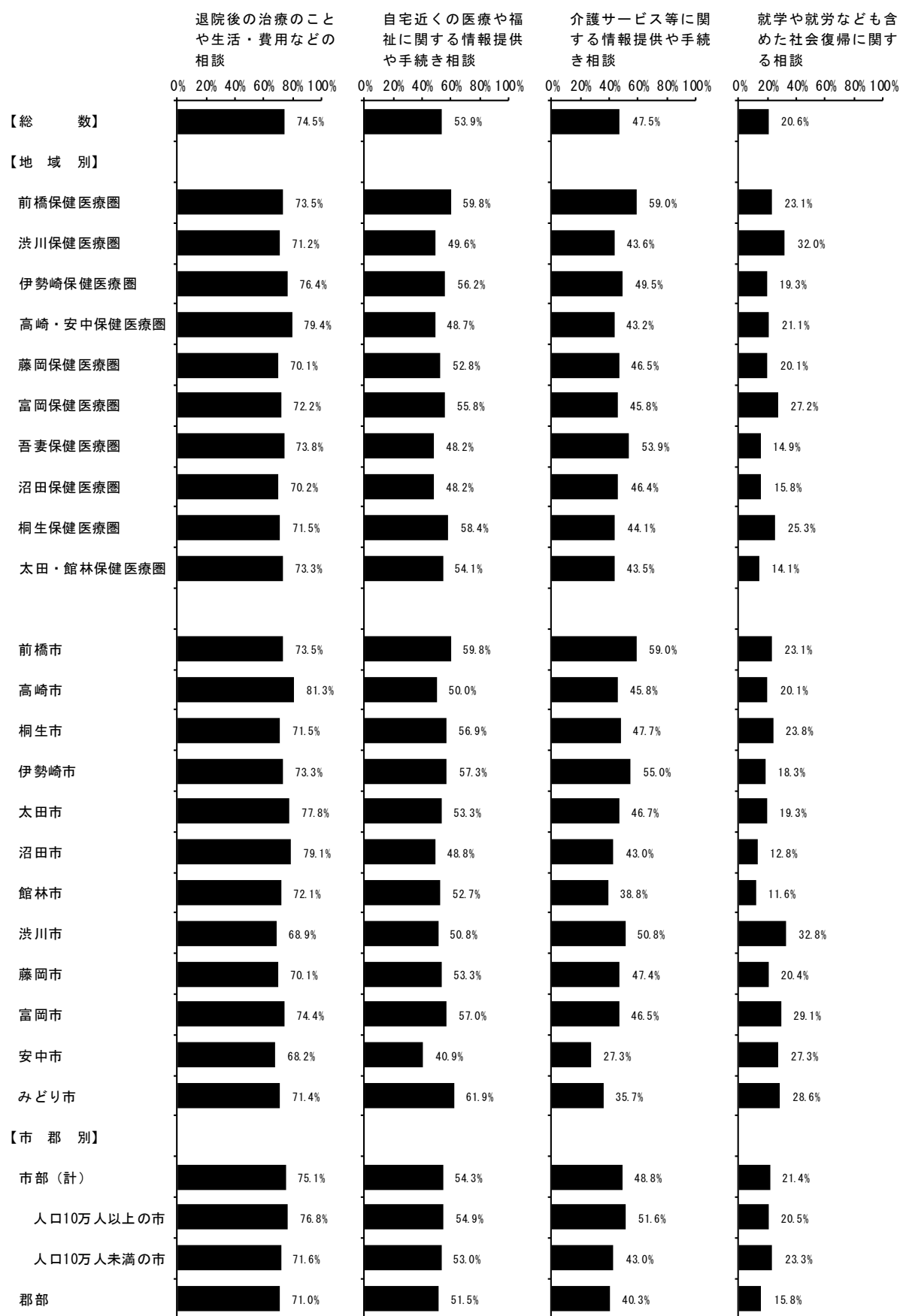
◆職業別

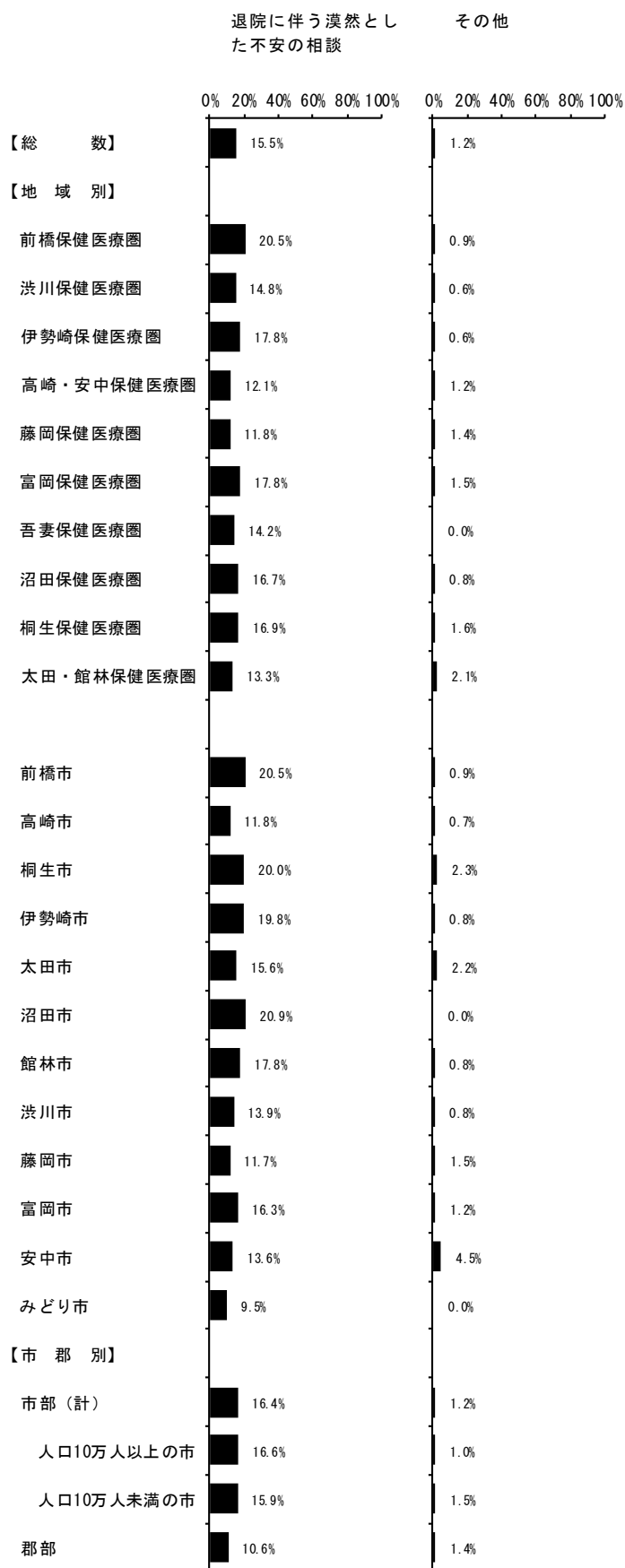
「退院後の治療のことや生活・費用などの相談」は勤め人(81.7%)、パート・アルバイト(81.5%)、主婦(80.0%)で80.0%を超えている。

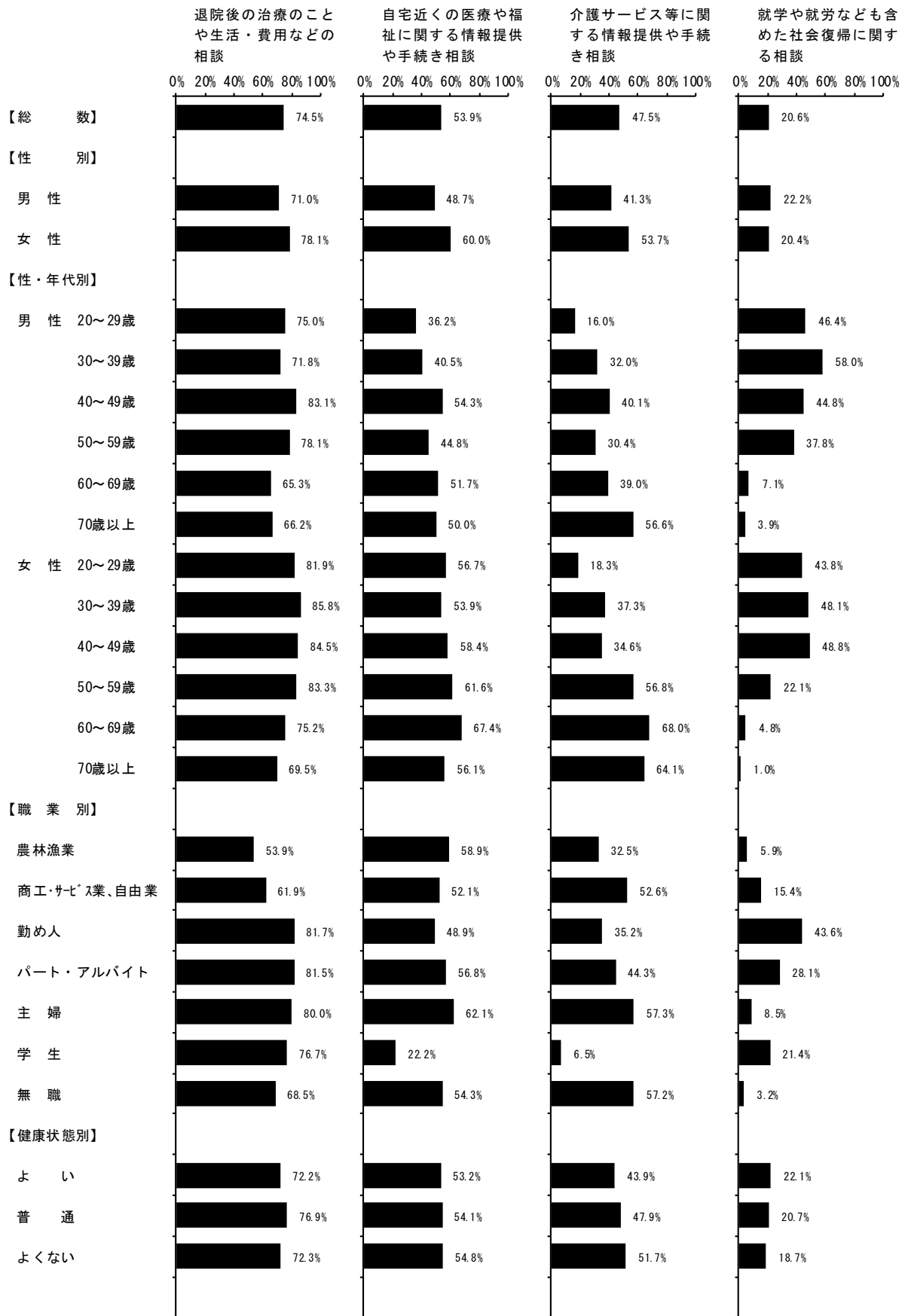
◆健康状態別

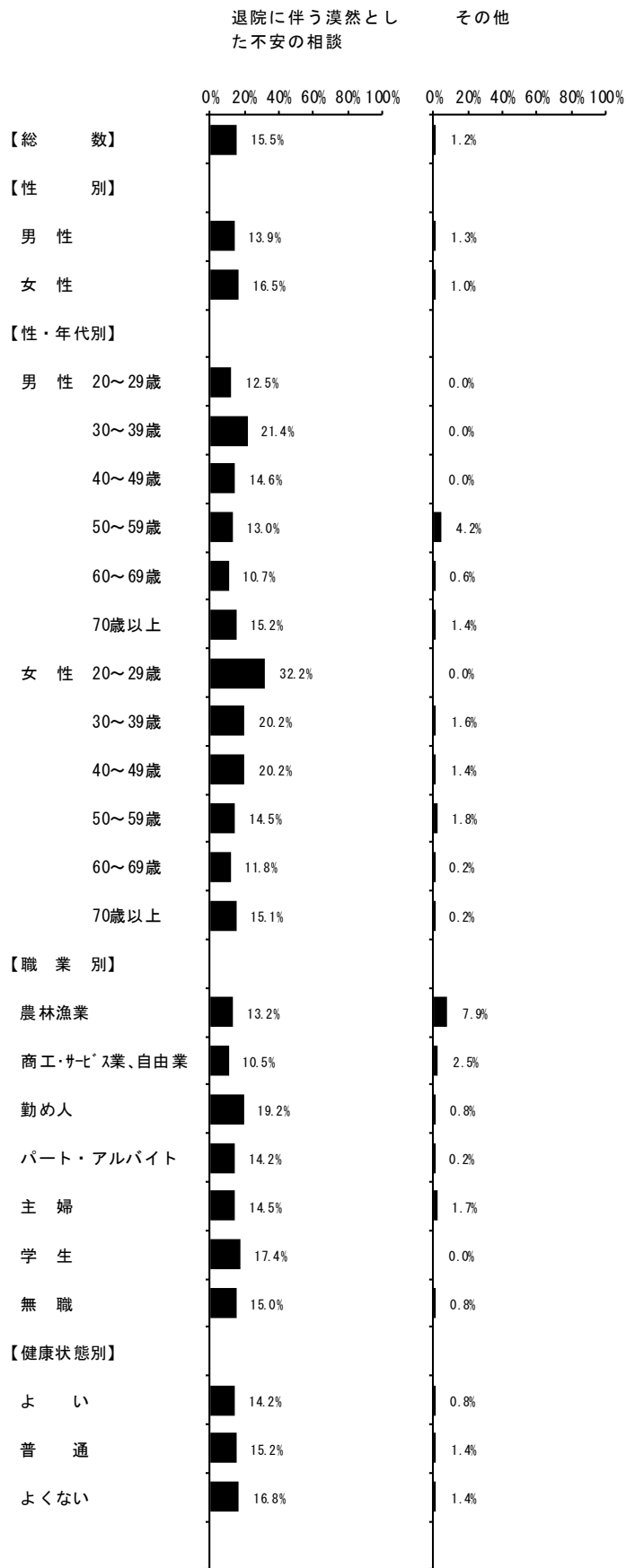
健康状態で大きな差異はみられないが、「介護サービス等に関する情報提供や手続き相談」は健康状態がよい(43.9%)に比べ、健康状態がよくない(51.7%)の方が多くなっている。

図 1 2 - 2 退院後に病院のソーシャルワーカーに望むこと









13 在宅医療について

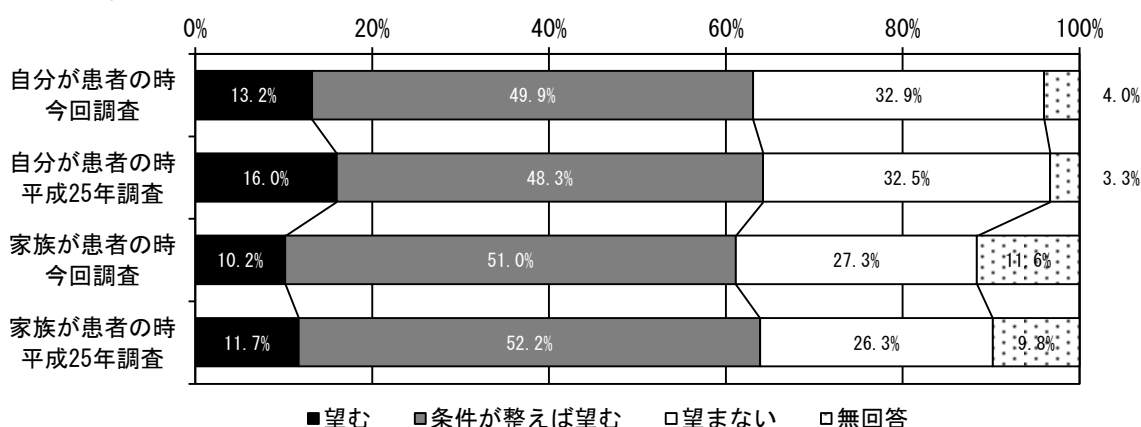
(1) 自宅での療養希望の有無

～「条件が整えば」自分が患者の時、家族が患者の時とも約5割が自宅療養を望んでいる～

問22 もし、あなたやあなたの家族が治療や療養を必要とする場合、自宅での療養を望みますか。(両方に回答してください。)(○は各1つだけ)

図13-1

(n=全体)



自分が患者の時、自宅療養を「望む」は13.2%となっており、家族が患者の時の10.2%よりやや多くなっている。同様に自分が患者の時、自宅療養を「望まない」は32.9%となっており、家族が患者の時の27.3%より多くなっている。「条件が整えば望む」は自分が患者の時は49.9%、家族が患者の時は51.0%となっている。「望む」と「条件が整えば望む」を合わせた<自宅療養を望む>では、自分が患者の時、家族が患者の時とも60.0%を超えている。

平成25年調査結果との比較では、ほぼ同様となっている。

◆地域別

自分が患者の時、自宅療養を「望まない」は桐生保健医療圏が38.9%と最も多くなっている。同様に家族が患者の時も30.8%と最も多くなっている。

◆市郡別

自分が患者の時、家族が患者の時とも市部郡部で差異はみられない。

◆性別

自分が患者の時、自宅療養を「望む」は女性(10.2%)に比べ、男性(16.5%)の方が多くなっており、「条件が整えば望む」を含めた<自宅療養を望む>は女性が57.1%に対し、男性が69.4%となっている。

同様に家族が患者の時、自宅療養を「望む」は女性(8.1%)に比べ、男性(11.7%)の方がやや多くなっている。

◆性・年代別

自分が患者の時、「条件が整えば望む」を含めた＜自宅療養を望む＞は、男性では60代が74.9%と最も多くなっているが、女性では高い年代ほど少なくなる傾向がみられ、70歳以上の女性は51.8%となっている。また、女性では自宅療養を「望む」は20代女性が26.0%となっており、他の年代と比べ多くなっている。

家族が患者の時、「条件が整えば望む」を含めた＜自宅療養を望む＞は、男性と女性とも高い年代ほど少なくなる傾向がみられる。特に女性ではその傾向が強くなっており、70歳以上の女性は46.4%となっている。

◆職業別

自分が患者の時、自宅療養を「望まない」は学生が88.1%と最も多くなっている。一方、農林漁業は21.3%と他の職業と比べ少なくなっている。また、農林漁業は自宅療養を「望む」が25.9%となっており、他の職業と比べ多くなっている。

同様に家族が患者の時、自宅療養を「望まない」は学生が84.0%と最も多くなっている。一方、農林漁業は17.8%と他の職業と比べ少なくなっている。また、農林漁業は自宅療養を「望む」が31.0%となっており、自分が患者の時と同様の傾向がみられる。

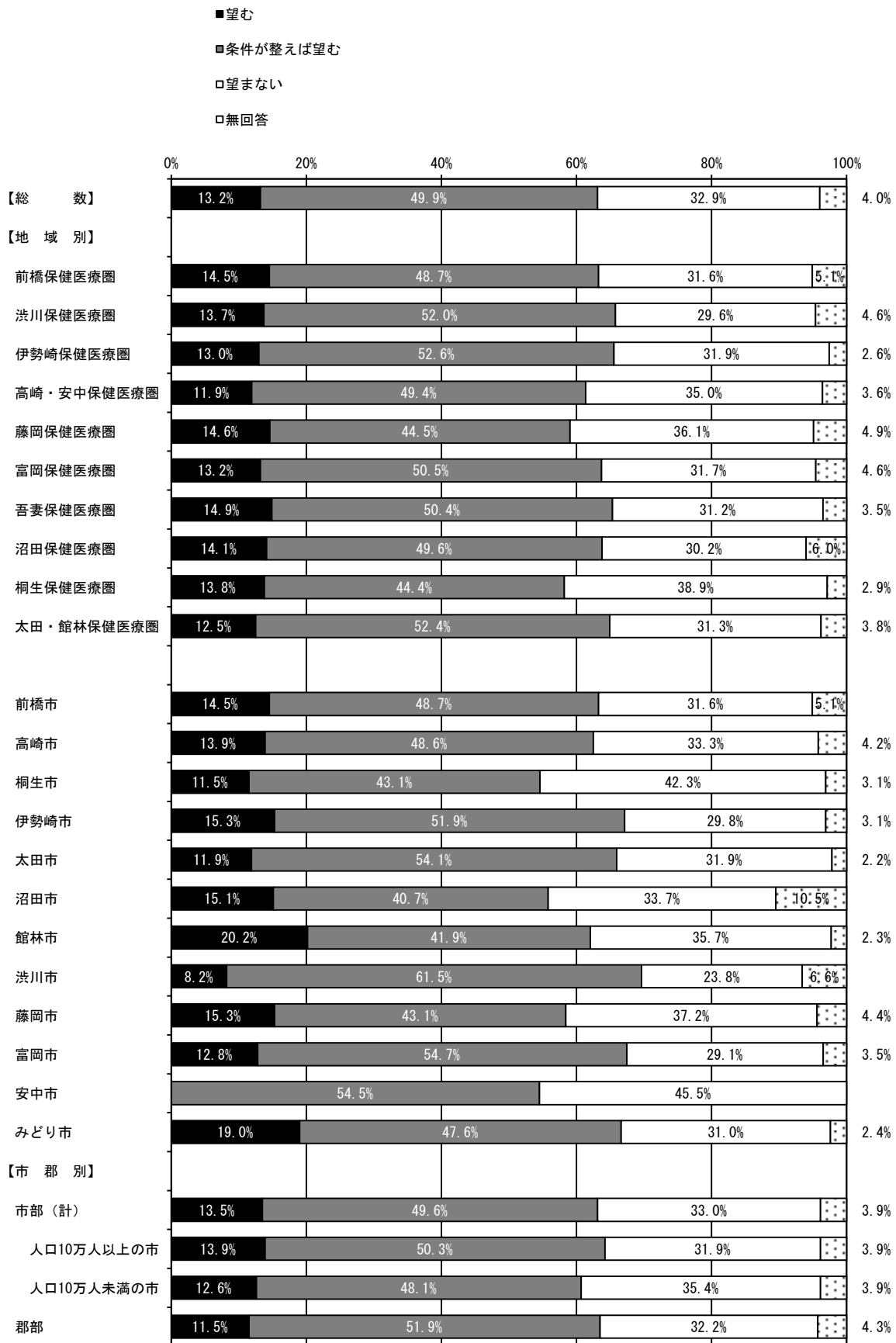
◆健康状態別

自分が患者の時、「条件が整えば望む」を含めた＜自宅療養を望む＞は、健康状態がよい(62.6%)に比べ、健康状態がよくない(67.7%)の方が多くなっている。

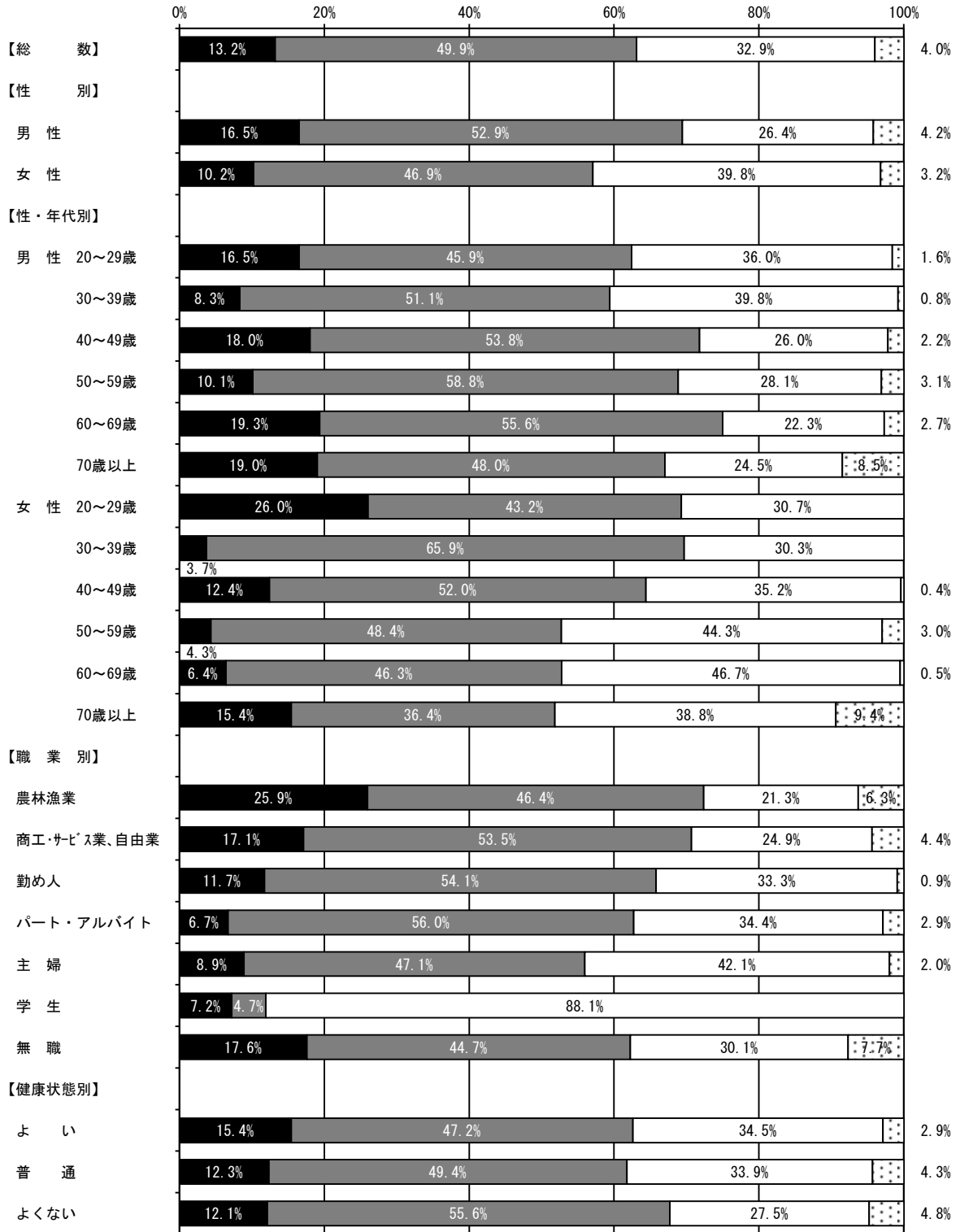
一方、家族が患者の時、「条件が整えば望む」を含めた＜自宅療養を望む＞は、健康状態がよくない(59.9%)に比べ、健康状態がよい(63.9%)の方が多くなっている。

図 1 3 - 2 自宅での療養希望の有無

自分が患者の場合

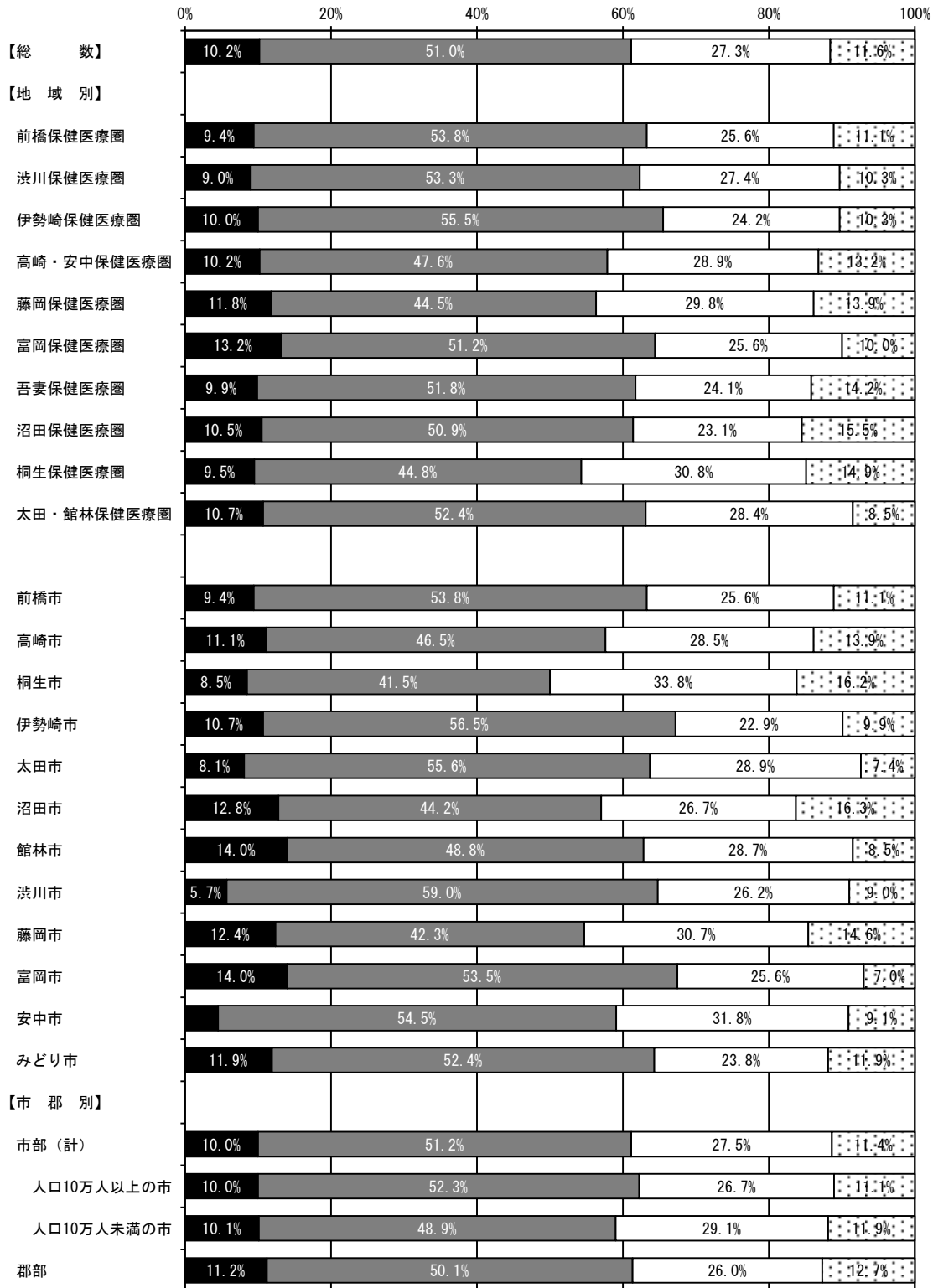


- 望む
- ▣条件が整えば望む
- 望まない
- 無回答

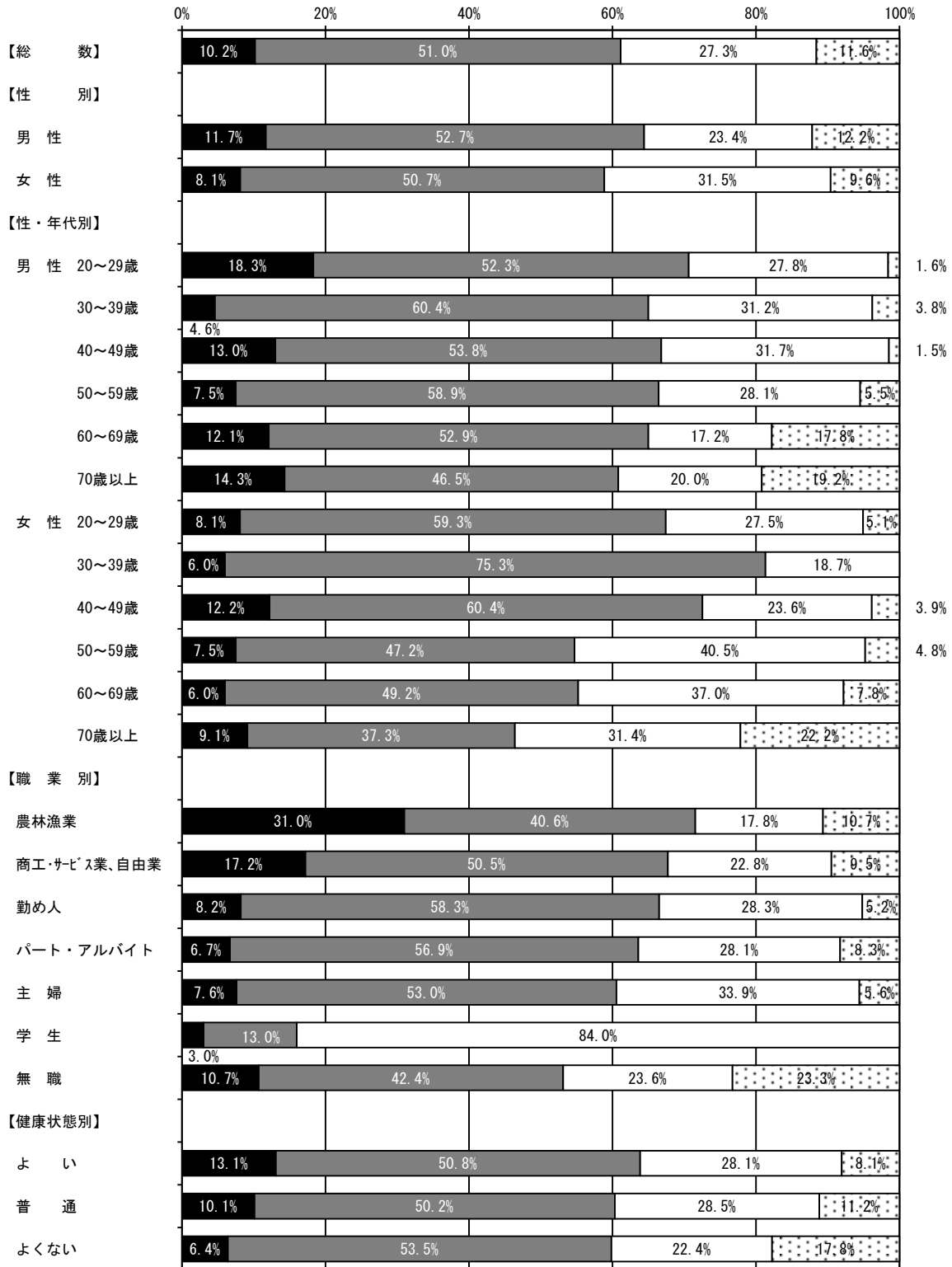


家族が患者の場合

- 望む
- 条件を整えば望む
- 望まない
- 無回答

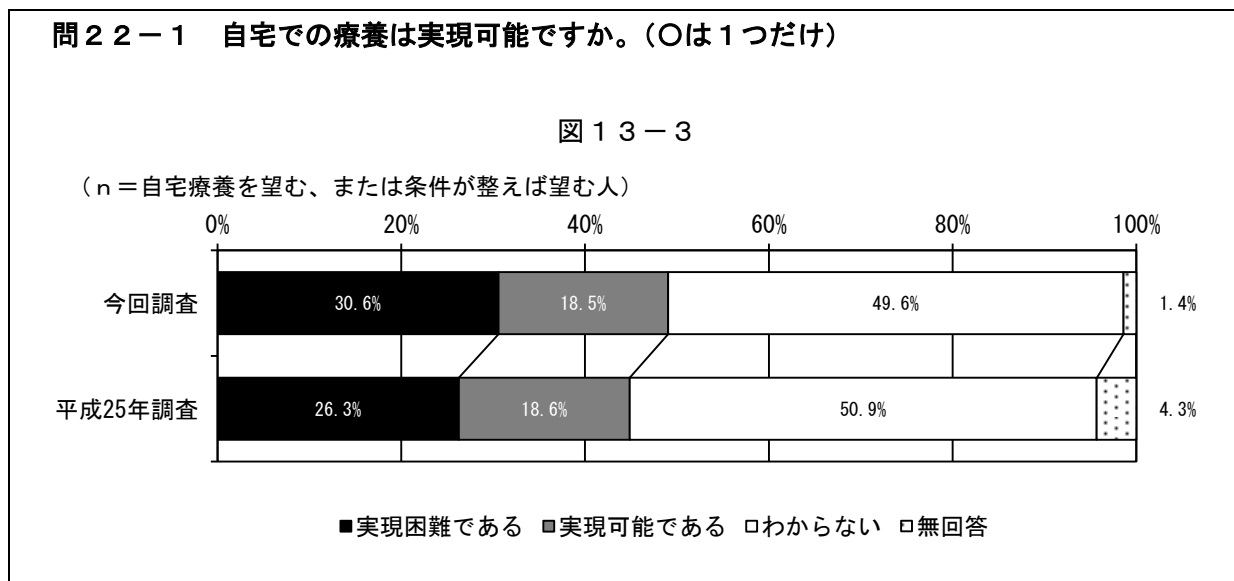


- 望む
- 条件が整えば望む
- 望まない
- 無回答



(2) 自宅療養の実現可能性

～「実現可能である」は 18.5%～



自宅療養を望む（条件を整えば望むを含む）人に、自宅療養が実現可能か聞いたところ、「実現可能である」は 18.5%、「実現困難である」は 30.6%、「わからない」は 49.6%となっている。平成 25 年調査結果との比較では、ほぼ同様となっている。

◆地域別

自宅療養が「実現可能である」は、前橋保健医療圏と高崎・安中保健医療圏がともに 22.0%と最も高くなっている。一方、「実現困難である」は富岡保健医療圏が 35.5%と最も多くなっている。

◆市郡別

自宅療養が「実現可能である」は、郡部（13.2%）に比べ、市部（19.4%）の方が多くなっており、人口規模により差異がみられる。

◆性別

自宅療養が「実現可能である」は女性（15.3%）に比べ、男性（21.6%）の方が多くなっている。また、「わからない」は男性（46.9%）に比べ、女性（51.9%）の方がやや多くなっている。

◆性・年代別

自宅療養が「実現可能である」は男性では 60 代（29.1%）と 70 歳以上（26.0%）、女性では 20 代（22.8%）、70 歳以上（20.6%）で 20.0%を超えている。一方、男性では 40 代（4.7%）、女性では 30 代（7.8%）、40 代（9.1%）で 10.0%を下回っている。また、「わからない」は男性では 20 代（64.6%）、40 代（64.5%）、女性では 40 代（63.0%）で 60.0%を超えている。

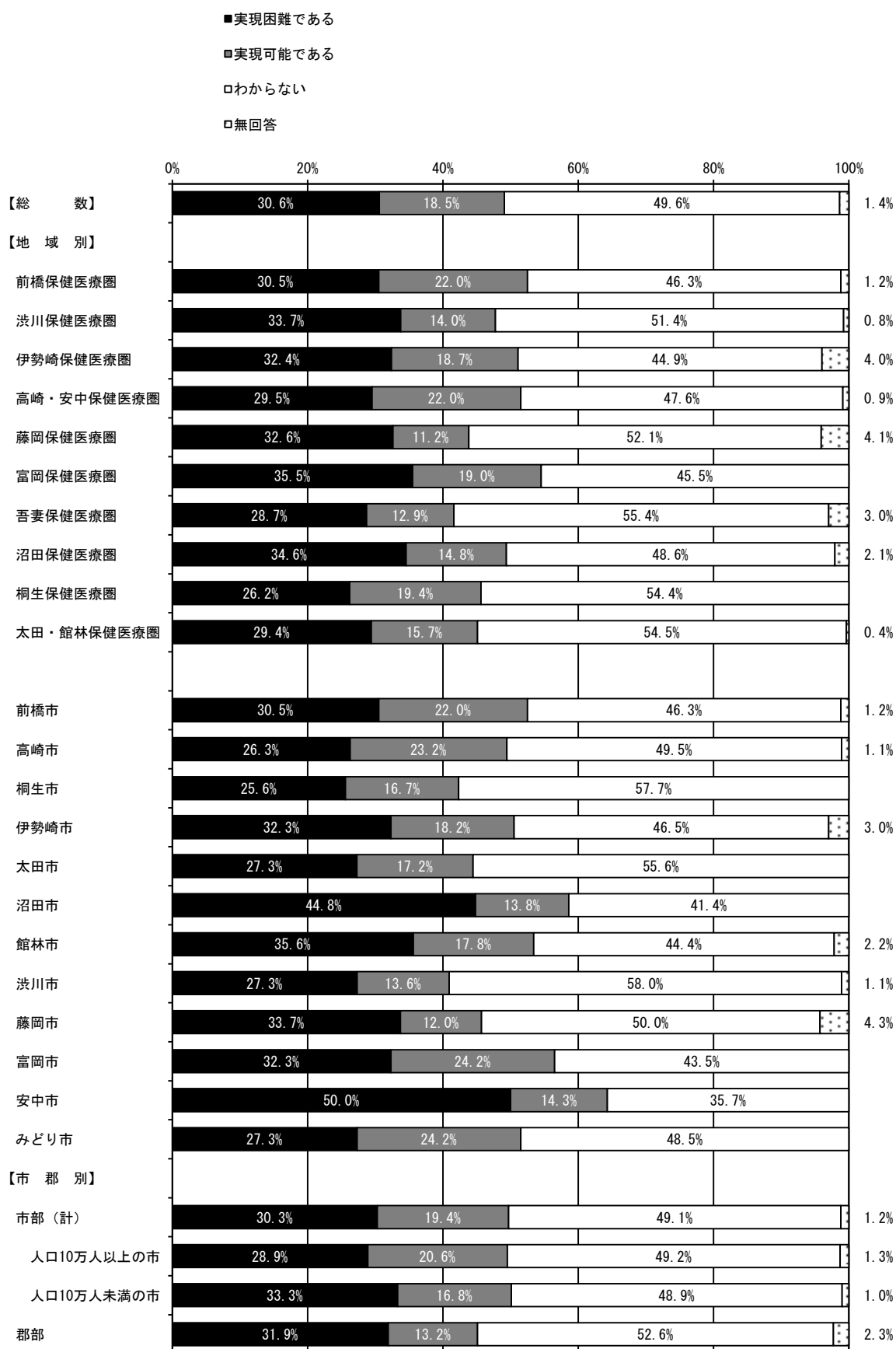
◆職業別

自宅療養が「実現可能である」は、学生を除くとパート・アルバイトが 10.9%と最も少なくなっている。一方、無職者は 26.0%と最も多くなっている。また、「わからない」は主婦（55.4%）、パート・アルバイト（54.5%）、勤め人（50.7%）で 50.0%を超えている。

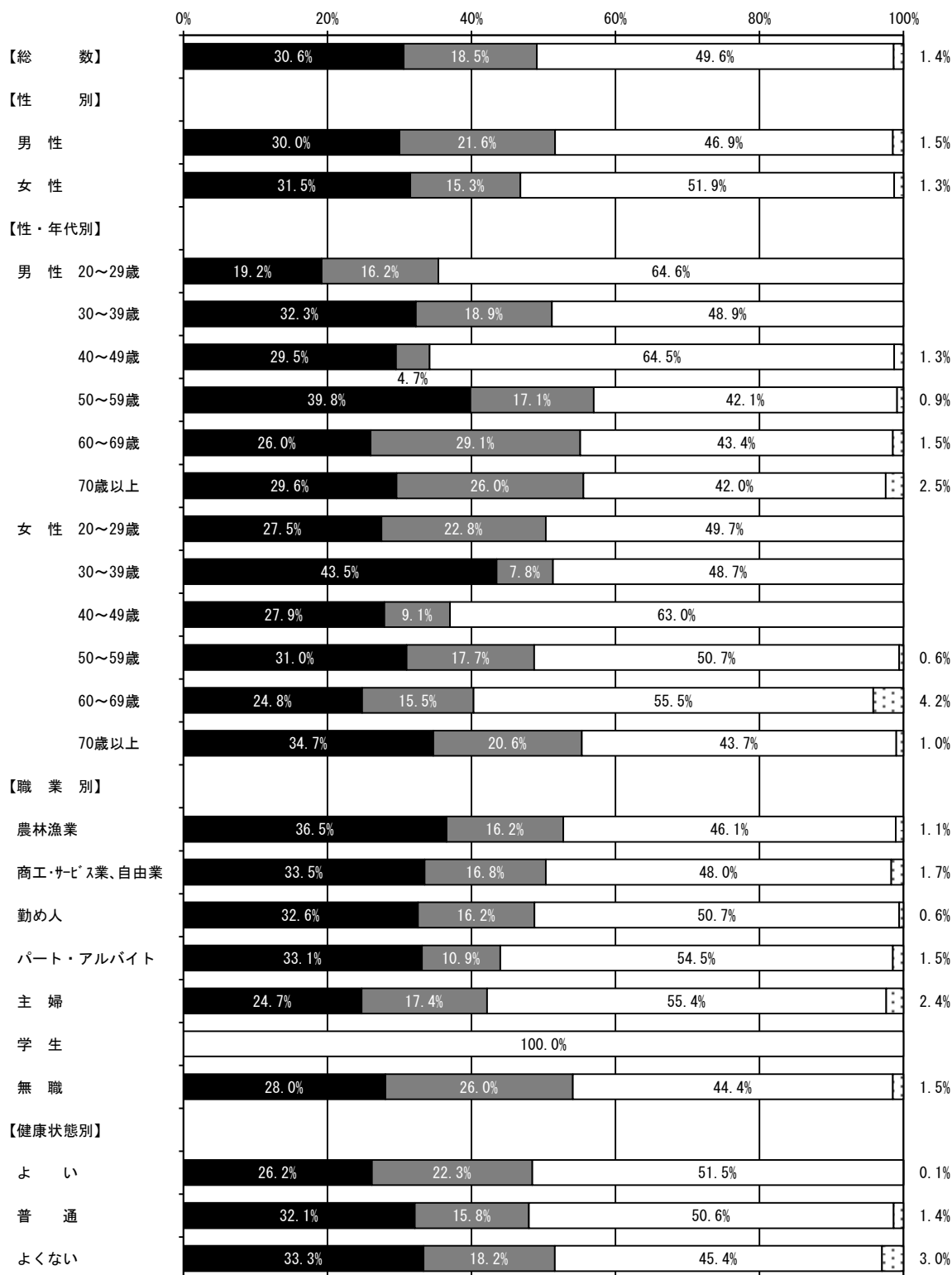
◆健康状態別

自宅療養が「実現可能である」は、健康状態がよくない（18.2%）に比べ、健康状態がよい（22.3%）の方が多くなっている。同様に「わからない」も、健康状態がよくない（45.4%）に比べ、健康状態がよい（51.5%）の方が多くなっている。

図 1 3 - 4 自宅療養の実現可能性

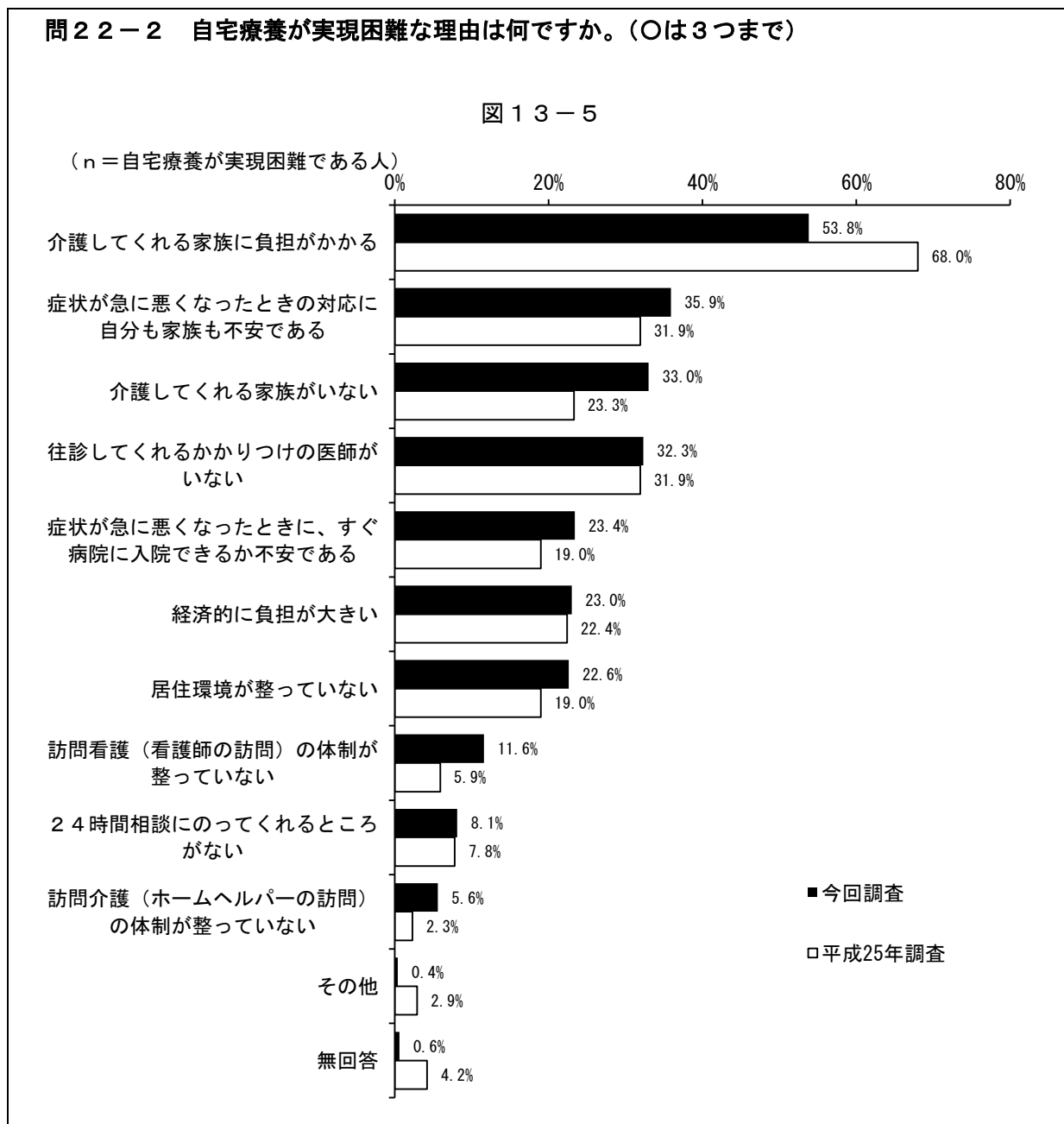


■実現困難である
□実現可能である
□わからない
□無回答



(3) 自宅療養が実現困難な理由

～「介護してくれる家族に負担がかかる」53.8%が最も多い～



自宅療養が実現困難である人に、具体的な理由を聞いたところ、「介護してくれる家族に負担がかかる」が53.8%と最も多く、次いで「症状が急に悪くなったときの対応に自分も家族も不安である」が35.9%、「介護してくれる家族がいない」が33.0%、「往診してくれるかかりつけの医師がいない」が32.3%となっている。

平成25年調査結果との比較では、「介護してくれる家族に負担がかかる」は少なくなっている。一方、「症状が急に悪くなったときの対応に自分も家族も不安である」と「介護してくれる家族がいない」は多くなっている。

◆地域別

「介護してくれる家族に負担がかかる」は富岡保健医療圏(68.6%)、伊勢崎保健医療圏(61.7%)、太田・館林保健医療圏(60.3%)で60.0%を超えている。また、前橋保健医療圏は「介護してくれる家族がない」(52.0%)、「症状が急に悪くなったときの対応に自分も家族も不安である」(48.0%)が他の地域と比べて最も多くなっている。

◆市郡別

「介護してくれる家族に負担がかかる」と「介護してくれる家族がない」は郡部に比べ、市部の方が多くなっている。一方、「往診してくれるかかりつけの医師がない」は市部(31.2%)に比べ、郡部(37.8%)の方が多くなっている。

◆性別

「介護してくれる家族に負担がかかる」と「往診してくれるかかりつけの医師がない」は女性に比べ、男性の方が多くなっている。一方、「症状が急に悪くなったときの対応に自分も家族も不安である」、「介護してくれる家族がない」、「症状が急に悪くなったときに、すぐ病院に入院できるか不安である」、「経済的に負担が大きい」、「居住環境が整っていない」は男性に比べ、女性の方が多くなっており、自宅療養が実現困難な理由の項目数は女性の方が多くなっている。

◆性・年代別

「介護してくれる家族に負担がかかる」は男性では30代(88.9%)、50代(62.6%)、60代(62.7%)が多く、女性では40代(54.6%)、50代(53.3%)、60代(53.9%)が多くなっている。

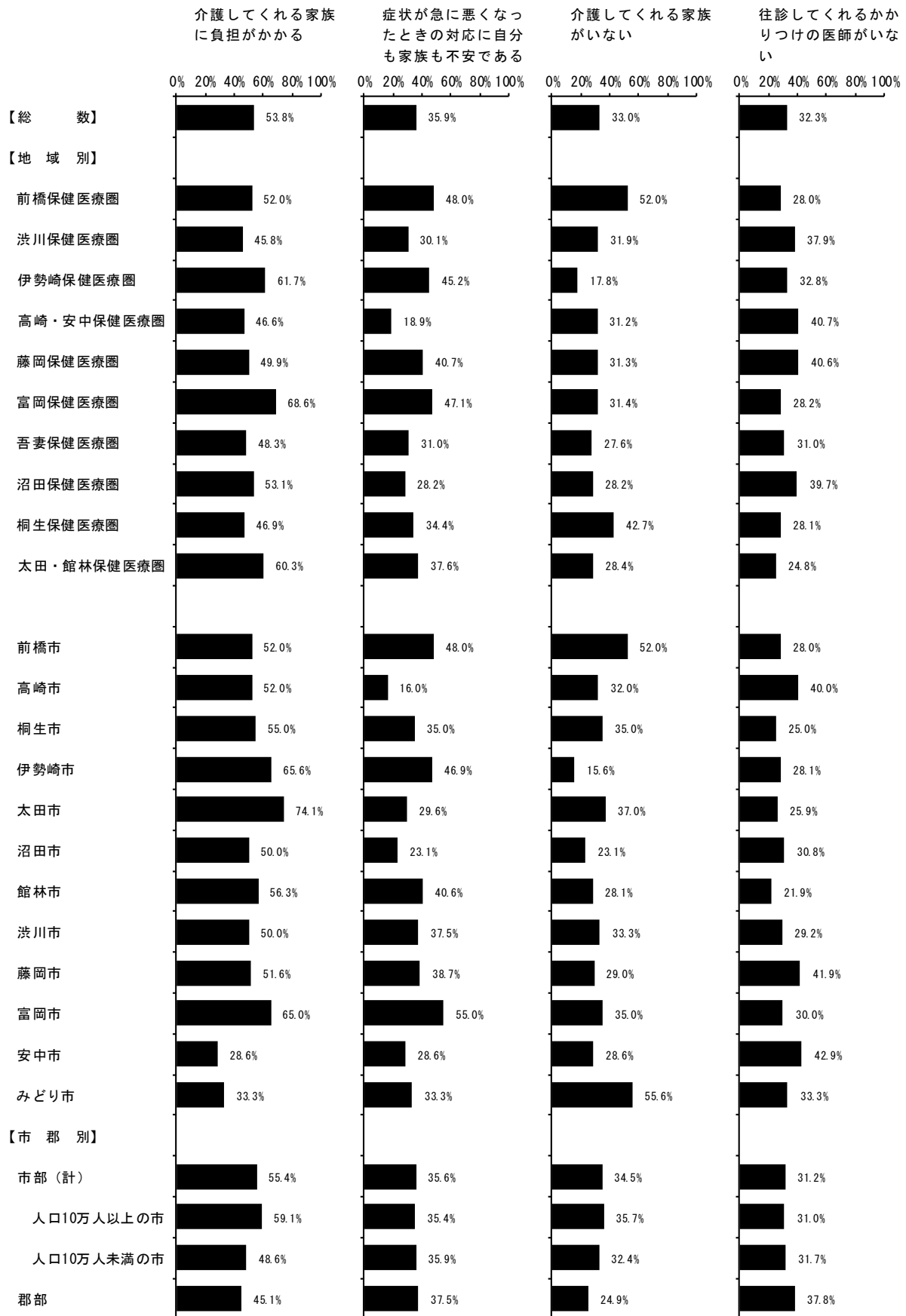
◆職業別

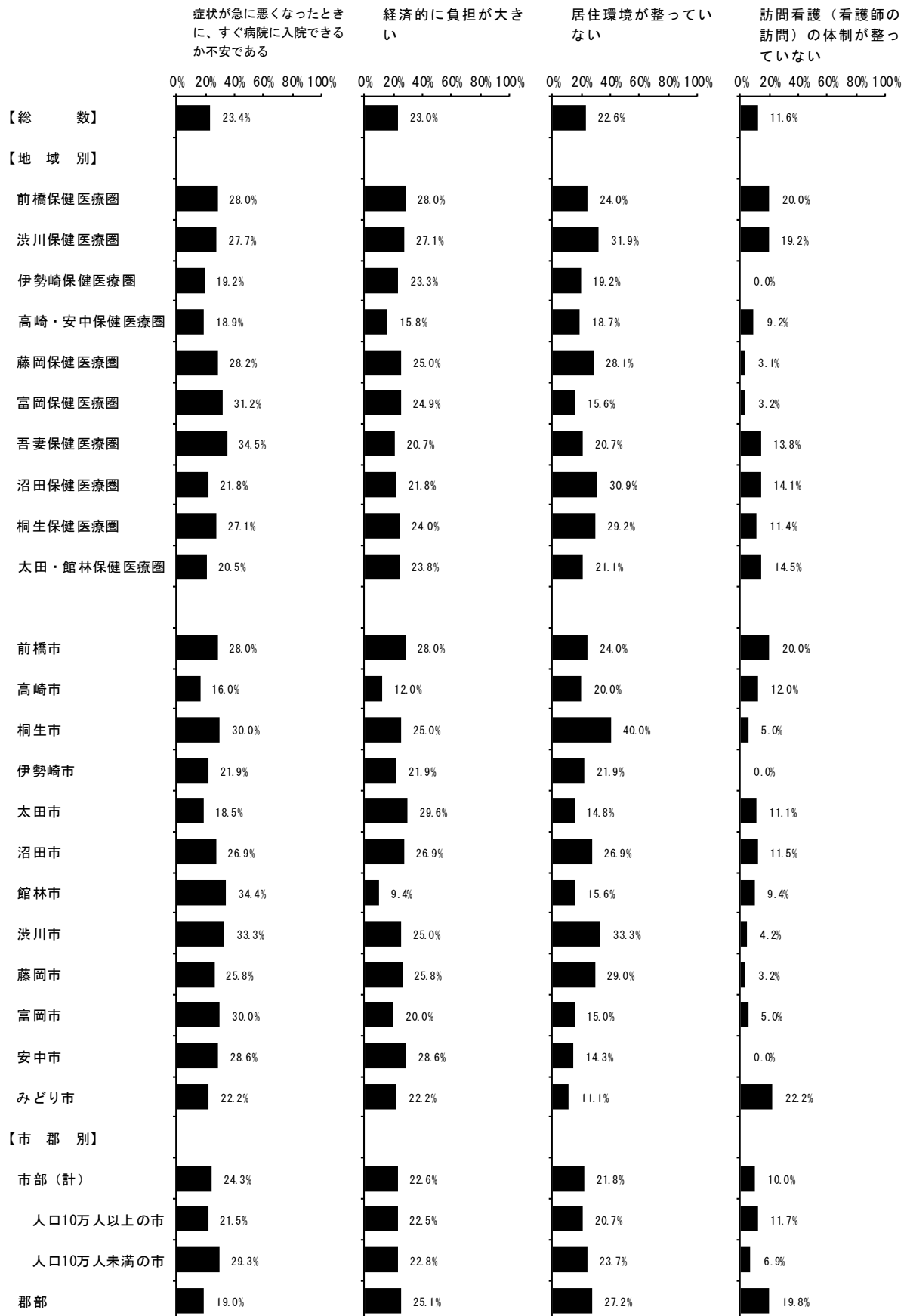
商工・サービス業、自由業を除くと、いずれの職業も「介護してくれる家族に負担がかかる」が最も多くなっている。その中でも主婦が71.1%と最も多く、次いで農林漁業が63.7%となっている。また、主婦は「症状が急に悪くなったときの対応に自分も家族も不安である」が51.8%と他の職業に比べ多くなっている。

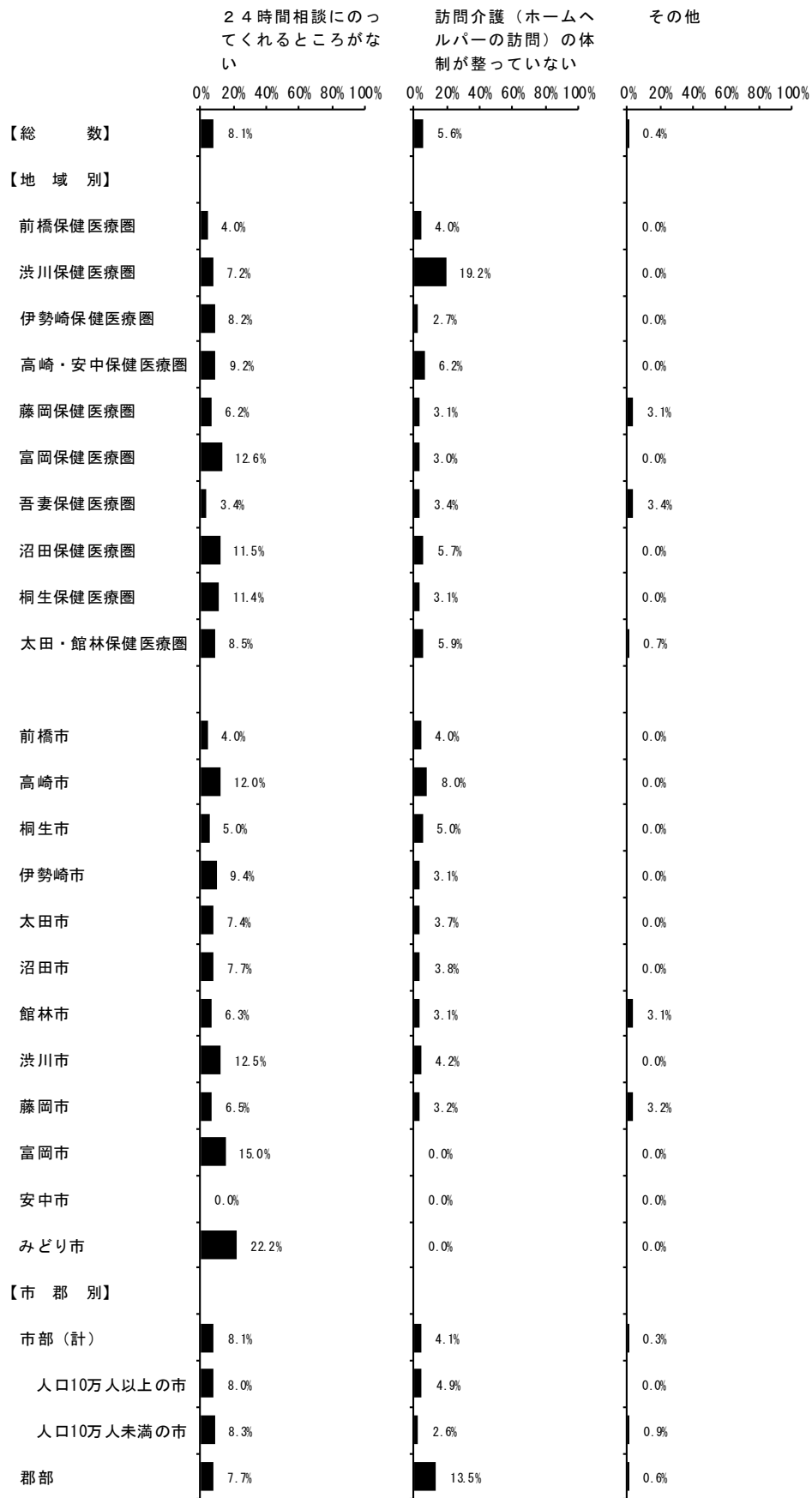
◆健康状態別

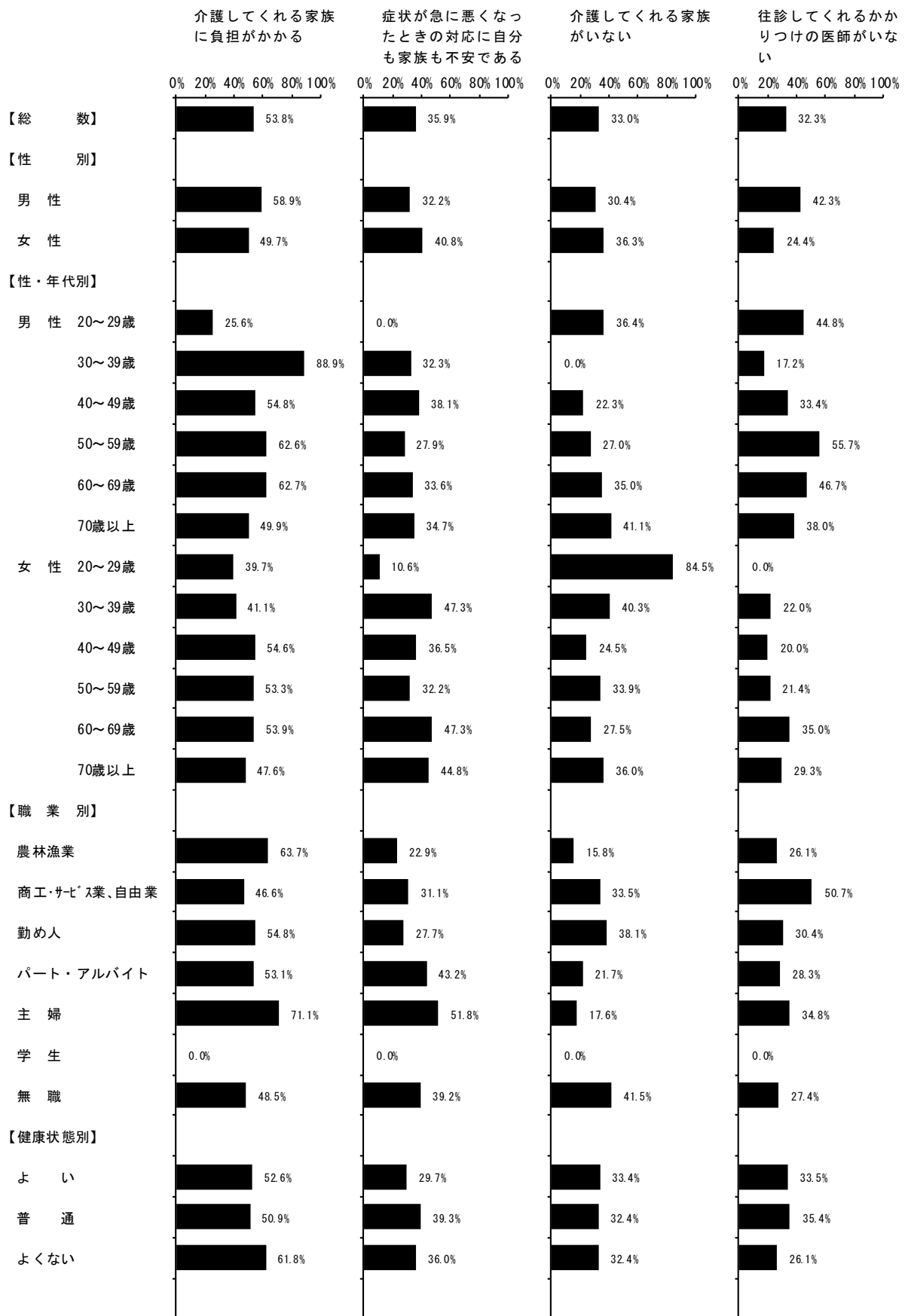
「介護してくれる家族に負担がかかる」と「症状が急に悪くなったときの対応に自分も家族も不安である」は健康状態がよいに比べ、健康状態がよくないの方が多くなっている。

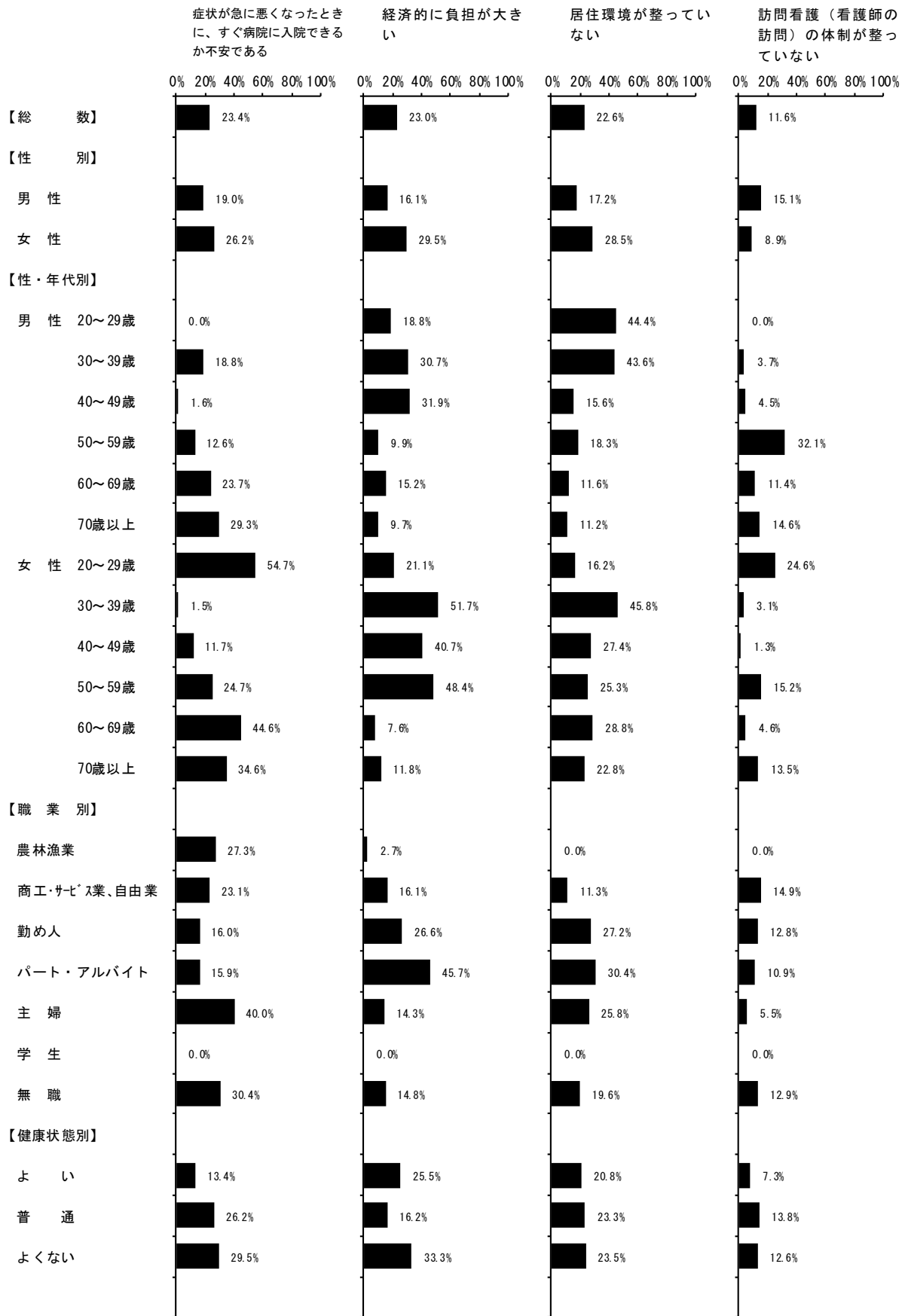
図13-6 自宅療養が実現困難な理由

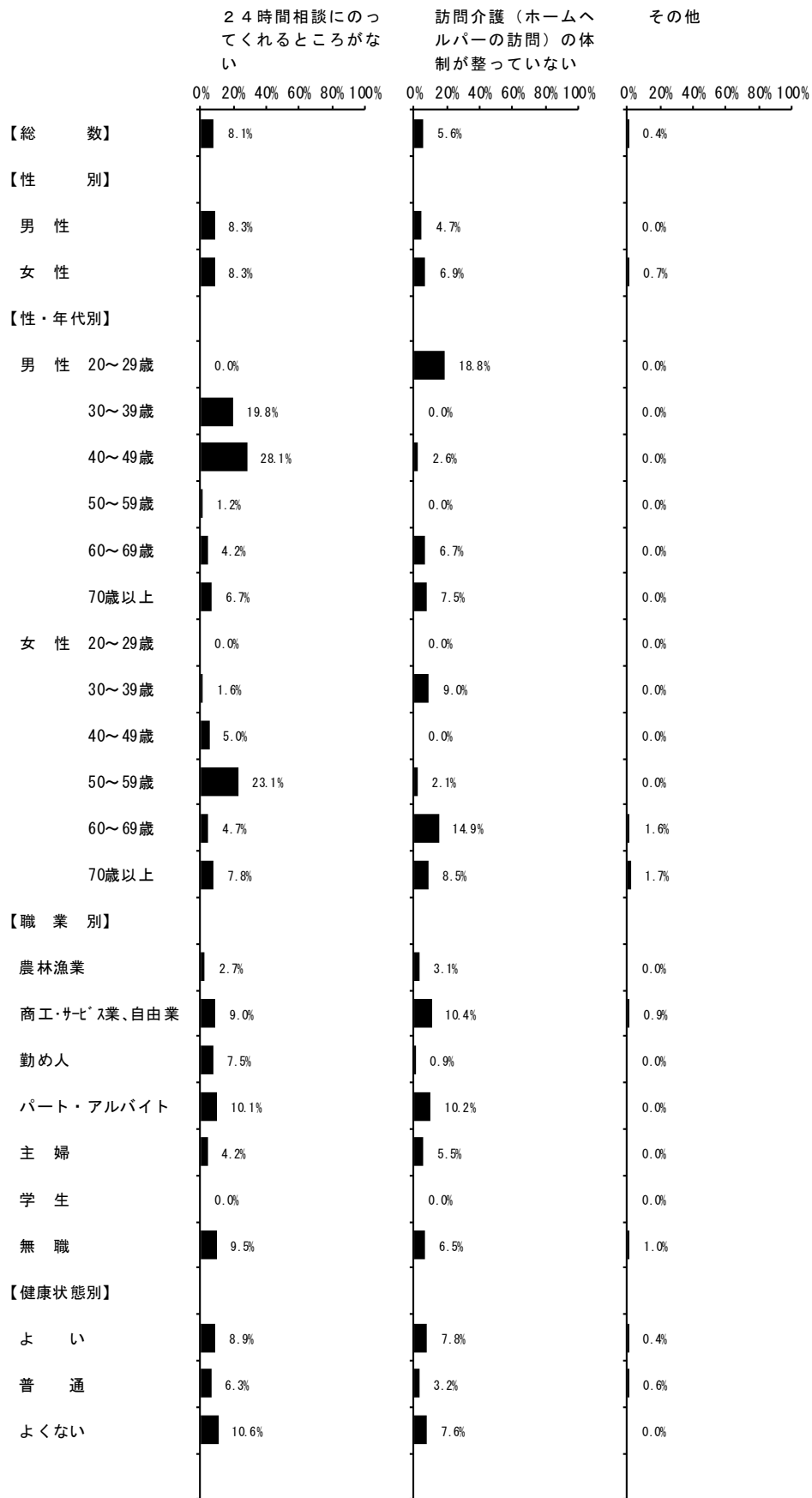






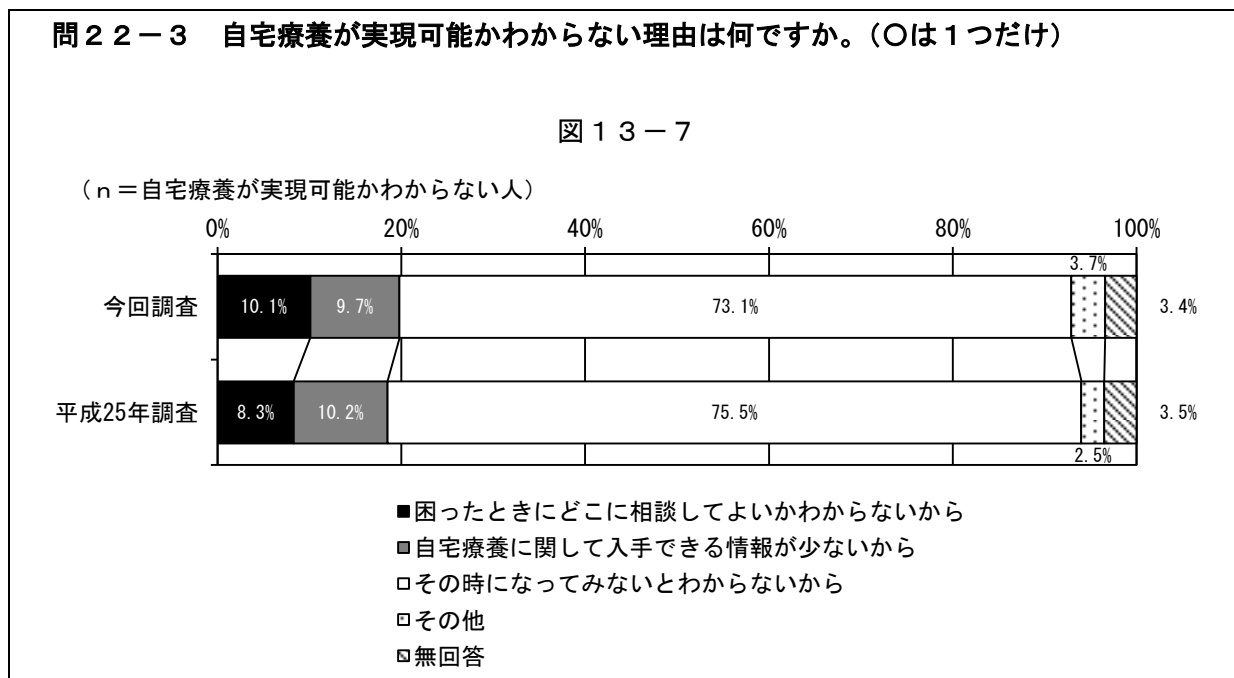






(4) 自宅療養が実現可能かわからない理由

～「その時になってみないとわからないから」73.1%が最も多い～



自宅療養が実現可能かわからない人に、具体的な理由を聞いたところ、「その時になってみないとわからないから」が73.1%と最も多く、「困ったときにどこに相談してよいかわからないから」の10.1%、「自宅療養に関して入手できる情報が少ないから」の9.7%を大きく上回っている。平成25年調査結果との比較では、ほぼ同様となっている。

◆地域別

いずれの地域も「その時になってみないとわからないから」が最も多くなっている。その中でも藤岡保健医療圏（82.3%）、吾妻保健医療圏（82.1%）、沼田保健医療圏（81.8%）は80.0%を超えている。

◆市郡別

市部と郡部で大きな差異はみられないが、「その時になってみないとわからないから」は市部（72.2%）に比べ、郡部（77.9%）の方が多くなっている。

◆性別

「その時になってみないとわからないから」は男性（70.1%）に比べ、女性（77.6%）の方が多くなっている。

◆性・年代別

「その時になってみないとわからないから」は男性では30代が82.3%、女性では30代が90.2%と30代が最も多くなっている。また、20代男性は「困ったときにどこに相談してよいかわからないから」が22.0%と他の性別・年代に比べて多くなっている。

◆職業別

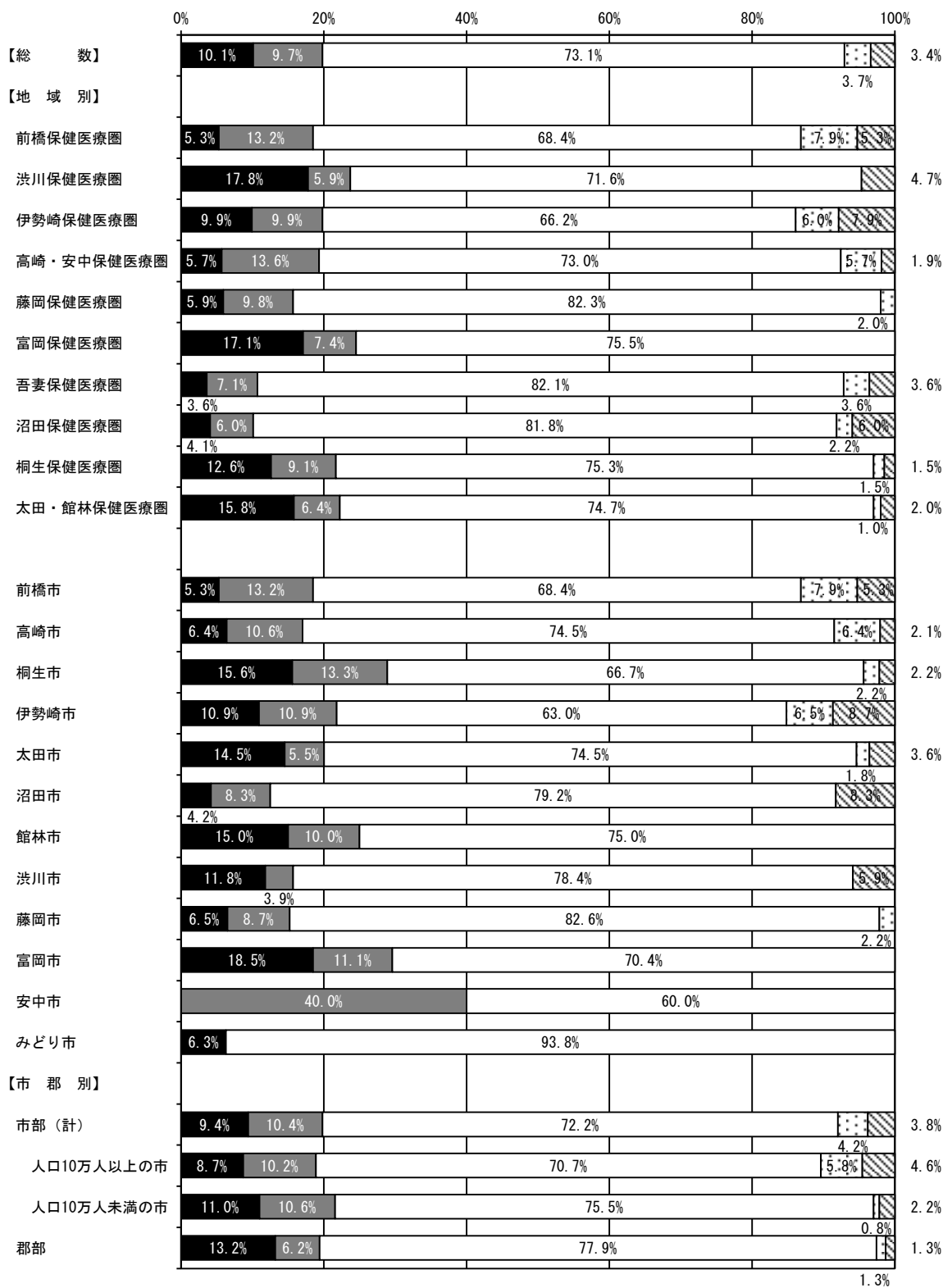
「その時になってみないとわからないから」は農林漁業が95.7%と最も多く、次いで商工・サービス業、自由業が86.0%となっている。

◆健康状態別

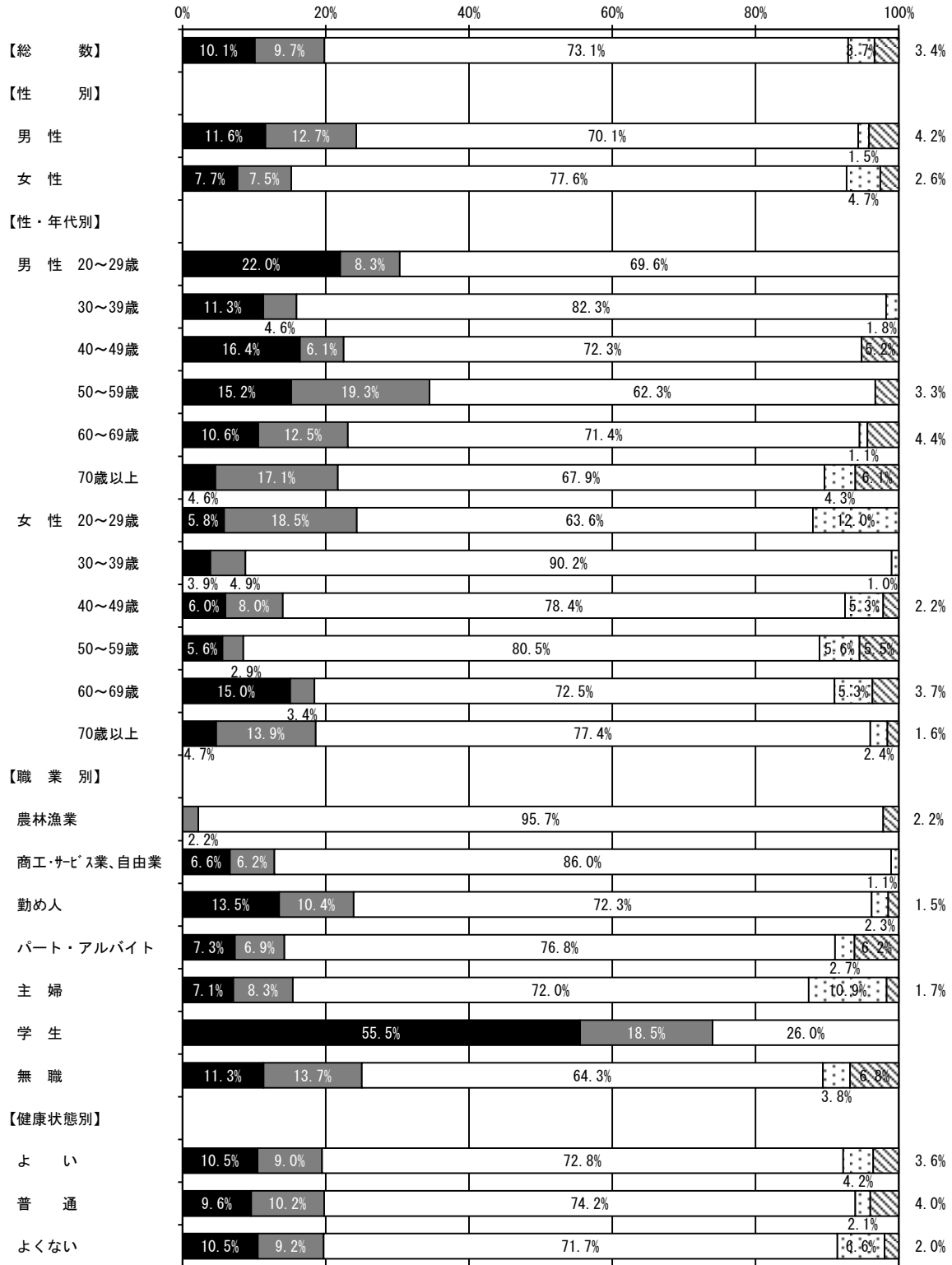
健康状態で差異はほとんどみられない。

図 13-8 自宅療養が実現可能かわからない理由

- 困ったときにどこに相談してよいかわからないから
- 自宅療養に関して入手できる情報が少ないから
- その時になってみないとわからないから
- その他
- 無回答

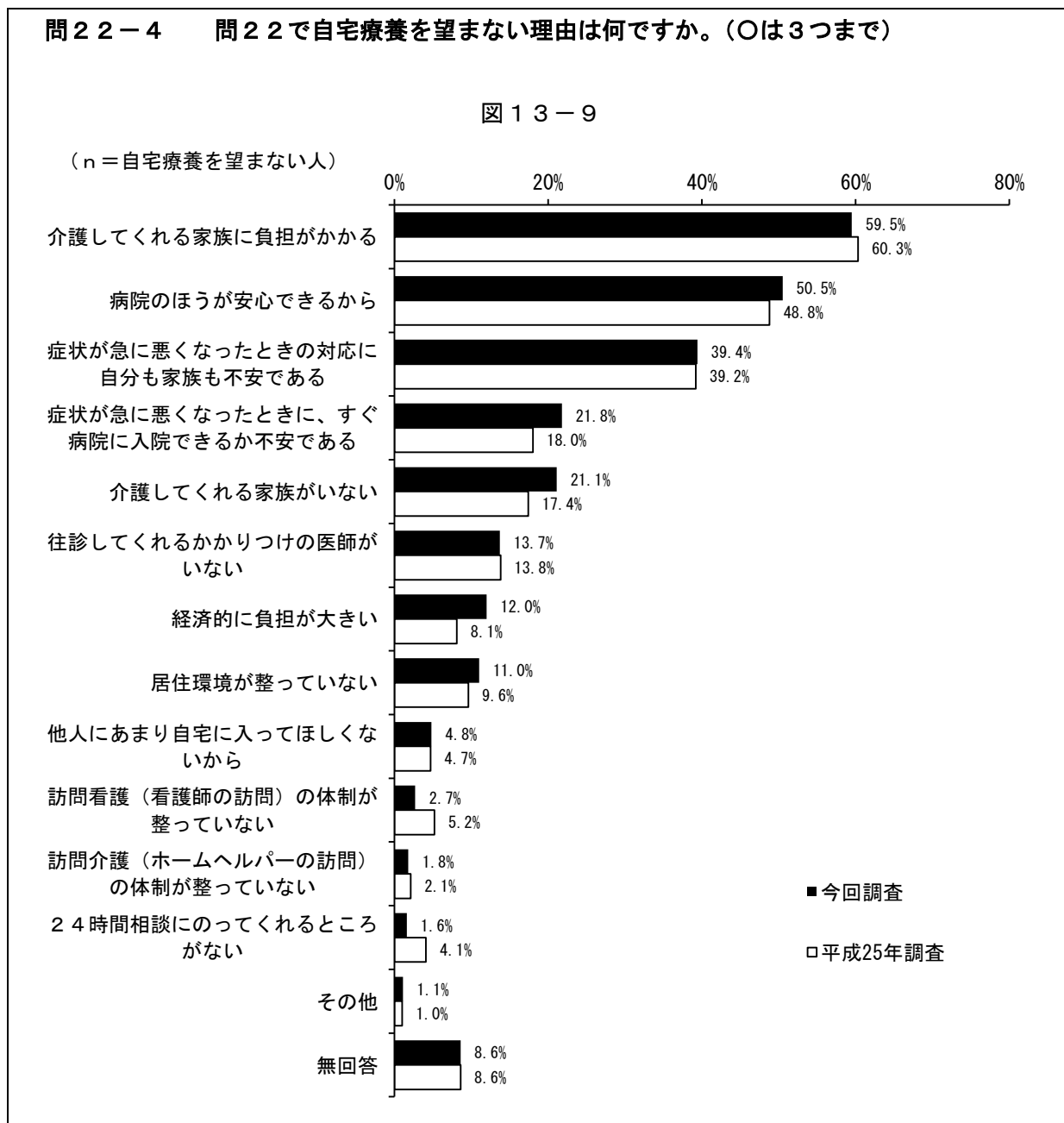


- 困ったときにどこに相談してよいかわからないから
- 自宅療養に関して入手できる情報が少ないから
- その時になってみないとわからないから
- その他
- 無回答



(5) 自宅療養を望まない理由

～「介護してくれる家族に負担がかかる」59.5%、「病院のほうが安心できるから」50.5%～



自宅療養を望まない人に、具体的な理由を聞いたところ、「介護してくれる家族に負担がかかる」が59.5%と最も多く、次いで「病院のほうが安心できるから」が50.5%、「症状が急に悪くなったときの対応に自分も家族も不安である」が39.4%となっている。

平成25年調査結果との比較では、ほぼ同様の傾向がみられ、上位3項目は変わらない。

◆地域別

「介護してくれる家族に負担がかかる」は桐生保健医療圏が75.9%と最も多く、次いで伊勢崎保健医療圏が71.9%となっている。また、前橋保健医療圏は「症状が急に悪くなったときの対応に自分も家族も不安である」が25.6%と他の地域に比べ少なくなっている。

◆市郡別

市部と郡部で大きな差異はみられないが、「介護してくれる家族に負担がかかる」は郡部（50.5%）に比べ、市部（61.0%）の方が多くなっている。

◆性別

男性と女性で大きな差異はみられないが、「病院のほうが安心できるから」は女性（48.5%）に比べ、男性（54.3%）の方が多くなっている。

◆性・年代別

「介護してくれる家族に負担がかかる」は40代女性が82.5%と最も多く、次いで50代女性が71.6%となっている。また、「病院のほうが安心できるから」は男性では20代が37.2%、女性では20代が37.5%、30代が34.4%、70歳以上が37.4%と40.0%を下回っている。

◆職業別

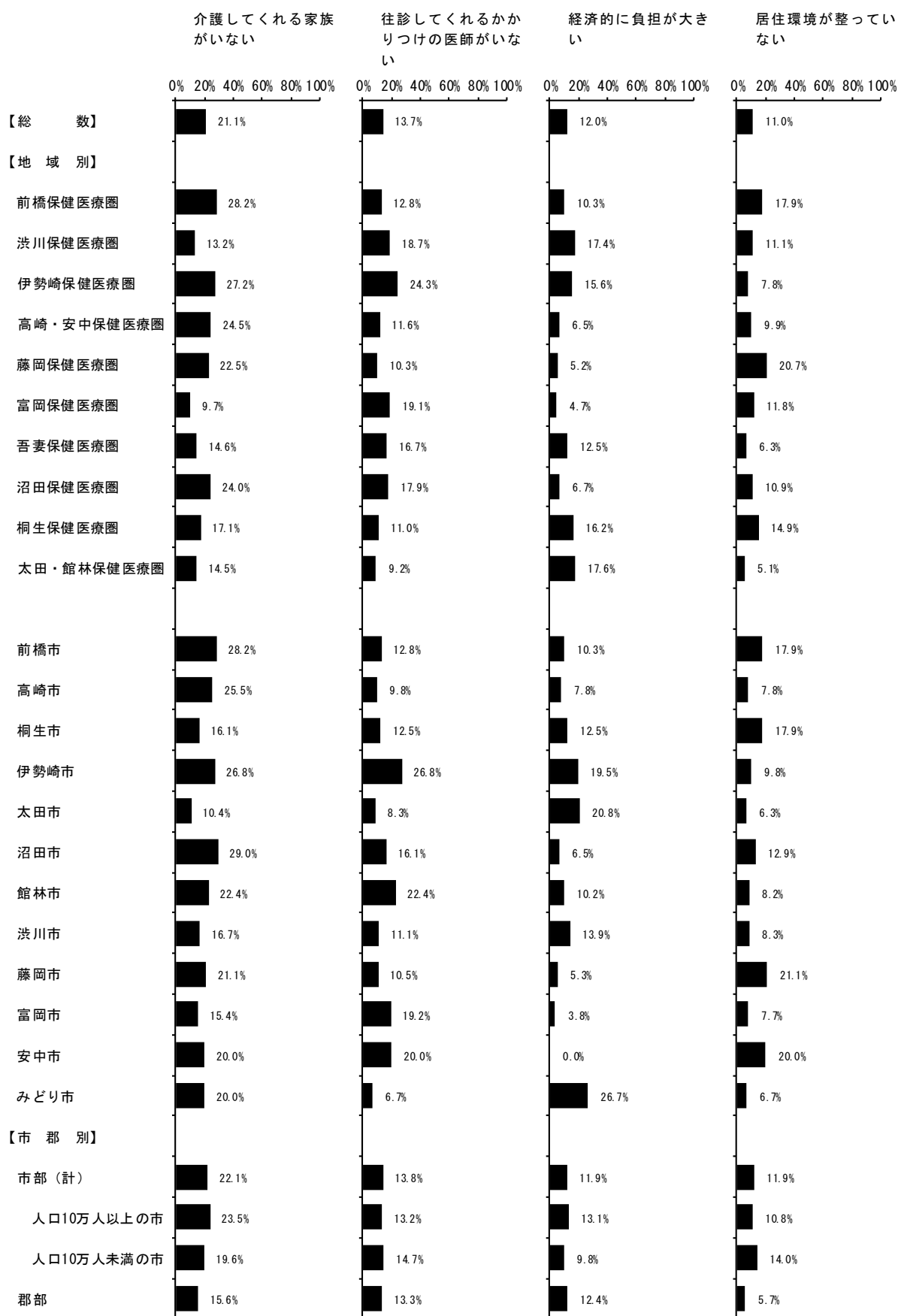
「介護してくれる家族に負担がかかる」は商工・サービス業、自由業が72.0%と最も多くなっている。一方、農林漁業は31.4%と最も少なくなっている。また、学生は「病院のほうが安心できるから」が63.5%となっており、他の職業に比べ多くなっている。

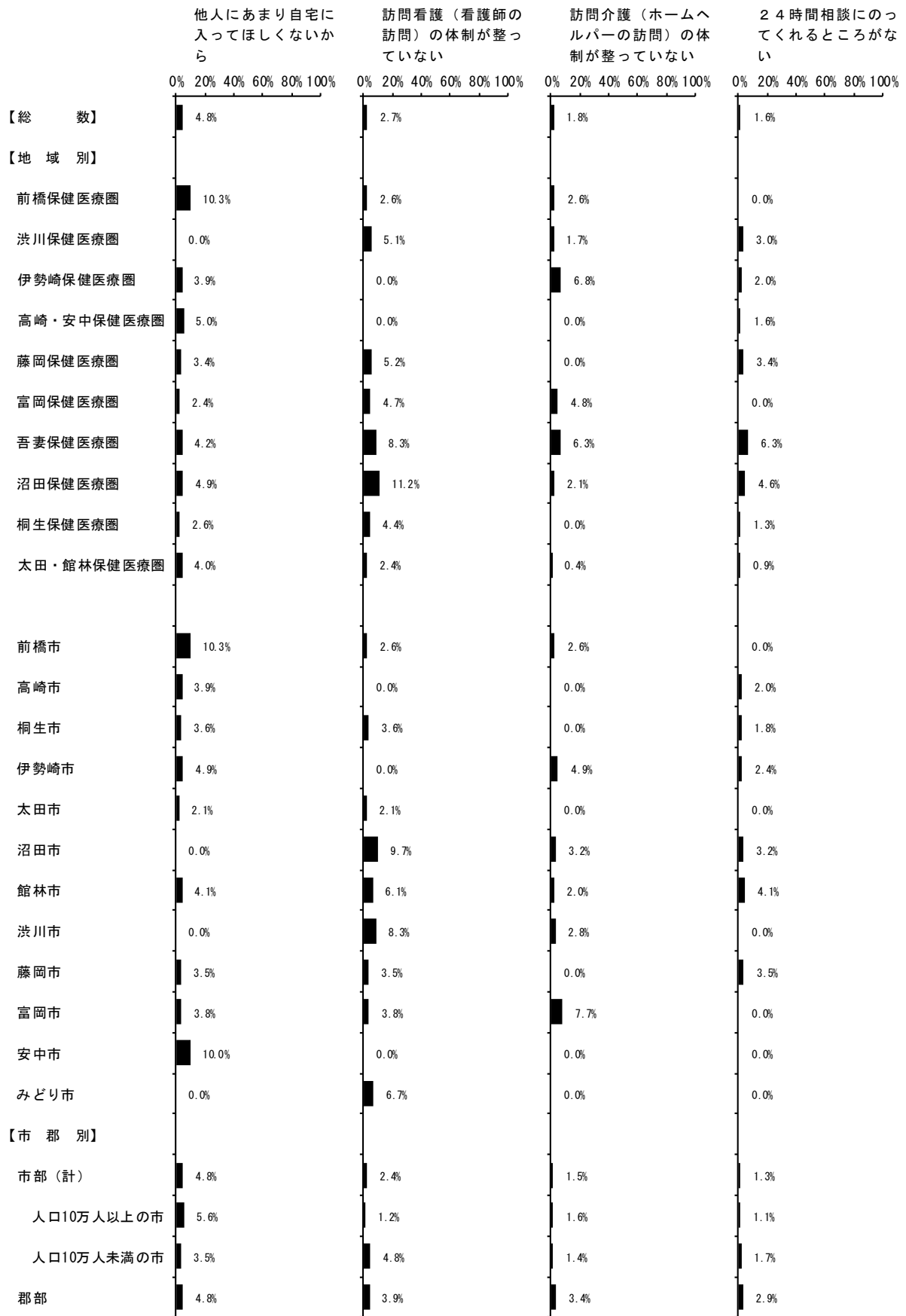
◆健康状態別

健康状態で大きな差異はみられないが、「介護してくれる家族に負担がかかる」は健康状態がよい（57.6%）に比べ、健康状態がよくない（62.2%）の方が多くなっている。

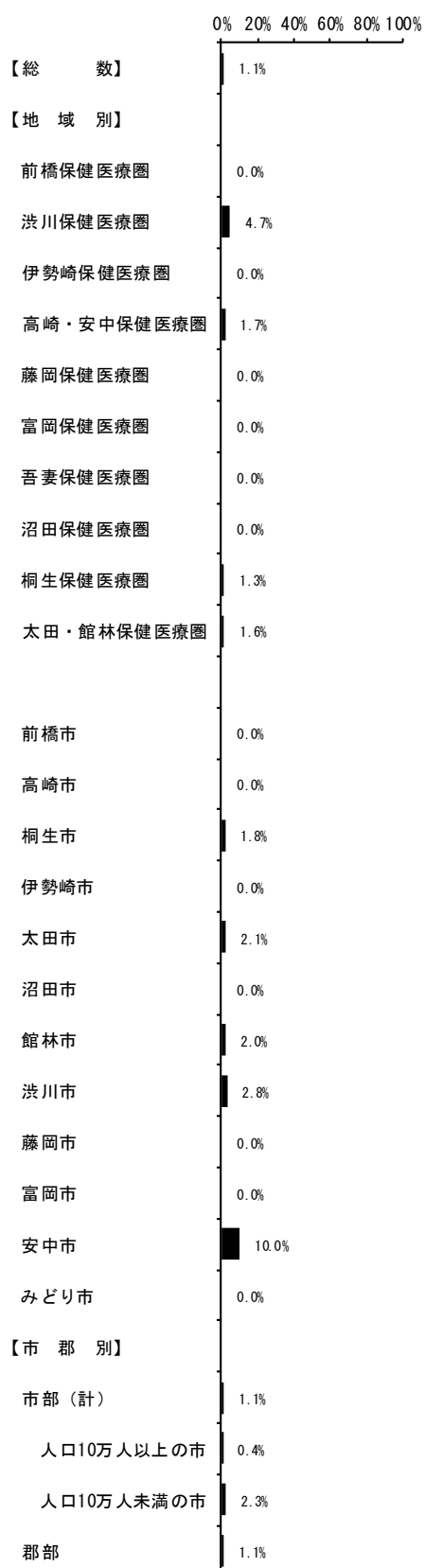
図13-10 自宅療養を望まない理由

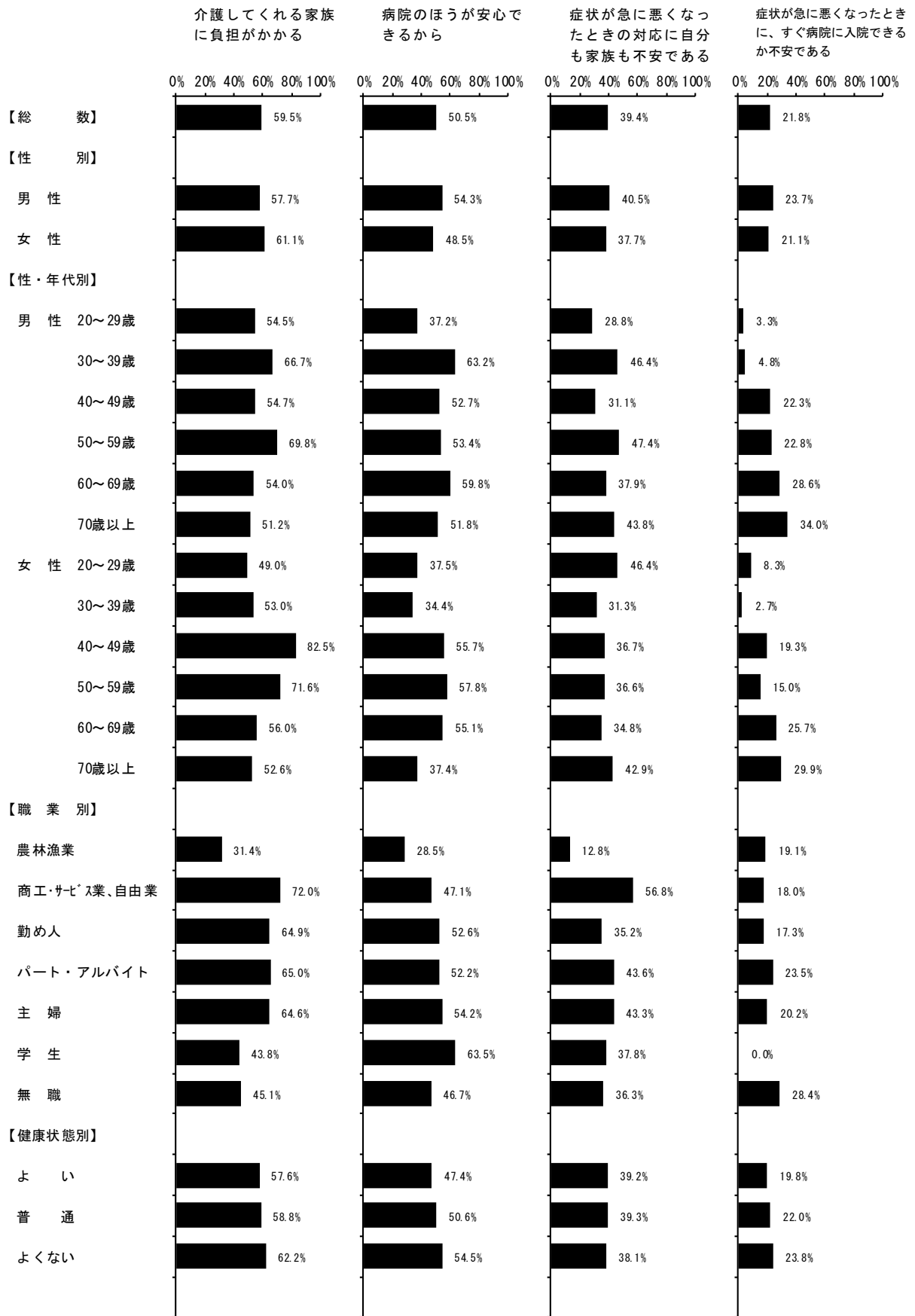


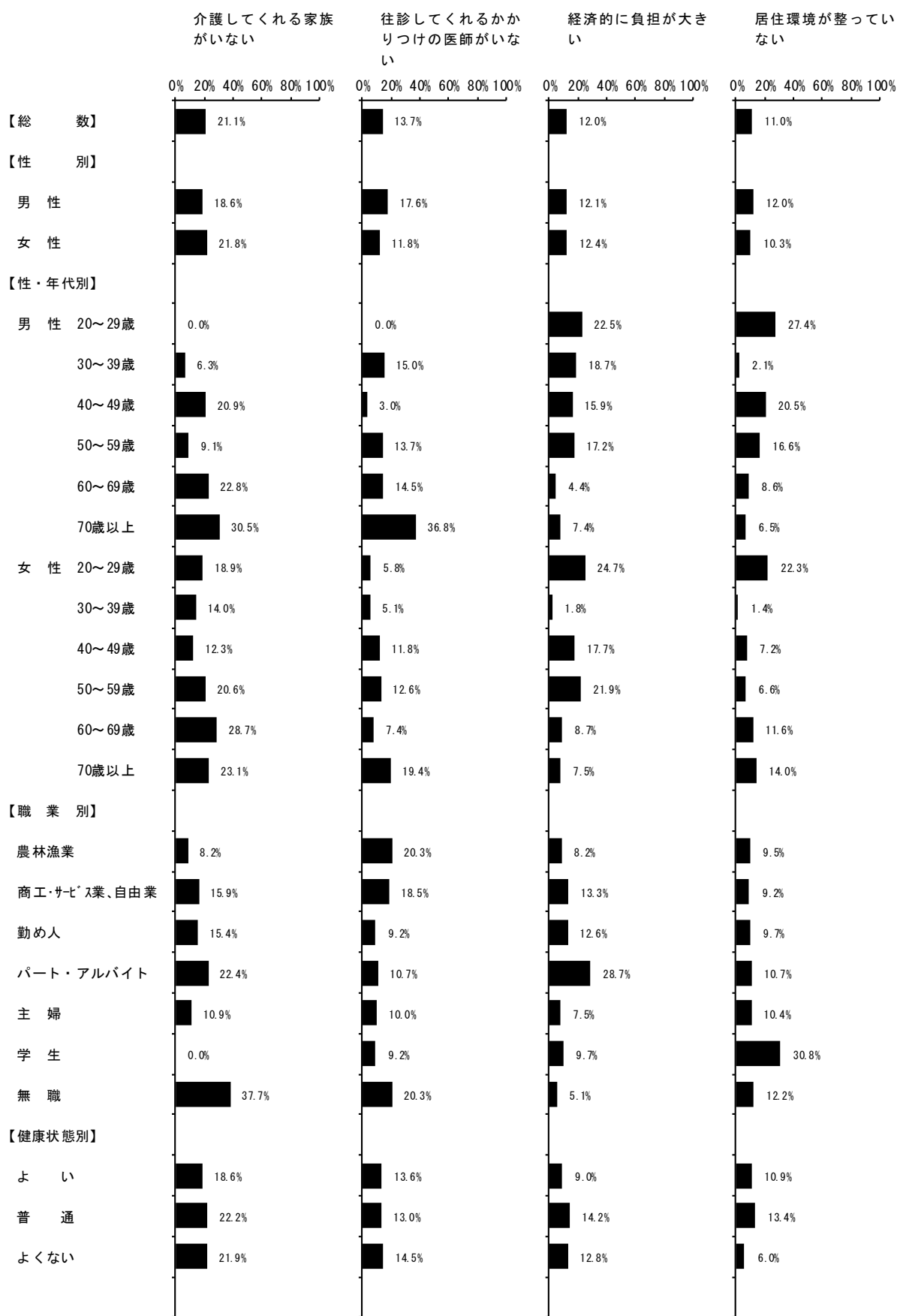


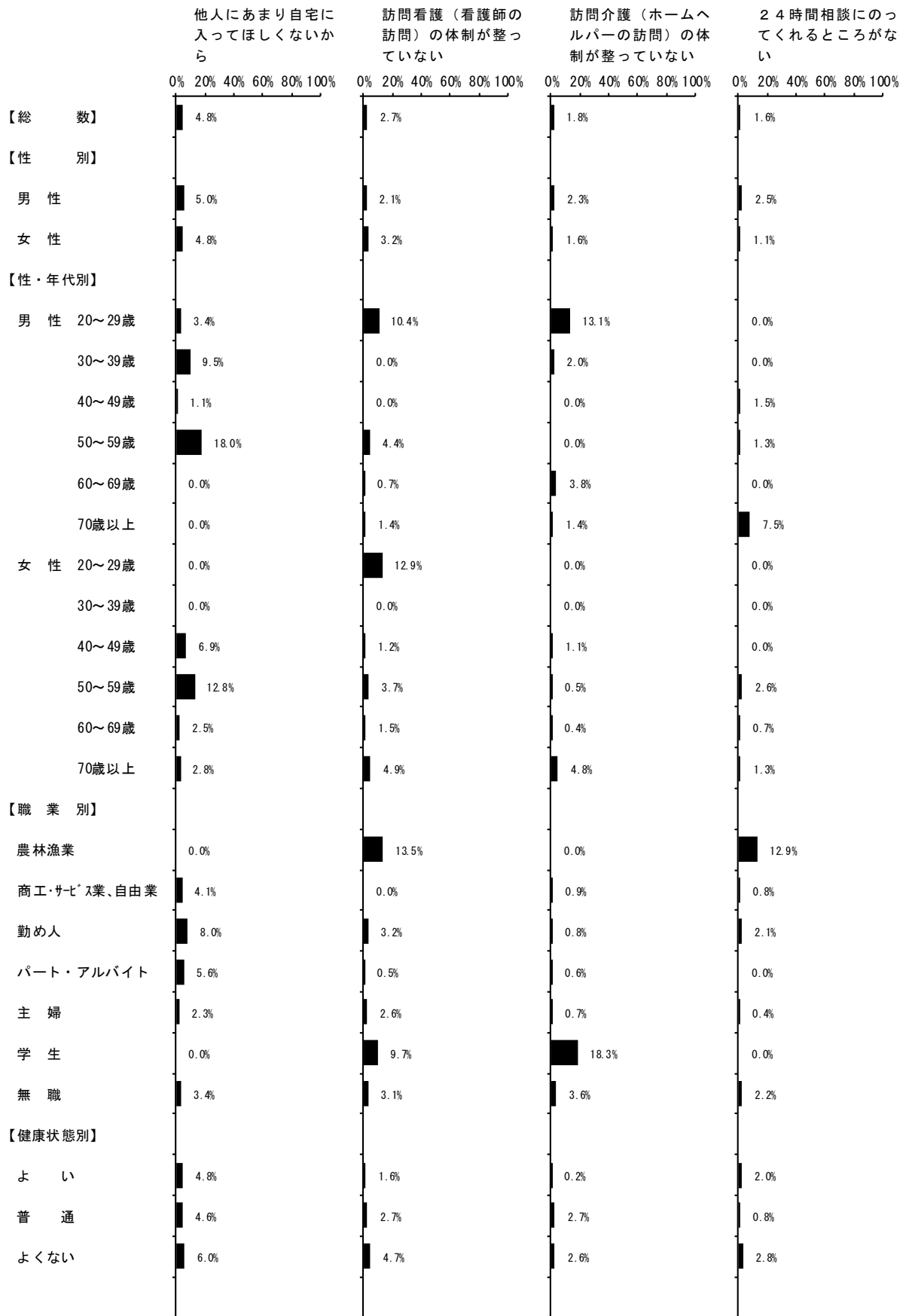


その他

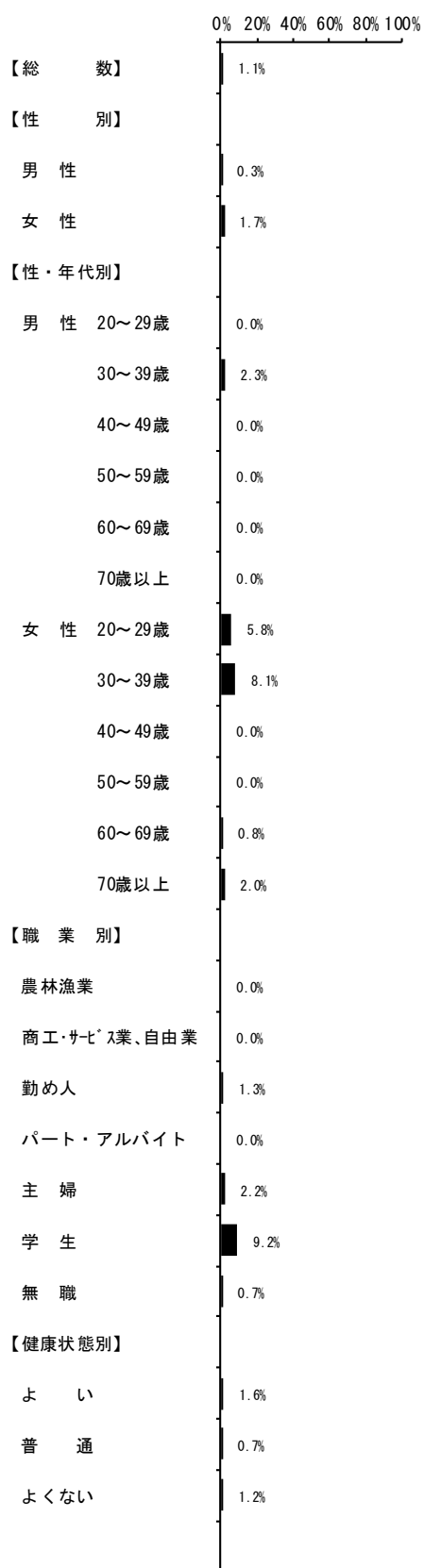








その他



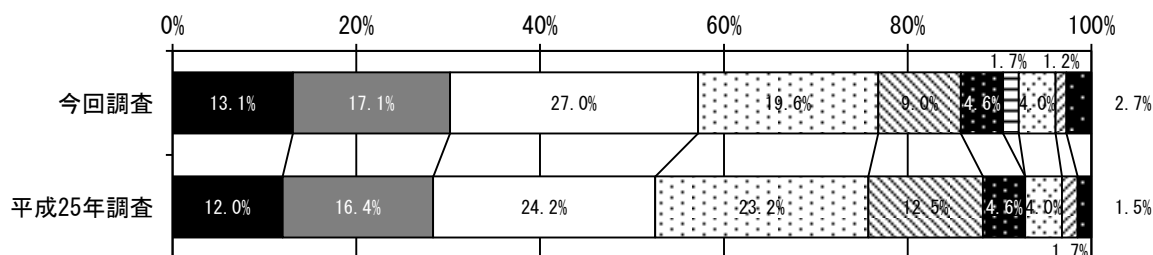
(6) 治る見込みの少ない病気にかかったときに過ごしたい場所

～「自宅で療養して、必要になれば医療機関に入院したい」27.0%が最も多い～

問23 もし、あなたが治る見込みの少ない病気にかかったとしたら、どこで過ごしたいと思いますか。(○は1つだけ)

図13-11

(n=全体)



- なるべく今まで通っていた（または現在入院中の）医療機関に入院したい
- なるべく早く緩和ケア病棟（終末期における症状を和らげることを目的とした病棟）に入院したい
- 自宅で療養して、必要になれば医療機関に入院したい
- 自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい
- 必要時には一時的に入院しても、自宅で最後まで療養したい
- 通院又は往診・訪問看護等を受けて、自宅で最後まで療養したい
- 子どもや親族の家で療養したい
- 特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅等に入所したい
- その他
- 無回答

治る見込みの少ない病気にかかったときに過ごしたい場所としては、「自宅で療養して、必要になれば医療機関に入院したい」が27.0%と最も多く、次いで「自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい」が19.6%となっている。

平成25年調査結果との比較では、傾向は変わらないが、「自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい」がやや少なくなっている。

◆地域別

「自宅で療養して、必要になれば医療機関に入院したい」は吾妻保健医療圏が30.5%と最も多く、次いで高崎・安中保健医療圏が30.1%となっている。「自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい」は富岡保健医療圏が28.7%と最も多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で大きな差異はみられないが、「自宅で療養して、必要になれば医療機関に入院したい」は市部（26.4%）に比べ、郡部（30.1%）の方が多くなっている。

◆性別

「自宅で療養して、必要になれば医療機関に入院したい」は女性（21.5%）に比べ、男性（32.4%）の方が多くなっている。一方、「自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい」は男性（15.6%）に比べ、女性（23.8%）の方が多くなっている。

◆性・年代別

「自宅で療養して、必要になれば医療機関に入院したい」は男性では30代が42.0%と最も多いが、20代は18.7%と最も少なくなっている。女性では20代が35.8%と最も多く、性別・年代により差異がみられる。

◆職業別

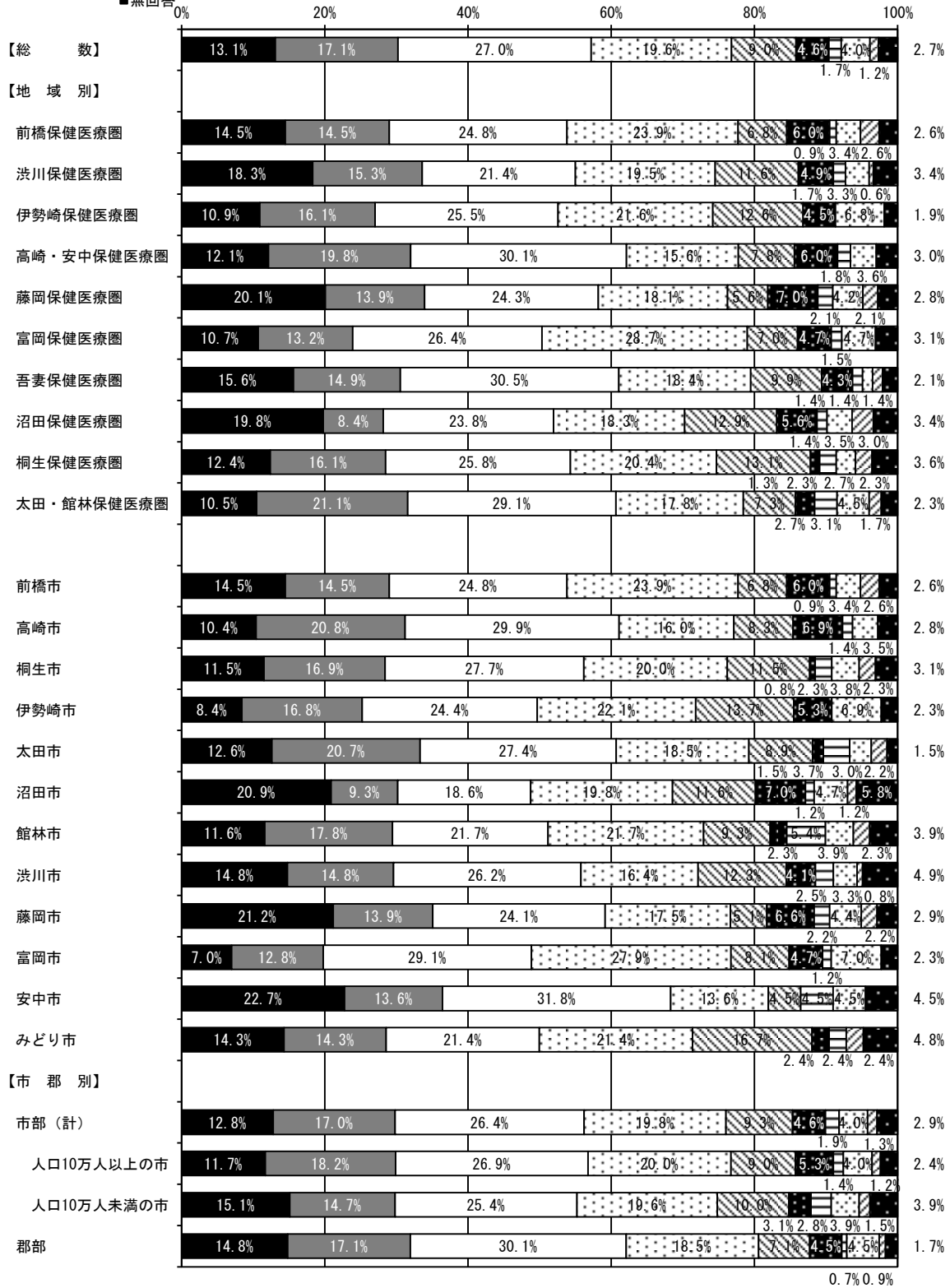
「自宅で療養して、必要になれば医療機関に入院したい」は学生が36.1%と最も多く、次いで農林漁業34.6%となっている。また、農林漁業と学生は「なるべく今まで通っていた（または現在入院中の）医療機関に入院したい」が他の職業に比べ多くなっている。

◆健康状態別

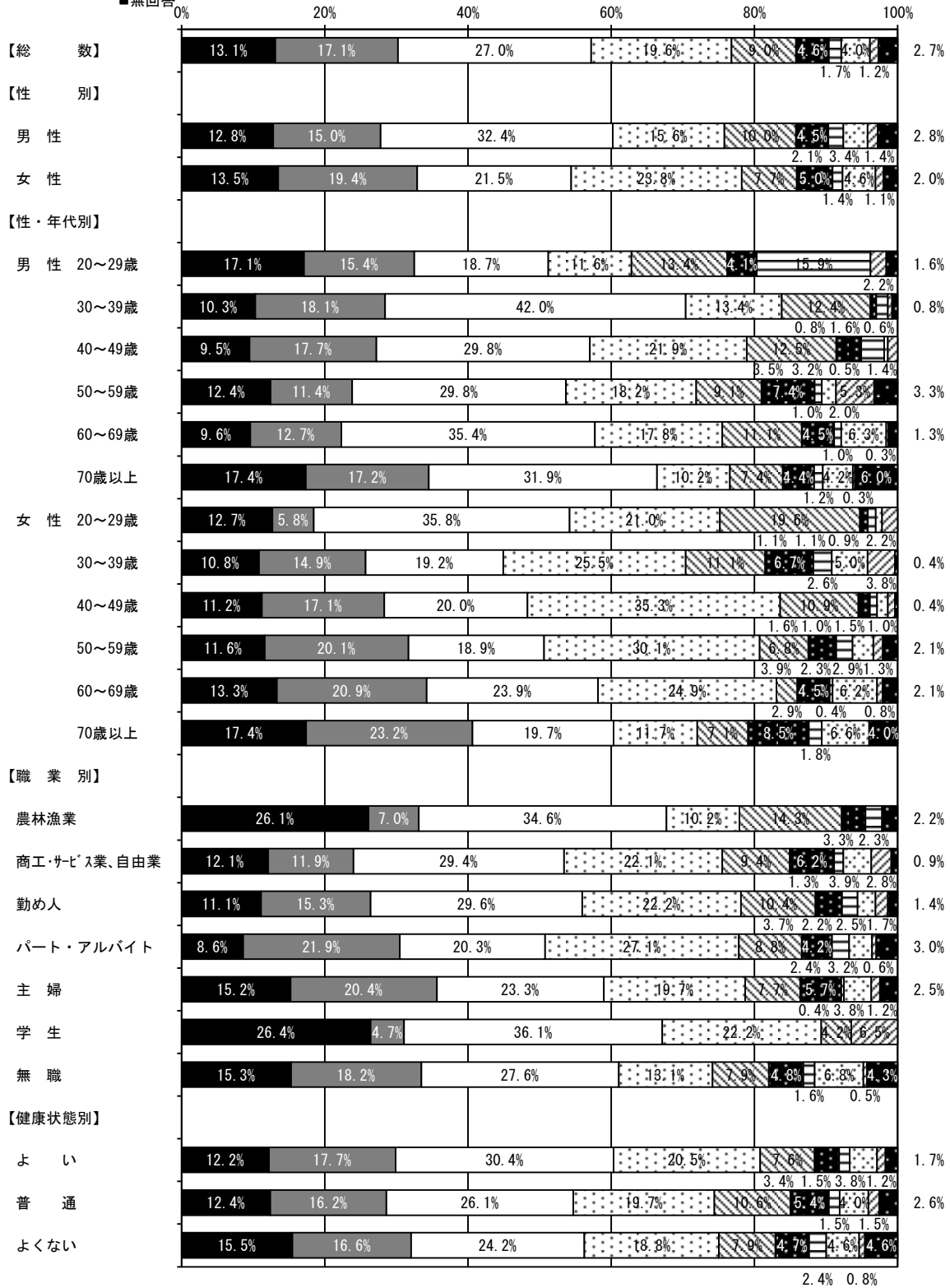
健康状態で大きな差異はみられないが、「自宅で療養して、必要になれば医療機関に入院したい」は健康状態がよくない（24.2%）に比べ、健康状態がよい（30.4%）の方が多くなっている。

図 13-12 治る見込みの少ない病気にかかったときに過ごしたい場所

- なるべく今まで通っていた（または現在入院中の）医療機関に入院したい
- なるべく早く緩和ケア病棟（終末期における症状を和らげることを目的とした病棟）に入院したい
- 自宅で療養して、必要になれば医療機関に入院したい
- 自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい
- 必要時には一時的に入院しても、自宅で最後まで療養したい
- 通院又は往診・訪問看護等を受けて、自宅で最後まで療養したい
- 子どもや親族の家で療養したい
- 特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅等に入所したい
- その他
- 無回答



- なるべく今まで通っていた（または現在入院中の）医療機関に入院したい
- なるべく早く緩和ケア病棟（終末期における症状を和らげることを目的とした病棟）に入院したい
- 自宅で療養して、必要になれば医療機関に入院したい
- 自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい
- 必要時には一時的に入院しても、自宅で最後まで療養したい
- 通院又は往診・訪問看護等を受けて、自宅で最後まで療養したい
- 子どもや親族の家で療養したい
- 特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅等に入所したい
- その他
- 無回答



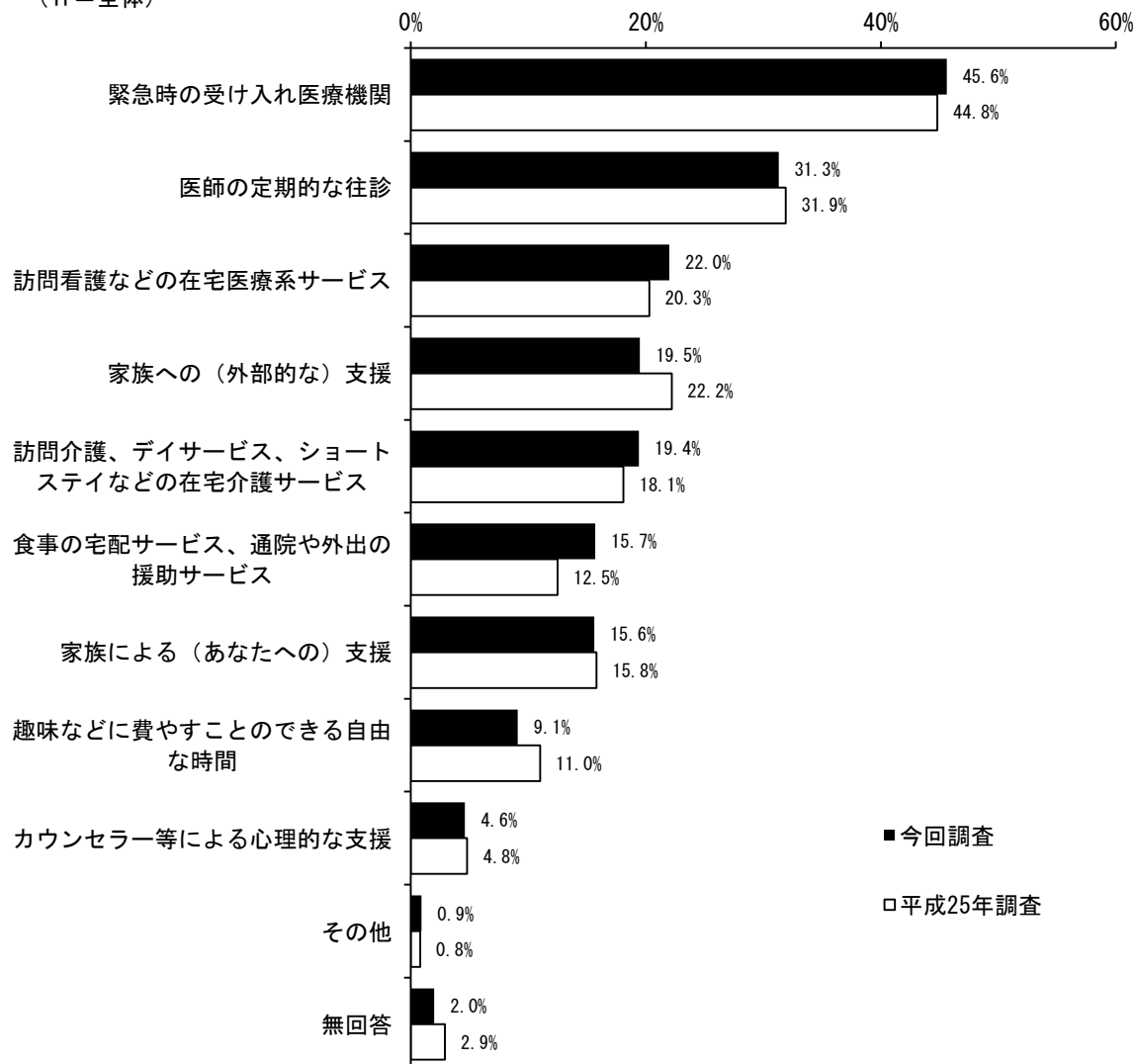
(7) 自宅で過ごす場合に必要なこと

～「緊急時の受け入れ医療機関」45.6%、「医師の定期的な往診」31.3%～

問24 もし、あなたが治る見込みの少ない病気にかかり、自宅で過ごすことになった場合、以下のもののうち特に何が必要だと思いますか。(〇は2つまで)

図13-13

(n=全体)



自宅で過ごす場合必要なものとしては、「緊急時の受け入れ医療機関」が45.6%と最も多く、次いで「医師の定期的な往診」が31.3%、「訪問看護などの在宅医療系サービス」が22.0%となっている。

平成25年調査結果との比較では、ほぼ同様となっているが、「訪問看護などの在宅医療系サービス」と「家族への(外部的な)支援」の順位が入れ替わっている。

◆地域別

いずれの地域も「緊急時の受け入れ医療機関」が最も多くなっており、地域で差異はほとんどみられない。

◆市郡別

市部と郡部で大きな差異はみられないが、「緊急時の受け入れ医療機関」は市部（44.8%）に比べ、郡部（50.6%）の方が多くなっている。

◆性別

「医師の定期的な往診」は女性（27.3%）に比べ、男性（36.5%）の方が多くなっている。

◆性・年代別

「緊急時の受け入れ医療機関」は男性では50代（52.6%）、30代（51.1%）、女性では50代（54.1%）、60代（50.1%）で50.0%を超えている。「医師の定期的な往診」は男性ではいずれの年代も多くなっているが、女性では高い年代ほど多くなる傾向がみられる。「訪問看護などの在宅医療系サービス」は20代男性（5.9%）、30代男性（8.1%）が少なくなっている。「家族への（外部的な）支援」は男性と女性とも若い年代ほど多くなる傾向があり、30代女性は54.1%と最も多くなっている。

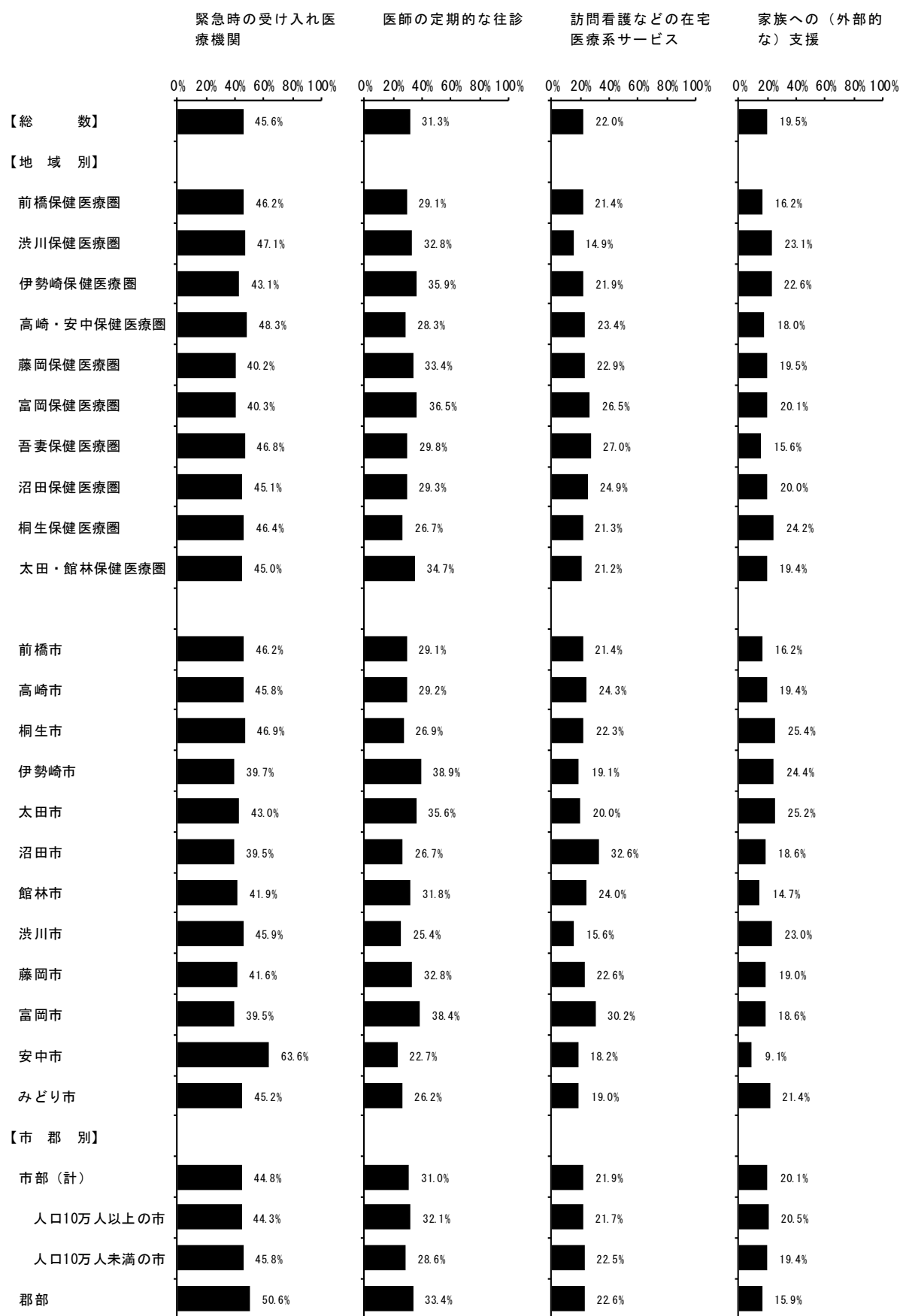
◆職業別

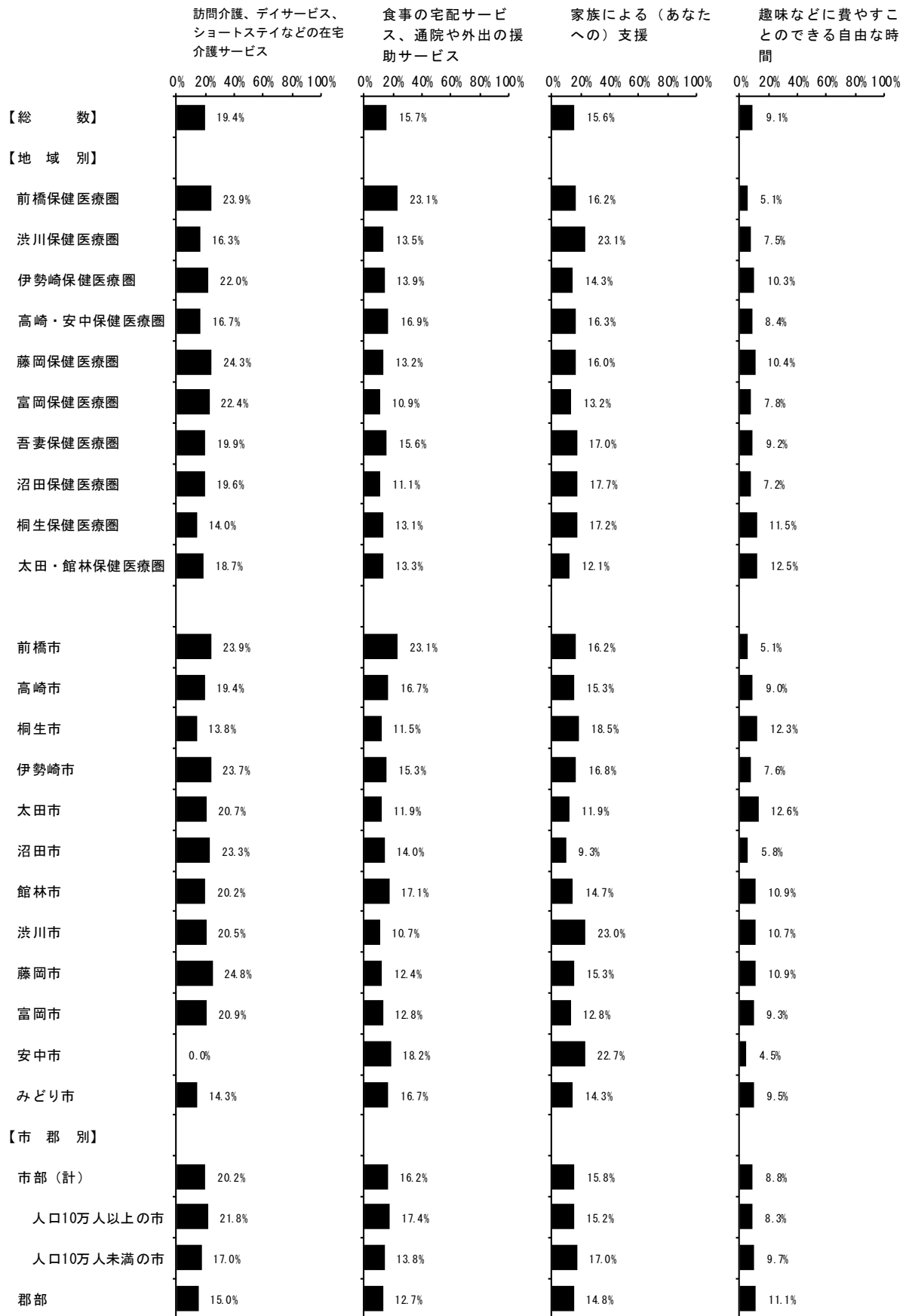
学生を除くと、いずれの職業も「緊急時の受け入れ医療機関」が最も多くなっている。その中でも、パート・アルバイトは52.0%と最も多くなっている。

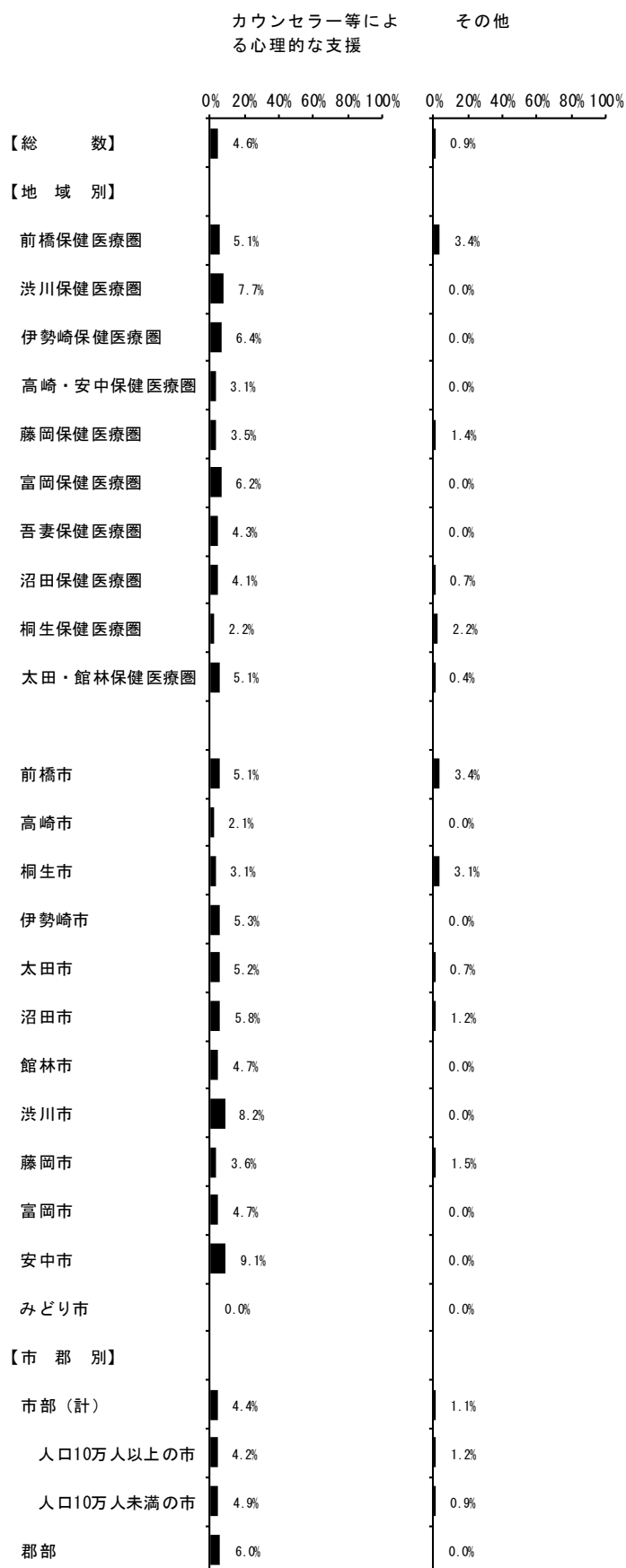
◆健康状態別

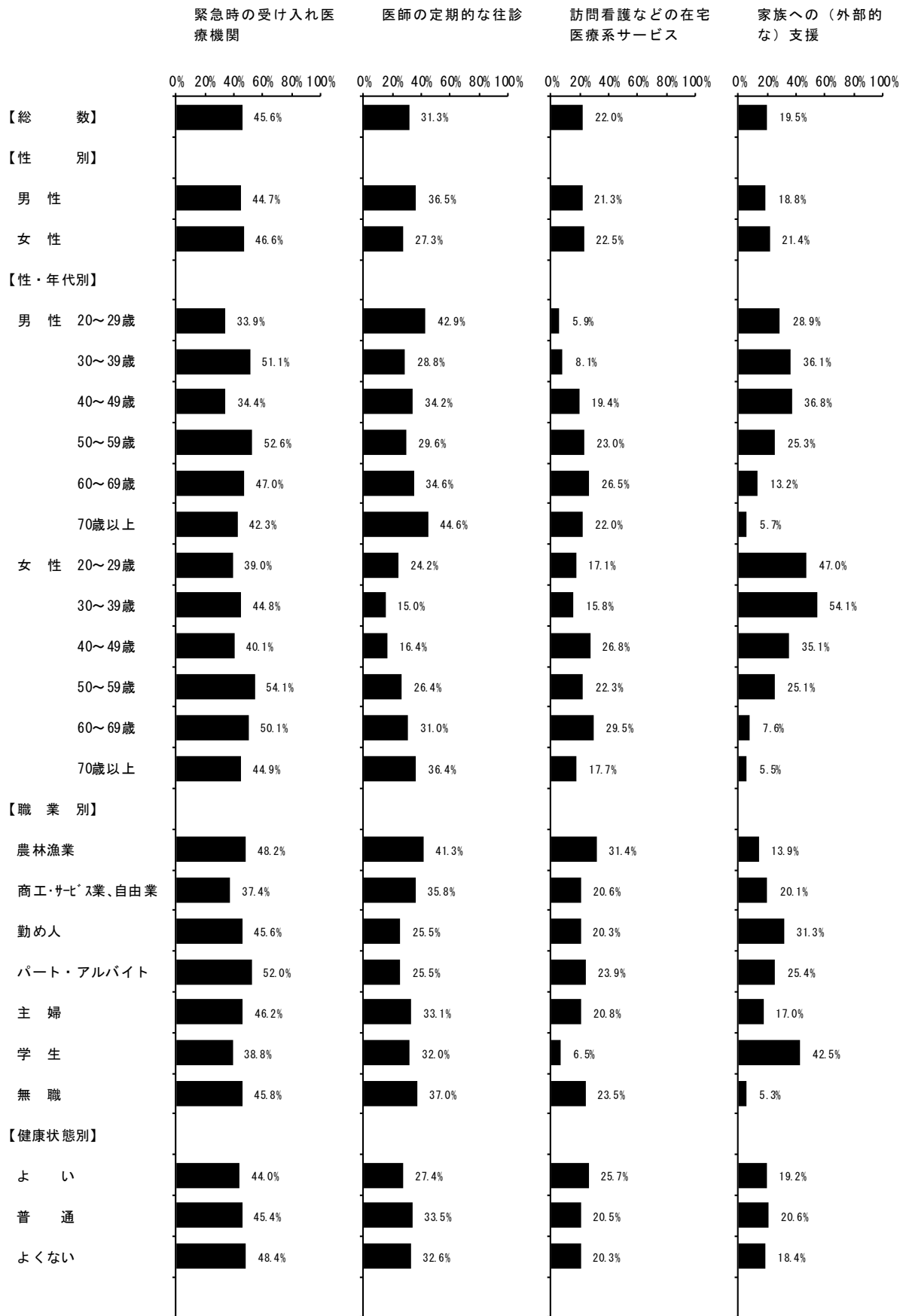
健康状態で大きな差異はみられないが、「医師の定期的な往診」は健康状態がよい（27.4%）に比べ、健康状態がよくない（32.6%）の方が多くなっている。一方、「訪問看護などの在宅医療系サービス」は健康状態がよくない（20.3%）に比べ、健康状態がよい（25.7%）の方が多くなっている。

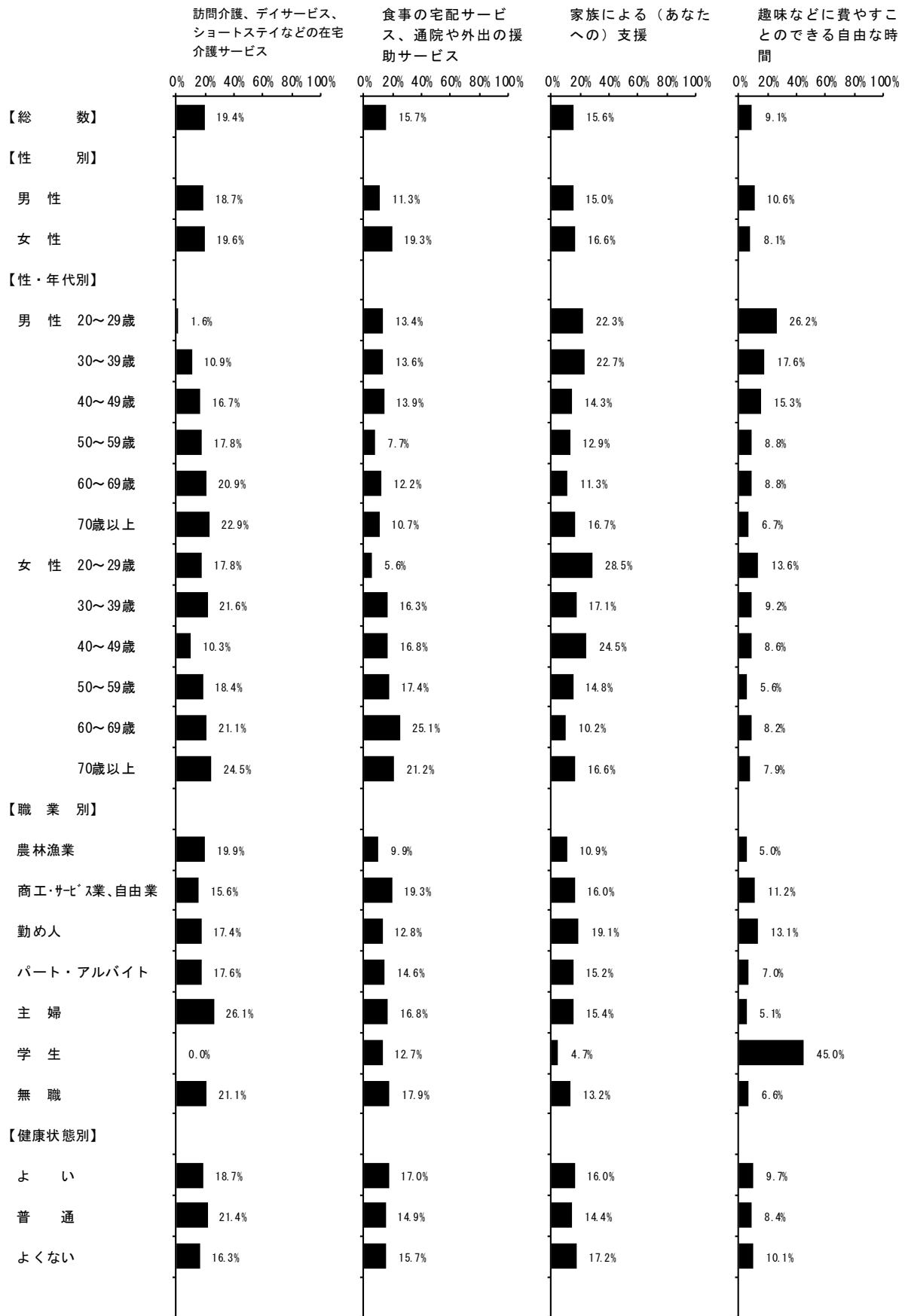
図 13-14 自宅で過ごす場合に必要なこと

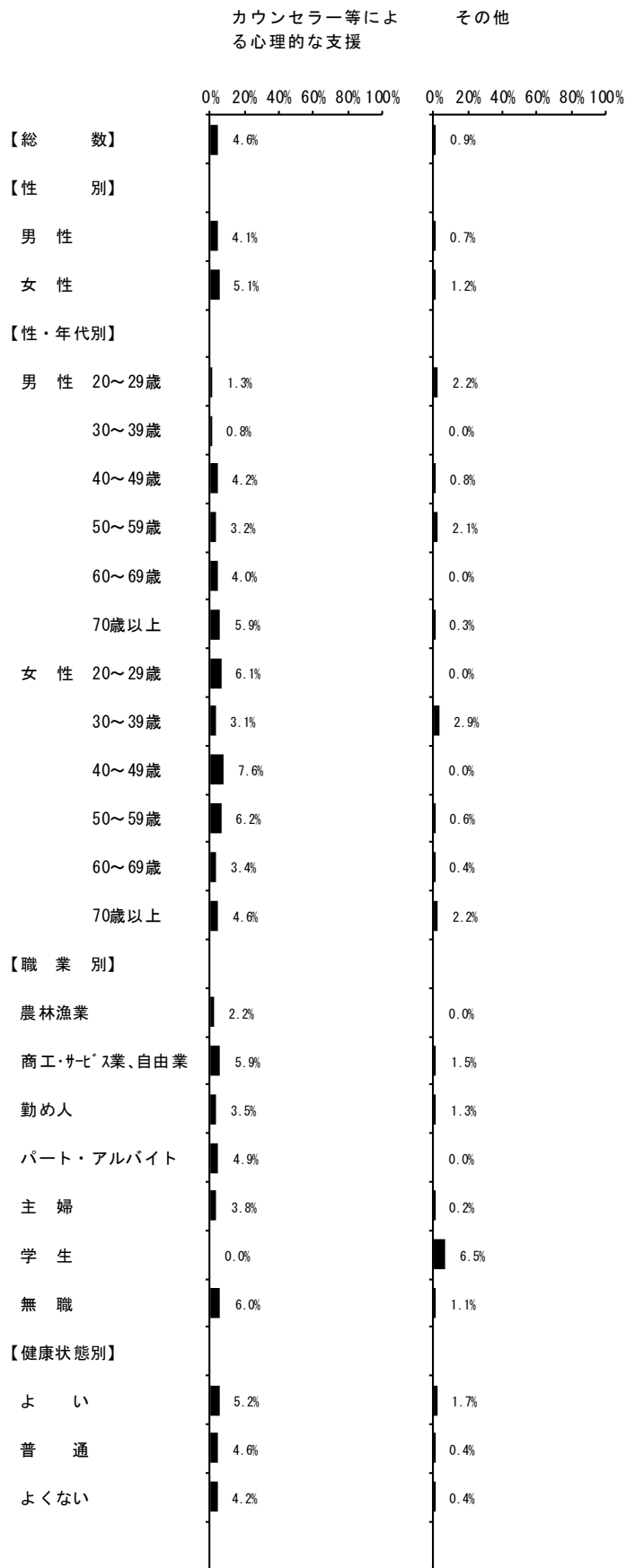












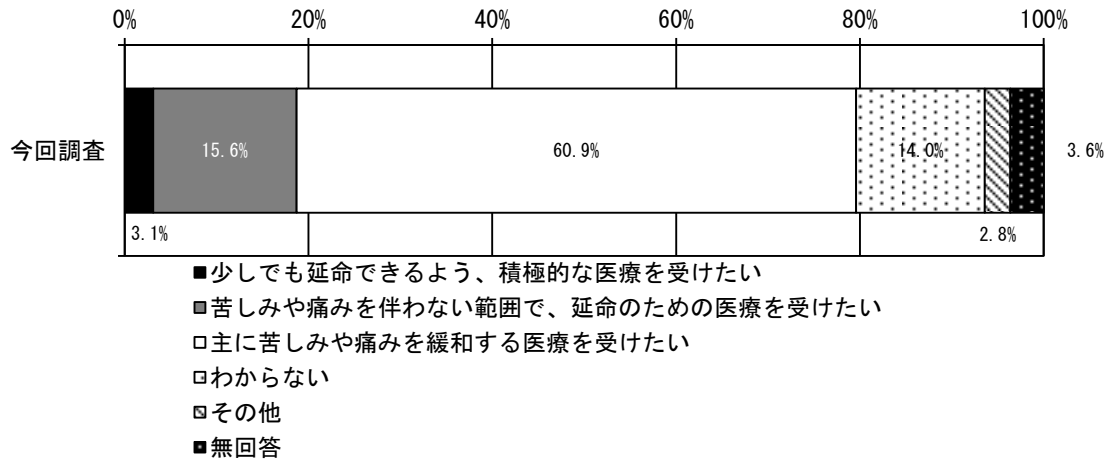
(8) 死期が近くなった際に受けてたい医療

～「主に苦しみや痛みを緩和する医療を受けたい」60.9%が最も多い～

問25 もし、あなたが治る見込みのない病気にかかり、死期が近くなった場合、あなたの気持ちに最も近いものはどれですか。(○は1つだけ)

図13-15

(n=全体)



※平成25年調査では問25と同様の質問項目なし

死期が近くなった際に受けてたい医療としては、「主に苦しみや痛みを緩和する医療を受けたい」が60.9%と最も多く、「苦しみや痛みを伴わない範囲で、延命のための医療を受けたい」の15.6%を上回っている。一方、「少しでも延命できるよう、積極的な医療を受けたい」は3.1%と少なくなっている。

◆地域別

いずれの地域も「主に苦しみや痛みを緩和する医療を受けたい」が最も多くなっている。また、「苦しみや痛みを伴わない範囲で、延命のための医療を受けたい」は渋川保健医療圏(23.8%)、伊勢崎保健医療圏(20.6%)が他の地域に比べ多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で大きな差異はみられないが、「苦しみや痛みを伴わない範囲で、延命のための医療を受けたい」は市部(14.6%)に比べ、郡部(21.2%)の方が多くなっている。

◆性別

「主に苦しみや痛みを緩和する医療を受けたい」は男性(56.8%)に比べ、女性(65.3%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

「主に苦しみや痛みを緩和する医療を受けたい」は男性と女性とも高い年代ほど多くなる傾向がみられ、60代女性は79.0%と最も多くなっている。一方、「苦しみや痛みを伴わない範囲で、延命のための医療を受けたい」は20代男性が28.3%、20代女性が38.6%となっており、20代が最も多くなっている。

◆職業別

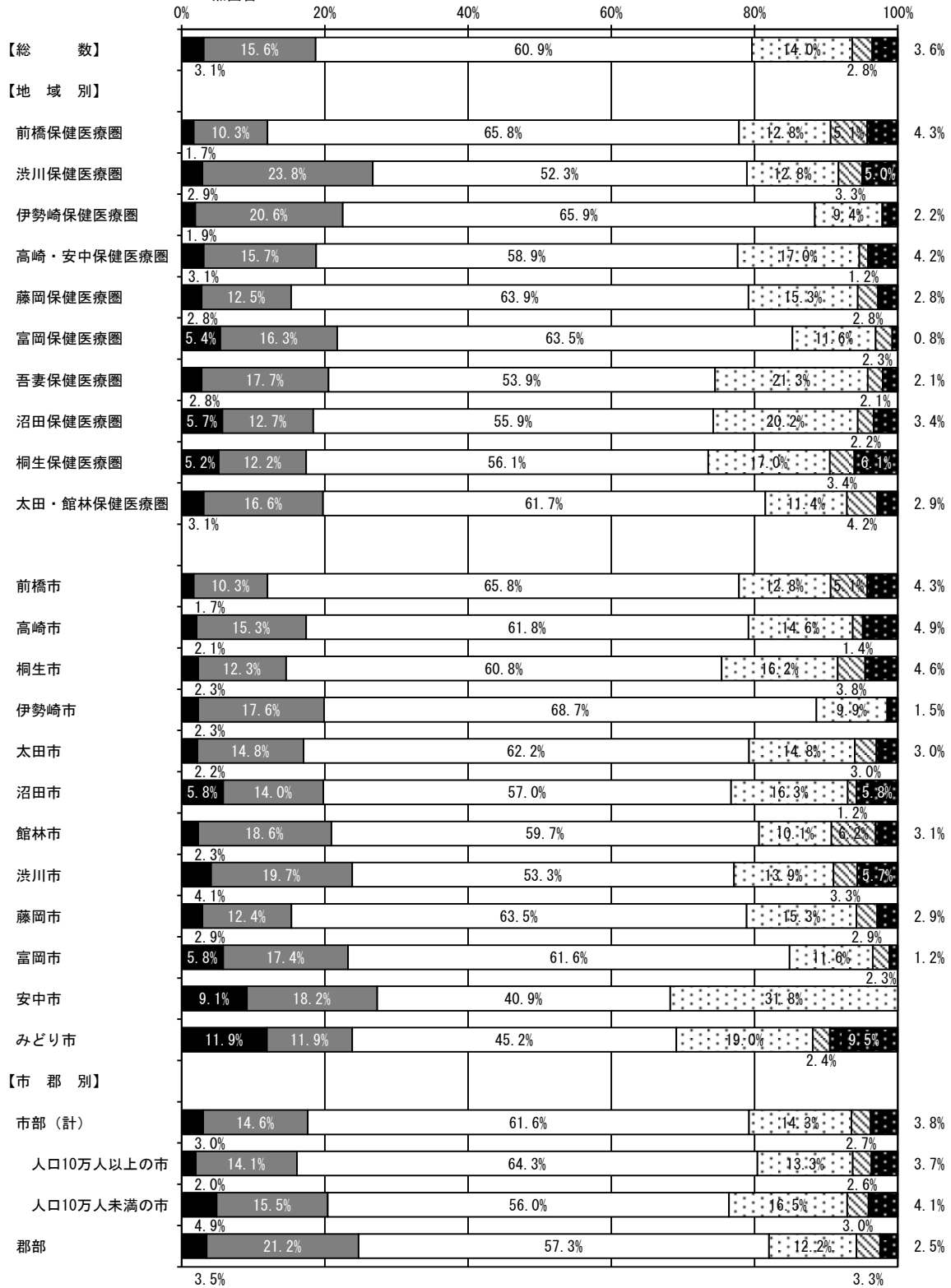
職業で差異はほとんどみられない。

◆健康状態別

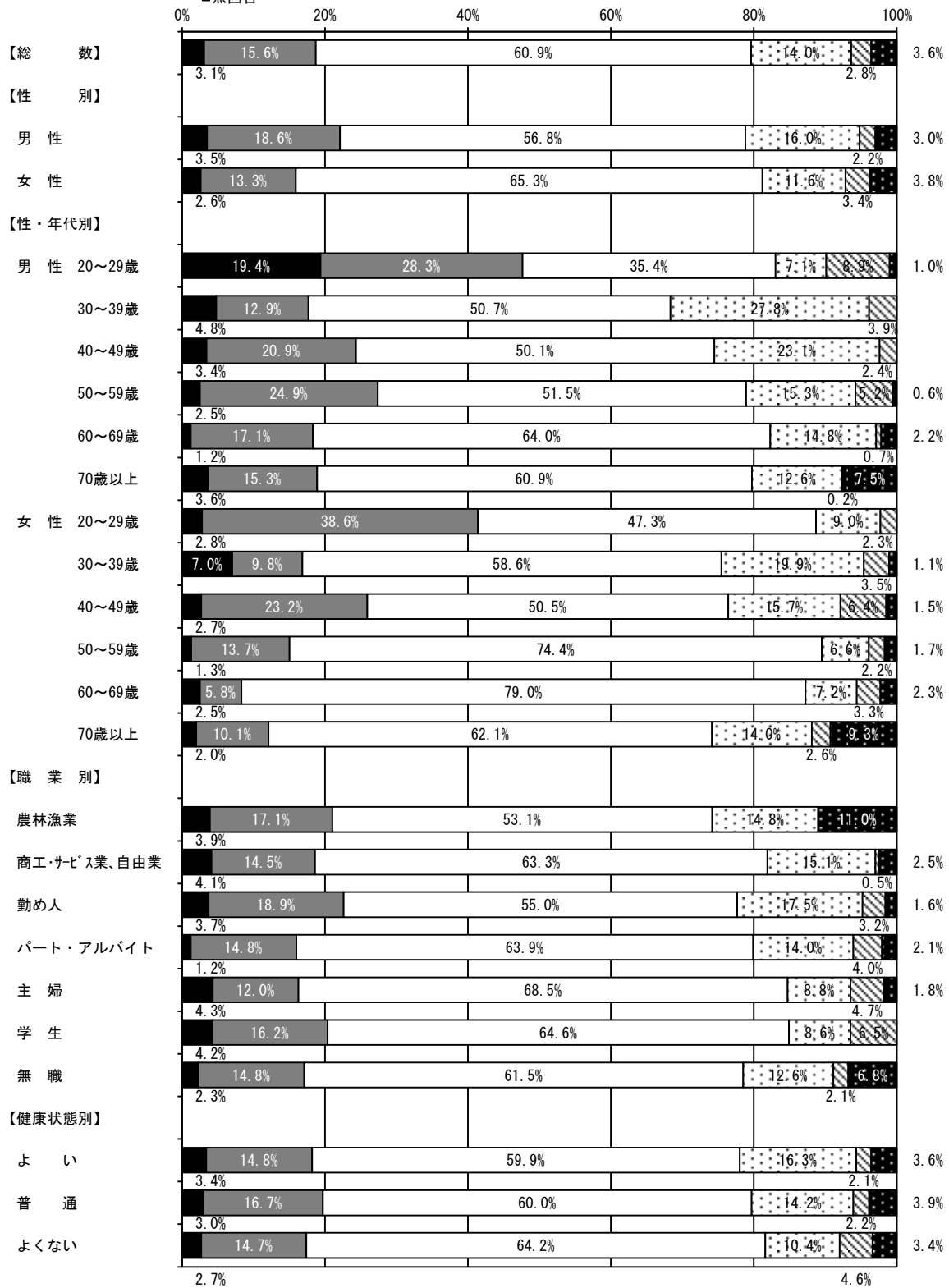
健康状態で差異はほとんどみられない。

図13-16 死期が近くなった際に受けたい医療

- 少しでも延命できるよう、積極的な医療を受けたい
- 苦しみや痛みを伴わない範囲で、延命のための医療を受けたい
- 主に苦しみや痛みを緩和する医療を受けたい
- わからない
- その他
- 無回答



- 少しでも延命できるよう、積極的な医療を受けたい
- 苦しみや痛みを伴わない範囲で、延命のための医療を受けたい
- 主に苦しみや痛みを緩和する医療を受けたい
- わからない
- その他
- 無回答

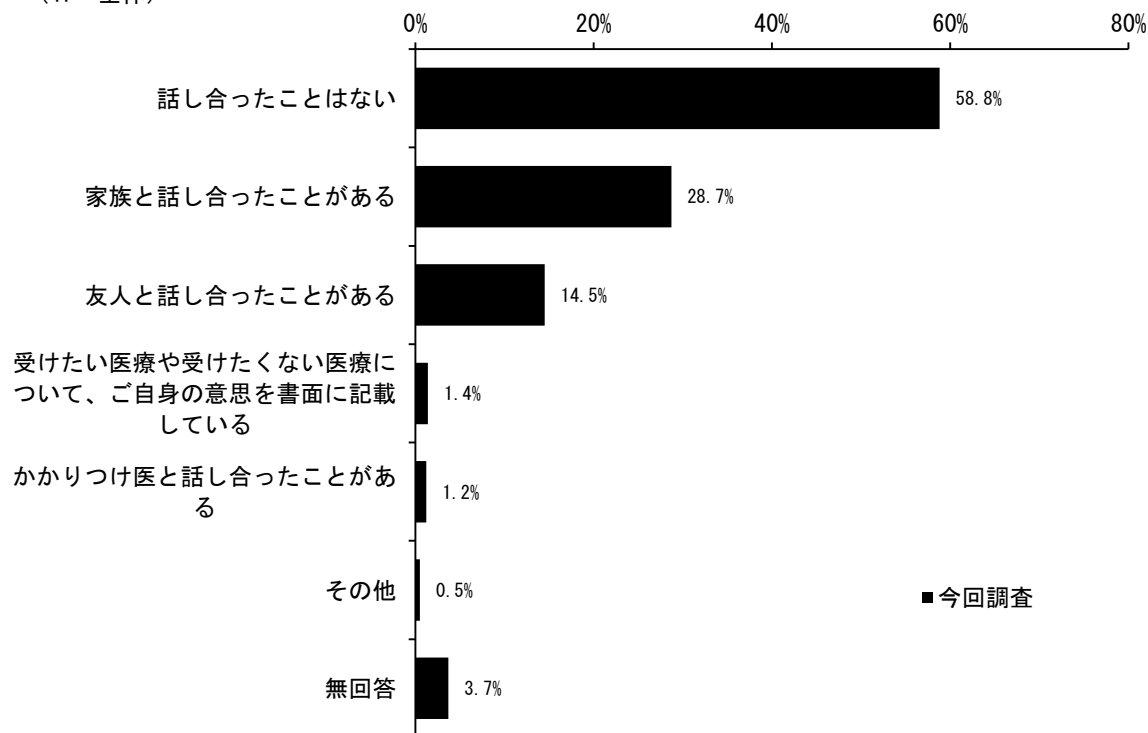


(9) 死期が近くなった場合についての話し合い
 ～「話し合ったことはない」58.8%が最も多い～

問26 あなたは、ご自身の死期が近い場合に受けたい医療や受けたくない医療について、あなたの周りの人等と話し合ったことがありますか。(〇はあてはまるものすべて)

図13-17

(n=全体)



※平成25年調査では問26と同様の質問項目なし

死期が近くなった場合について、周りの人等と話し合ったことがあるか聞いたところ、「話し合ったことはない」が58.8%と最も多くなっている。また、「家族と話し合ったことがある」が28.7%、「友人と話し合ったことがある」が14.5%となっている。一方、「受けたい医療や受けたくない医療について、ご自身の意思を書面に記載している」(1.4%)、「かかりつけ医と話し合ったことがある」(1.2%)は少なくなっている。

◆地域別

いずれの地域も「話し合ったことはない」が最も多くなっており、地域で差異はほとんどみられない。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

「話し合ったことはない」は女性(54.2%)に比べ、男性(64.0%)の方が多くなっている。また、「友人と話し合ったことがある」は男性(9.2%)に比べ、女性(19.6%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

「話し合ったことはない」は男性と女性とも若い年代ほど多くなる傾向がみられる。一方、「家族と話し合ったことがある」は男性と女性とも高い年代ほど多くなる傾向がみられる。また、70歳以上の女性は「友人と話し合ったことがある」が33.8%となっており、他の性別・年代に比べて多くなっている。

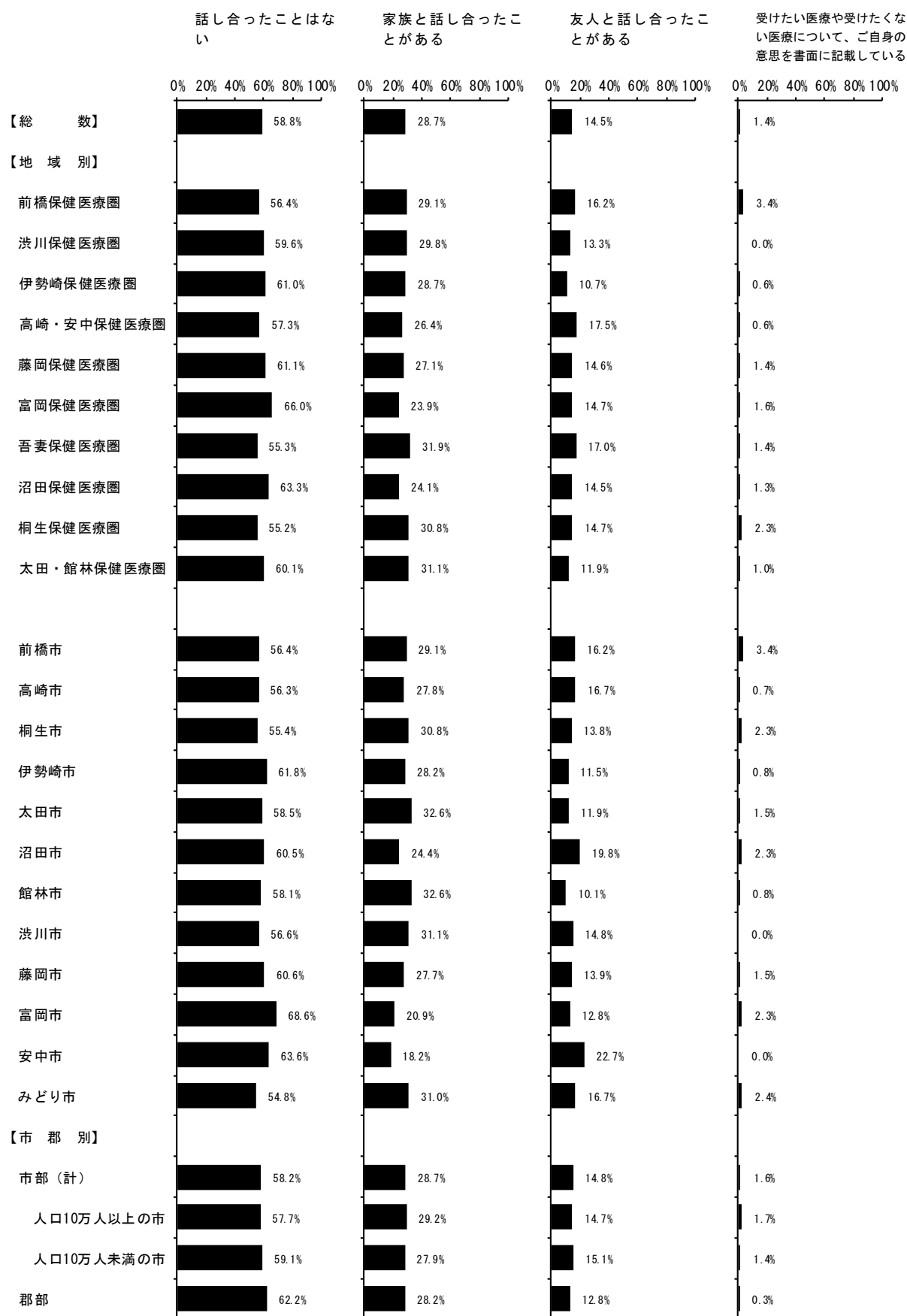
◆職業別

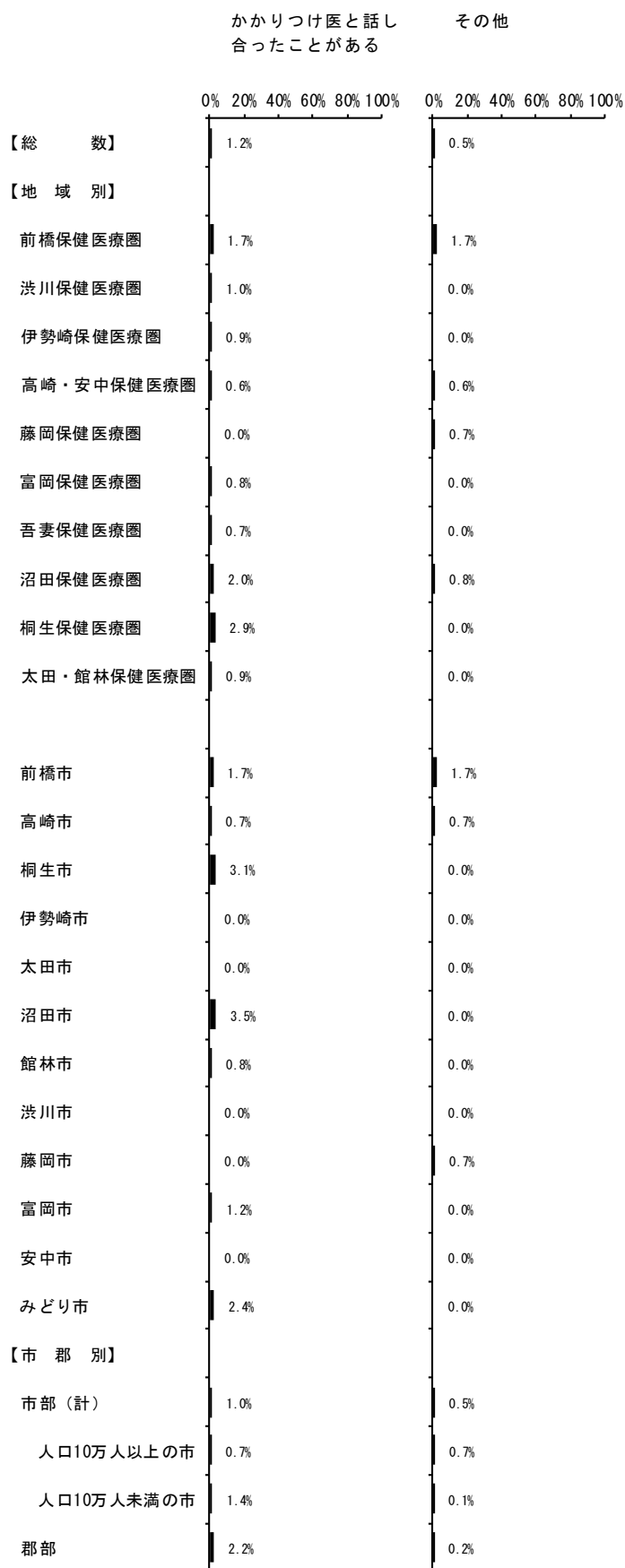
いずれの職業も「話し合ったことはない」が最も多くなっている。

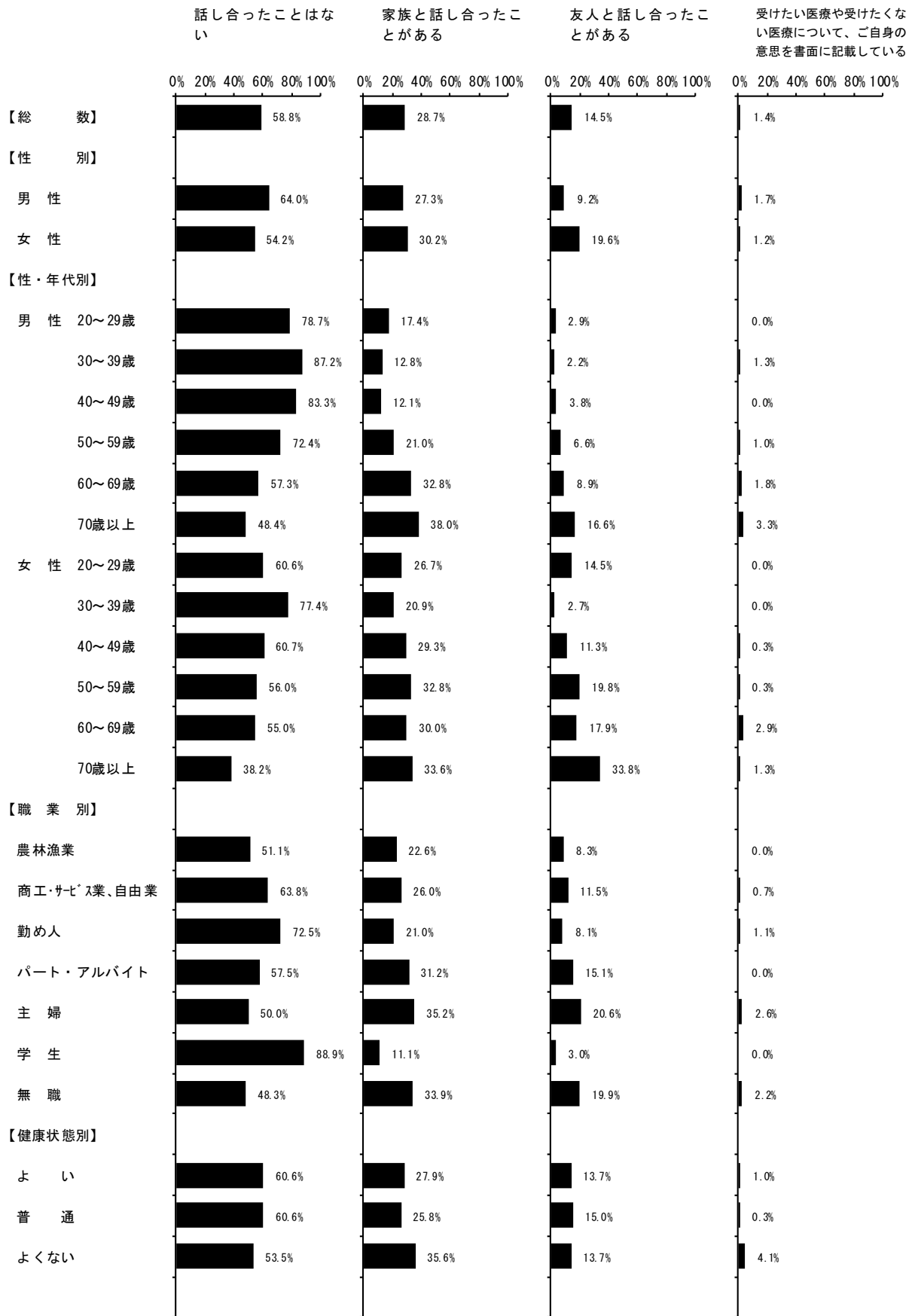
◆健康状態別

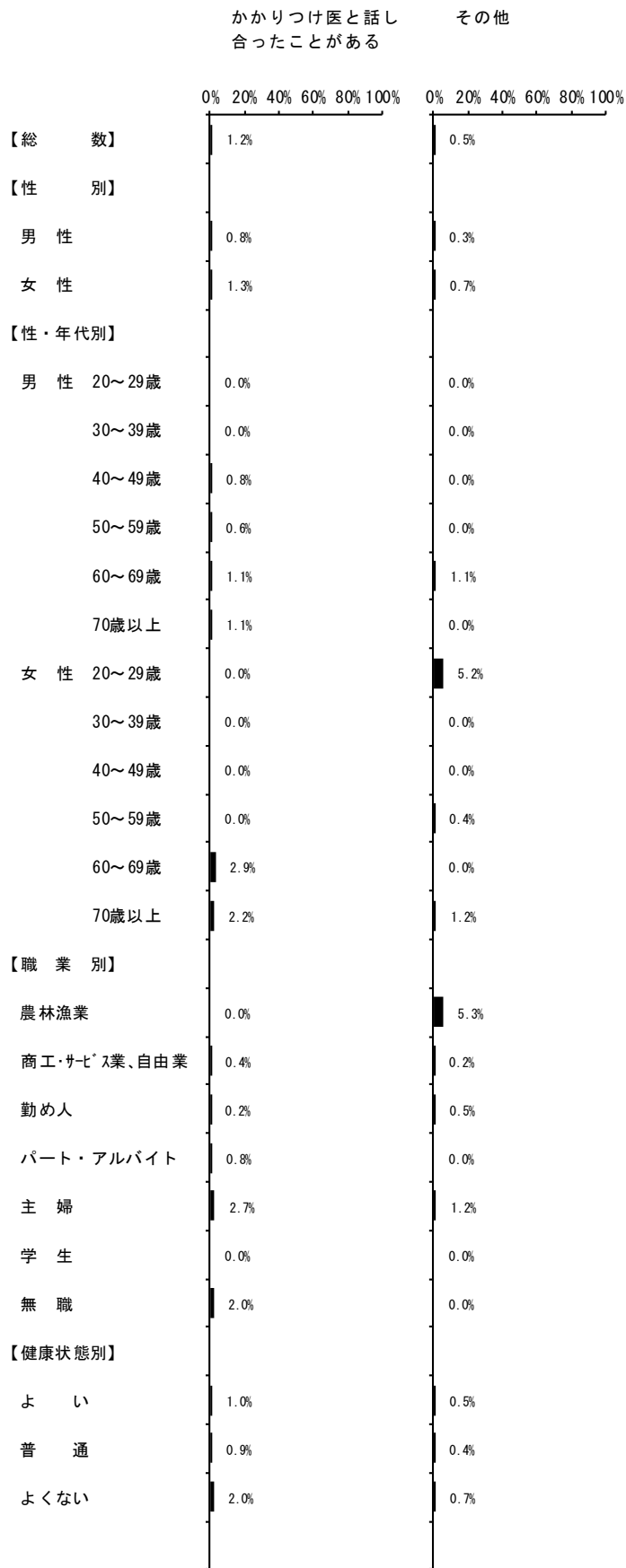
「家族と話し合ったことがある」は健康状態がよい（27.9%）に比べ、健康状態がよくない（35.6%）の方が多くなっている。

図13-18 周囲の人等との話し合い







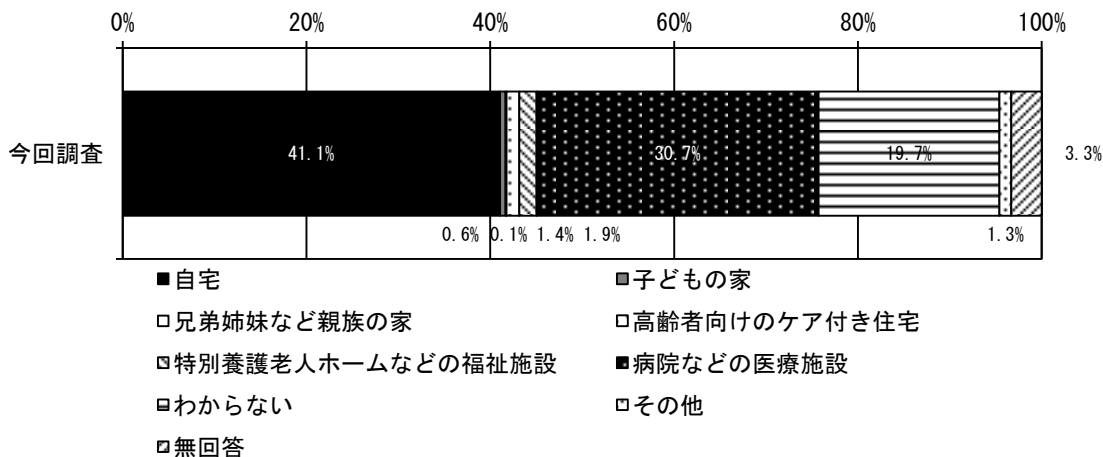


(10) 治る見込みの少ない病気にかかったときに最期を迎えたい場所
 ～「自宅」41.1%、「病院などの医療施設」30.7%～

問27 もし、あなたが治る見込みのない病気になった場合、どこで最期を迎えたいですか。
 (〇は1つだけ)

図13-19

(n=全体)



※平成25年調査では問27と同様の質問項目なし

治る見込みの少ない病気にかかったときに最期を迎えたい場所としては、「自宅」が41.1%と最も高く、次いで「病院などの医療施設」が30.7%となっている。

◆地域別

いずれの地域も「自宅」が最も多く、次いで「病院などの医療施設」の順となっている。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

「自宅」は女性(33.2%)に比べ、男性(49.7%)の方が多くなっている。一方、「病院などの医療施設」は男性(26.5%)に比べ、女性(34.4%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

「自宅」は男性ではいずれの年代も多くなっているが、女性では若い年代ほど多くなる傾向がみられる。一方、「病院などの医療施設」は女性では高い年代ほど多くなる傾向がみられ、70歳以上の女性は40.0%と他の性別・年代と比べ多くなっている。

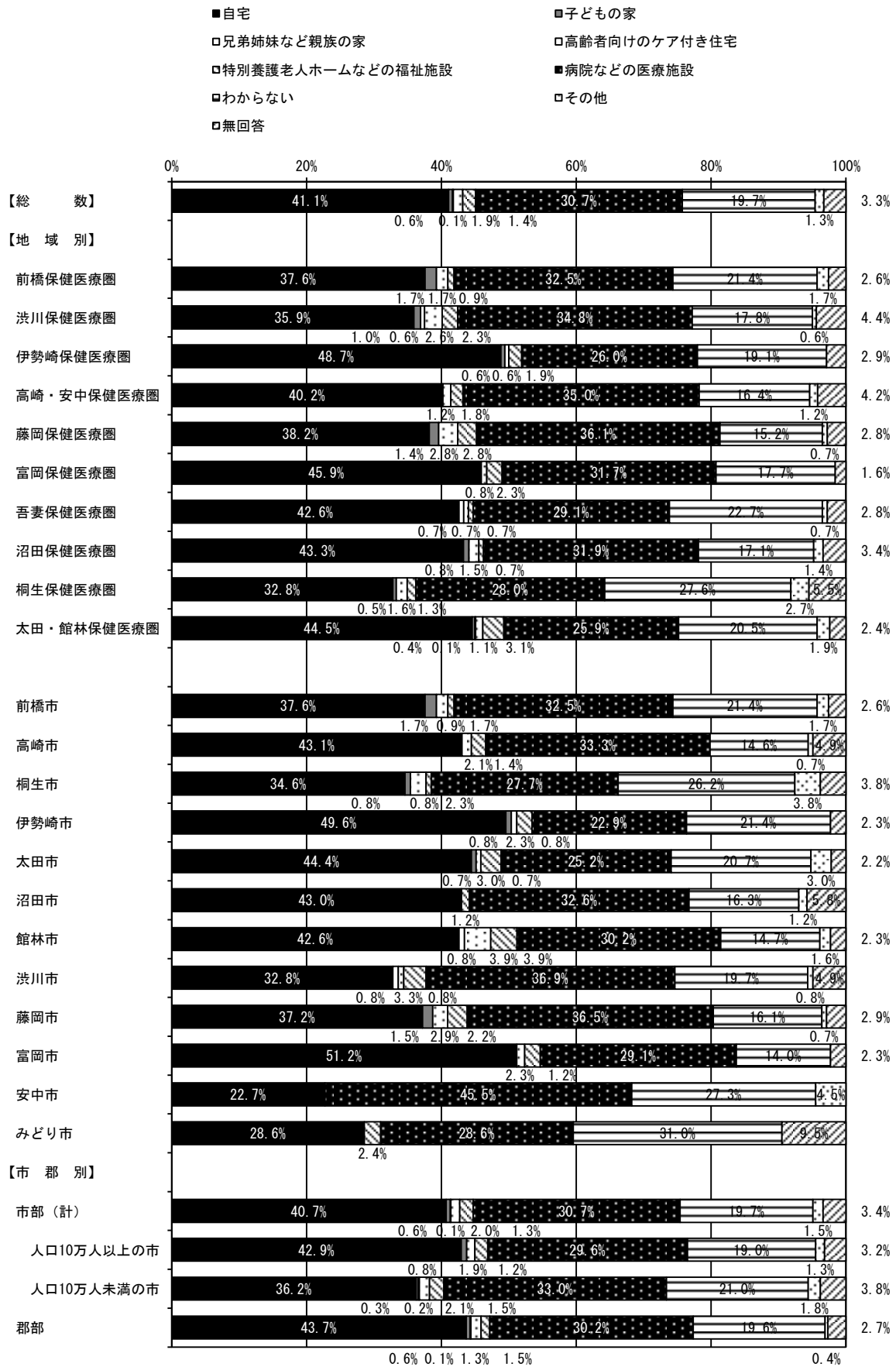
◆職業別

「自宅」は農林漁業が48.9%と最も多くなっている。

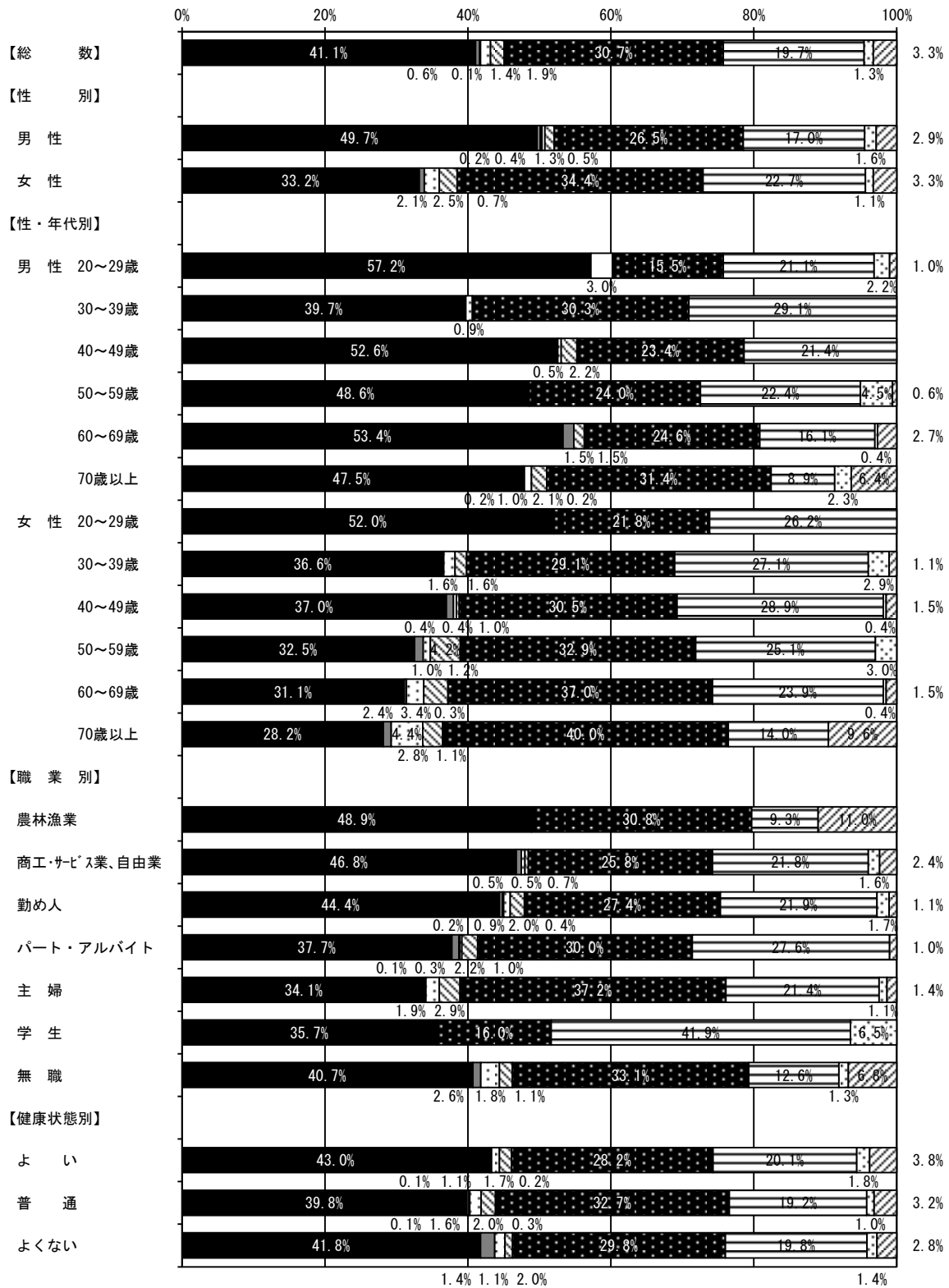
◆健康状態別

健康状態で差異はほとんどみられない。

図 13-20 最期を迎えたい場所



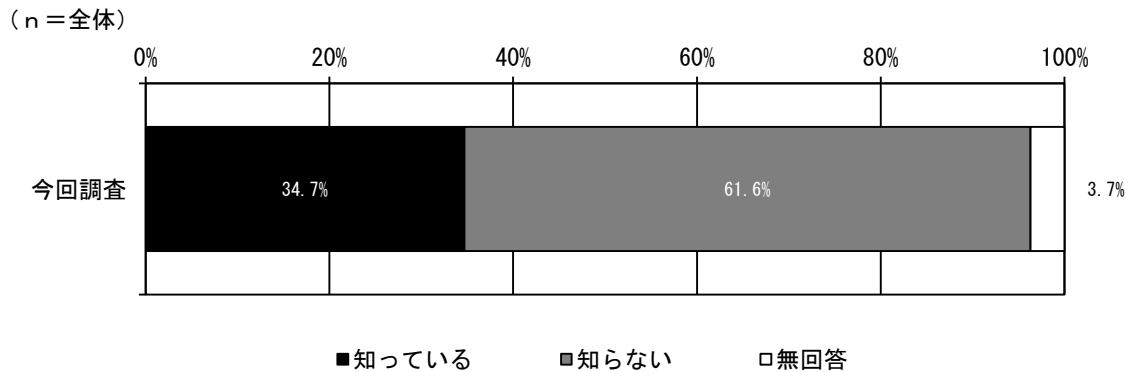
- 自宅
- 兄弟姉妹など親族の家
- 特別養護老人ホームなどの福祉施設
- わからない
- 無回答
- 子どもの家
- 高齢者向けのケア付き住宅
- 病院などの医療施設
- その他



(11) 地域包括ケアの認知度
 ～「知らない」61.6%が多数～

問28 「地域包括ケア」(可能な限り住み慣れた地域で自分らしく生活したいと望む人が、必要なサービスを受けながら、在宅で生活を続けられるよう地域で支えること)という言葉を知っていますか。(〇は1つだけ)

図13-21



※平成25年調査では問28と同様の質問項目なし

「地域包括ケア」の認知度を聞いたところ、「知らない」が61.6%となっており、半数以上を占めている。

◆地域別

地域包括ケアを「知っている」は、前橋保健医療圏が47.0%と最も多く、次いで沼田保健医療圏が41.8%、吾妻保健医療圏が41.1%となっている。一方、太田・館林保健医療圏は「知らない」が68.4%と最も多くなっている。

◆市郡別

地域包括ケアを「知っている」は、市部(33.8%)に比べ、郡部(39.9%)の方が多くなっている。

◆性別

地域包括ケアを「知っている」は、男性(28.0%)に比べ、女性(41.0%)の方が多くなっている。

◆性・年代別

「知っている」は、男性ではいずれの年代も少なくなっている。一方、女性では高い年代ほど多くなる傾向がみられ、70歳以上の女性では50.0%と「知らない」の40.1%を上回っている。

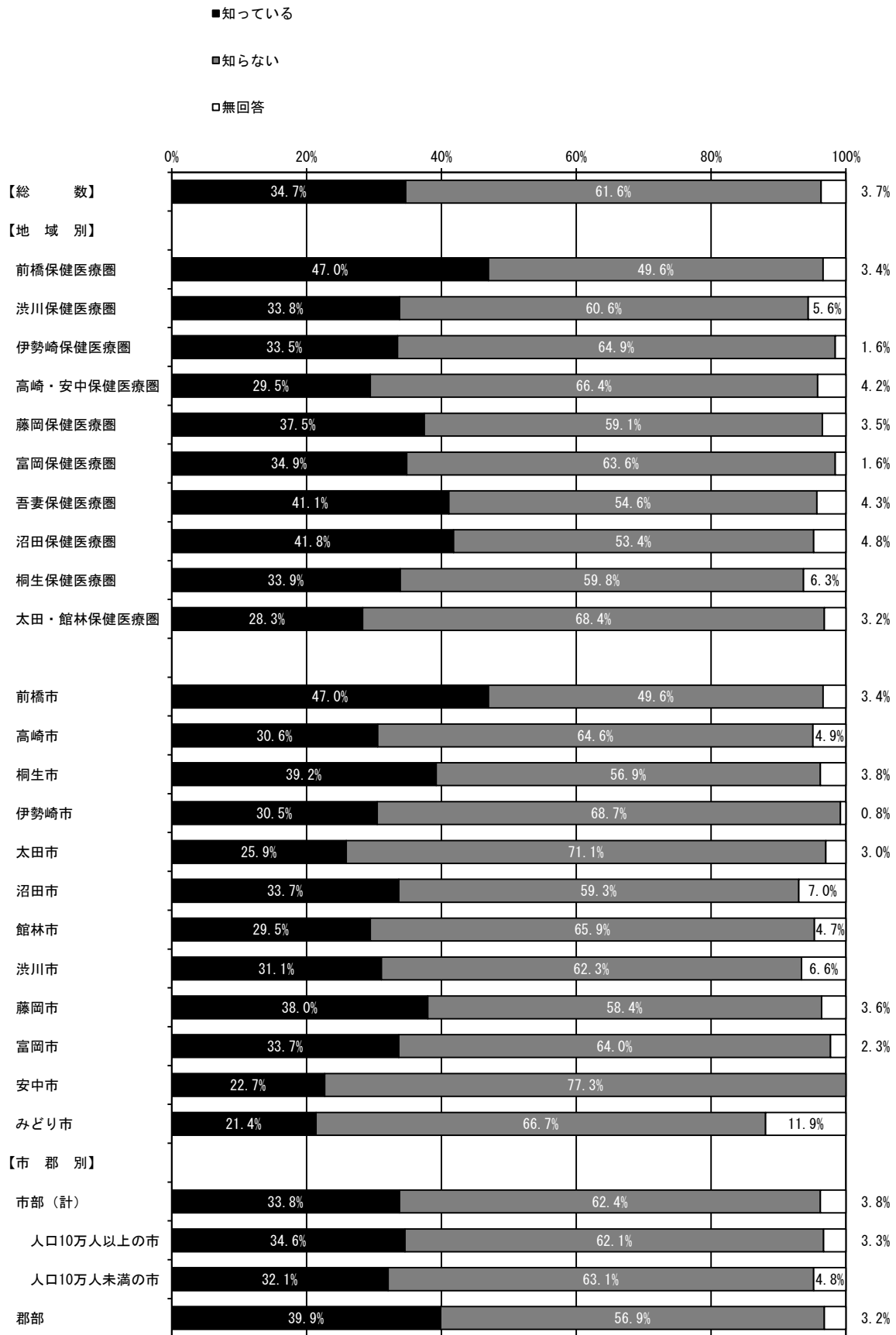
◆職業別

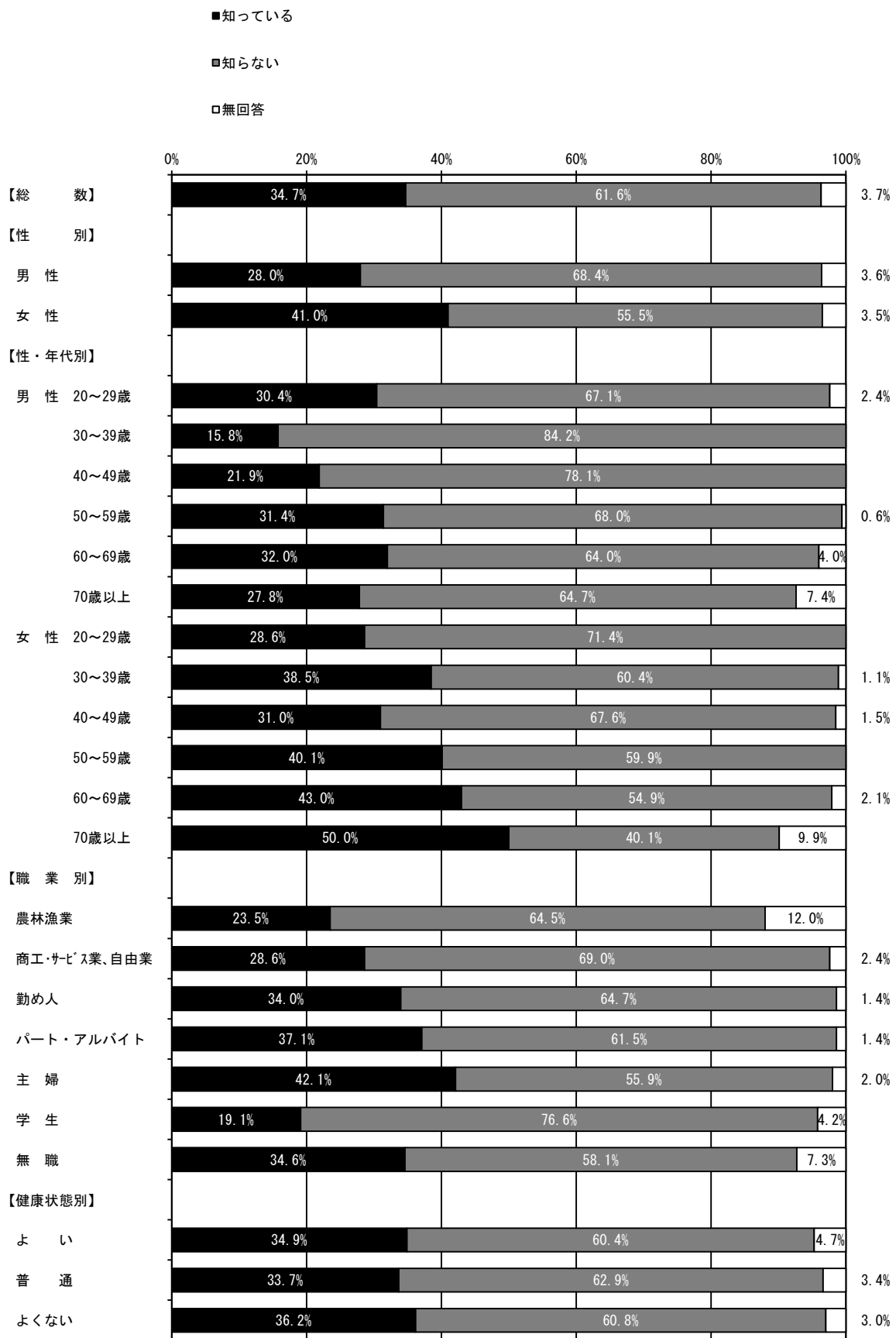
「知っている」は主婦が42.1%と最も多くなっている。

◆健康状態別

健康状態で差異はほとんど見られない。

図 1 3 - 2 2 地域包括ケアの認知度





1 4 医療機関への要望

～医師については「病気の状態や治療方法をよく説明してほしい」78.1%

看護師については「病気や検査についてわかりやすく説明してほしい」52.9%

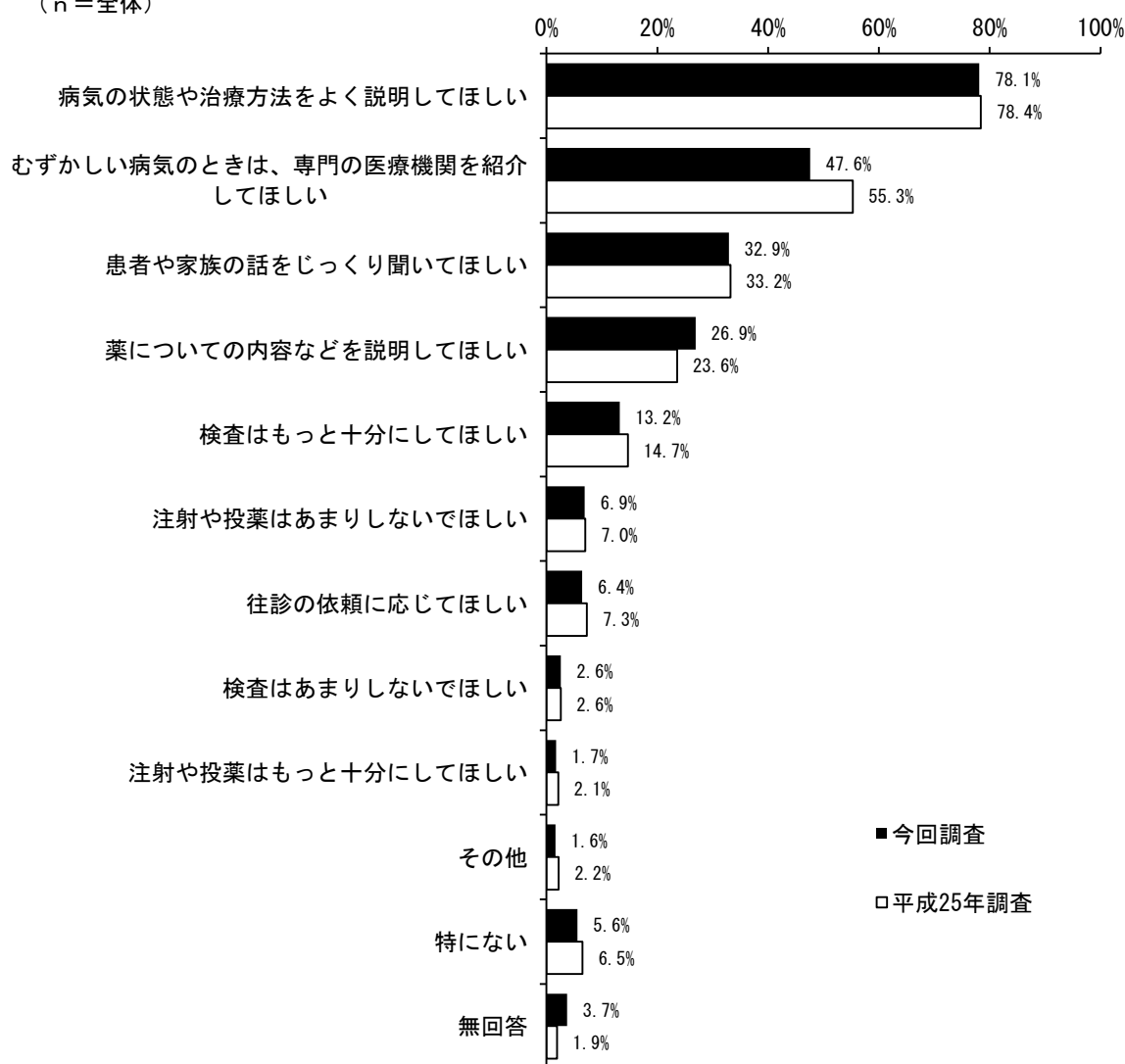
施設・サービスについては「待ち時間を短くしてほしい」66.9%～

問29 これまでの経験から、あなたは医療機関に対してどのようなことを望みますか。(〇はそれぞれ3つまで)

(1) 医療機関への要望(医師について)

図14-1

(n=全体)



医療機関への要望として医師については「病気の状態や治療方法をよく説明してほしい」が78.1%と最も多くなっており、次いで「むずかしい病気の場合は、専門の医療機関を紹介してほしい」が47.6%、「患者や家族の話をじっくり聞いてほしい」が32.9%となっている。

平成25年調査結果との比較では、ほぼ同様の傾向となっているが、「むずかしい病気の場合は、専門の医療機関を紹介してほしい」は少なくなっている。

◆地域別

いずれの地域も「病気の状態や治療方法をよく説明してほしい」が最も多くなっており、地域で差異はほとんどみられない。

◆市郡別

「むずかしい病気ときは、専門の医療機関を紹介してほしい」は市部（46.2%）に比べ、郡部（55.4%）の方が多くなっている・

◆性別

「患者や家族の話をじっくり聞いてほしい」は男性（25.1%）に比べ、女性（41.7%）の方が多くなっている。

◆性・年代別

「病気の状態や治療方法をよく説明してほしい」は男性と女性とも、若い年代の方が多くなる傾向がみられ、20代男性は84.6%、20代女性は82.8%となっている。同様に、「薬についての内容などを説明してほしい」は20代男性が39.6%、20代女性が42.5%となっており、20代が最も多くなっている。

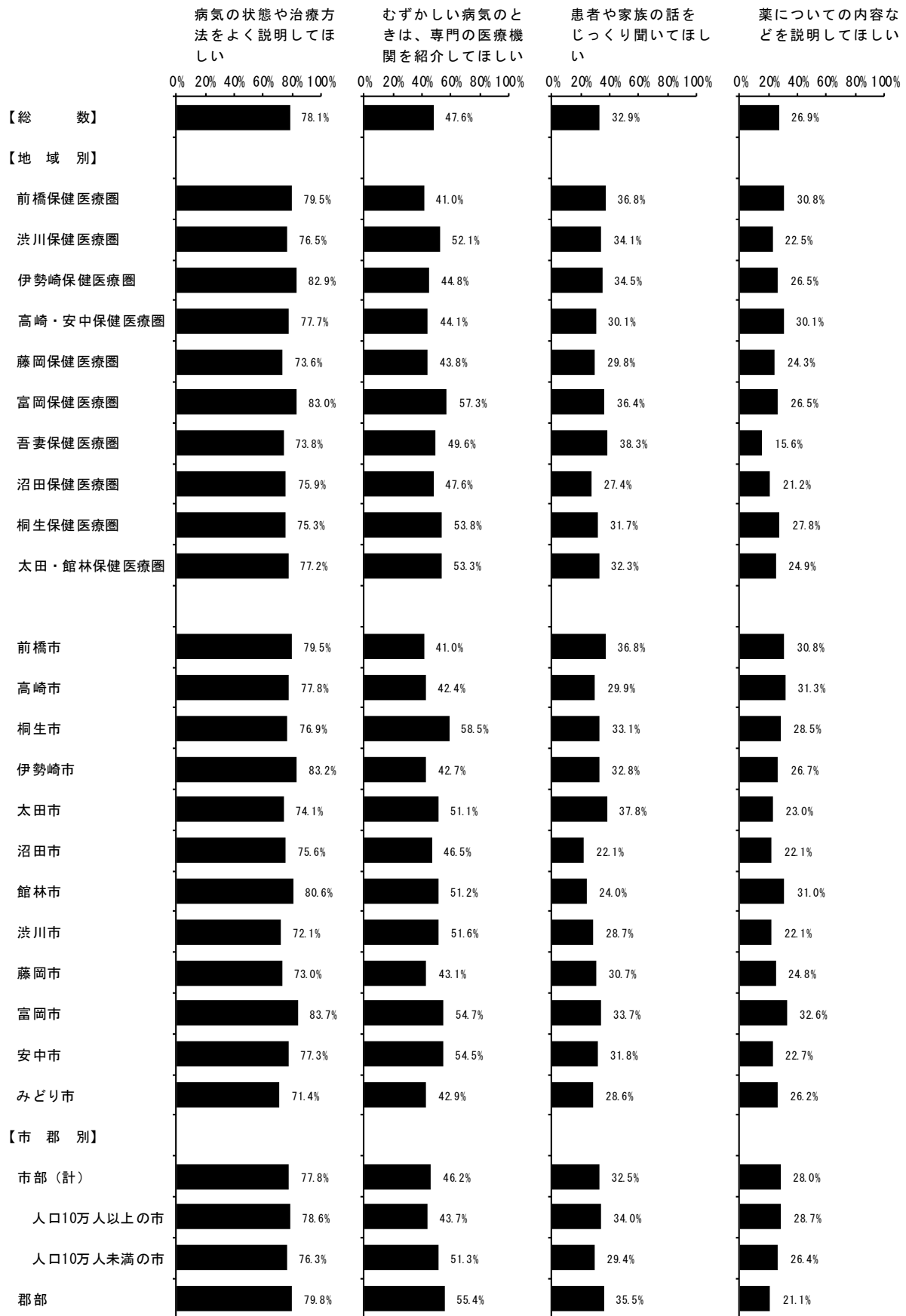
◆職業別

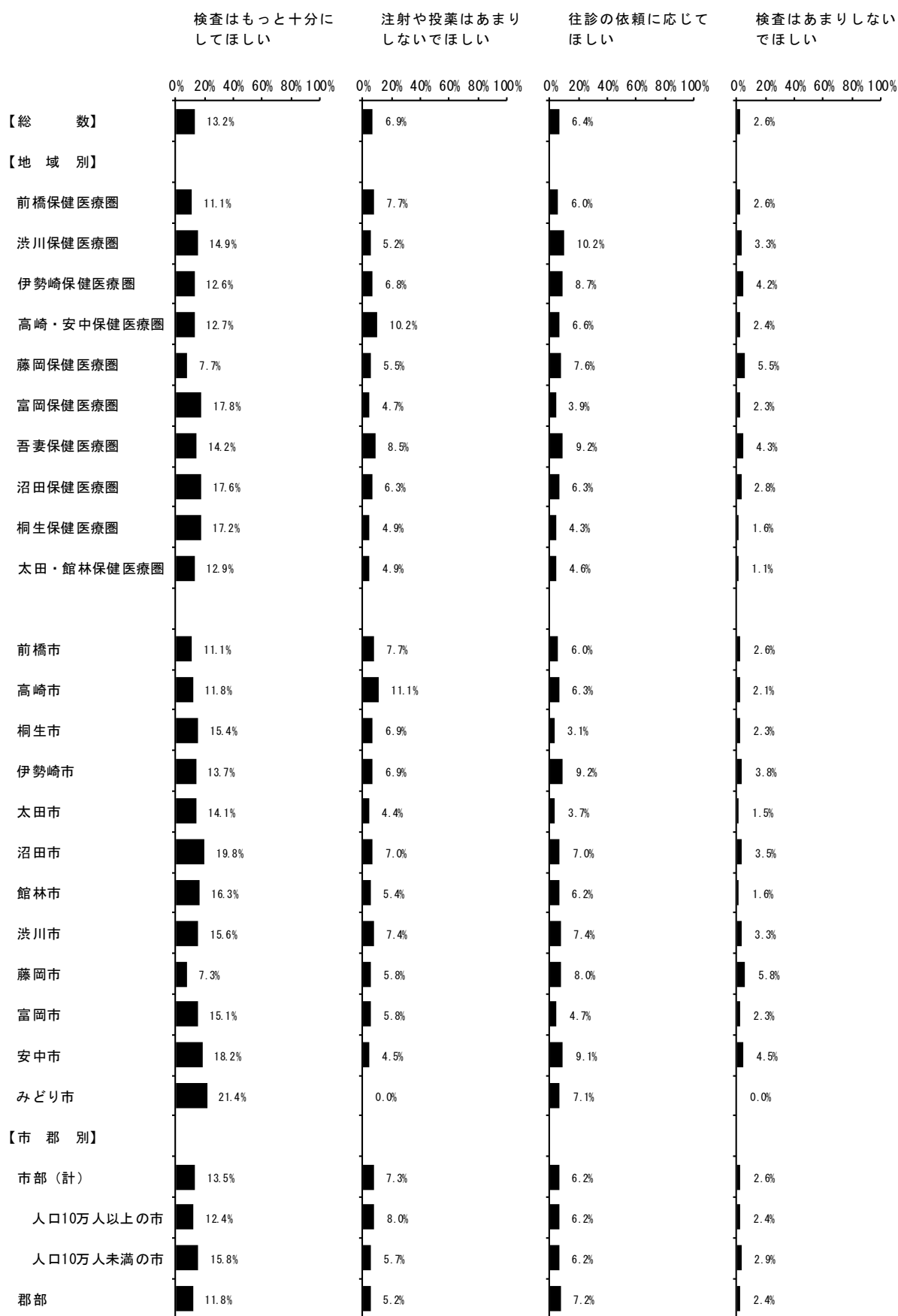
「病気の状態や治療方法をよく説明してほしい」は学生が93.5%と最も多くなっている。

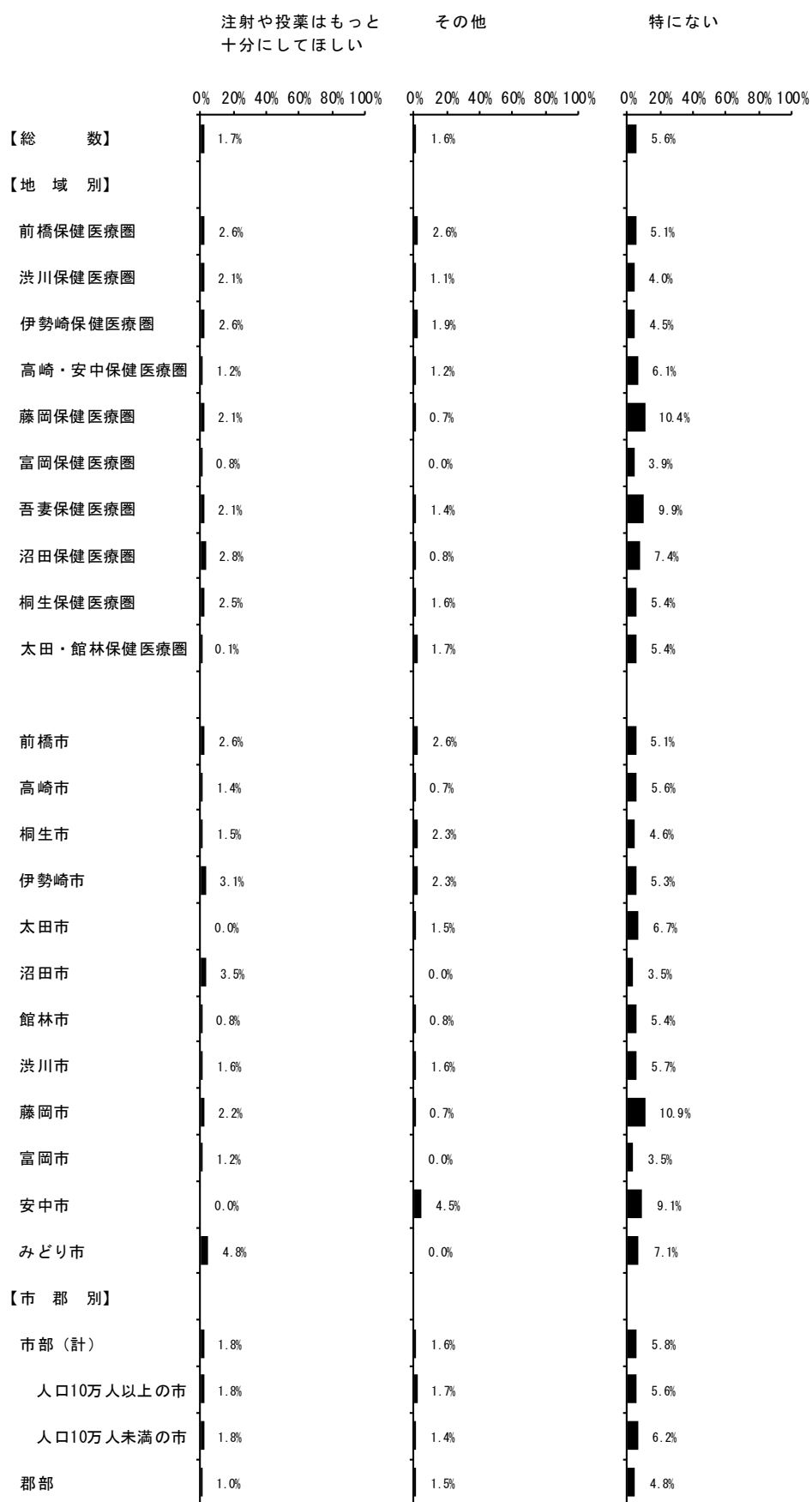
◆健康状態別

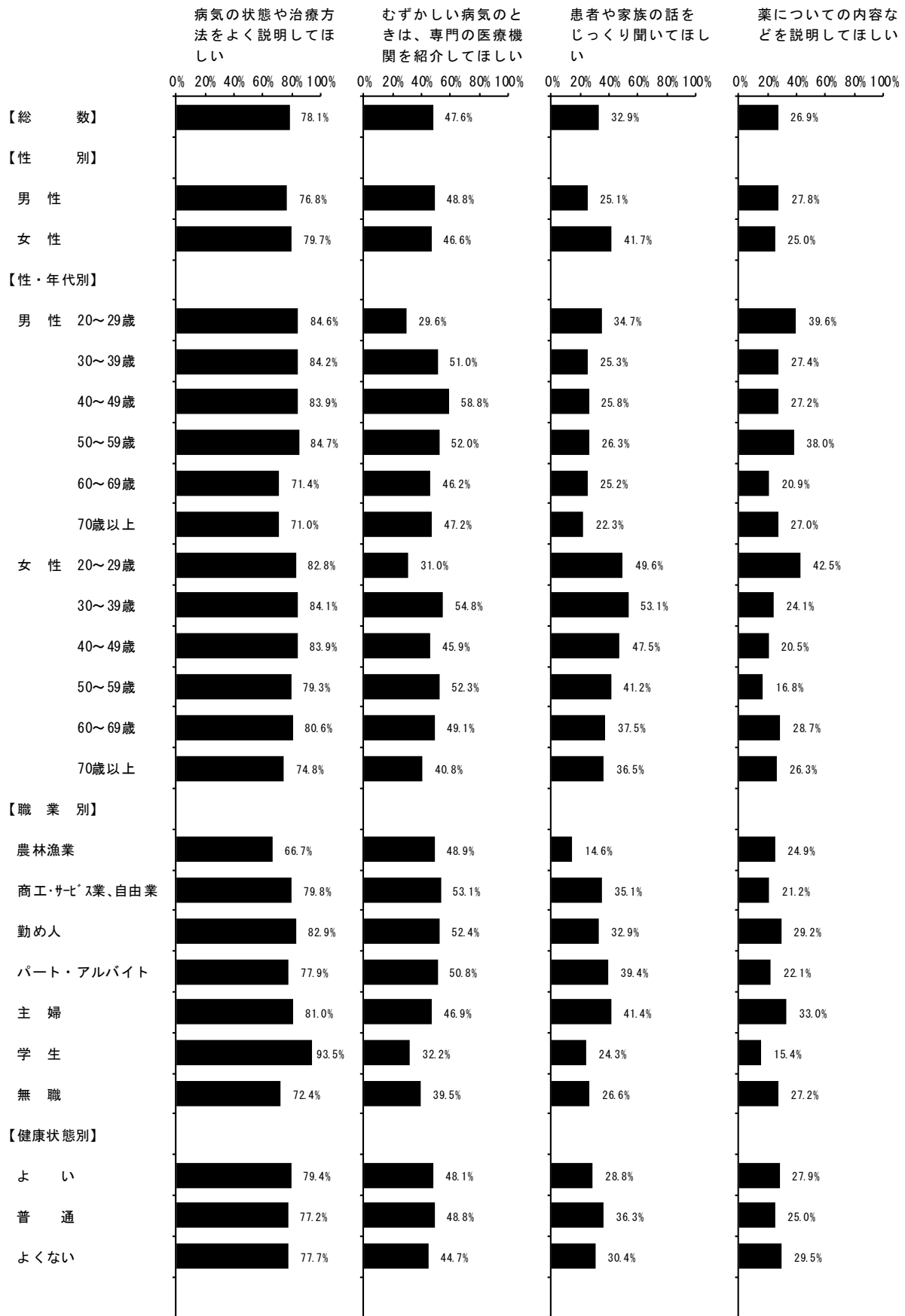
健康状態で差異はほとんどみられない。

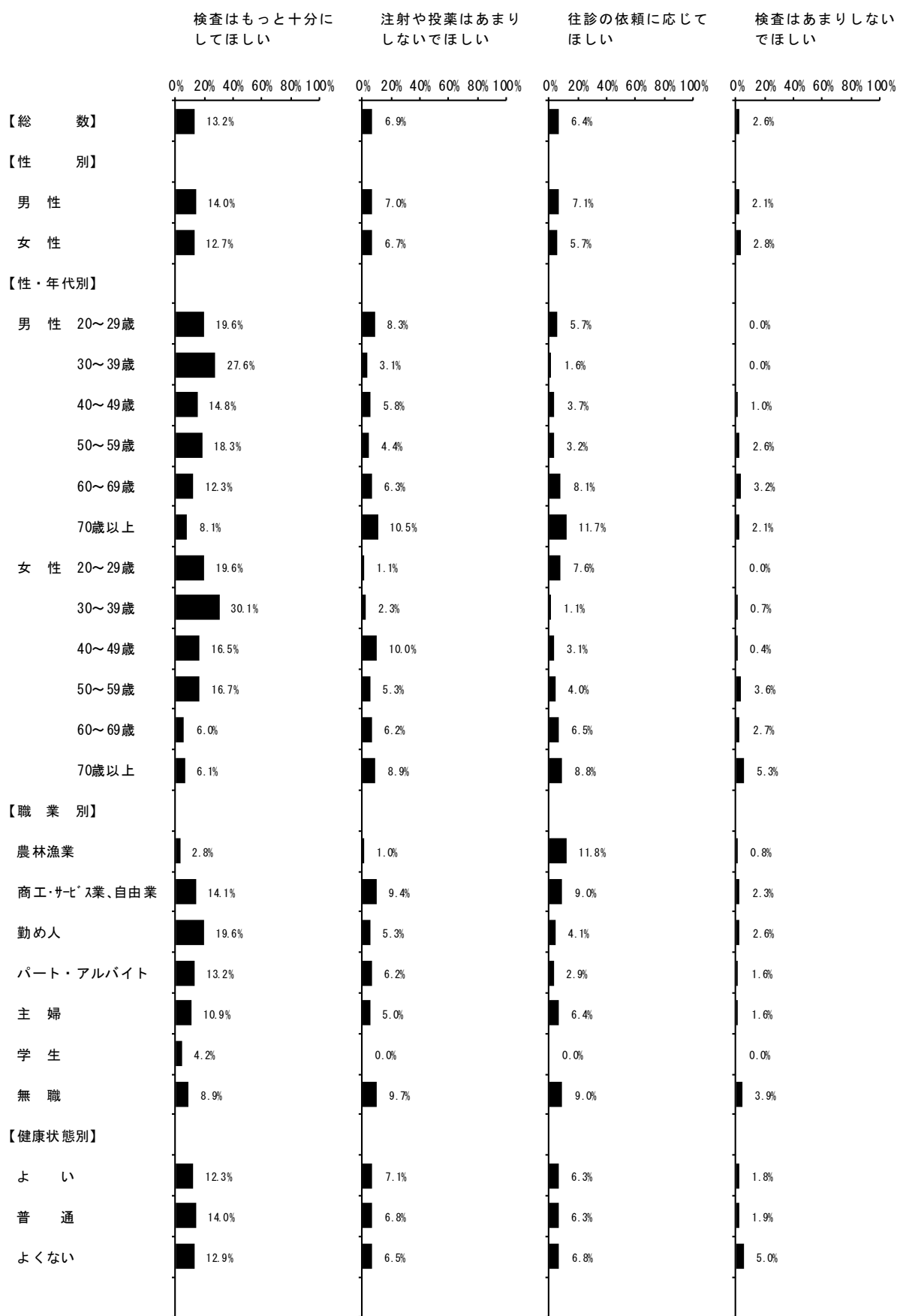
図 1 4 - 2 医療機関への要望（医師について）

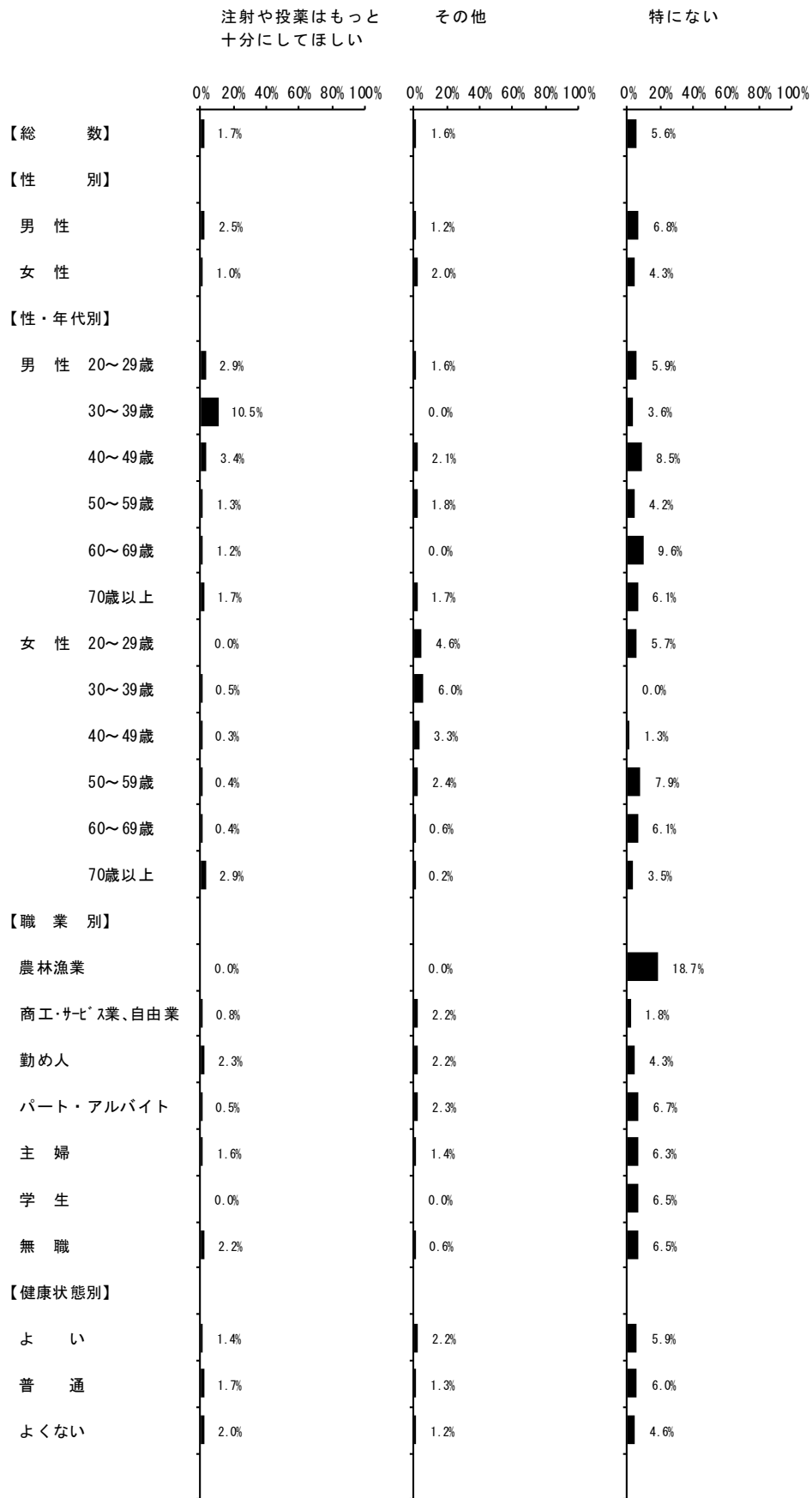






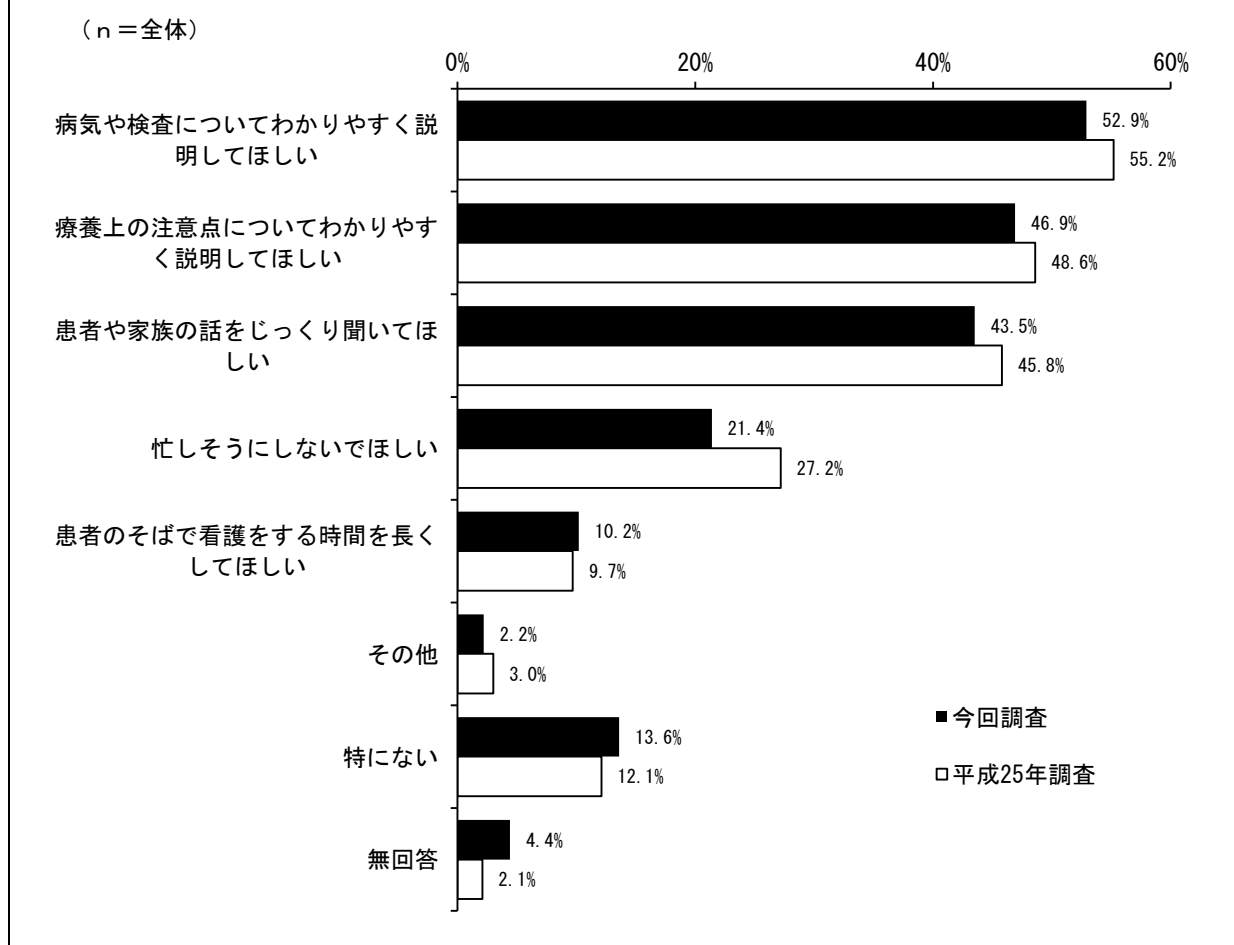






(2) 医療機関への要望（看護師について）

図 1 4 - 3



医療機関への要望として看護師については、「病気や検査についてわかりやすく説明してほしい」が 52.9%と最も多く、次いで「療養上の注意点についてわかりやすく説明してほしい」が 46.9%、「患者や家族の話をじっくり聞いてほしい」が 43.5%となっている。

平成 25 年調査結果との比較では、傾向は変わらない。

◆地域別

「病気や検査についてわかりやすく説明してほしい」は前橋保健医療圏が 59.0%と最も多く、次いで伊勢崎保健医療圏が 56.7%となっている。「療養上の注意点についてわかりやすく説明してほしい」は前橋保健医療圏が 54.7%と最も多く、次いで桐生保健医療圏が 48.8%となっている。「患者や家族の話をじっくり聞いてほしい」は富岡保健医療圏が 51.9%と最も多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で大きな差異はみられないが、「病気や検査についてわかりやすく説明してほしい」は市部 (52.0%) に比べ、郡部 (58.0%) の方が多くなっている。

◆性別

「療養上の注意点についてわかりやすく説明してほしい」と「患者や家族の話をじっくり聞いてほしい」は男性に比べ、女性の方が多くなっている。

◆性・年代別

「病気や検査についてわかりやすく説明してほしい」は30代女性が60.9%と最も多くなっており、20代男性は40.3%と最も少なくなっている。「療養上の注意点についてわかりやすく説明してほしい」は30代男性が58.2%と最も多くなっているが、20代男性は33.4%と最も少なくなっている。「患者や家族の話をじっくり聞いてほしい」は女性では若い年代ほど多くなる傾向がみられ、20代女性は59.9%と他の性別・年代と比べて多くなっている。

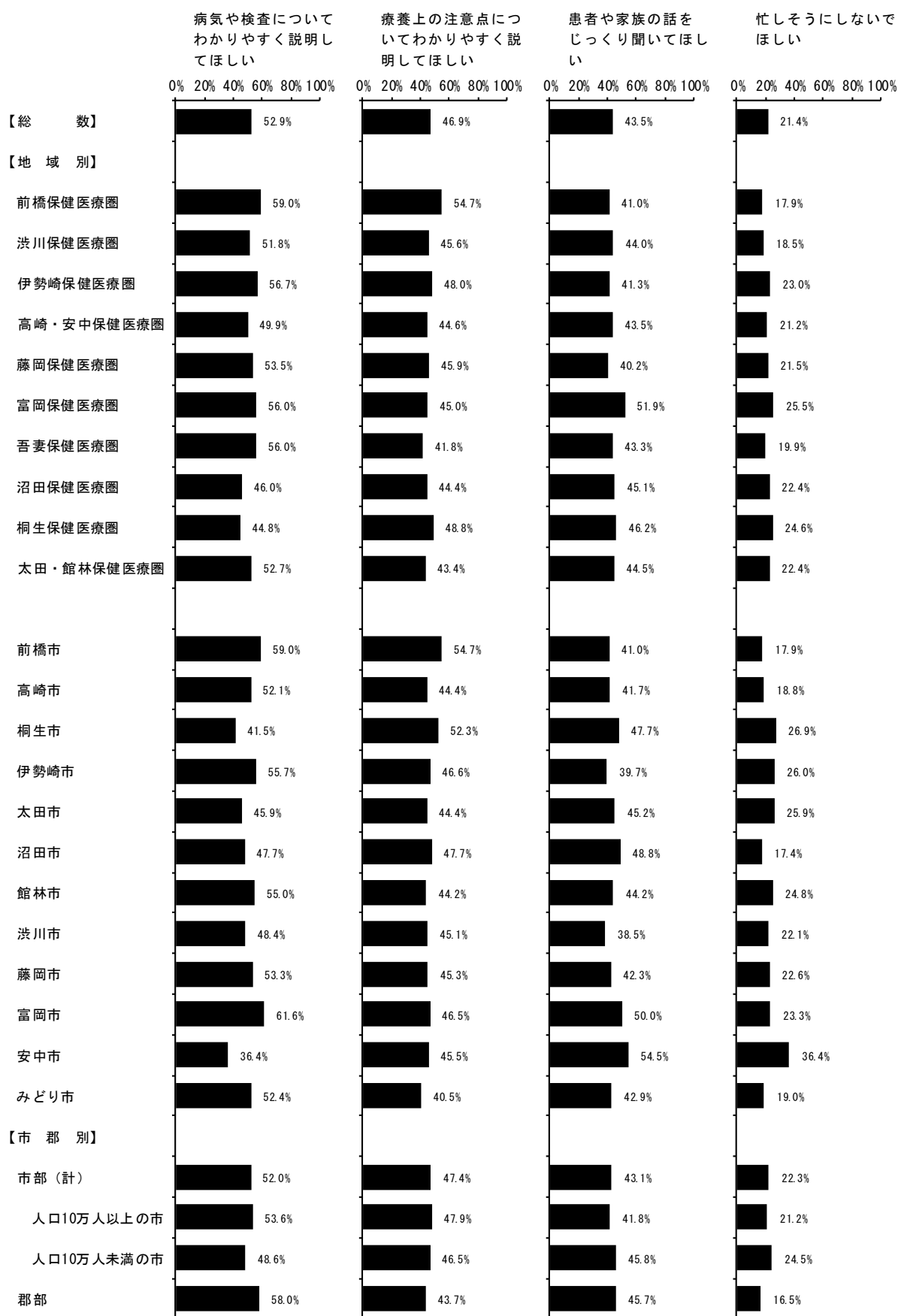
◆職業別

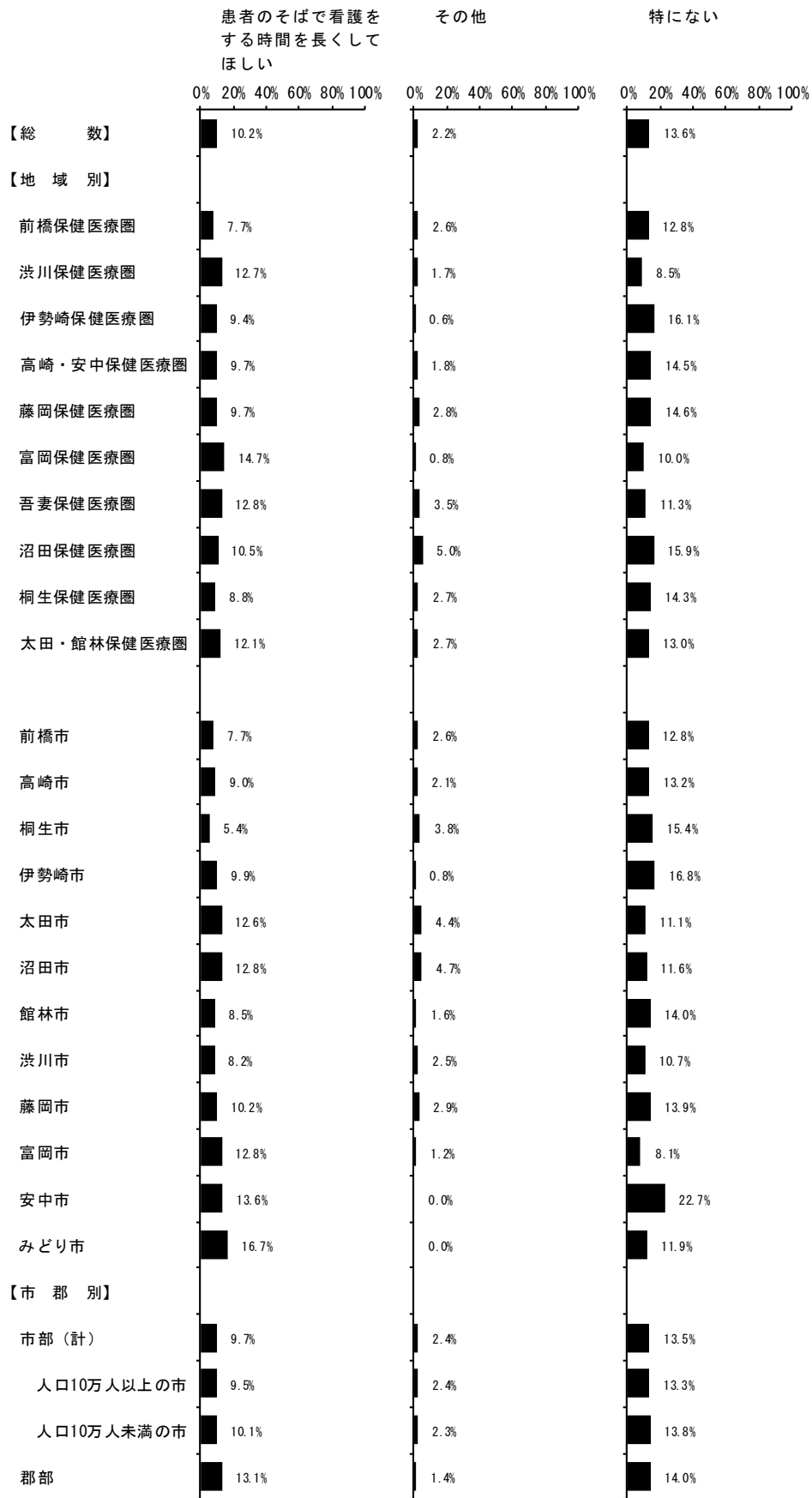
主婦は上位3項目の「病気や検査についてわかりやすく説明してほしい」(56.6%)、「療養上の注意点についてわかりやすく説明してほしい」(52.3%)、「患者や家族の話をじっくり聞いてほしい」(53.8%)が他の職業に比べ多くなっている。

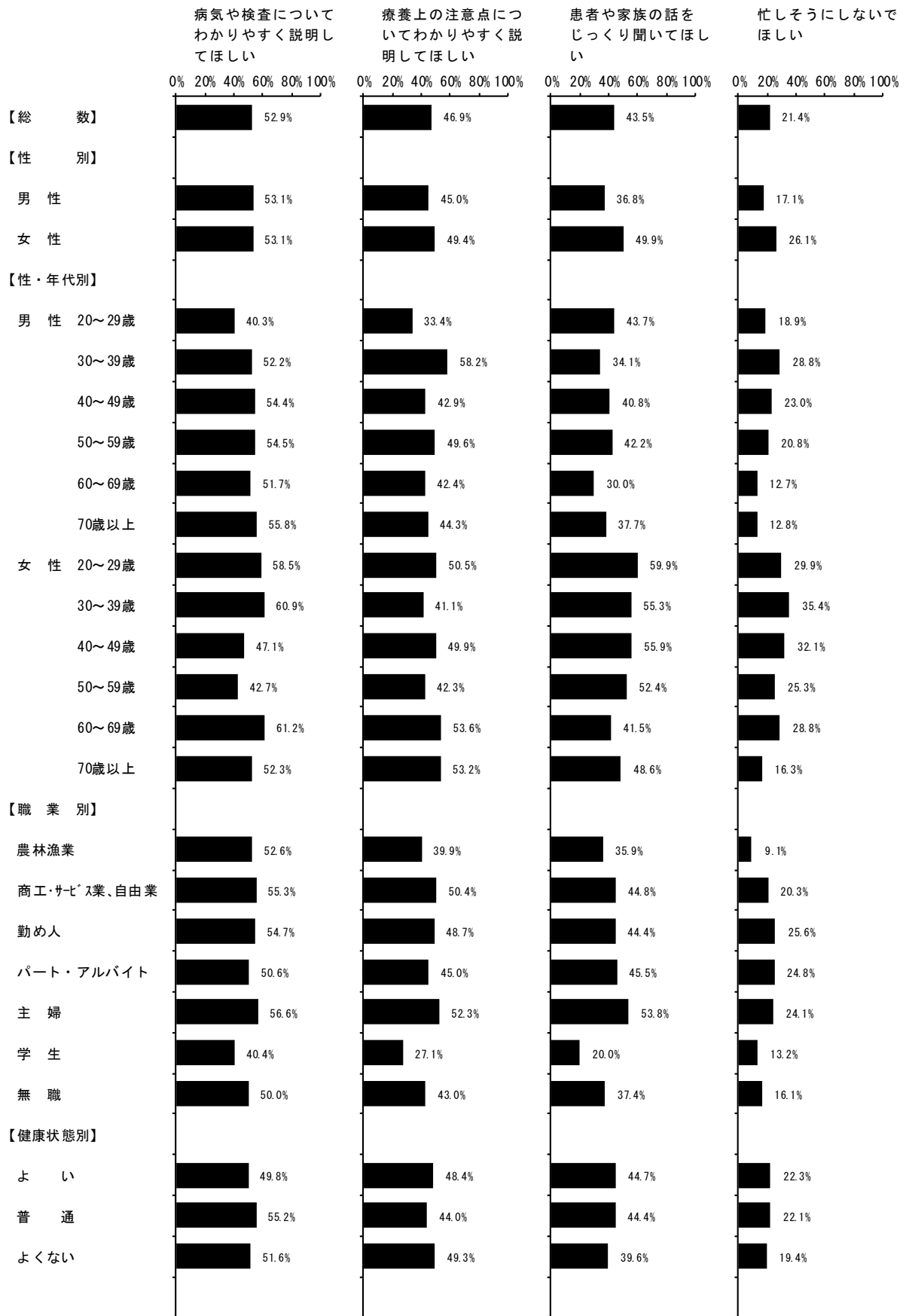
◆健康状態別

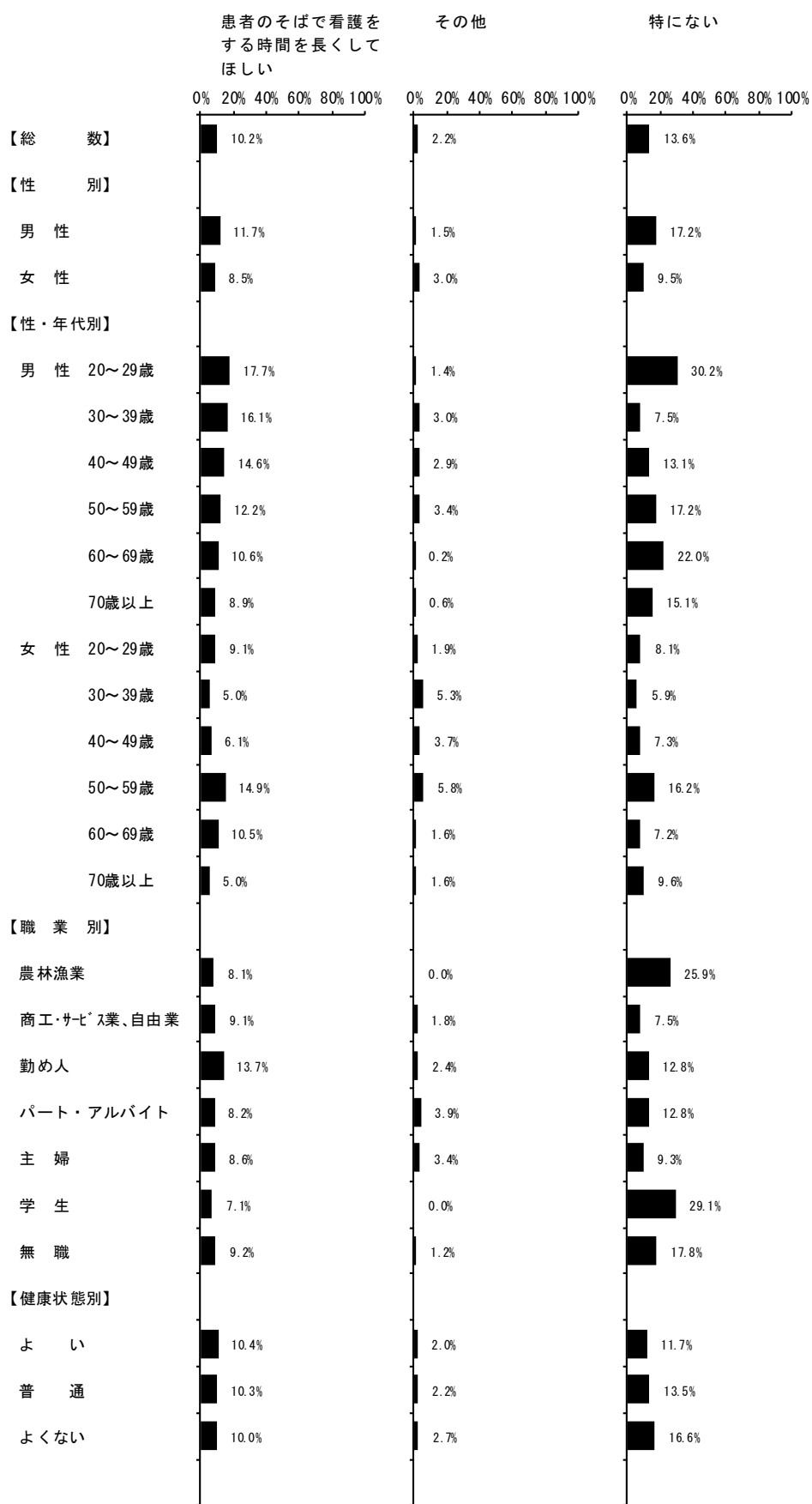
健康状態で差異はほとんどみられない。

図14-4 医療機関への要望（看護師について）



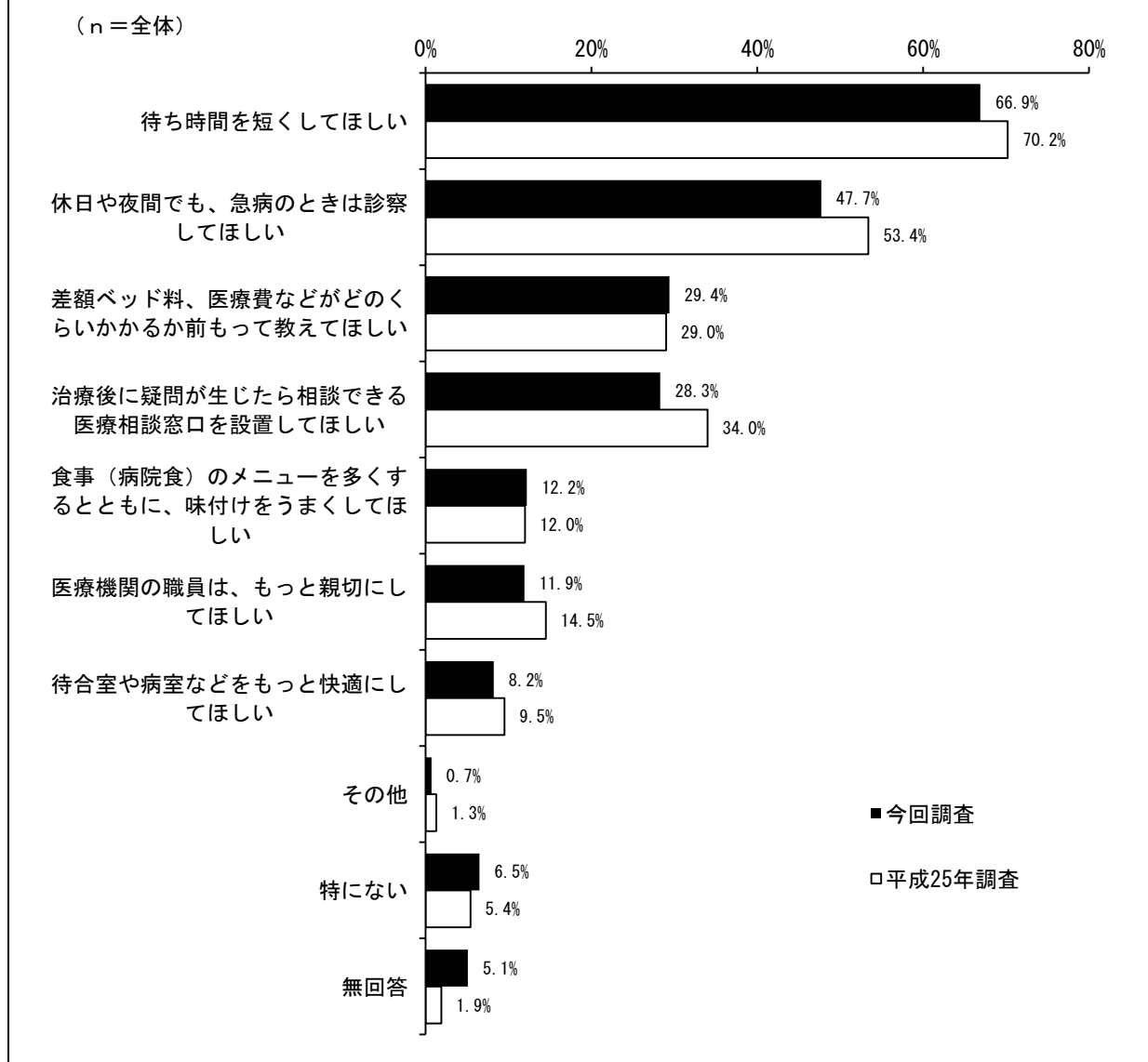






(3) 医療機関への要望（施設・サービスについて）

図 14-5



医療機関への要望として施設・サービスについては、「待ち時間を短くしてほしい」が66.9%と最も多く、次いで「休日や夜間でも、急病のときは診察してほしい」が47.7%となっている。

平成25年調査結果との比較では、「待ち時間を短くしてほしい」、「休日や夜間でも、急病のときは診察してほしい」、「治療後に疑問が生じたら相談できる医療相談窓口を設置してほしい」が少なくなっている。

◆地域別

「待ち時間を短くしてほしい」は太田・館林保健医療圏が73.5%と最も多く、次いで伊勢崎保健医療圏が70.9%となっている。「休日や夜間でも、急病のときは診察してほしい」は吾妻保健医療圏が58.2%と最も多く、次いで太田・館林保健医療圏が54.4%、渋川保健医療圏が54.1%となっている。

◆市郡別

「待ち時間を短くしてほしい」と「休日や夜間でも、急病のときは診察してほしい」は市部に比べ、郡部の方が多くなっている。

◆性別

「差額ベッド料、医療費などがどのくらいかかるか前もって教えてほしい」と「治療後に疑問が生じたら相談できる医療相談窓口を設置してほしい」は男性に比べ、女性の方が多くなっている。

◆性・年代別

いずれの性別・年代も「待ち時間を短くしてほしい」が最も多くなっている。その中でも60代男性が75.1%と最も多く、次いで50代女性が74.5%となっている。また、「差額ベッド料、医療費などがどのくらいかかるか前もって教えてほしい」は女性では若い年齢ほど多くなる傾向がみられ、20代女性は44.4%と最も多くなっている。

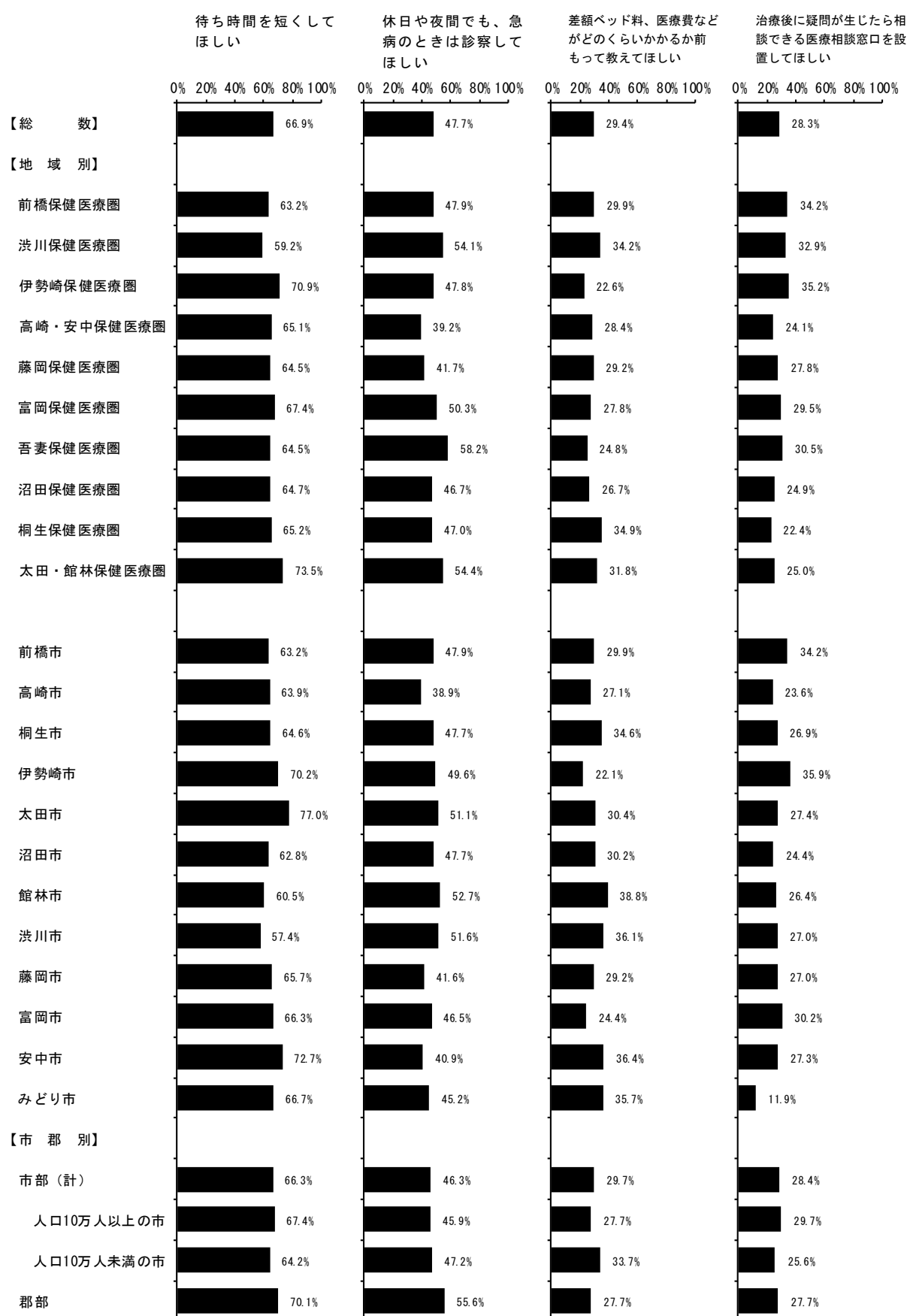
◆職業別

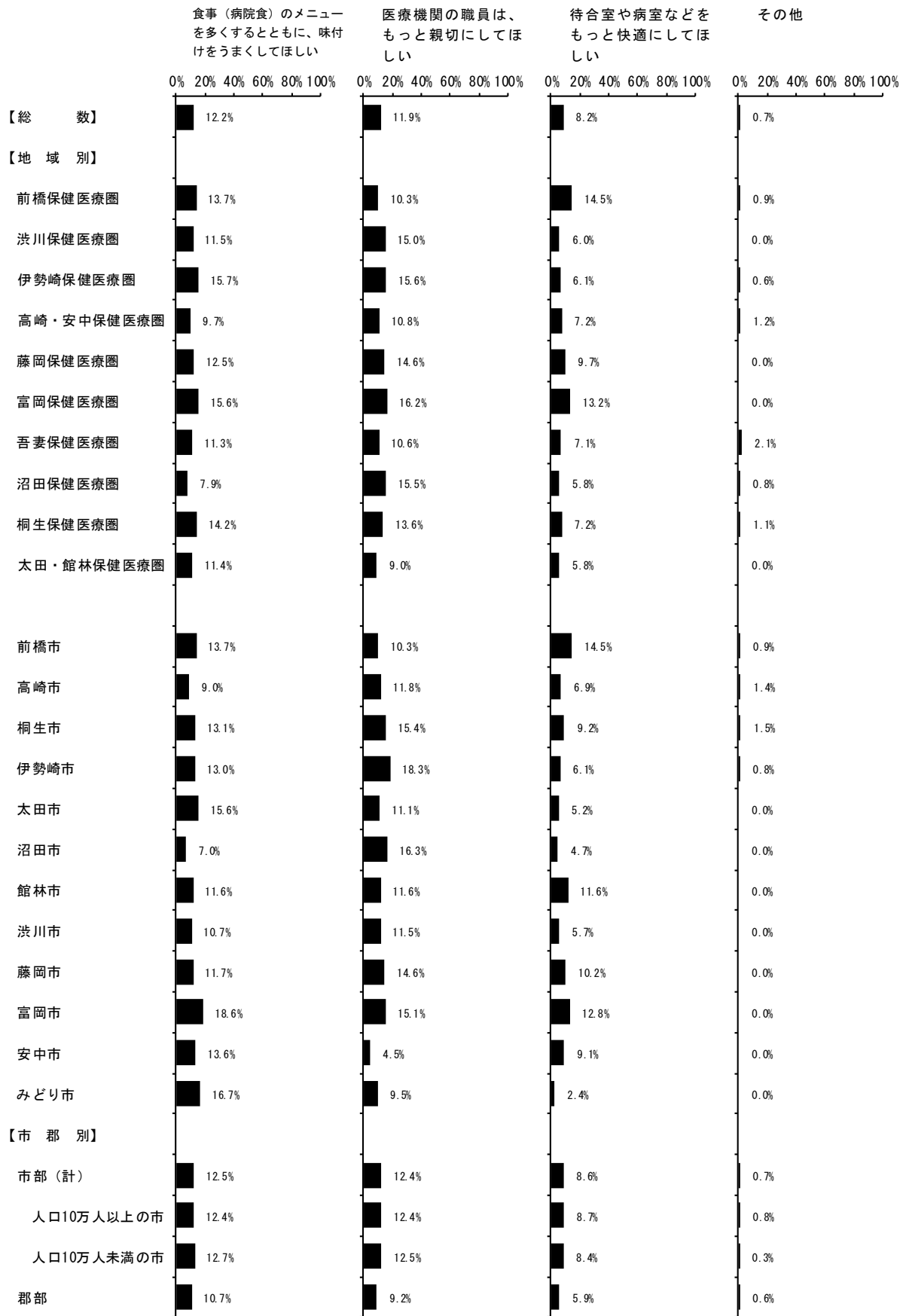
「待ち時間を短くしてほしい」は勤め人が74.1%と最も多くなっている。また、「差額ベッド料、医療費などがどのくらいかかるか前もって教えてほしい」と「治療後に疑問が生じたら相談できる医療相談窓口を設置してほしい」はパート・アルバイトと主婦が他の職業に比べ多くなっている。

◆健康状態別

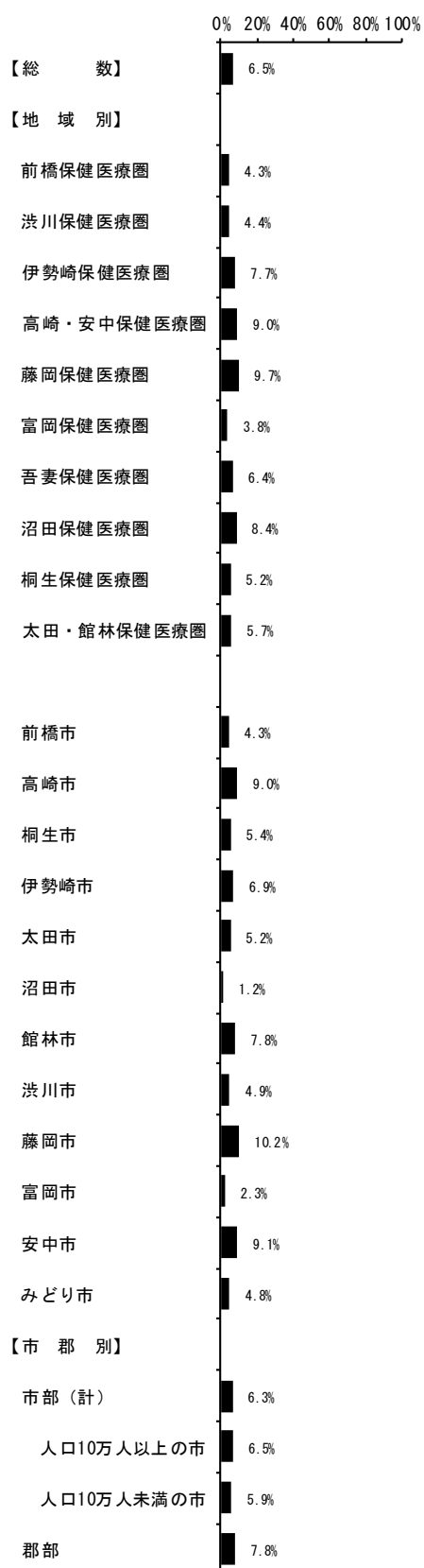
健康状態で差異はほとんどみられない。

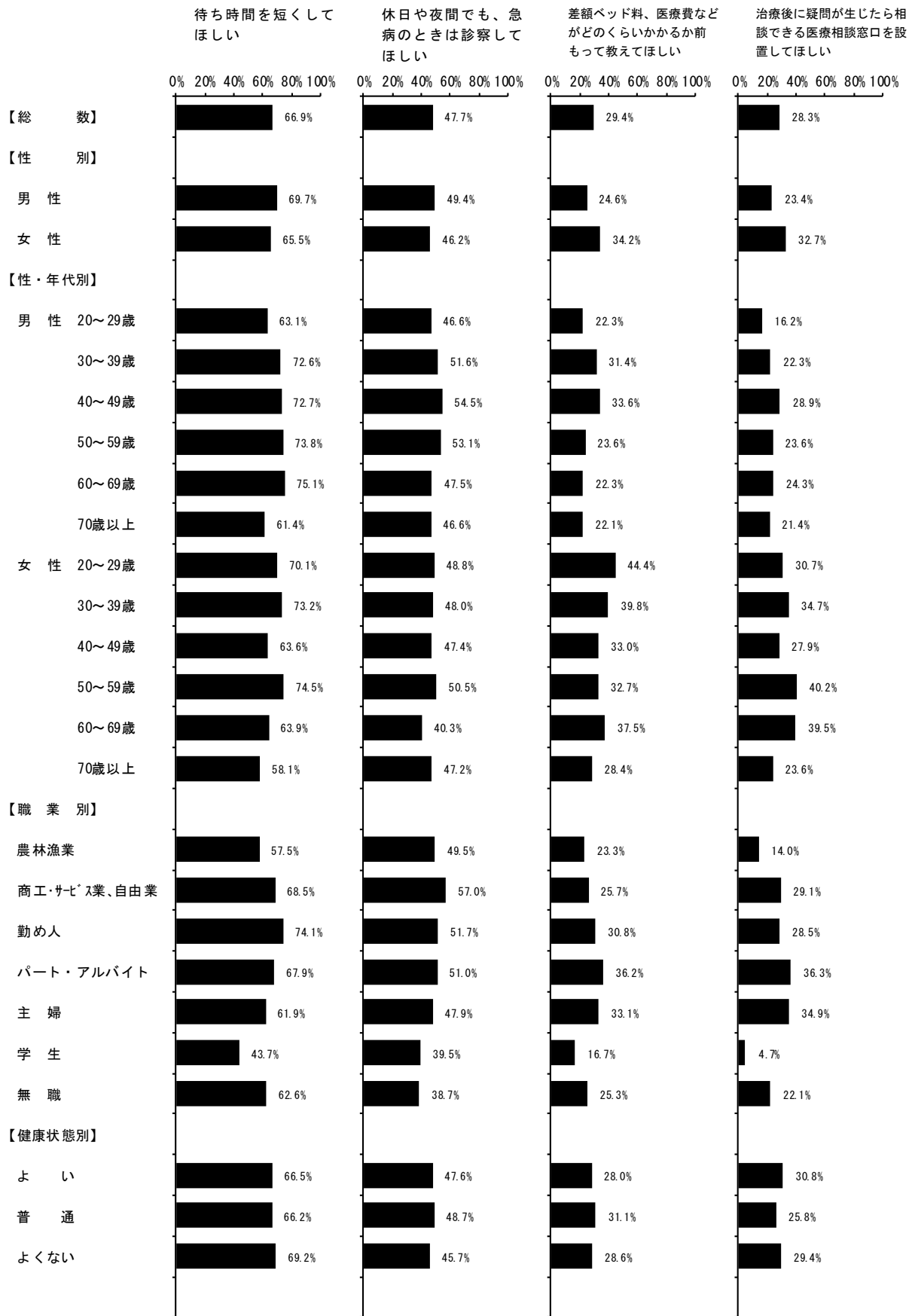
図14-6 医療機関への要望（施設・サービスについて）

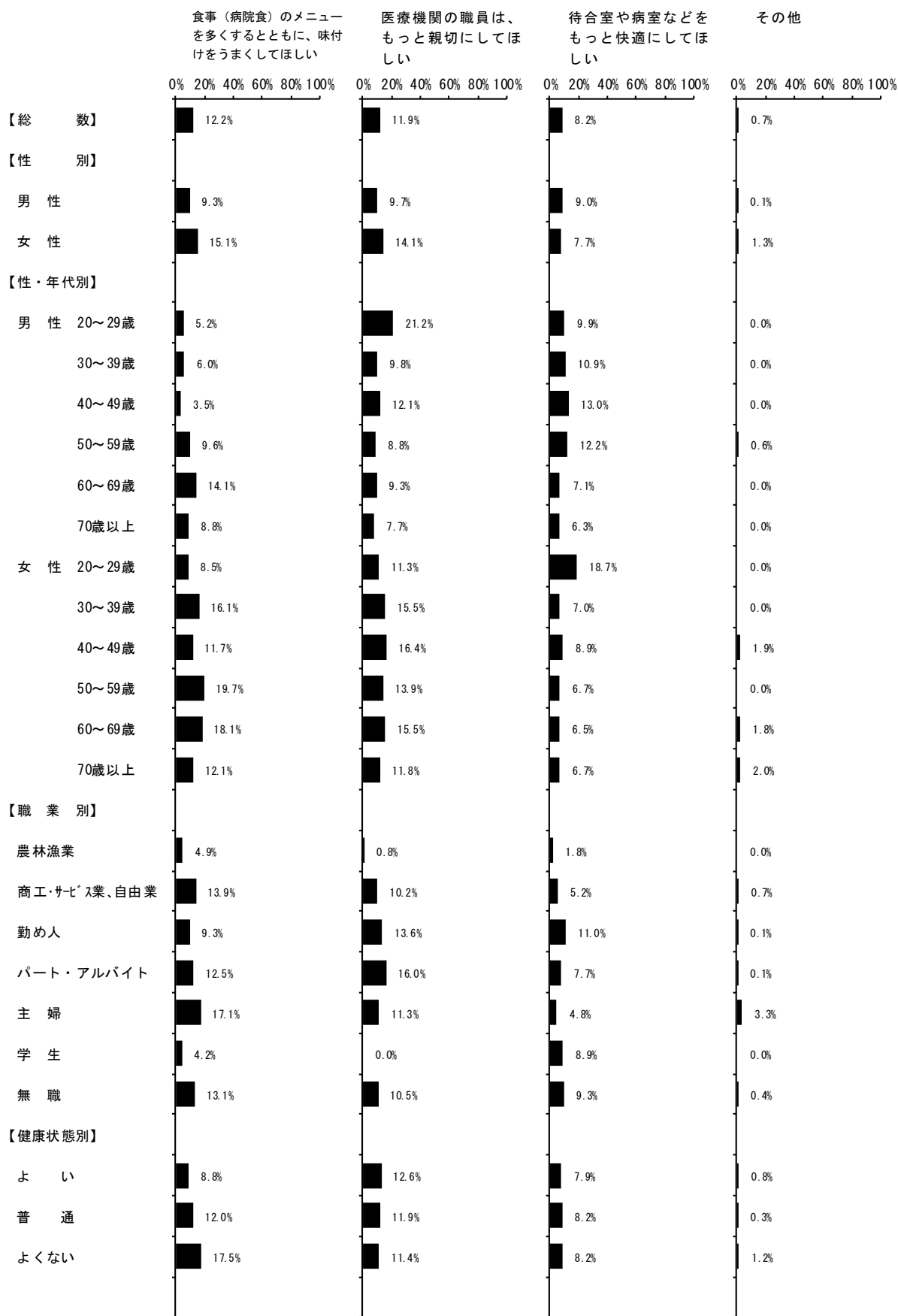




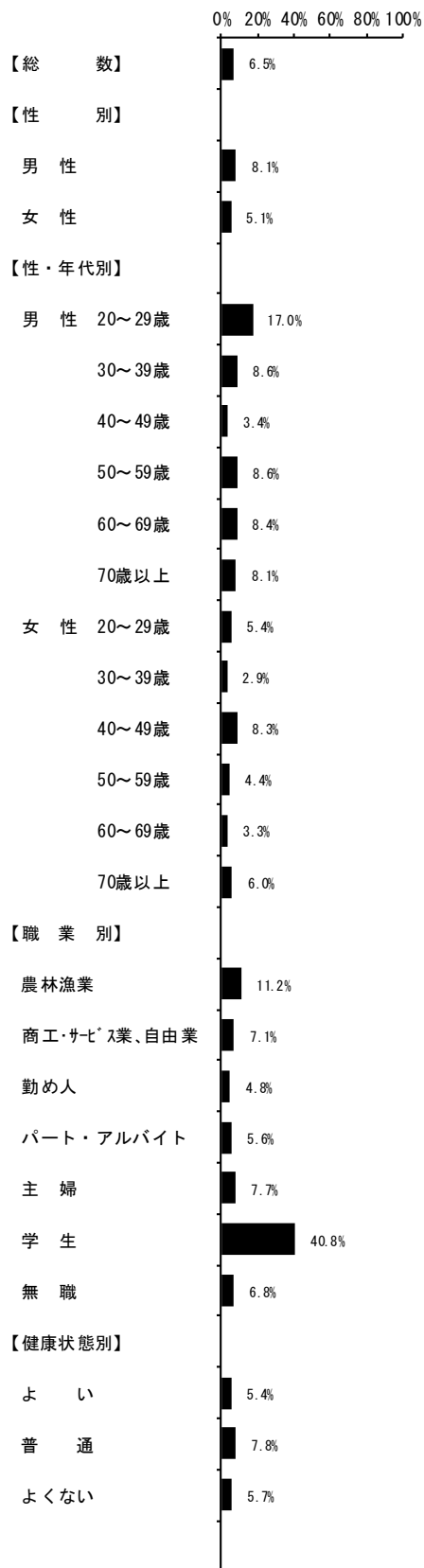
特になし







特になし



15 保健医療情報について

(1) 知りたい保健医療情報

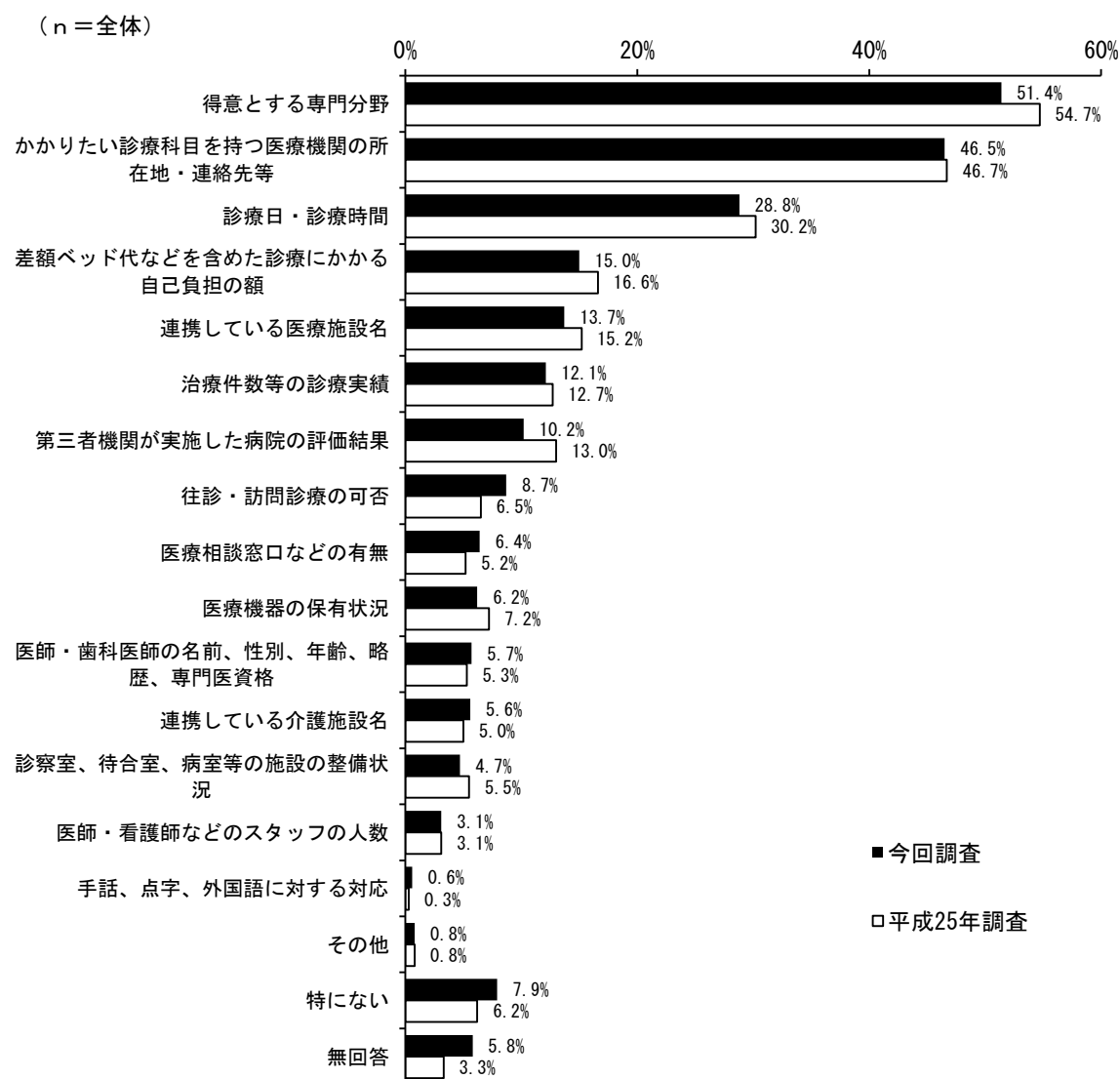
～医療機関を選択するための情報は「得意とする専門分野」51.4%

それ以外の情報は「病気の症状や予防・治療に関する情報」49.7%～

問30 知りたい保健や医療に関する情報は何ですか。(〇はそれぞれ3つまで)

(1) 医療機関を選択するための情報

図15-1



知りたい保険や医療に関する情報で、医療機関を選択するための情報は「得意とする専門分野」が51.4%と最も多く、次いで「かかりたい診療科目を持つ医療機関の所在地・連絡先等」が46.5%、「診療日・診療時間」が28.8%となっている。

平成25年調査結果との比較では、ほぼ同様の傾向となっており、上位3項目は変わらないが、「得意とする専門分野」はやや少なくなっている。

◆地域別

いずれの地域も「得意とする専門分野」が最も多くなっている。また、「かかりたい診療科目を持つ医療機関の所在地・連絡先等」は桐生保健医療圏が55.6%と最も多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で大きな差異はみられないが、「診療日・診療時間」は市部（27.9%）に比べ、郡部（34.1%）の方が多くなっている。

◆性別

男性と女性で大きな差異はみられないが、「得意とする専門分野」は女性（49.2%）に比べ、男性（54.4%）の方が多くなっている。一方、「かかりたい診療科目を持つ医療機関の所在地・連絡先等」は男性（43.7%）に比べ、女性（50.0%）の方が多くなっている。

◆性・年代別

上位3項目の「得意とする専門分野」、「かかりたい診療科目を持つ医療機関の所在地・連絡先等」、「診療日・診療時間」は30代をピークに若い年代ほど多くなる傾向がみられる。

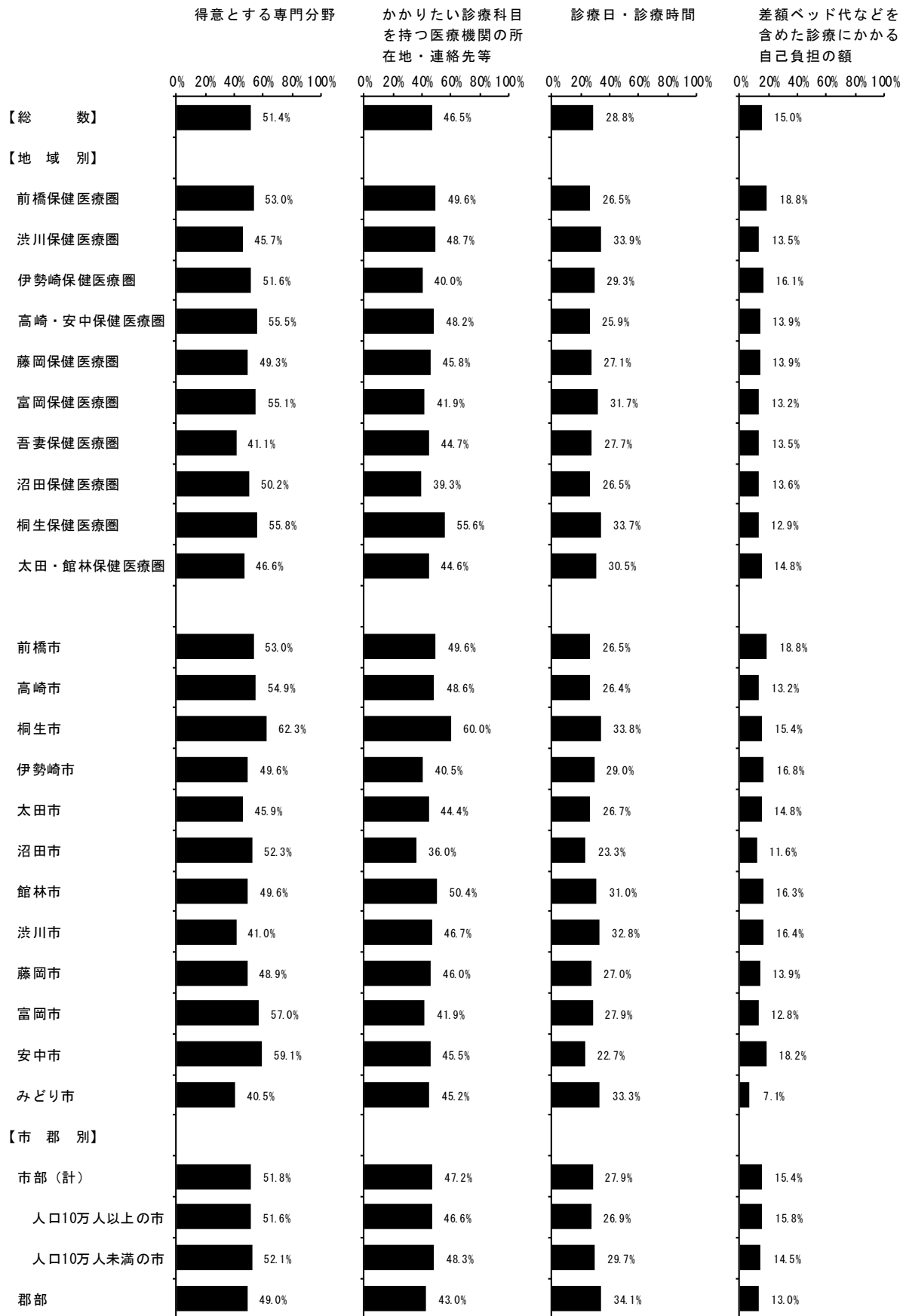
◆職業別

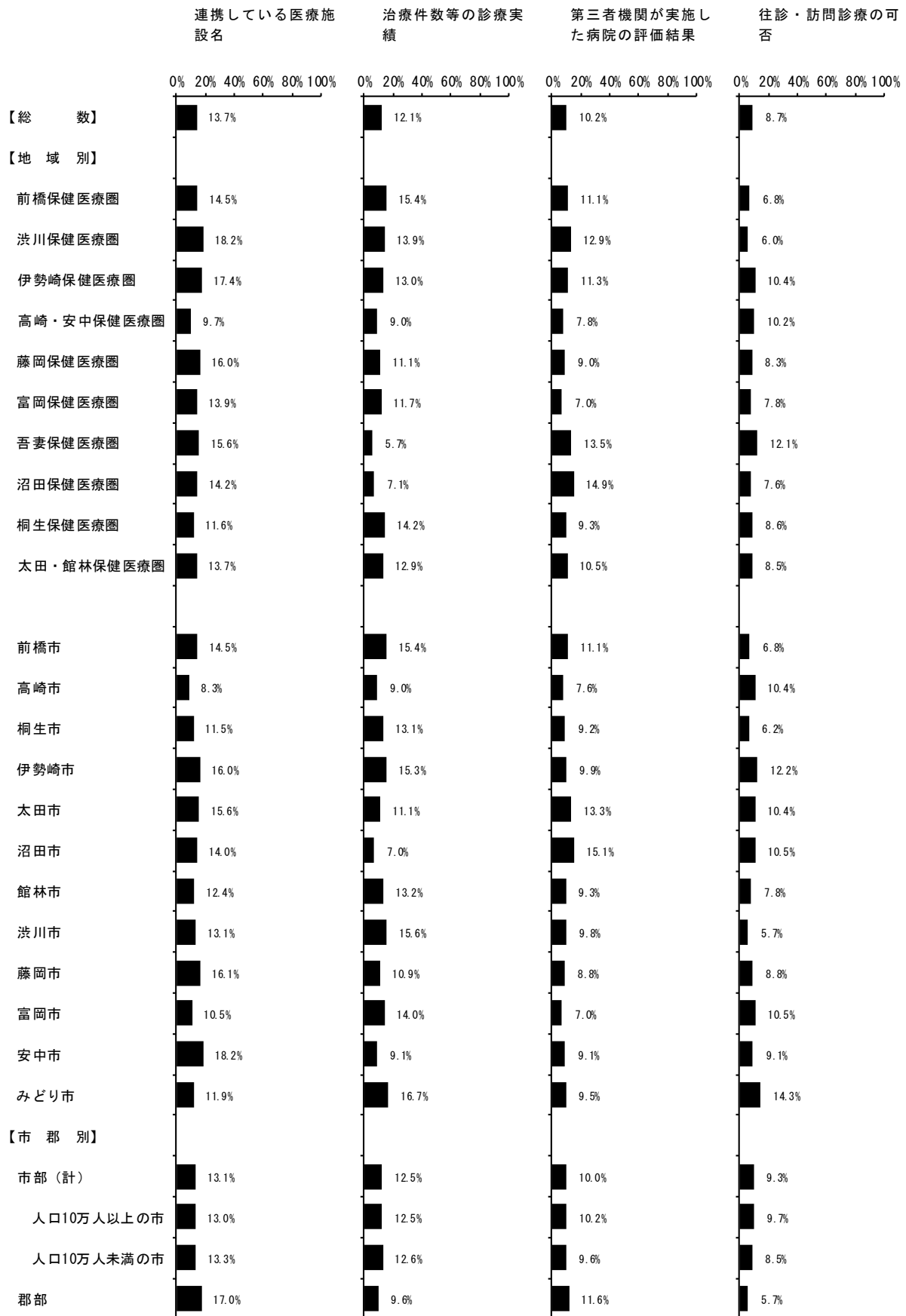
農業漁業は「得意とする専門分野」が28.5%と他の職業に比べ少なくなっている。

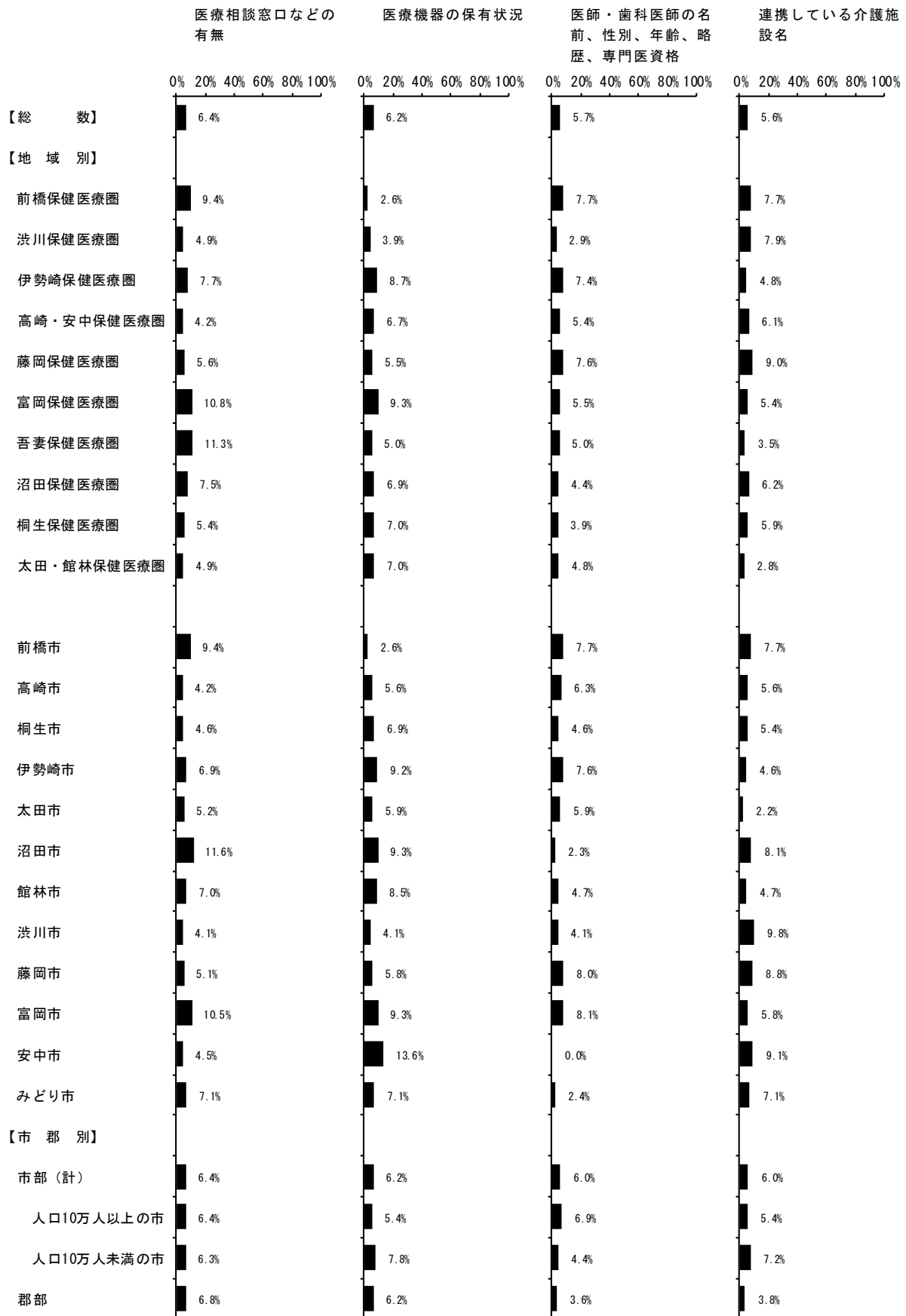
◆健康状態別

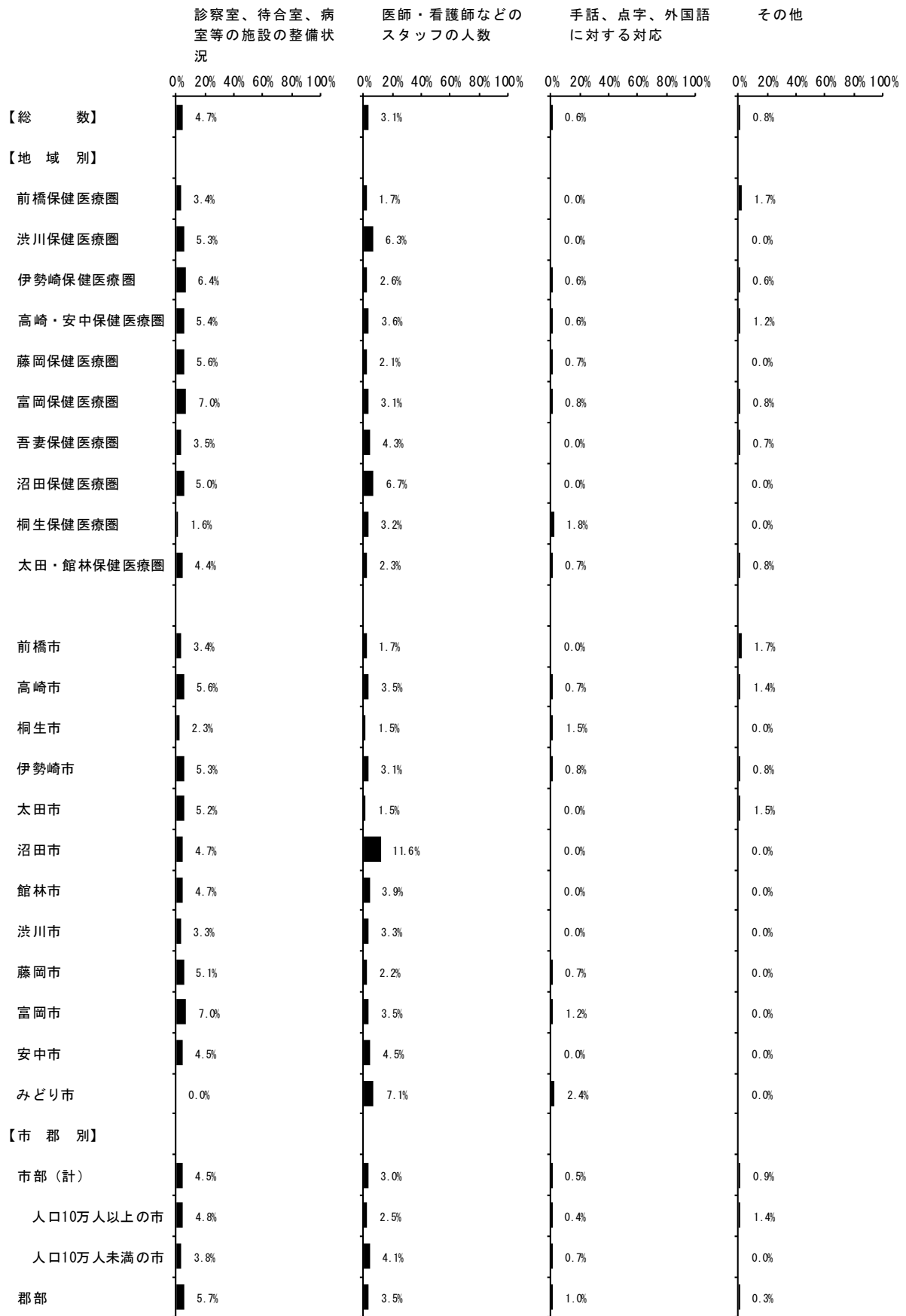
健康状態で差異はほとんどみられない。

図15-2 知りたい保健医療情報（医療機関を選択するための情報）

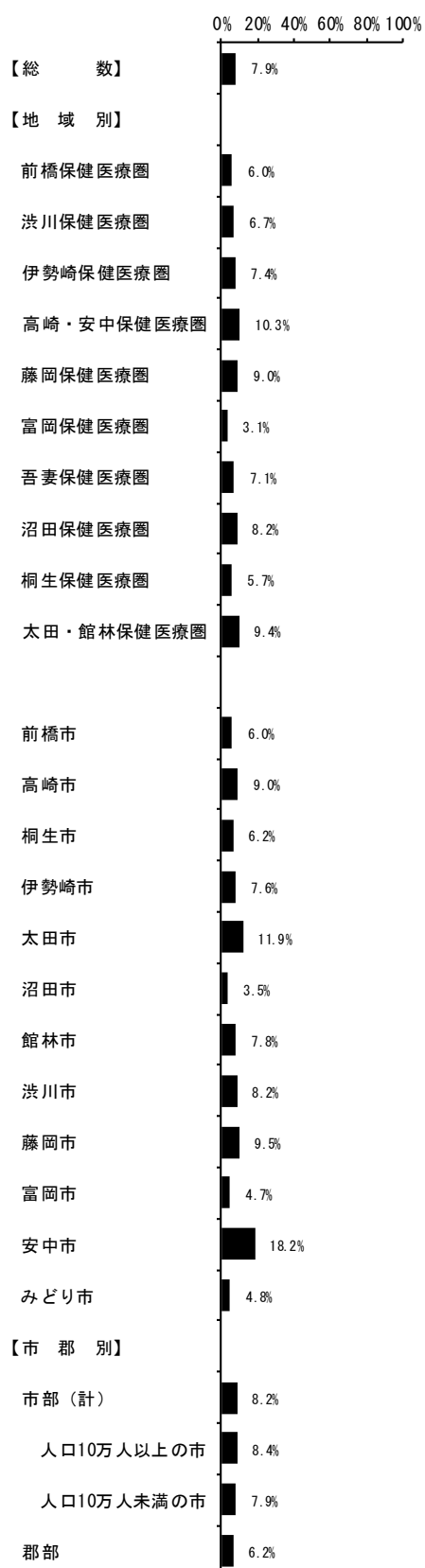


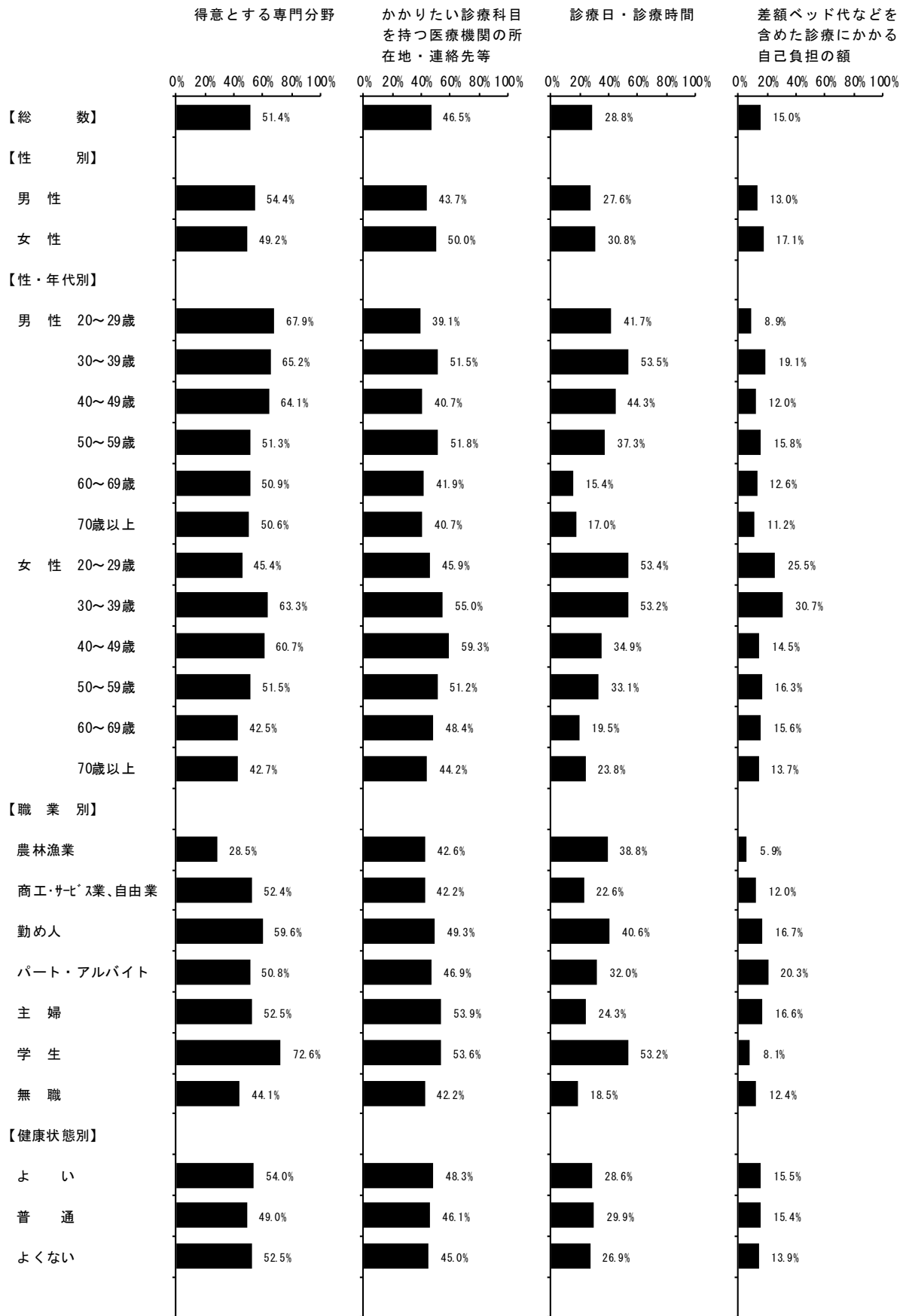


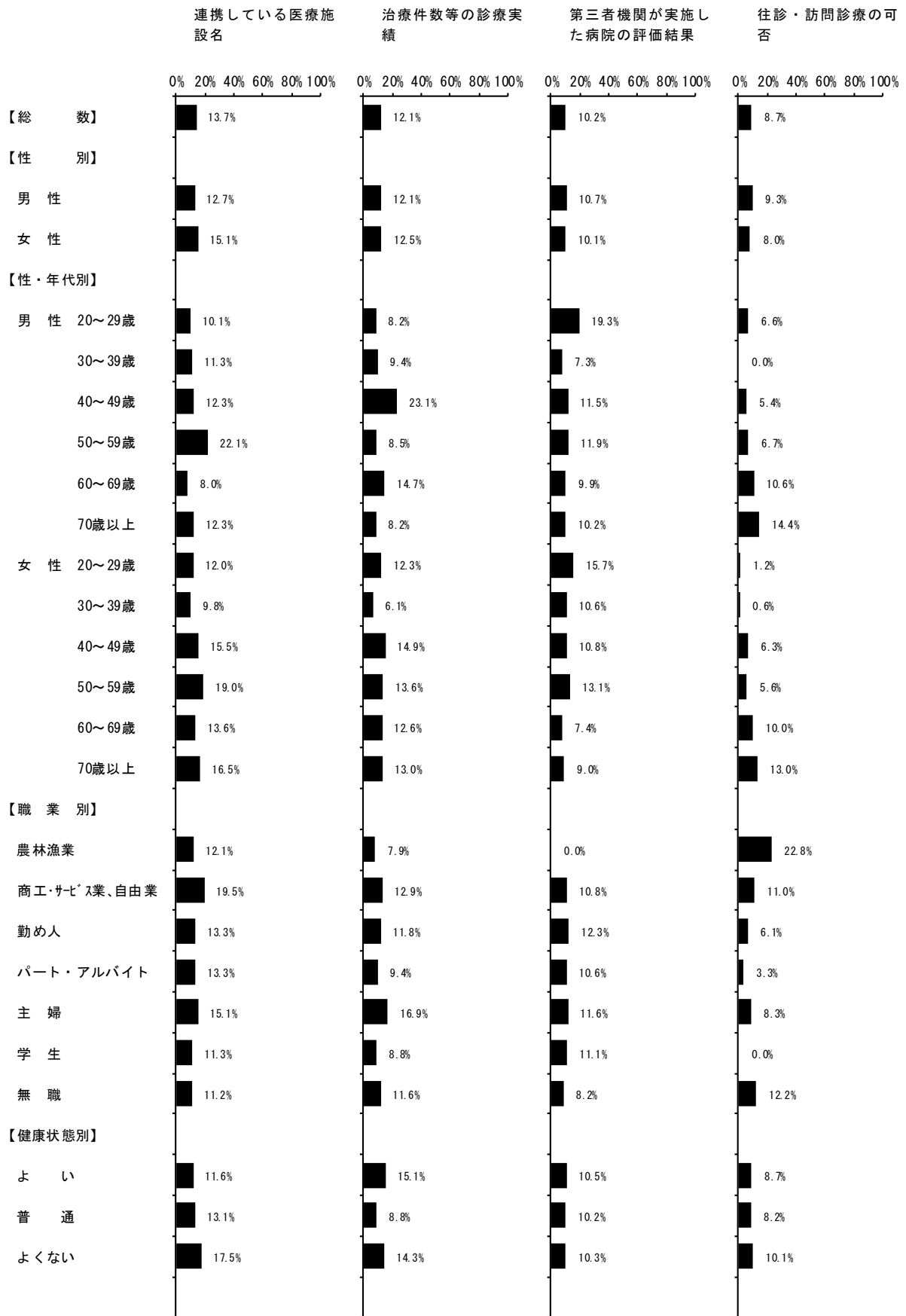


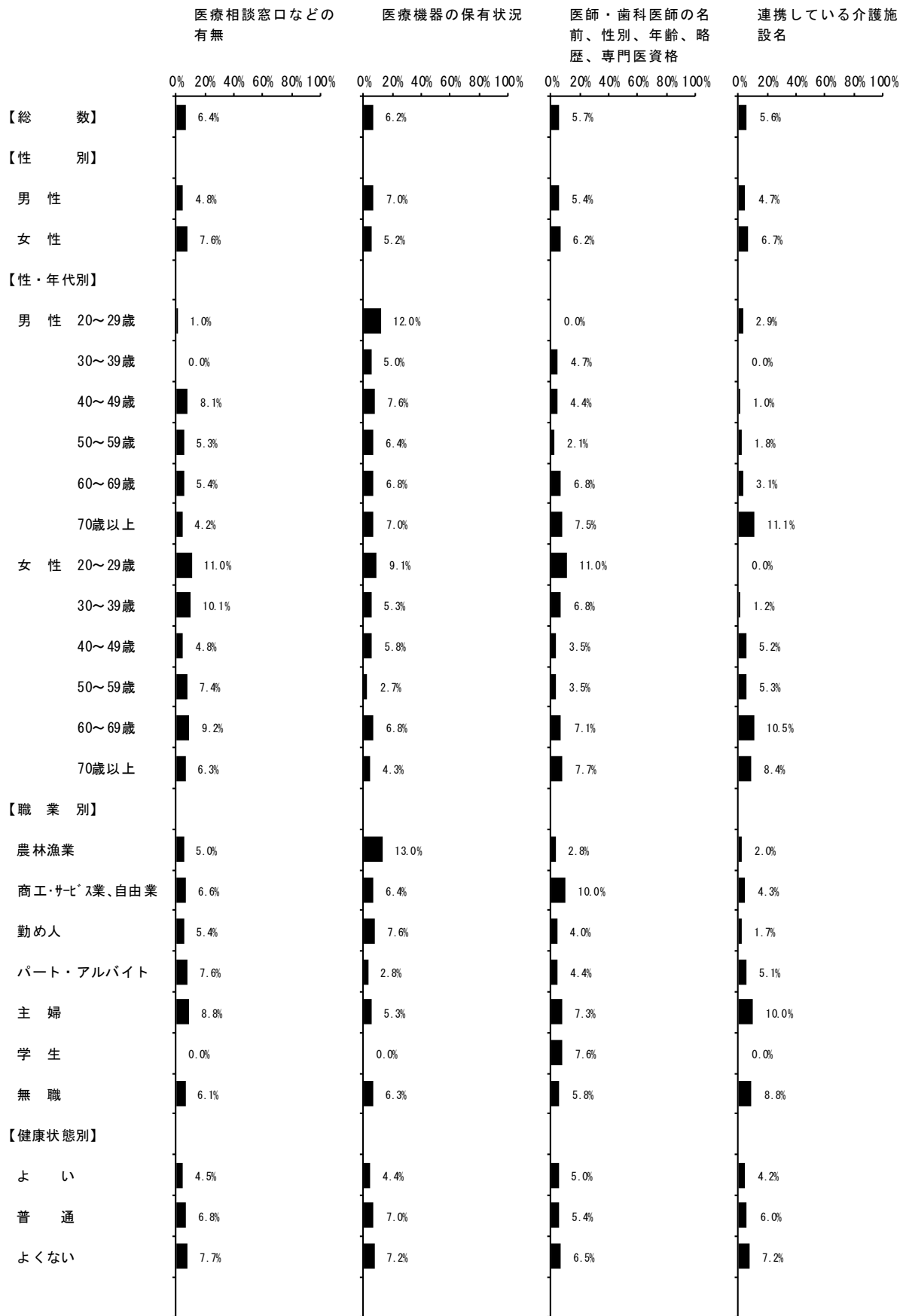


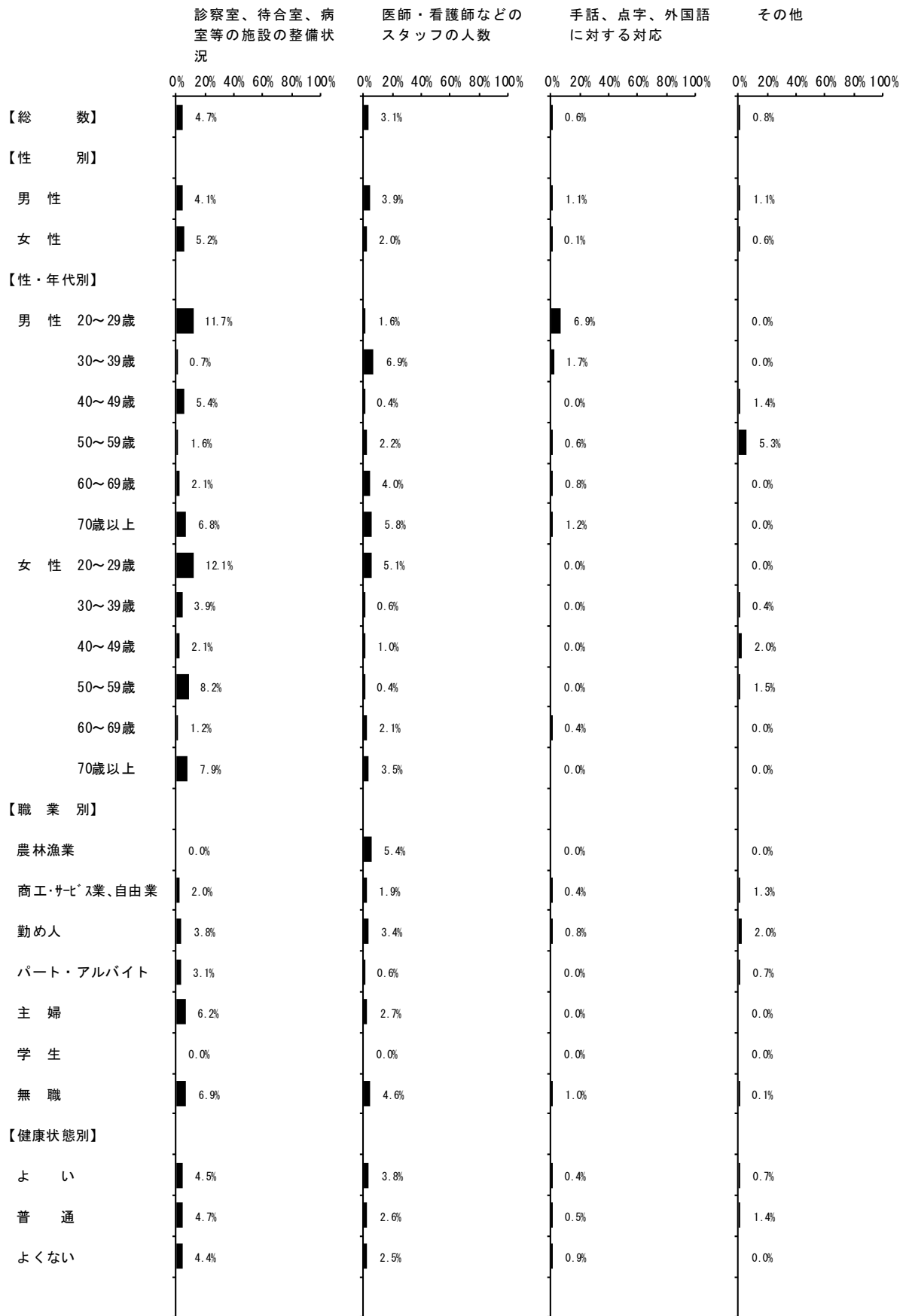
特になし



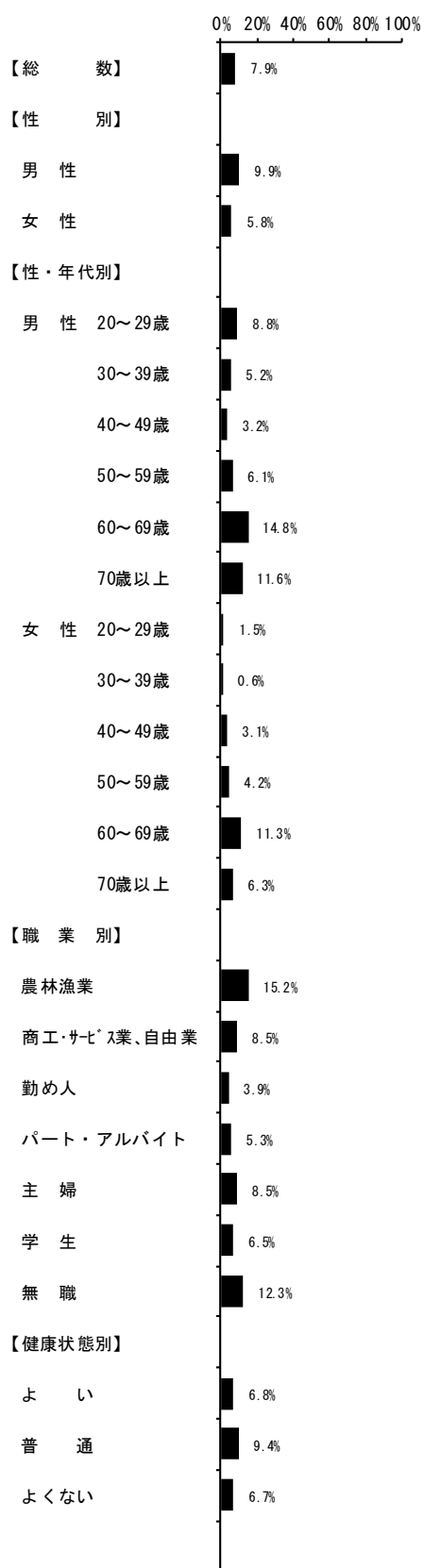








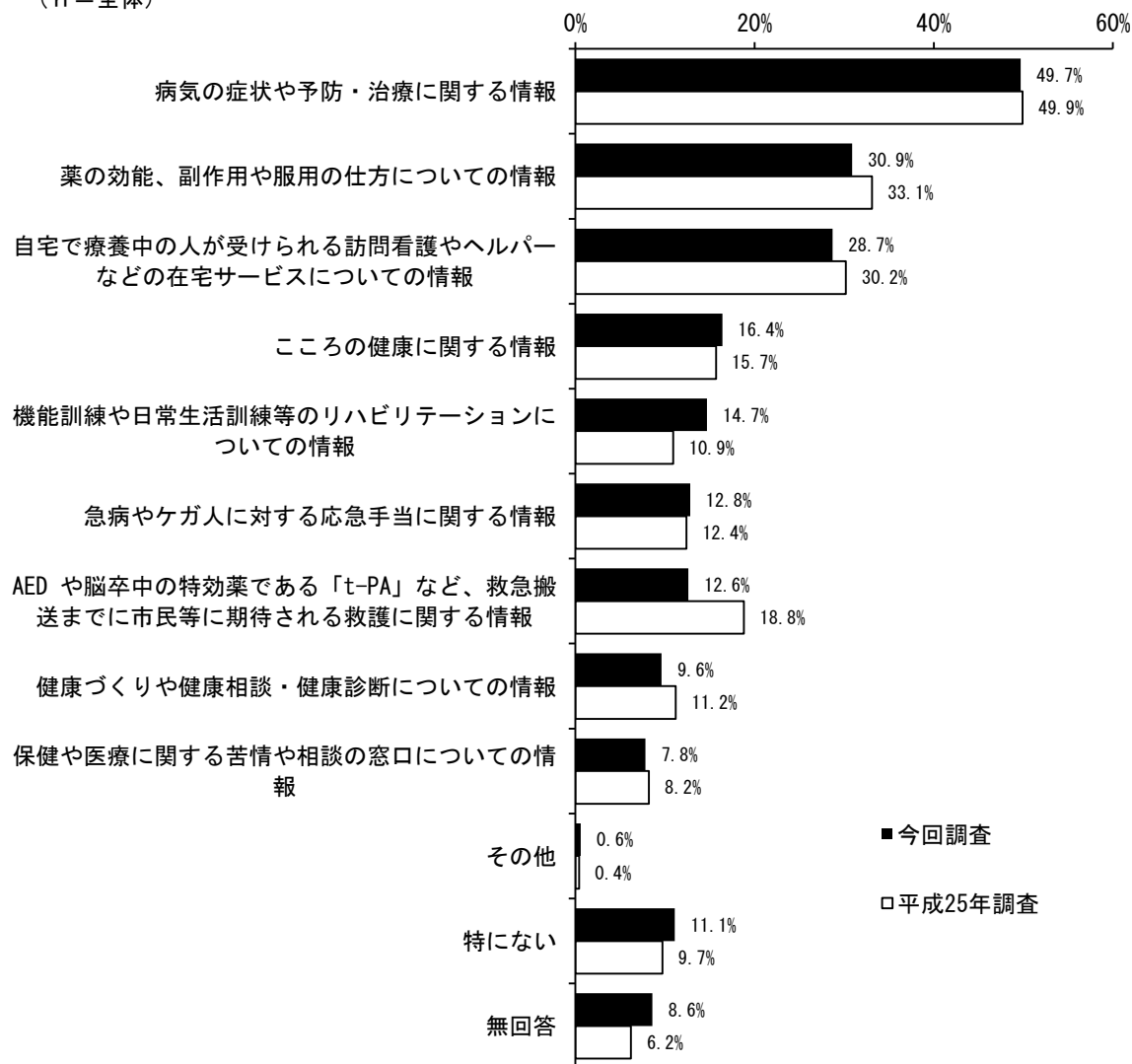
特になし



(2) 医療機関選択以外の保健医療情報

図 15-3

(n = 全体)



知りたい保険や医療に関する情報で、医療機関を選択するため以外の情報は、「病気の症状や予防・治療に関する情報」が 49.7%と最も多く、次いで「薬の効能、副作用や服用の仕方についての情報」が 30.9%、「自宅で療養中の人を受けられる訪問看護やヘルパーなどの在宅サービスについての情報」が 28.7%となっている。

平成 25 年調査結果との比較では、ほぼ同様の傾向となっているが、「AED や脳卒中の特効薬である「t-PA」など、救急搬送までに市民等に期待される救護に関する情報」は少なくなっている。

◆地域別

いずれの地域も「病気の症状や予防・治療に関する情報」が最も多くなっている。その中でも、伊勢崎保健医療圏は 56.8%と最も多くなっている。また、前橋保健医療圏では「自宅で療養中の人を受けられる訪問看護やヘルパーなどの在宅サービスについての情報」が 36.8%と他の地域に比べ多くなっている。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

男性と女性で差異はほとんどみられない。

◆性・年代別

「病気の症状や予防・治療に関する情報」は男性と女性とも若い年代ほど多くなる傾向がみられる。また、「薬の効能、副作用や服用の仕方についての情報」は男性では若い年代ほど多くなる傾向がみられ、20代男性は39.9%となっている。また、20代女性が53.0%と他の性別・年代と比べて最も多くなっている。

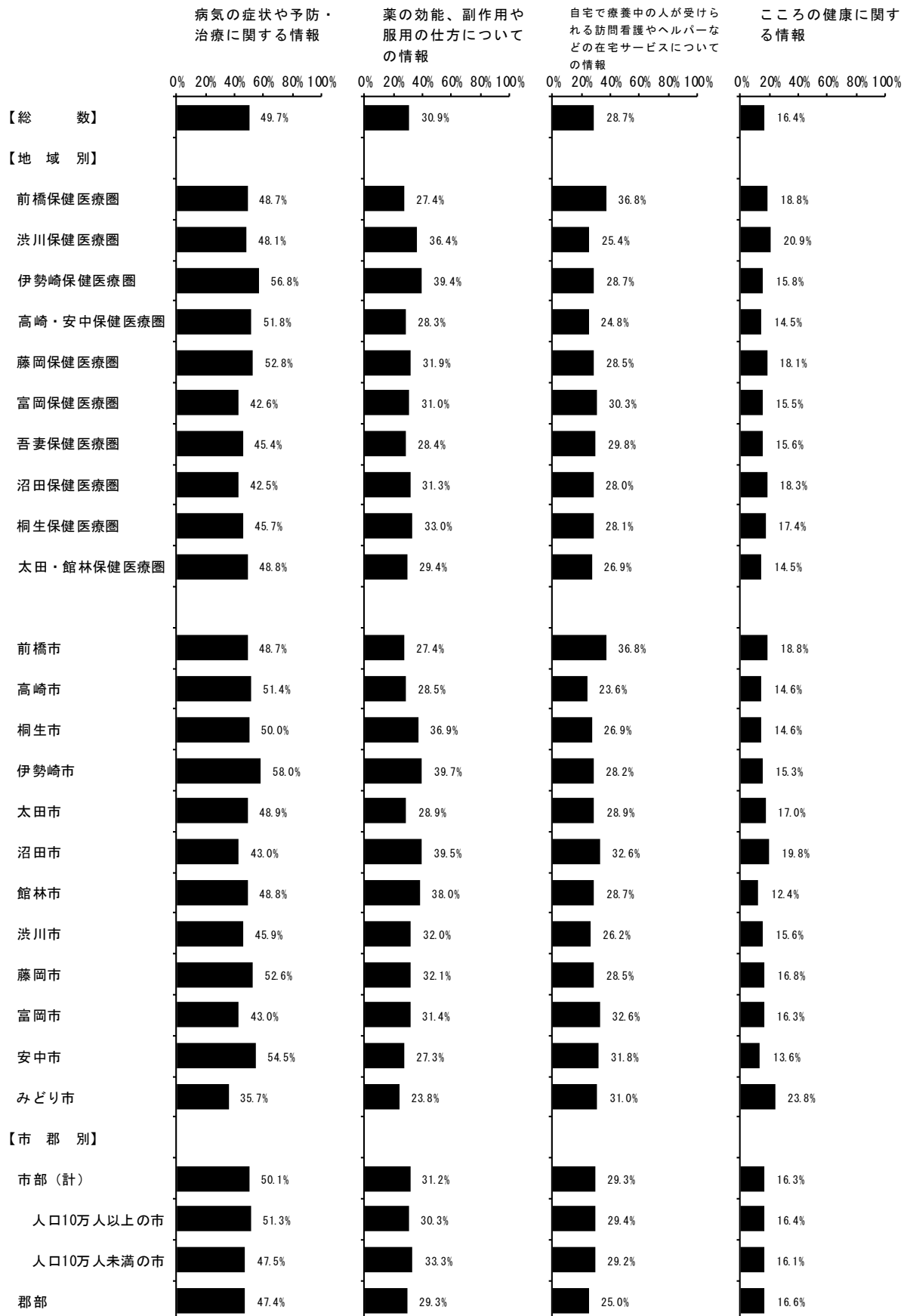
◆職業別

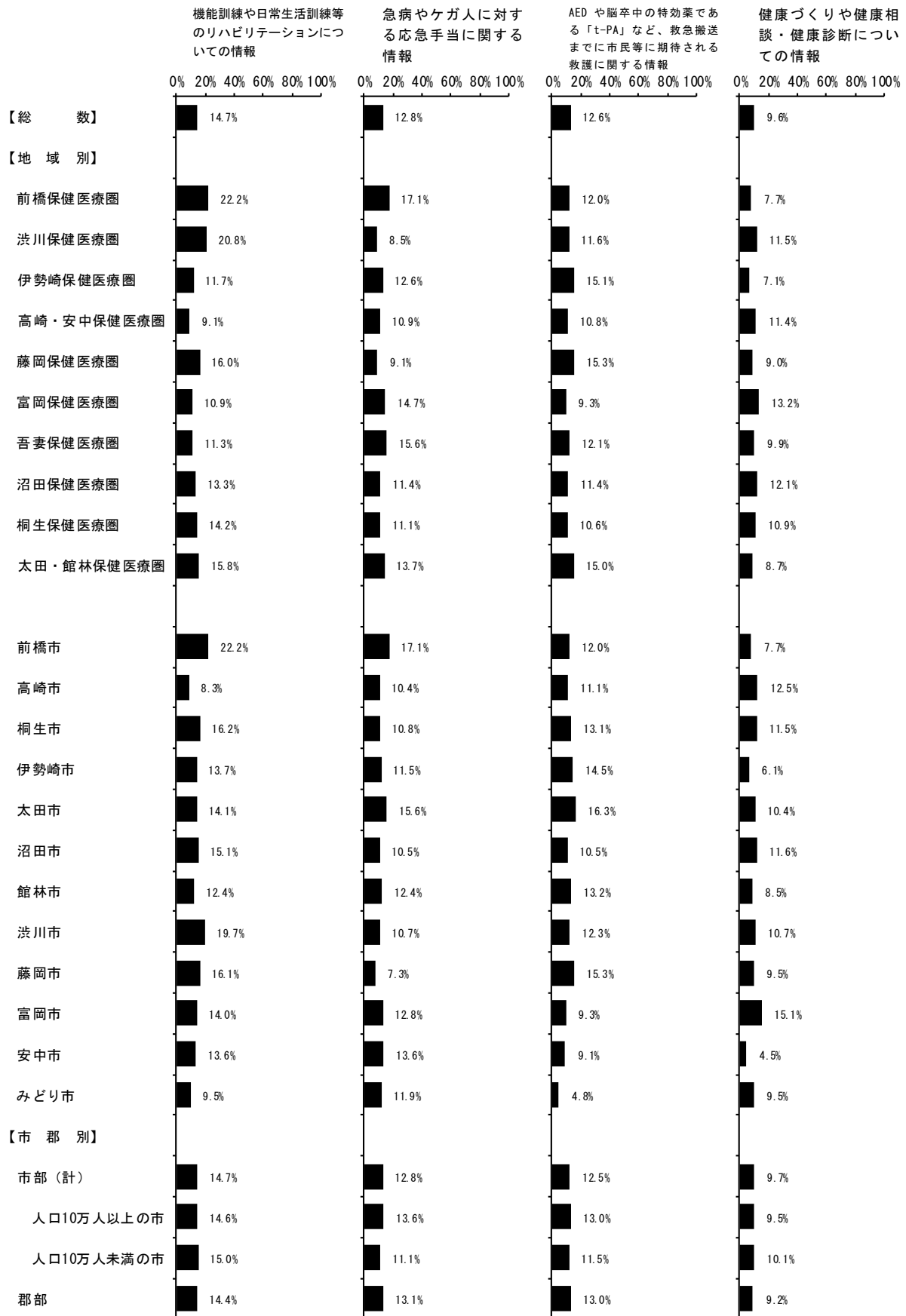
「病気の症状や予防・治療に関する情報」は勤め人（57.2%）、学生（55.2%）、商工・サービス業、自由業（51.4%）で50.0%を超えている。

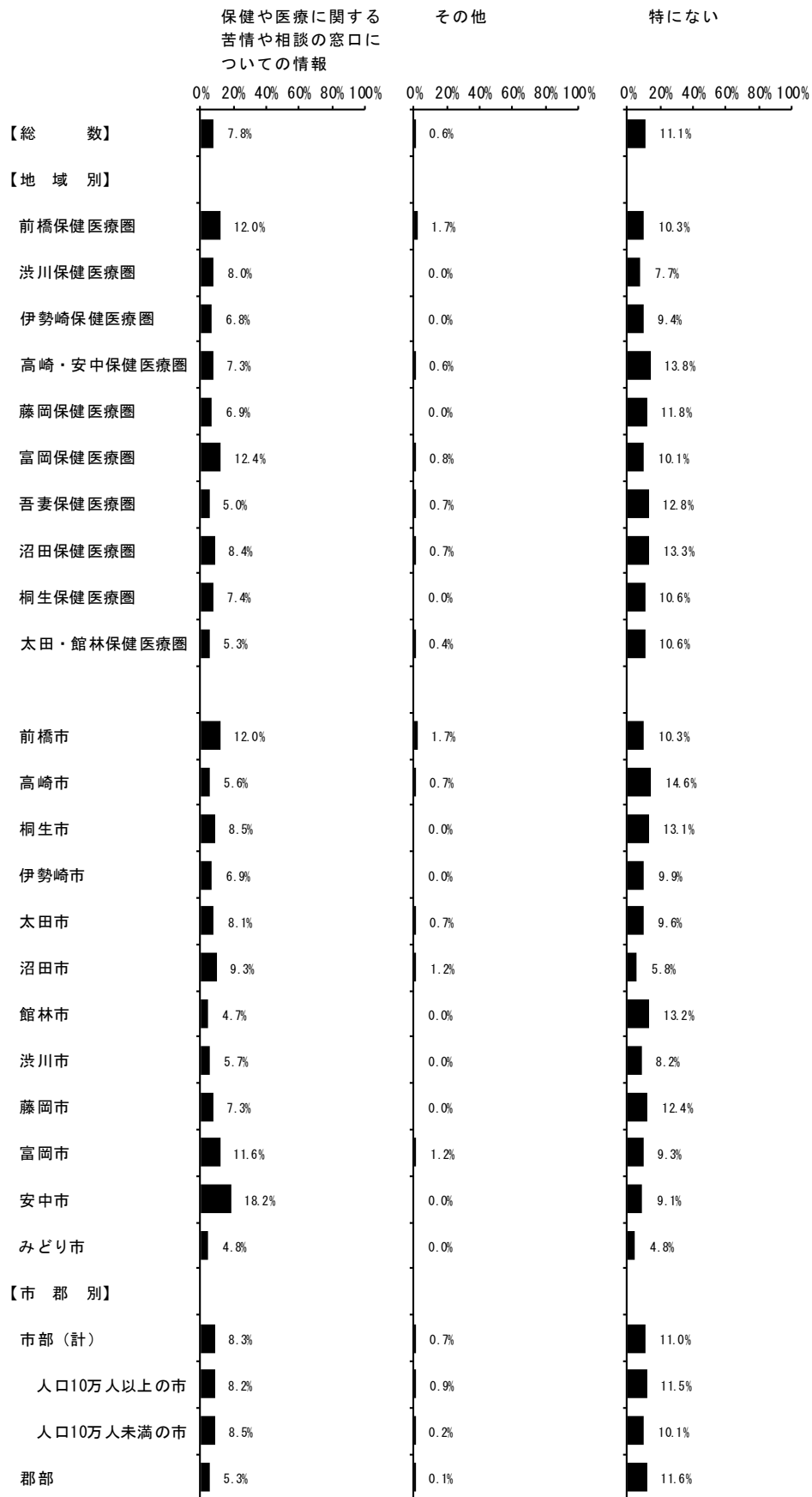
◆健康状態別

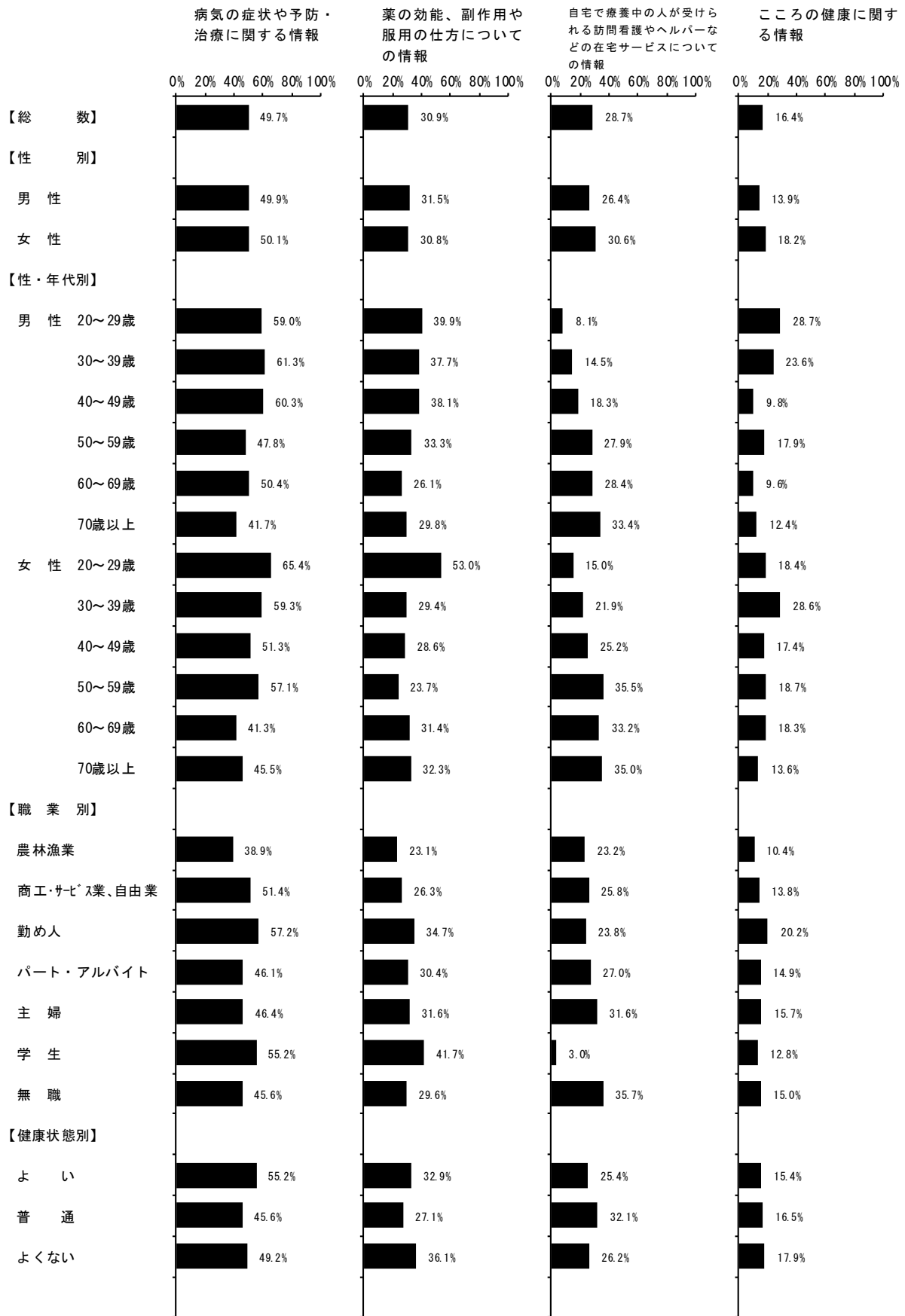
「病気の症状や予防・治療に関する情報」は健康状態がよくない（49.2%）に比べ、健康状態がよい（55.2%）の方が多くなっている。

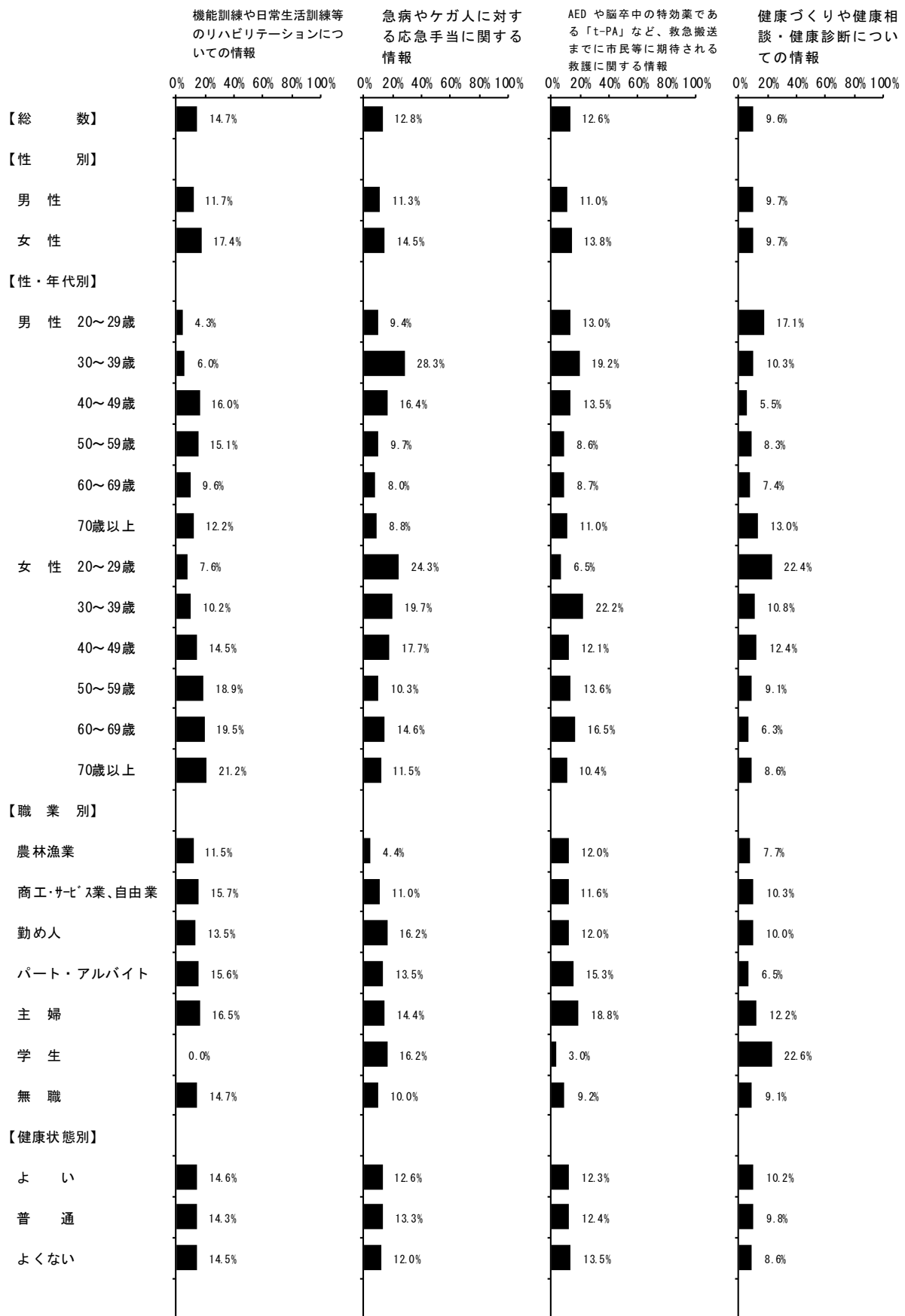
図 15-4 知りたい保健医療情報（医療機関選択以外の保健医療情報）

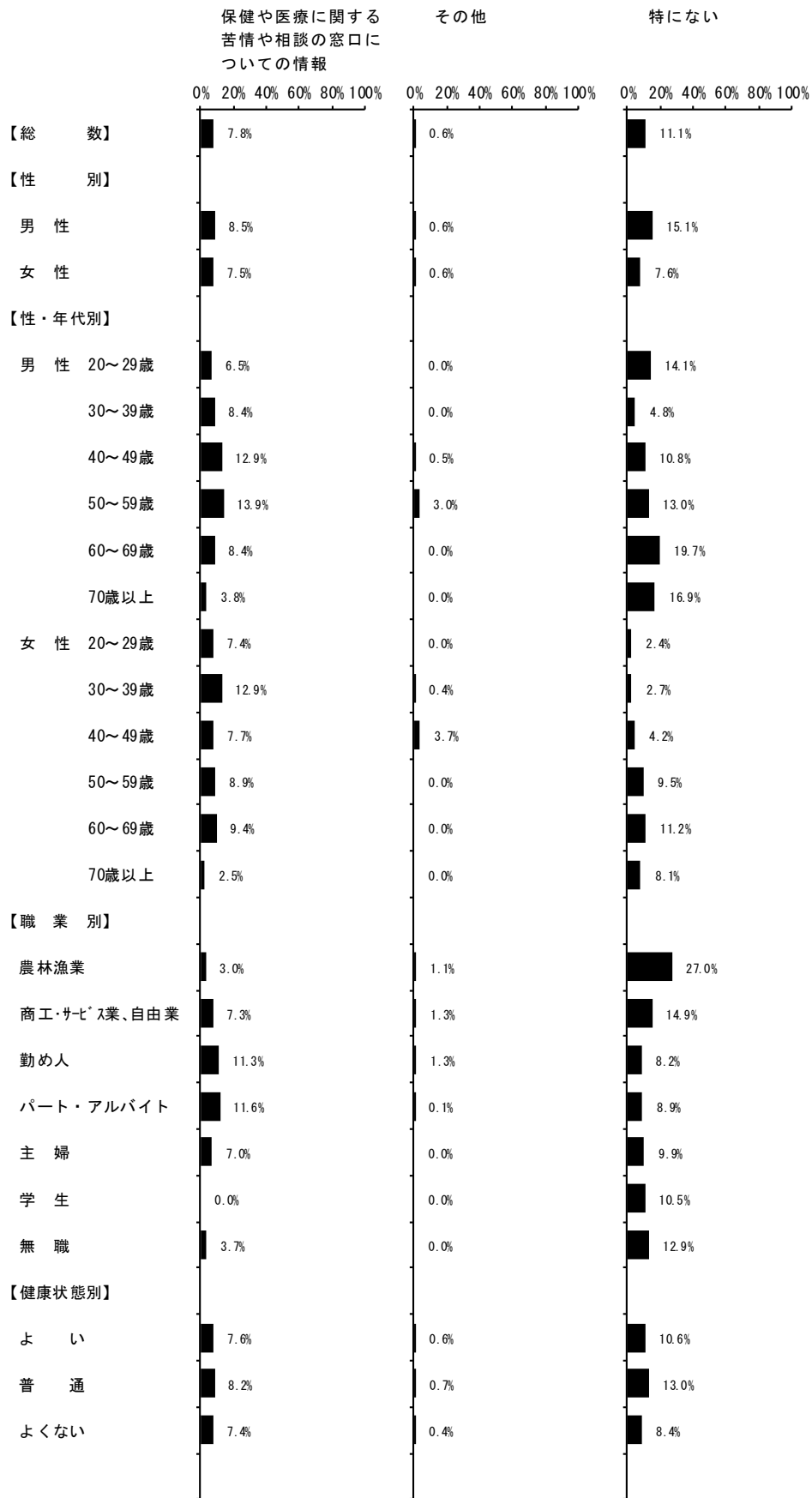












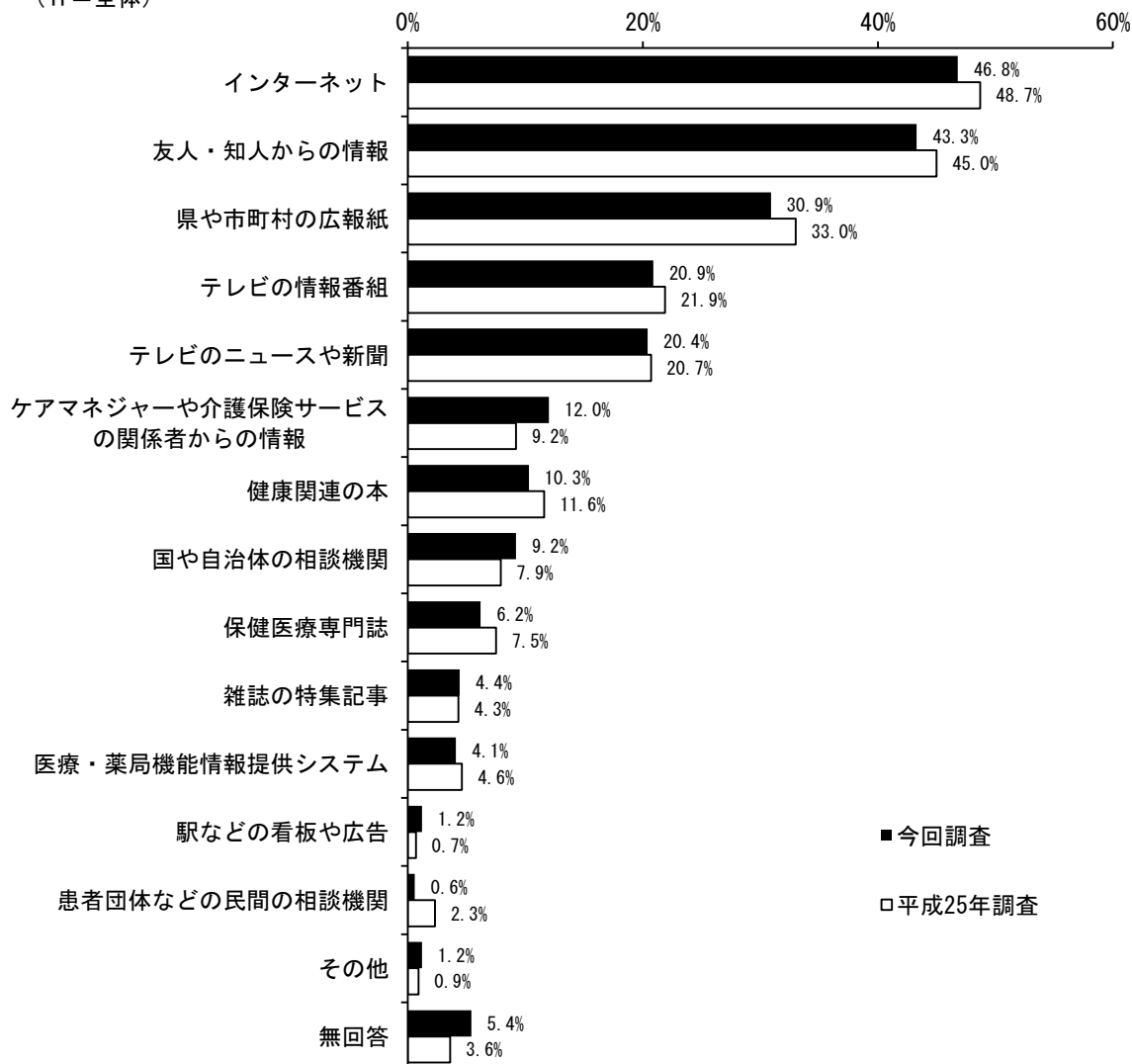
(2) 保健医療情報の入手方法

～「インターネット」46.8%、「友人・知人からの情報」43.3%～

問31 医院（診療所）や病院で情報を入手する以外に、保健や医療に関する情報をどのような方法で入手しようと思いますか。（〇は3つまで）

図15-5

(n=全体)



情報の入手方法は「インターネット」が46.8%と最も多く、次いで「友人・知人からの情報」が43.3%、「県や市町村の広報紙」が30.9%となっている。

平成25年調査結果との比較では、ほぼ同様の傾向となっているが、上位3項目は少なくなっている。

◆地域別

「インターネット」は渋川保健医療圏（54.4%）、太田・館林保健医療圏（52.1%）で50.0%を超えている。また、「友人・知人からの情報」は桐生保健医療圏（51.8%）で50.0%を超えている。また、前橋保健医療圏は「県や市町村の広報紙」（36.8%）、「テレビの情報番組」（25.6%）が他の地域と比べ多くなっている。さらに、富岡保健医療圏は「テレビのニュースや新聞」が29.5%と他の地域と比べ多くなっている。

◆市郡別

「インターネット」は市部（45.9%）に比べ、郡部（51.5%）の方が多くなっている。一方、「県や市町村の広報紙」は郡部（23.9%）に比べ、市部（32.1%）の方が多くなっている。

◆性別

「友人・知人からの情報」と「テレビの情報番組」は男性に比べ、女性の方が多くなっている。女性では「友人・知人からの情報」（47.6%）が「インターネット」（46.6%）を上回っている。

◆性・年代別

「インターネット」は男性と女性とも若い年代の方が多くなる傾向がみられ、60代以上とそれ以外では差異がみられる。「友人・知人からの情報」は50代男性の27.2%を除くと、いずれの性別・年代も多くなっている。「県や市町村の広報紙」は男性では高い年代の方が多くなる傾向がみられ、70歳以上の男性は39.1%と多くなっている。

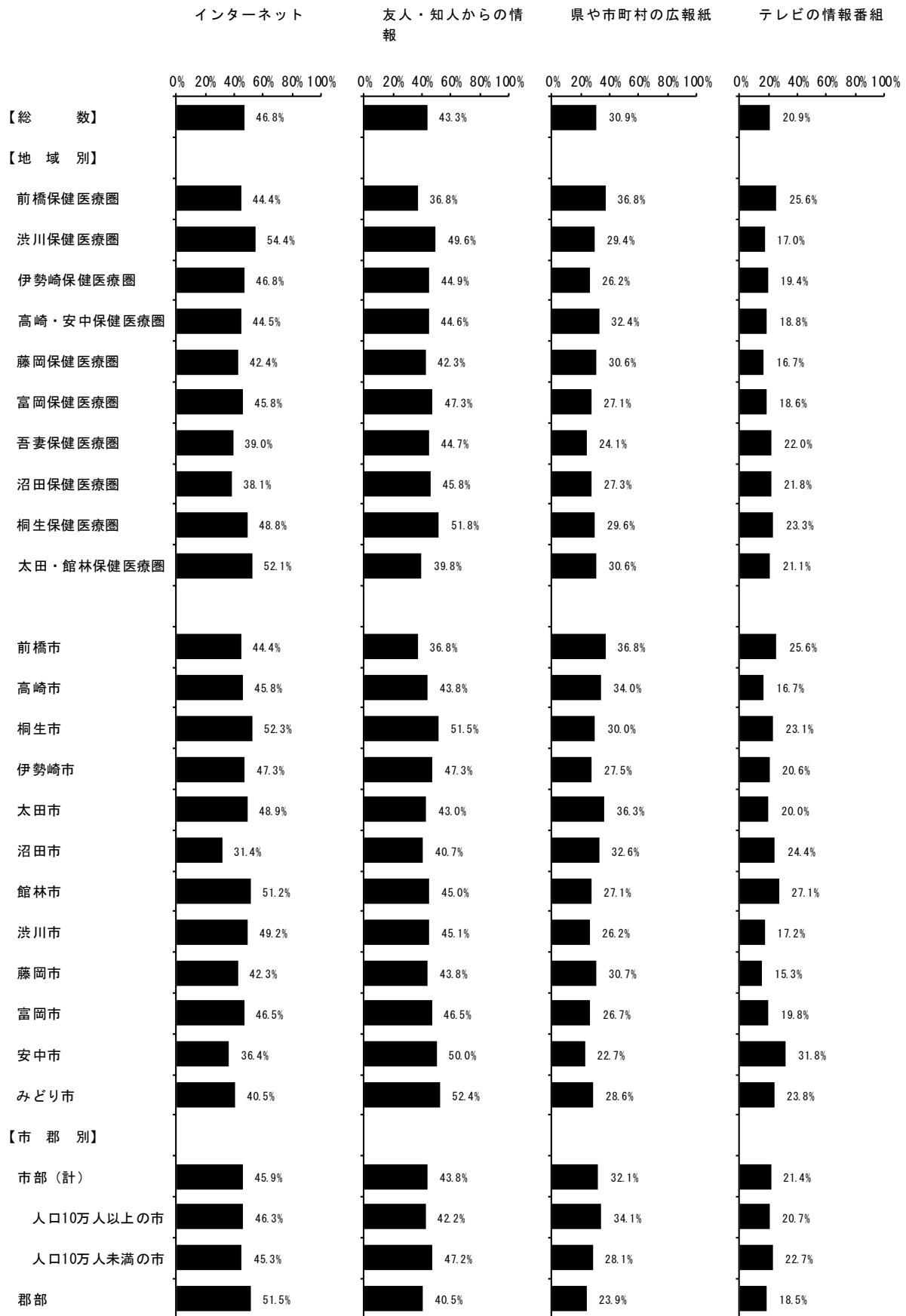
◆職業別

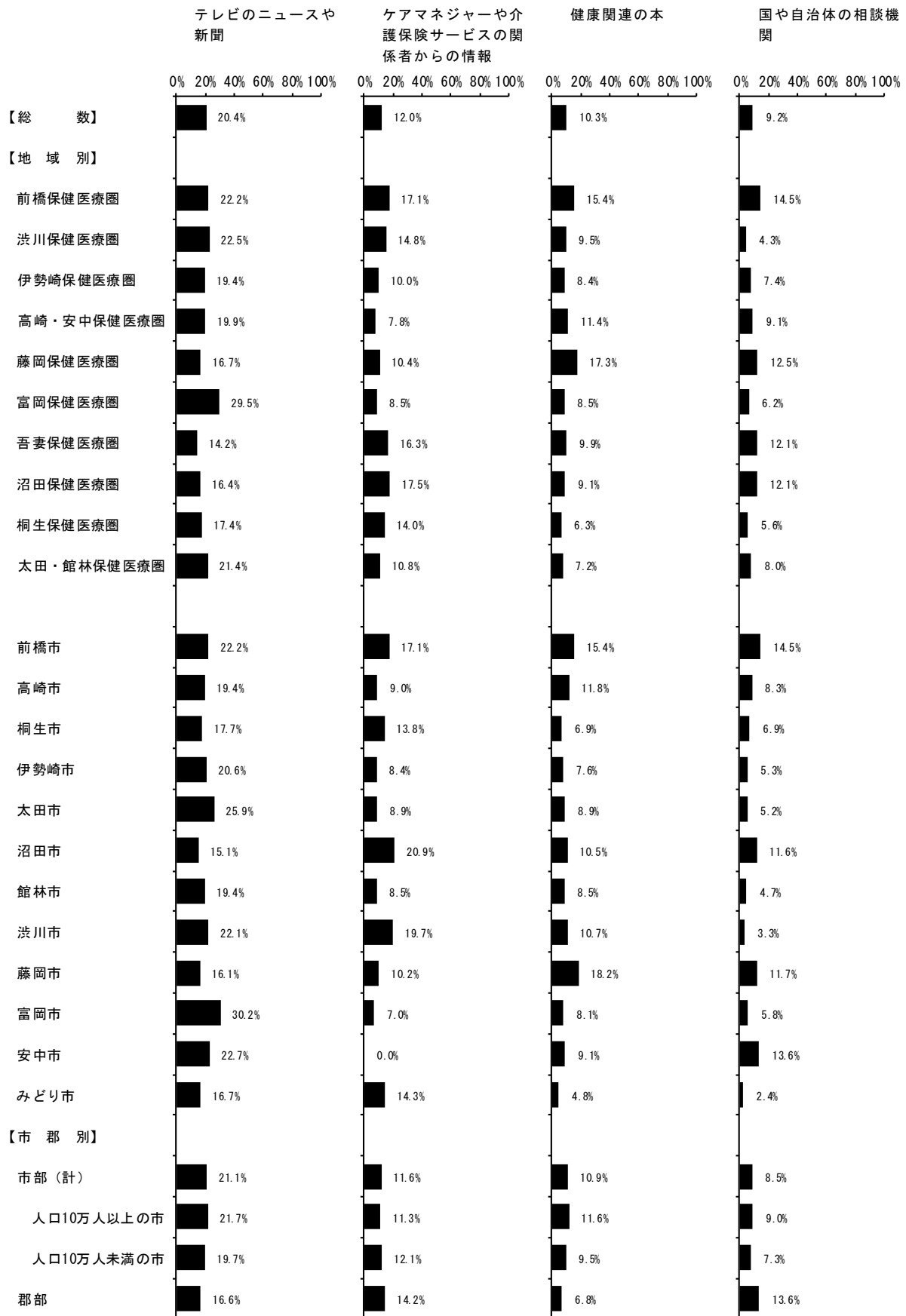
「インターネット」は勤め人（77.8%）と学生（71.1%）が多くなっている。「友人・知人からの情報」は農林漁業の26.5%を除くと、いずれの職業も多くなっている。

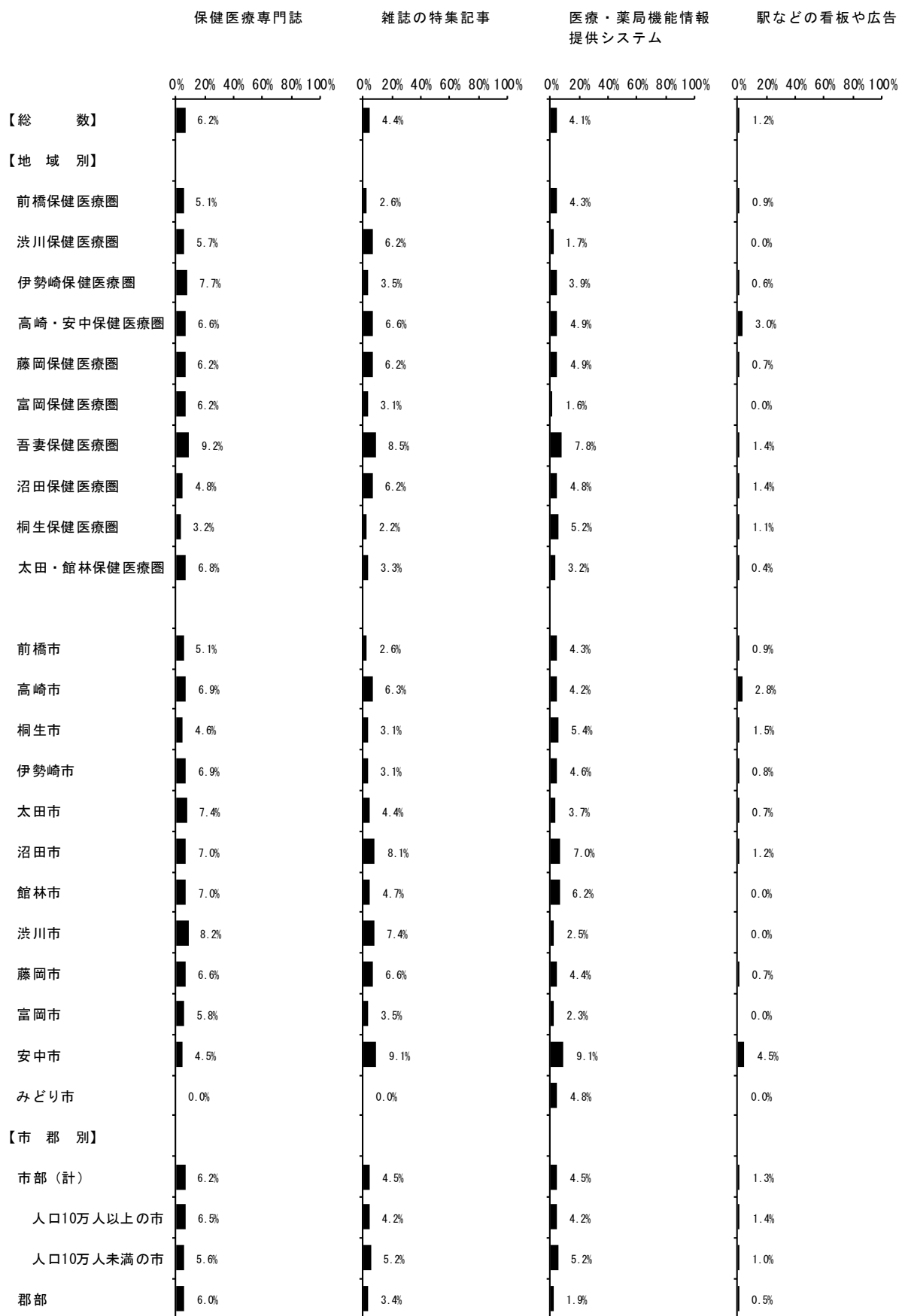
◆健康状態別

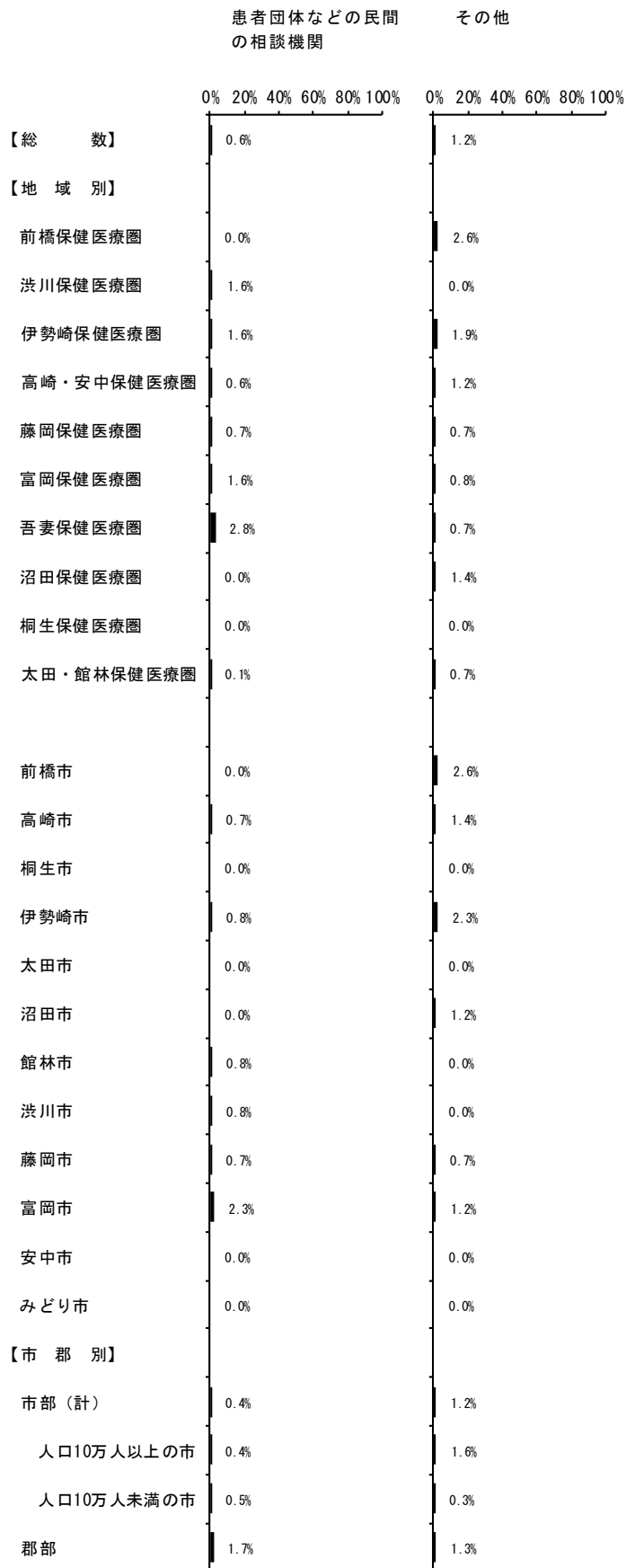
「インターネット」は健康状態がよくない（39.2%）に比べ、健康状態がよい（55.0%）の方が多くなっている。

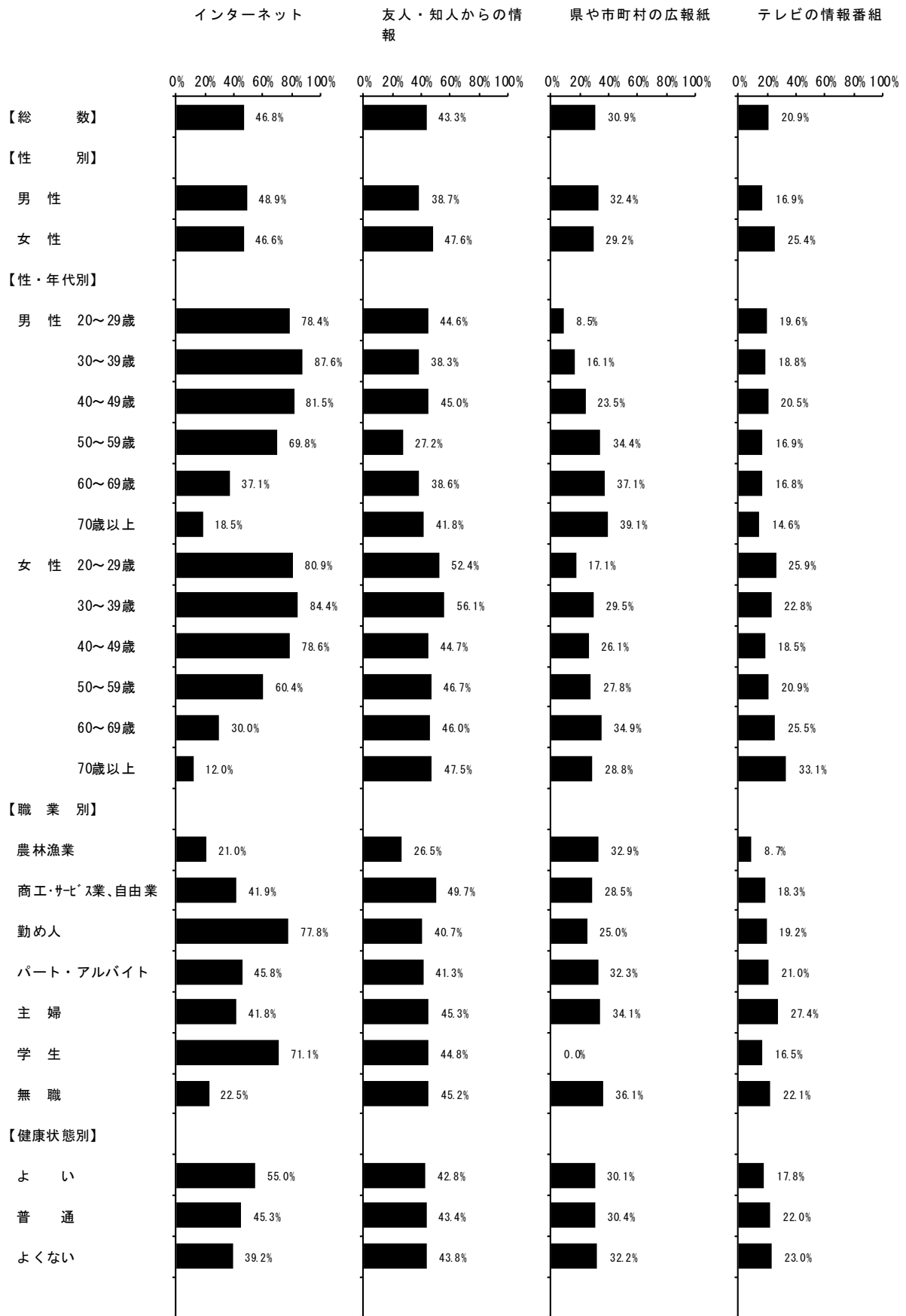
図 15-6 保健医療情報の入手方法

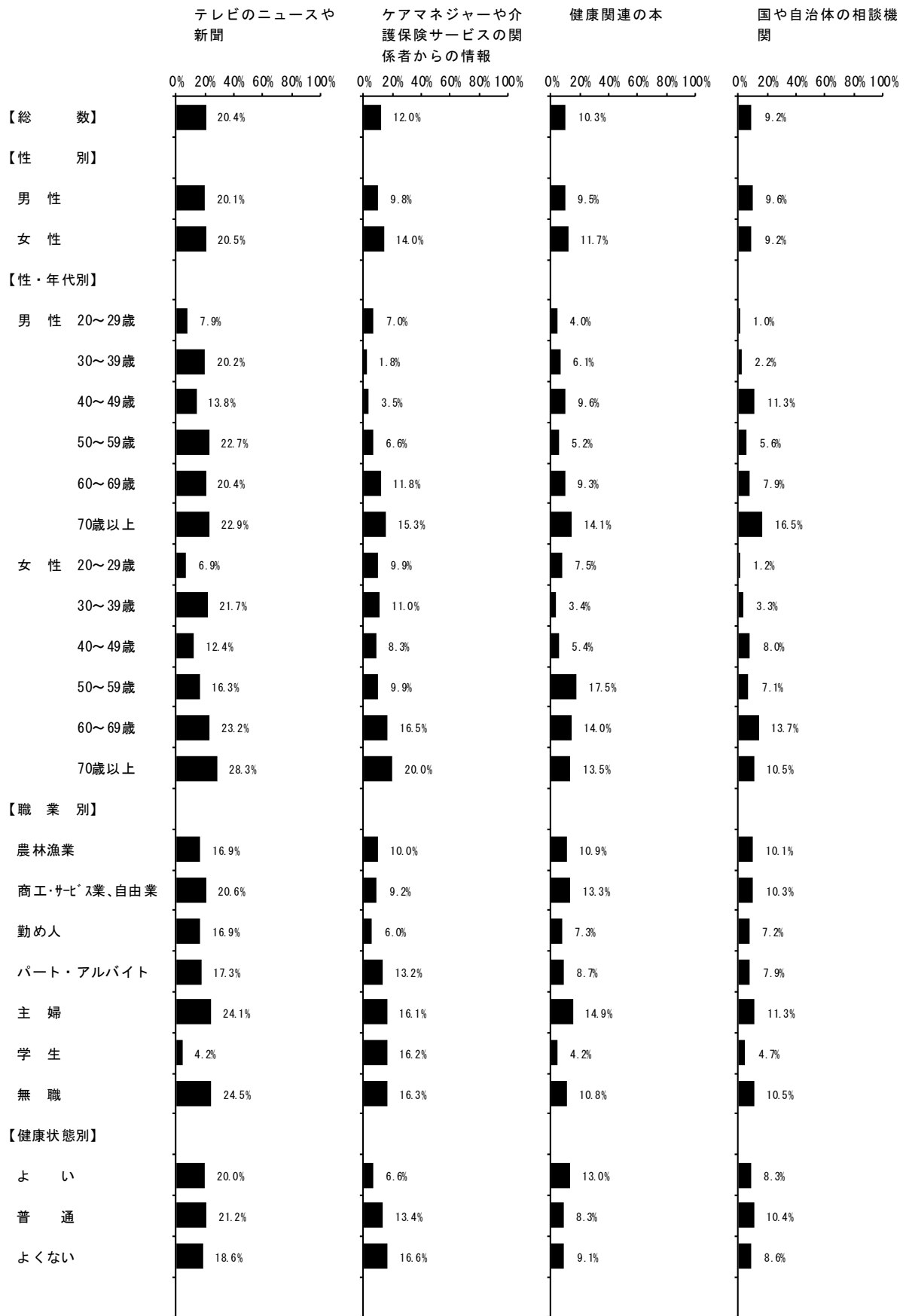










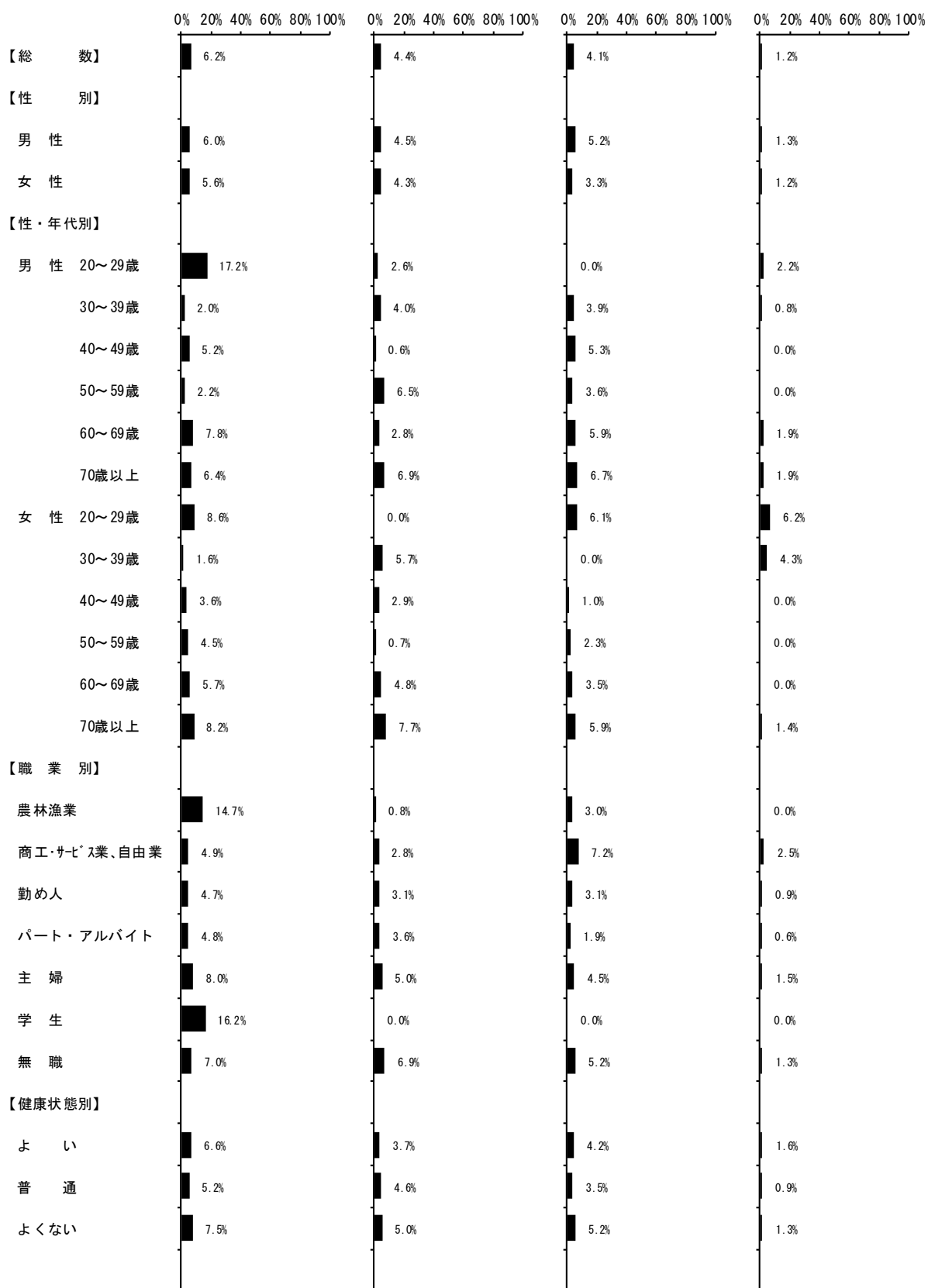


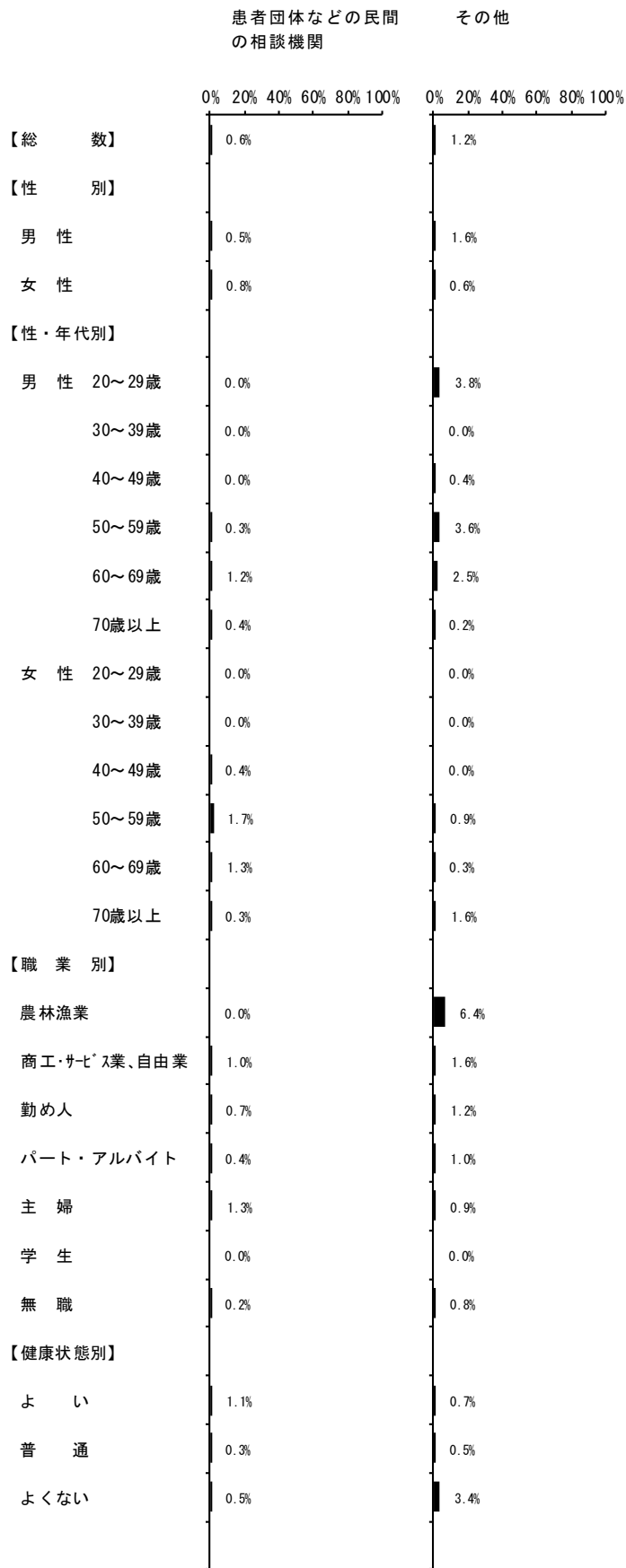
保健医療専門誌

雑誌の特集記事

医療・薬局機能情報
提供システム

駅などの看板や広告
提供システム





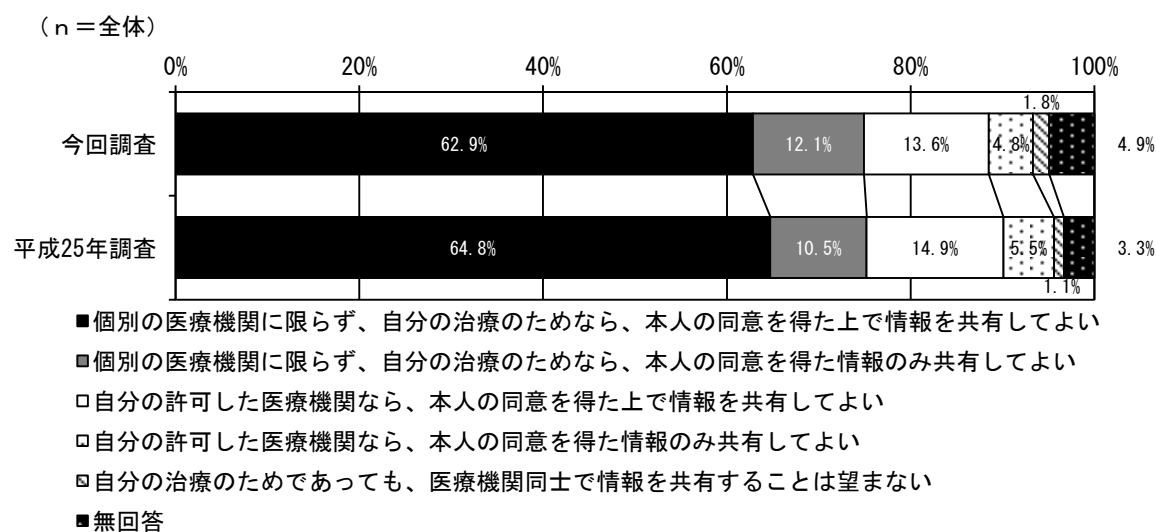
16 自分のカルテや症状等の情報を医療機関同士で共有することについて

(1) 自分のカルテや症状等の情報を医療機関同士で共有することについて

～「個別の医療機関に限らず、自分の治療のためなら、本人の同意を得た上で情報を共有してよい」62.9%が最も多い～

問32 あなたが複数の医療機関で診療を受けることになった場合、よりよい医療の提供を受けるために、自分のカルテ（診療録）や症状等の情報を医療機関同士で共有することについてどう思いますか。（○は1つまで）

図16-1



自分のカルテや症状等の情報を医療機関どうして共有することについては、「個別の医療機関に限らず、自分の治療のためなら、本人の同意を得た上で情報を共有してよい」が62.9%と半数以上を占めている。また、「自分の許可した医療機関なら、本人の同意を得た上で情報を共有してよい」が13.6%、「個別の医療機関に限らず、自分の治療のためなら、本人の同意を得た情報のみ共有してよい」が12.1%となっている。

平成25年調査結果との比較では、ほぼ同様となっている。

◆地域別

いずれの地域も「個別の医療機関に限らず、自分の治療のためなら、本人の同意を得た上で情報を共有してよい」が半数以上を占めており、地域で差異はほとんどみられない。

◆市郡別

市部と郡部で差異はほとんどみられない。

◆性別

男性と女性で差異はほとんどみられないが、「個別の医療機関に限らず、自分の治療のためなら、本人の同意を得た上で情報を共有してよい」は女性（60.6%）に比べ、男性（67.0%）の方が多くなっている。

◆性・年代別

「個別の医療機関に限らず、自分の治療のためなら、本人の同意を得た上で情報を共有してよい」は20代男性が55.0%、20代女性が45.7%となっており、20代が他の年代に比べ少なくなっている。

◆職業別

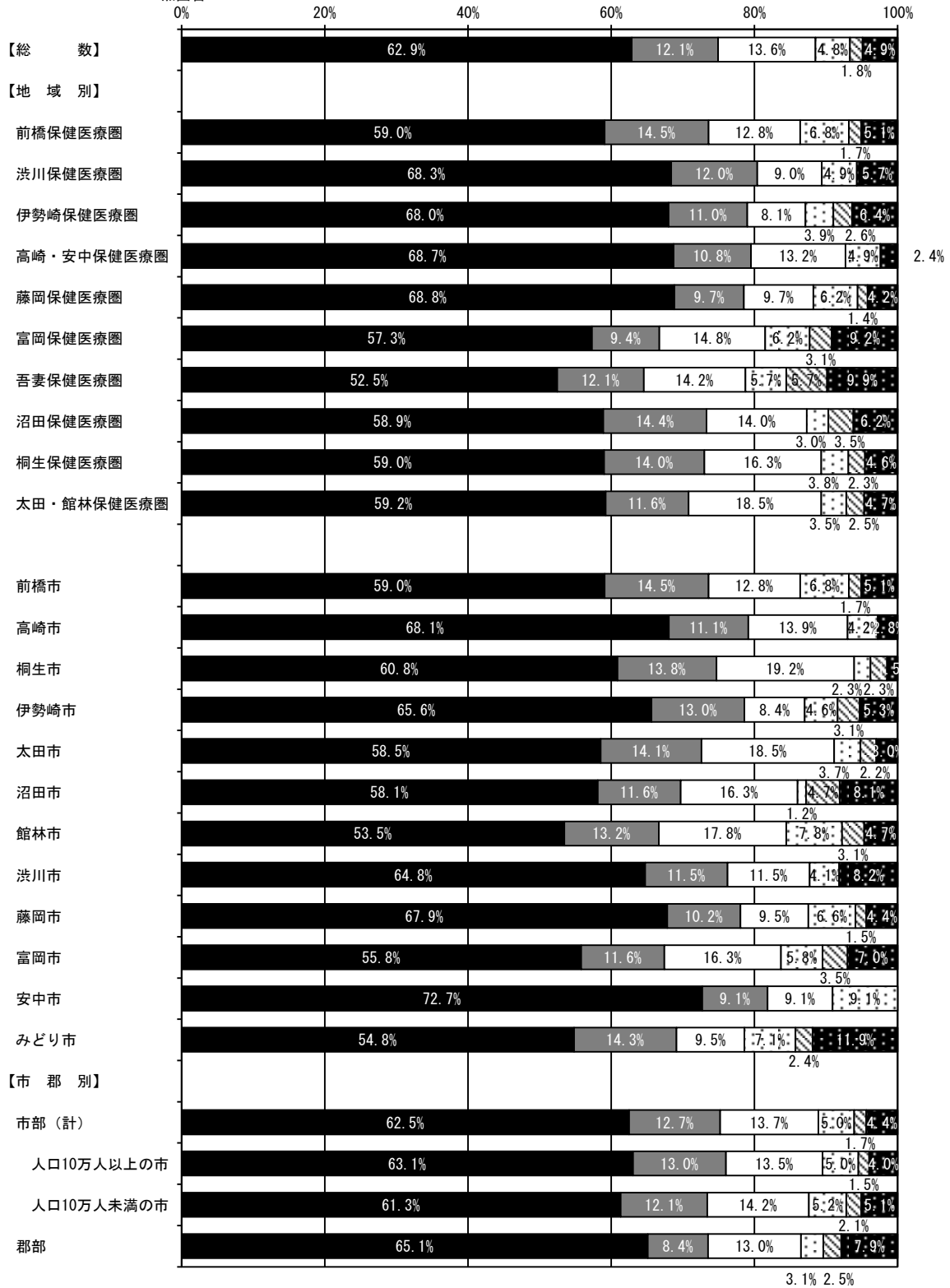
「個別の医療機関に限らず、自分の治療のためなら、本人の同意を得た上で情報を共有してよい」は学生が74.0%と最も多く、次いで勤め人が67.7%となっている。

◆健康状態別

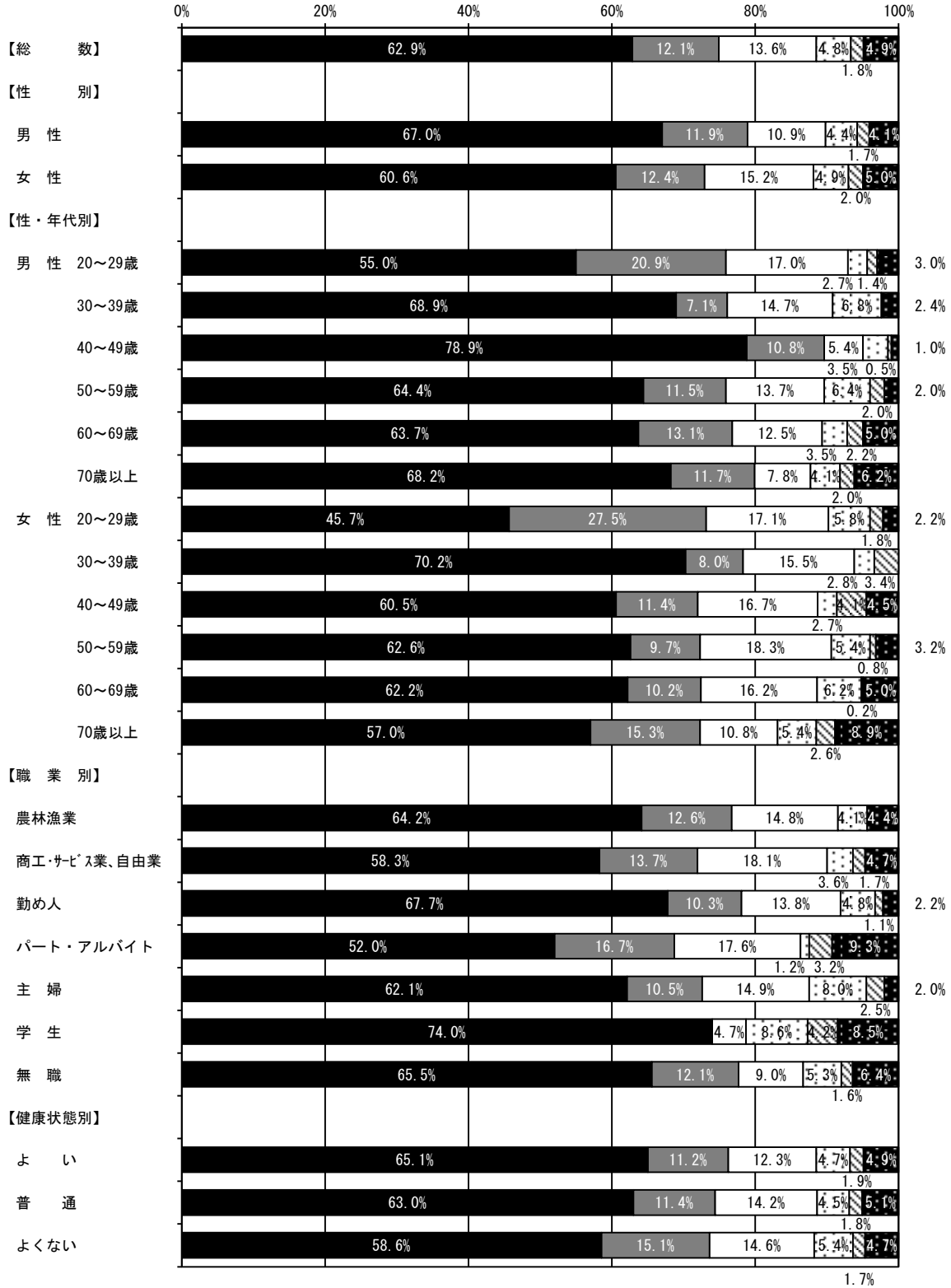
「個別の医療機関に限らず、自分の治療のためなら、本人の同意を得た上で情報を共有してよい」は健康状態がよくない(58.6%)に比べ、健康状態がよい(65.1%)の方が多くなっている。

図 16-2 自分のカルテや症状等の情報を医療機関同士で共有することについて

- 個別の医療機関に限らず、自分の治療のためなら、本人の同意を得た上で情報を共有してよい
- ▨ 個別の医療機関に限らず、自分の治療のためなら、本人の同意を得た情報のみ共有してよい
- 自分の許可した医療機関なら、本人の同意を得た上で情報を共有してよい
- ▤ 自分の許可した医療機関なら、本人の同意を得た情報のみ共有してよい
- ▧ 自分の治療のためであっても、医療機関同士で情報を共有することは望まない
- 無回答



- 個別の医療機関に限らず、自分の治療のためなら、本人の同意を得た上で情報を共有してよい
- 個別の医療機関に限らず、自分の治療のためなら、本人の同意を得た情報のみ共有してよい
- 自分の許可した医療機関なら、本人の同意を得た上で情報を共有してよい
- 自分の許可した医療機関なら、本人の同意を得た情報のみ共有してよい
- 自分の治療のためであっても、医療機関同士で情報を共有することは望まない
- 無回答



III 調査票

保健医療に関する県民意識調査

平成28年12月
群馬県

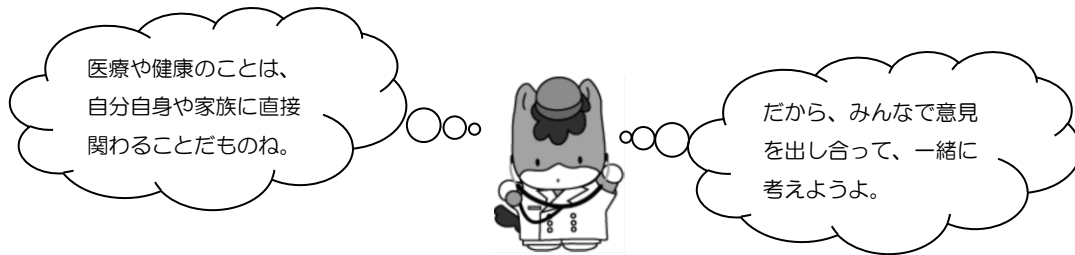
調査ご協力をお願い

病院勤務医の不足や救急に関する問題など、地域の医療は多くの課題を抱えています。

このアンケートは、こうした課題に対応しながら、誰もが安心して医療を受けることができる体制を整備するため、県民のみなさまからご意見をいただくものです。

ここでいただくご意見は、群馬県保健医療計画の策定や今後の政策立案の参考にいたします。回答内容は、すべてコンピュータによる統計処理を行い、調査の目的以外に使用することはありません。また、この調査票にご回答をいただいた方に、後日、内容についての照会や別の依頼を行うことはありません。

より良いぐんまの保健医療をめざすため、ぜひ、みなさまのご意見をお寄せください。よろしくご協力申し上げます。



ご記入にあたってのお願い

- (1) この調査は、個人を対象にしていますので、あなた（宛名の方）ご自身の判断で記入してください。（宛名のご本人のお答えであれば、代筆していただいてもかまいません）
- (2) お答えは、問1から順に、質問ごとに用意した答えの中から、あなたのお考えに最もあてはまる番号（1、2……）に○印をつけてください。
○印は、番号を囲むようにつけてください。例) ①
- (3) お答えの○印の数は質問文の指示にしたがってください。
- (4) 中にはお答えいただくのが難しい質問もあるかも知れませんが、直感的に思ったり、考えられた内容でお答えください。
- (5) 記入は、黒または青の鉛筆、ペン、ボールペンでお願いします。
- (6) ご記入が終わりましたら、お手数ですが、同封の返信用封筒に入れて

12月26日（月）までに ご投函ください。

- (7) この調査について、不明な点やご質問などがありましたら下記までご連絡ください。

群馬県健康福祉部医務課医療計画係
TEL 027-226-2535

（返送先・業務委託先）株式会社タイム・エージェント TEL 03-3770-6824

〔全員の方に〕

(健康状態)

問1 あなたはご自分の健康状態について、どうお考えですか。次の中からあてはまるものをあげてください。(〇は1つだけ)

- 1 よいと思っている
- 2 まあよいと思っている
- 3 普通だと思っている
- 4 あまりよくないと思っている
- 5 よくないと思っている

〔全員の方に〕

(健康に対する不安)

問2 あなたは、日ごろ「もし自分が病気になったら……」という不安を感じていますか。次の中からあてはまるものをあげてください。(〇は1つだけ)

- | | | |
|-------------|--------------|------------|
| 1 不安を感じていない | 2 少し不安を感じている | 3 不安を感じている |
|-------------|--------------|------------|
- 1 → (問3へ)
2, 3 ↓ (問2-1へ)

問2-1 具体的にはそれはどんな不安ですか。(〇は3つまで)

- 1 がん、脳卒中、心臓病、糖尿病など生活習慣病への不安
- 2 不眠、うつ、ストレスなどのこころの病気への不安
- 3 上記1、2以外の病気への不安
- 4 働けなくなることへの不安
- 5 寝たきりにならないかという不安
- 6 医療費など経済的な不安
- 7 看病してくれる人がいない不安
- 8 病(医)院や医師に関する不安
- 9 何となく漠然とした不安
- 10 その他の不安 ()

〔全員の方に〕

(健康づくり)

問3 あなたは、健康のために何か気をつけていることがありますか。次の中からあてはまるものをあげてください。(〇はあてはまるものすべて)

- | | |
|-----------------------------|---------|
| 1 過労に注意し、睡眠や休養を十分にとるようにしている | → (問4へ) |
| 2 ストレスをためないようにしている | |
| 3 栄養のバランスなど食事に気をつけている | |
| 4 体の具合が悪いときは、かかりつけの医師に相談する | |
| 5 酒はほどほどに控えている | |
| 6 タバコをやめた、もしくは、できるだけ控えている | |
| 7 運動やスポーツをするように心がけている | |
| 8 努めて歩くようにしている | |
| 9 定期的に健康診断を受けている | |
| 10 その他 () | |
| 11 何もしていない → (問3-1へ) | |

問3-1 問3で「何もしていない」と回答した理由はどれですか。(〇は1つだけ)

- 1 自分の健康に自信がある
- 2 病気の自覚症状がない
- 3 病気になってから気をつければよい
- 4 必要性を感じない
- 5 どのように気をつければよいか分からない
- 6 面倒
- 7 その他 ()

〔全員の方に〕

(医療全般に対する満足度)

問4 あなたがお住まいの地域の医療全般について、どのように感じていますか。次の中からあてはまるものをあげてください。(〇は1つだけ)

- 1 満足している
- 2 どちらかという満足している
- 3 どちらかという不満を感じる
- 4 不満を感じる

〔全員の方に〕

問5 地域の医療に関する以下の項目について、どのように感じていますか。次の中からあてはまるものをあげてください。(〇はあてはまるものすべて)

- 1 医療機関が不足していると感じる
 - 2 病院勤務医が不足していると感じる
 - 3 医療費が高いと感じる
 - 4 夜間や休日の救急医療体制が不足していると感じる
 - 5 必要な診療科目が不足していると感じる
 - 6 自宅で療養できる体制が不足していると感じる
 - 7 医療に関する情報や相談窓口が不足していると感じる
- (問6へ)

(問5-1、問5-2へ)

問5-1 具体的にはどのような医療機関が不足しているとお考えですか。次の中からあてはまるものをあげてください。(〇は1つだけ)

- 1 総合病院
- 2 特定の疾病を得意とする専門病院等
- 3 身近で通いやすい診療所
- 4 休日・夜間にかかれる医療機関
- 5 その他 ()

〔全員の方に〕

(医療機関の選択)

問7 あなたがカゼや微熱など軽い病気にかかったとき、主にどの医療機関で診療を受けますか。あるいは、受けたいとお考えですか。(〇は1つだけ)

1 医院（診療所） 2 身近な病院 3 地域の総合病院 4 専門性の高い病院 5 その他（ ）	6 特に決めていない 7 行かない （薬局等で薬を購入する）
-------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------

↓ (問8へ)

(問7-1、7-2へ)

問7-1 その医療機関を選ぶのはどういう理由からですか。(〇は3つまで)

1 自宅に近い	7 評判がよい
2 医師が信頼できる	8 職場・学校から通院しやすい
3 医療設備が整っている	9 感じがよい
4 かかりつけである	10 他の医療機関を知らない
5 いろいろな診療科目がある	11 その他（ ）
6 その病気やけがについての専門である	12 特にない

問7-2 主に診療を受ける（あるいは受けたい）その医療機関はどの市町村にありますか。(〇は1つだけ)

1 前橋市	13 榛東村	25 東吾妻町
2 高崎市	14 吉岡町	26 片品村
3 桐生市	15 上野村	27 川場村
4 伊勢崎市	16 神流町	28 昭和村
5 太田市	17 下仁田町	29 みなかみ町
6 沼田市	18 南牧村	30 玉村町
7 館林市	19 甘楽町	31 板倉町
8 渋川市	20 中之条町	32 明和町
9 藤岡市	21 長野原町	33 千代田町
10 富岡市	22 嬬恋村	34 大泉町
11 安中市	23 草津町	35 邑楽町
12 みどり市	24 高山村	36 県外

↓
(都道府県名：)

【全員の方に】

問8 あなたが、入院が必要かもしれない**重い病気にかかった場合**、主にどの医療機関で診療を受けますか。あるいは、受けたいとお考えですか。(〇は1つだけ)

1 医院（診療所） 2 身近な病院 3 地域の総合病院 4 専門性の高い病院 5 その他（ ）	6 特に決めていない ↓ (問9へ)
---------------------------------------------------------------------------	---------------------------

↓ (問8-1、8-2へ)

問8-1 その医療機関を選ぶのは、どういう理由からですか。(〇は3つまで)

1 自宅に近い	7 評判がよい
2 医師が信頼できる	8 職場・学校から通院しやすい
3 医療設備が整っている	9 感じがよい
4 かかりつけである	10 他の医療機関を知らない
5 いろいろな診療科目がある	11 その他（ ）
6 その病気やけかについての専門である	12 特にない

問8-2 主に診療を受ける(あるいは受けたい)その医療機関はどの市町村にありますか。(〇は1つだけ)

1 前橋市	13 榛東村	25 東吾妻町
2 高崎市	14 吉岡町	26 片品村
3 桐生市	15 上野村	27 川場村
4 伊勢崎市	16 神流町	28 昭和村
5 太田市	17 下仁田町	29 みなかみ町
6 沼田市	18 南牧村	30 玉村町
7 館林市	19 甘楽町	31 板倉町
8 渋川市	20 中之条町	32 明和町
9 藤岡市	21 長野原町	33 千代田町
10 富岡市	22 嬬恋村	34 大泉町
11 安中市	23 草津町	35 邑楽町
12 みどり市	24 高山村	36 県外 ↓ (都道府県名：)

【全員の方に】

問9 あなたが、手術を受けた後にリハビリテーションが必要となったため、手術を受けた医療機関から転院することになった場合、主にどの医療機関でリハビリテーションを受けますか。あるいは、受けたいとお考えですか。(〇は1つだけ)

1 医院（診療所） 2 身近な病院 3 地域の総合病院 4 専門性の高い病院 5 その他（ ）	6 特に決めていない
---------------------------------------------------------------------------------------	-------------

↓
(問10へ)

↓ (問9-1、9-2へ)

問9-1 その医療機関を選ぶのは、どういう理由からですか。(〇は3つまで)

1 自宅に近い	8 職場・学校から通院しやすい
2 医師が信頼できる	9 感じがよい
3 医療設備が整っている	10 他の医療機関を知らない
4 かかりつけである	11 転院前の医療機関から紹介されて
5 いろいろな診療科目がある	12 その他（ ）
6 その病気やけがについての専門である	13 特にない
7 評判がよい	

問9-2 リハビリテーションを受ける（あるいは受けたい）その医療機関はどの市町村にありますか。(〇は1つだけ)

1 前橋市	13 榛東村	25 東吾妻町
2 高崎市	14 吉岡町	26 片品村
3 桐生市	15 上野村	27 川場村
4 伊勢崎市	16 神流町	28 昭和村
5 太田市	17 下仁田町	29 みなかみ町
6 沼田市	18 南牧村	30 玉村町
7 館林市	19 甘楽町	31 板倉町
8 渋川市	20 中之条町	32 明和町
9 藤岡市	21 長野原町	33 千代田町
10 富岡市	22 嬬恋村	34 大泉町
11 安中市	23 草津町	35 邑楽町
12 みどり市	24 高山村	36 県外

↓
(都道府県名：)

〔全員の方に〕

(救急医療への対応)

問10 軽度な症状にもかかわらず、安易な救急車の利用など、いわゆる「コンビニ受診」行動についてどう考えますか。(〇は1つだけ)

- | | | |
|---|----------------------------------------|--|
| 1 | 問題だと思うし、行わないように心がけている | |
| 2 | 問題だと思うが、やむを得ないと思う →理由をお聞かせください。
() | |
| 3 | 問題だと思わない →理由をお聞かせください。
() | |

〔全員の方に〕

問11 家族のだれかが夜間や休日に急病(生死に関わらないと判断できるもの)になり、医師にみてもらいたいとき、まず、一番初めにどうしますか。次の中からあてはまるものをあげてください。(〇は1つだけ)

- | | | |
|---|-------------------------------------------------------------------|--|
| 1 | インターネット、電話サービス(#8000など)、市町村の広報誌などを利用し、休日・夜間急病診療所、休日当番医、救急病院などを調べる | |
| 2 | 救急車を呼ぶ | |
| 3 | かかりつけ医師に電話で相談する | |
| 4 | 近くの医師に電話で相談する | |
| 5 | 自分の判断で、病状に合わせて専門的な医療機関へ連れて行く | |
| 6 | 知人や身内にまず相談する | |
| 7 | その他() | |

〔全員の方に〕

問12 心臓が止まった人に電気ショックを与えて心臓を動かす「AED(自動体外式除細動器)」という機器について見聞きしたり、使ったことがありますか。(〇は1つだけ)

- | | | |
|---|---------------------------------------------|--|
| 1 | 実際に倒れた人に使ったことがある | |
| 2 | 実際に使ったことはないが、応急手当の講習等でAEDの使用方法について受講したことがある | |
| 3 | 見たり聞いたりしたことがある | |
| 4 | 見聞きしたことがない | |

〔全員の方に〕

問13 脳梗塞は、発症してから4時間30分以内に治療を開始することが効果的といわれていますが、家族のだれかに脳梗塞疑いの症状(意識を失っていびきをかいている、顔や腕の麻痺、ろれつが回らないなど)が現れた場合、どうしますか。次の中からあてはまるものをあげてください。(〇はあてはまるものすべて)

- | | | |
|---|-----------------|--|
| 1 | 救急車を呼ぶ | |
| 2 | かかりつけ医師に電話で相談する | |
| 3 | 専門的な医療機関へ連れて行く | |
| 4 | 様子を見る | |

〔全員の方に〕

(かかりつけ医師)

問14 あなたは、かかりつけ医師を決めていますか。(○は1つだけ)

1 決めている	2 決めていない
---------	----------

(問14-1、問14-2へ)

問14-1 かかりつけ医師を決めているのは、どういう理由からですか。(○は2つまで)

- | |
|----------------------|
| 1 自宅から近い |
| 2 職場から近い |
| 3 昔からのかかりつけである |
| 4 他の医療機関から紹介されて |
| 5 評判がよい |
| 6 医師が信頼できる |
| 7 親切で丁寧 |
| 8 休日・夜間でも診てくれる |
| 9 医療設備が整っている |
| 10 自分の病気やケガについて専門である |
| 11 その他
() |

(問14-3へ)

問14-3 かかりつけ医師を決めていないのはなぜですか。(○は2つまで)

- | |
|---------------------|
| 1 病気をしない、または必要を感じない |
| 2 そのつど都合のよい医師にかかる |
| 3 適当なかかりつけ医師が身近にいない |
| 4 専門医にみてもらう |
| 5 その他
() |
| 6 特に理由はない |

問14-2 かかりつけ医師は医院(診療所)の医師ですか。病院の医師ですか。(○は1つだけ)

- | |
|--------------|
| 1 医院(診療所)の医師 |
| 2 病院の医師 |

注) 病院とは、病床20以上の医療機関をいいます。

〔15歳以下のお子さんを持つ方に〕——→(該当しない方は問16へ)

問15 あなたのお子さんの、かかりつけ医師を決めていますか。(○は1つだけ)

1 決めている

2 決めていない

(問15-1、問15-2へ)

問15-1 かかりつけ医師を決めているのは、どういう理由からですか。(○は2つまで)

- 1 自宅から近い
- 2 職場から近い
- 3 昔からのかかりつけである
- 4 他の医療機関から紹介されて
- 5 評判がよい
- 6 医師が信頼できる
- 7 親切で丁寧
- 8 休日・夜間でも診てくれる
- 9 医療設備が整っている
- 10 自分の子どもの病気やケガについて専門である
- 11 その他
()

(問15-3へ)

問15-3 かかりつけ医師を決めていないのはなぜですか。(○は2つまで)

- 1 病気をしない、または必要を感じない
- 2 そのつど都合のよい医師にかかる
- 3 適当なかかりつけ医師が身近にいない
- 4 専門医にみてもらう
- 5 その他
()
- 6 特に理由はない

問15-2 かかりつけ医師は医院(診療所)の医師ですか。病院の医師ですか。(○は1つだけ)

- 1 医院(診療所)の医師
- 2 病院の医師

注) 病院とは、病床20以上の医療機関をいいます。

【全員の方に】

(かかりつけ歯科医)

問16 あなたは、かかりつけの歯科医を決めていますか。(〇は1つだけ)

(※ここでいう「かかりつけ歯科医」とは、「痛み、噛めないなどの症状が出ていなくても、検診やクリーニングのために定期的に通院している歯科医院」という意味です。)

1 決めている	2 特に決めていない	3 かかったことがない
---------	------------	-------------

↓ (問16-1へ)

→ (問17へ)

問16-1 その歯科医に決めたのはなぜですか。(〇は2つまで)

1 自宅から近い
2 職場から近い
3 昔からのかかりつけである
4 他の医療機関から紹介されて
5 評判がよい
6 歯科医師が信頼できる
7 親切で丁寧
8 休日・夜間でも診てくれる
9 医療設備が整っている
10 自分の病気について専門である
11 その他 ()

【全員の方に】

(歯科保健医療)

問17 あなたは、歯科の保健医療についてどのようなことを望みますか。次の中からあてはまるものをあげてください。(〇はあてはまるものすべて)

1 医療保険の適用範囲をもっと広げてほしい
2 夜間や休日でも、歯科の治療が受けられるようにしてほしい
3 地域や職場で歯科の検診を実施してほしい
4 通院できない高齢者などに対する歯科医療体制を整備してほしい
5 身体障害者など体の不自由な人に対する歯科医療体制を強化してほしい
6 知的障害や発達障害のある人に対する歯科医療体制を強化してほしい
7 小児歯科医療体制を強化してほしい
8 保健福祉事務所(保健所)などの公的機関で、歯科の衛生指導を強化してほしい
9 乳幼児のむし歯の予防対策を強化してほしい
10 その他 ()
11 特にない

〔全員の方に〕

(転院について)

問20 限られた救急医療の病床を効率よく利用するためには、救急の治療が終了すると入院している医療機関から転院などを求められることがあります。

もし、このような場合、あなたが転院を求められたとしたら不安を感じますか。
(○は1つだけ)

1 不安を感じない	2 少し不安を感じる	3 不安を感じる
↓	↓	
(問21へ)	(問20-1へ)	

問20-1 具体的にはどのような不安を感じますか。(○はあてはまるものすべて)

1	転院先の医療水準や内容が不明であることによる不安
2	治療方針が変わってしまうことに対する不安
3	入院した医療機関から見放されたような不安
4	転院先が見つからないのではないかと不安
5	転院先において、再び転院を求められるのではないかと不安
6	何となく漠然とした不安
7	その他 ()

〔全員の方に〕

(退院について)

問21 あなたが病院から退院し、在宅での療養に移る場合、病院のソーシャルワーカー(社会福祉の立場から相談・支援を行う専門職)に対してどのようなことを望みますか。

(○はあてはまるものすべて)

1	退院後の治療のことや生活・費用などの相談
2	就学や就労なども含めた社会復帰に関する相談
3	自宅近くの医療や福祉に関する情報提供や手続き相談
4	介護サービス等に関する情報提供や手続き相談
5	退院に伴う漠然とした不安の相談
6	その他 ()

〔全員の方に〕

(在宅医療について)

問22 もし、あなたやあなたの家族が治療や療養を必要とする場合、自宅での療養を望みますか。(両方に回答してください。) (○は各1つだけ)

あなたが患者の場合	1 望む	2 条件が整えば望む	3 望まない
家族が患者の場合	1 望む	2 条件が整えば望む	3 望まない

(問22-1へ)

(問22-4へ)

問22-1 自宅での療養は実現可能ですか。(○は1つだけ)

1 実現困難である	2 実現可能である	3 わからない
-----------	-----------	---------

(問22-2へ)

(問23へ)

(問22-3へ)

問22-2 自宅療養が実現困難な理由は何ですか。(○は3つまで)

1 往診してくれるかかりつけの医師がない
2 訪問看護(看護師の訪問)の体制が整っていない
3 訪問介護(ホームヘルパーの訪問)の体制が整っていない
4 24時間相談にのってくれるところがない
5 介護してくれる家族がない
6 介護してくれる家族に負担がかかる
7 症状が急に悪くなったときの対応に自分も家族も不安である
8 症状が急に悪くなったときに、すぐ病院に入院できるか不安である
9 居住環境が整っていない
10 経済的に負担が大きい
11 その他()

(問23へ)

問22-3 自宅療養が実現可能かわからない理由は何ですか。(○は1つだけ)

1 困ったときにどこに相談してよいかわからないから
2 自宅療養に関して入手できる情報が少ないから
3 その時になってみないとわからないから
4 その他()

(問23へ)

問22-4 問22で自宅療養を望まない理由は何ですか。(○は3つまで)

1 往診してくれるかかりつけの医師がない
2 訪問看護(看護師の訪問)の体制が整っていない
3 訪問介護(ホームヘルパーの訪問)の体制が整っていない
4 24時間相談にのってくれるところがない
5 介護してくれる家族がない
6 介護してくれる家族に負担がかかる
7 症状が急に悪くなったときの対応に自分も家族も不安である
8 症状が急に悪くなったときに、すぐ病院に入院できるか不安である
9 居住環境が整っていない
10 経済的に負担が大きい
11 病院の方が安心できるから
12 他人にあまり自宅に入ってほしくないから
13 その他()

(問23へ)

【全員の方に】

問23 もし、あなたが治る見込みの少ない病気にかかったとしたら、どこで過ごしたいと思いますか。(○は1つだけ)

- 1 なるべく今まで通っていた(または現在入院中の)医療機関に入院したい
- 2 なるべく早く緩和ケア病棟(終末期における症状を和らげることを目的とした病棟)に入院したい
- 3 自宅で療養して、必要になれば医療機関に入院したい
- 4 自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい
- 5 必要時には一時的に入院しても、自宅で最期まで療養したい
- 6 通院又は往診・訪問看護等を受けて、自宅で最期まで療養したい
- 7 子どもや親族の家で療養したい
- 8 特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅等に入所したい
- 9 その他()

【全員の方に】

問24 もし、あなたが治る見込みの少ない病気にかかり、自宅で過ごすことになった場合、以下のもののうち特に何が必要だと思いますか。(○は2つまで)

- 1 医師の定期的な往診
- 2 緊急時の受け入れ医療機関
- 3 訪問看護などの在宅医療系サービス
- 4 訪問介護、デイサービス、ショートステイなどの在宅介護サービス
- 5 食事の宅配サービス、通院や外出の援助サービス
- 6 家族による(あなたへの)支援
- 7 家族への(外部的な)支援
- 8 カウンセラー等による心理的な支援
- 9 趣味などに費やすことのできる自由な時間
- 10 その他()

〔全員の方に〕

問25 もし、あなたが治る見込みのない病気にかかり、死期が近くなった場合、あなたの気持ちに最も近いものはどれですか。(〇は1つだけ)

- 1 少しでも延命できるよう、積極的な医療を受けたい
- 2 苦しみや痛みを伴わない範囲で、延命のための医療を受けたい
- 3 主に苦しみや痛みを緩和する医療を受けたい
- 4 わからない
- 5 その他 ()

〔全員の方に〕

問26 あなたは、ご自身の死期が近い場合に受けたい医療や受けたくない医療について、あなたの周りの人等と話し合ったことがありますか。(〇はあてはまるものすべて)

- 1 話し合ったことはない。
- 2 家族と話し合ったことがある。
- 3 友人と話し合ったことがある。
- 4 かかりつけ医と話し合ったことがある。
- 5 受けたい医療や受けたくない医療について、ご自身の意思を書面に記載している。
- 6 その他 ()

〔全員の方に〕

問27 もし、あなたが治る見込みのない病気になった場合、どこで最期を迎えたいですか。(〇は1つだけ)

- 1 自宅
- 2 子どもの家
- 3 兄弟姉妹など親族の家
- 4 高齢者向けのケア付き住宅
- 5 特別養護老人ホームなどの福祉施設
- 6 病院などの医療施設
- 7 わからない
- 8 その他 ()

〔全員の方に〕

問28 「地域包括ケア」(可能な限り住み慣れた地域で自分らしく生活したいと望む人が、必要なサービスを受けながら、在宅で生活を続けられるよう地域で支えること)という言葉を知っていますか。(〇は1つだけ)

- 1 知っている
- 2 知らない

〔全員の方に〕

(医療機関への要望)

問29 これまでの経験から、あなたは医療機関に対してどのようなことを望みますか。

(1) 医師について (○は3つまで)

- | | | |
|----|-----------------------------|---|
| 1 | 病気の状態や治療方法をよく説明してほしい | |
| 2 | 薬についての内容などを説明してほしい | |
| 3 | むずかしい病気の場合は、専門の医療機関を紹介してほしい | |
| 4 | 注射や投薬はもっと十分にしてほしい | |
| 5 | 注射や投薬はあまりしないでほしい | |
| 6 | 往診の依頼に応じてほしい | |
| 7 | 検査はもっと十分にしてほしい | |
| 8 | 検査はあまりしないでほしい | |
| 9 | 患者や家族の話をじっくり聞いてほしい | |
| 10 | その他 (|) |
| 11 | 特にない | |

(2) 看護師について (○は3つまで)

- | | | |
|---|--------------------------|---|
| 1 | 患者や家族の話をじっくり聞いてほしい | |
| 2 | 病気や検査についてわかりやすく説明してほしい | |
| 3 | 療養上の注意点についてわかりやすく説明してほしい | |
| 4 | 患者のそばで看護をする時間を長くしてほしい | |
| 5 | 忙しそうにしないでほしい | |
| 6 | その他 (|) |
| 7 | 特にない | |

(3) 施設・サービスについて (○は3つまで)

- | | | |
|---|------------------------------------|---|
| 1 | 待ち時間を短くしてほしい | |
| 2 | 休日や夜間でも、急病のときは診察してほしい | |
| 3 | 差額ベッド料、医療費などがどのくらいかかるか前もって教えてほしい | |
| 4 | 医療機関の職員は、もっと親切にほしい | |
| 5 | 待合室や病室などをもっと快適にほしい | |
| 6 | 食事(病院食)のメニューを多くするとともに、味付けをうまくしてほしい | |
| 7 | 治療後に疑問が生じたら相談できる医療相談窓口を設置してほしい | |
| 8 | その他 (|) |
| 9 | 特にない | |

〔全員の方に〕

(保健医療情報について)

問30 知りたい保健や医療に関する情報は何か。

(1) 医療機関を選択するための情報 (〇は3つまで)

1	かかりたい診療科目を持つ医療機関の所在地・連絡先等	
2	診療日・診療時間	
3	得意とする専門分野	
4	治療件数等の診療実績	
5	医師・看護師などのスタッフの人数	
6	医師・歯科医師の名前、性別、年齢、略歴、専門医資格	
7	医療機器の保有状況	
8	診察室、待合室、病室等の施設の整備状況	
9	往診・訪問診療の可否	
10	連携している医療施設名	
11	連携している介護施設名	
12	医療相談窓口などの有無	
13	差額ベッド代などを含めた診療にかかる自己負担の額	
14	第三者機関が実施した病院の評価結果	
15	手話、点字、外国語に対する対応	
16	その他 ()	
17	特にない	

(2) (1) 以外の保健医療情報 (〇は3つまで)

1	病気の症状や予防・治療に関する情報	
2	こころの健康に関する情報	
3	薬の効能、副作用や服用の仕方についての情報	
4	自宅で療養中の人を受けられる訪問看護やヘルパーなどの在宅サービスについての情報	
5	機能訓練や日常生活訓練等のリハビリテーションについての情報	
6	保健や医療に関する苦情や相談の窓口についての情報	
7	健康づくりや健康相談・健康診断についての情報	
8	急病やケガ人に対する応急手当に関する情報	
9	AED や脳卒中の特効薬である「t-PA」など、救急搬送までに市民等に期待される救護に関する情報 (※)	
10	その他 ()	
11	特にない	

※…AED とは、電気的なショックにより、心臓の働きを戻すことを試みる医療機器のこと。一般住民も使用可能であり、公共施設等に広く設置されている。

※…t-PA とは、血管に詰まった血の塊を溶かす血栓溶解剤。発症4.5時間以内の脳梗塞に有効性が認められているため、速やかな救急搬送要請が期待されている。

〔全員の方に〕

問31 医院（診療所）や病院で情報を入手する以外に、保健や医療に関する情報をどのような方法で入手しようと思いますか。（〇は3つまで）

1 保健医療専門誌	9 友人・知人からの情報
2 健康関連の本	10 ケアマネジャーや介護保険サービスの関係者からの情報
3 雑誌の特集記事	11 国や自治体の相談機関
4 テレビの情報番組	12 患者団体などの民間の相談機関
5 テレビのニュースや新聞	13 駅などの看板や広告
6 医療・薬局機能情報提供システム	14 その他
7 インターネット	()
8 県や市町村の広報紙	()

〔全員の方に〕

（情報共有）

問32 あなたが複数の医療機関で診療を受けることになった場合、よりよい医療の提供を受けるために、自分のカルテ（診療録）や症状等の情報を医療機関同士で共有することについてどう思いますか。（〇は1つだけ）

1 個別の医療機関に限らず、自分の治療のためなら、本人の同意を得た上で情報を共有してよい
2 個別の医療機関に限らず、自分の治療のためなら、本人の同意を得た情報のみ共有してよい
3 自分の許可した医療機関なら、本人の同意を得た上で情報を共有してよい
4 自分の許可した医療機関なら、本人の同意を得た情報のみ共有してよい
5 自分の治療のためであっても、医療機関同士で情報を共有することは望まない

ご意見をお伺いすることは以上で終わりですが、統計分析に必要な事項を少しお伺いします。

F 1 あなたの性別は。(○は1つだけ)

1 男	2 女
-----	-----

F 2 あなたの年齢は。(○は1つだけ)

1 20～24歳	6 45～49歳	11 70～74歳
2 25～29歳	7 50～54歳	12 75～79歳
3 30～34歳	8 55～59歳	13 80歳以上
4 35～39歳	9 60～64歳	
5 40～44歳	10 65～69歳	

F 3 あなたはどの市町村にお住まいですか。(○は1つだけ)

1 前橋市	13 榛東村	25 東吾妻町
2 高崎市	14 吉岡町	26 片品村
3 桐生市	15 上野村	27 川場村
4 伊勢崎市	16 神流町	28 昭和村
5 太田市	17 下仁田町	29 みなかみ町
6 沼田市	18 南牧村	30 玉村町
7 館林市	19 甘楽町	31 板倉町
8 渋川市	20 中之条町	32 明和町
9 藤岡市	21 長野原町	33 千代田町
10 富岡市	22 嬬恋村	34 大泉町
11 安中市	23 草津町	35 邑楽町
12 みどり市	24 高山村	

F 4 あなたのお住まいの世帯構成は。(○は1つだけ)

1 単独世帯
2 核家族世帯(夫婦のみの世帯)
3 核家族世帯(夫婦と未婚の子のみの世帯)
4 核家族世帯(ひとり親と未婚の子のみの世帯)
5 三世帯世帯
6 その他の世帯()

F 5 あなたの職業は次のうちどれですか。(○は1つだけ)

1 農林漁業を営んでいる(家族従業者を含む)
2 商工業、サービス業、自由業などを営んでいる(自営業等。家族従業者を含む)
3 会社、商店、官公庁、学校、病院等に常勤で勤めている(サラリーマン等)
4 パート、アルバイト
5 主婦
6 学生
7 無職

ご協力ありがとうございました。

この調査票は、返信用封筒に入れ、**12月26日(月)**までにご投函ください。

